

授業名	現代家政学論			開講学年	1回生	単位数	2単位
英文名	Theory of Contemporary Home Economics			開講時期	春学期	必修・選択	必修
担当者	吉田 博子			対象学生	現代家政1回生、食物栄養1回生		
授業の概要	<p>本授業では、現代の「人間」「家族・家庭」「地域」「社会」のそれぞれをめぐる問題を見据えて、人間生活の幸福な在り方、心豊かなあり方、真に豊かな生活に関わる学習課題・研究課題の把握をめざす。具体的には、子育て、家族、家庭、地域、社会における人間としての広範な関わりに目を向け、過去を振り返り、今・現在を考え、未来を探究する。講義とともに参加型の授業とする。</p>						
学習成果到達目標	<p>1)諸外国と比較して、現代日本の家族・家庭・地域・社会の現状の諸問題・諸課題を把握する。 2)現状を踏まえて、家族・家庭・地域・社会を中心とした人間生活の真に豊かなあり方、新しいあり方、未来社会のあり方を探究できるようになる。 3)諸問題を見据え、21世紀を切り拓くための自らの学習課題・研究課題を見つけることができる。</p>						
評価方法	定期試験 (60 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40 %)	筆記試験 口述	レポート 実習 制作物 実技
評価基準	主たる評価の 観点	知識・理解 (課題発見力	コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力) (課題発見・解決能力)		
テキスト	佐藤淑子『イギリスのいい子 日本のいい子～自己主張とがまんの教育学～』(中公新書)						
参考書	適宜参考書を紹介する。資料を配布する。						
留意事項	テキスト・配付資料・参考文献をしっかりと読み込むこと。						
オフィス アワー	担当授業終了後に実施する。						

授業名	現代家政学論	
授業計画	学習項目	学習内容・課題
第1回	オリエンテーション 現代家政学とは、家政学とは	(内 容) 授業計画について (必要な準備) シラバスの内容を確認しておく(10分)
第2回	ホームエコノミクスの歩み：アメリカにおける家政学の歩み	(内 容) 「ホームエコノミクス」の歩みを学び、その意義を考える (必要な準備) 前回のまとめをしておく(40分)
第3回	ホームエコノミクスの歩み：日本における家政学の歩み	(内 容) 「家政学」「ホームエコノミクス」の歩みを学び、その意義を考える (必要な準備) 前回のまとめをしておく(40分)
第4回	「世界の中の日本」について：日本の家族、日本の親と子	(内 容) 「世界の中の日本」について考える。 (必要な準備) テキスト(まえがき・第2章)を読んでおく(40分)
第5回	「世界の中の日本」について：日本・イギリス・アメリカの家族・親子	(内 容) 「世界の中の日本」について考える。 (必要な準備) テキスト(第3・4章)を読み、課題に取り組む(40分)
第6回	「世界の中の日本」について：自己主張・自己抑制	(内 容) 「世界の中の日本」について考える。 (必要な準備) テキスト(第5章)を読み、課題に取り組む(40分)
第7回	「学ぶ」ということ：何のために学ぶのか	(内 容) 「学ぶということ」について考える (必要な準備) 前回のまとめをしておく(40分)
第8回	「学ぶ」ということ：意見交換	(内 容) 「何のために」学ぶのかについての事例検討・意見交換 (必要な準備) 前回のまとめをしておく(40分)
第9回	「愛する」ということ：愛することは本能か学習か	(内 容) 「愛することは本能か学習か」について考える (必要な準備) 前回のまとめをしておく(40分)
第10回	「愛する」ということ：意見交換	(内 容) 「愛するということ」についての事例検討・意見交換 (必要な準備) 前回のまとめをしておく(40分)
第11回	働くということ：何のために働くのか	(内 容) 「働くということ」について事例検討 (必要な準備) 前回のまとめをしておく(40分)
第12回	生きるということ：何のために生きるのか	(内 容) 「生きるということ」について事例検討 (必要な準備) 前回のまとめをしておく(40分)
第13回	人間生活の真に豊かなあり方、新しいあり方、未来社会のあり方を探求する：事例1	(内 容) 事例検討・意見交換を通して自らの学習課題・研究課題を把握する (必要な準備) 前回のまとめをしておく(40分)
第14回	人間生活の真に豊かなあり方、新しいあり方、未来社会のあり方を探求する：事例2	(内 容) 事例検討・意見交換を通して自らの学習課題・研究課題を把握する (必要な準備) 前回のまとめをしておく(40分)
第15回	人間生活の真に豊かなあり方、新しいあり方、未来社会のあり方を探求する：事例3	(内 容) 事例検討・意見交換を通して自らの学習課題・研究課題を把握する (必要な準備) 前回のまとめをしておく(40分)

授 業 名	現代家政学論			開 講 学 年	1回生	単 位 数	2単位	
英 文 名	Theory of Contemporary Home Economics			開 講 時 期	秋学期	必修・選択	必修	
担 当 者	秋山 裕之			対 象 学 生	現代家政1回生、食物栄養1回生			
授業の概要	<p>家庭生活と地球環境は密接に関連している。本科目ではその具体的な諸相をとりあげ、将来を展望する。 具体的には、アフリカの伝統的な社会における人々の生活と自然環境との関係と、現代日本の都市部におけるそれとの対比を通して、日本の各家庭が持続可能な社会の形成に寄与するための方向性を探る。</p>							
学 習 成 果 達 成 目 標	<p>1) 環境学の基礎を学び、資源利用への生態学的な視点を理解する。 2) アフリカの伝統的な社会における人間と自然環境との関係について学び、視野を広げる。 3) 現代日本において持続可能な社会を目指すための指針をもち、自分で考えられるようになる。</p>							
評 価 方 法	定期試験 (60 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 (思考力)	コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力 ()	課題発見・解決能力 ()			
テ キ ス ト	使用しない。毎回プリントを配布する。映像資料もほぼ毎回用いる。							
参 考 書	適宜参考書を紹介する。							
留 意 事 項	講義中に疑問点があれば遠慮なく、話の途中でどんどん質問してください。座席は指定します。							
オ フ ィ ス ア ワ ー	週に1時間×1回設定。曜日・時間帯は学生演習室にて掲示。							

授 業 名		現代家政学論
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題
第1回	オリエンテーション 環境とは何か	(内 容) 本科目の進め方、環境について (必要な準備) シラバスを読んでくる(5分)
第2回	持続的発展の理論形成史	(内 容) 持続的発展、MSY理論、宇宙船地球号 (必要な準備) 「持続可能な社会」について考える(30分)
第3回	地球温暖化のメカニズムと社会的影響	(内 容) 地球温暖化、生態学的な視点 (必要な準備) 地球温暖化について調べておく(30分)
第4回	地球温暖化への取り組み	(内 容) 二酸化炭素排出量、家庭生活 (必要な準備) 家庭生活でできることを考える(30分)
第5回	コモンズの悲劇の成立条件と回避条件	(内 容) コモンズの悲劇 (必要な準備) 共有資源について考える(30分)
第6回	食糧問題の現状と乾燥地での農耕の可能性	(内 容) 食糧問題、アグロフォレストリー (必要な準備) ふだん何を食べているか考える(30分)
第7回	食の問題 日本を中心に	(内 容) 食料自給率、有機栽培 (必要な準備) 日本の食の問題について考える(30分)
第8回	持続的な環境利用 アフリカ狩猟採集社会	(内 容) ブッシュマン、ピグミー (必要な準備) 狩猟採集生活について想像する(30分)
第9回	人口を抑制する社会制度 東アフリカ牧畜民	(内 容) 人口抑制、婚姻規則、東アフリカ牧畜民 (必要な準備) 牧畜民の暮らしについて想像する(30分)
第10回	焼畑農耕の持続可能性	(内 容) 焼畑農耕、自然のサイクルと人の営み (必要な準備) 生態学的に持続可能なモデルを考える(30分)
第11回	持続性を支える経済	(内 容) 分配、交換、使用価値、生業経済、貨幣 (必要な準備) 現金で買うことと物々交換との違いを考える(30分)
第12回	循環型社会への取り組み	(内 容) 物質循環、ゴミ問題、リサイクル (必要な準備) リユース経験のリストを作る(30分)
第13回	人類社会と自然環境	(内 容) 汚染、自然保護、現代文明社会の持続可能性 (必要な準備) 自然のサイクルと人の営みの関係を考える(30分)
第14回	暮らしと地球環境	(内 容) 持続可能な社会、日常生活 (必要な準備) 上記二つの関係について考える(30分)
第15回	地球環境の現状：野生動物を通して	(内 容) 野生動物の現状、地球環境 (必要な準備) 上記について考える(30分)

授業名	生活構造論			開講学年	2回生	単位数	2単位	
英文名	Theory of Living Structure			開講時期	春学期	必修・選択	必修	
担当者	藤井 伸生			対象学生	現代家政2回生、食物栄養2回生			
授業の概要	<p>生活の基礎単位は世帯（家族・家庭）にあるが、この世帯の現状と変化をまず検討したい。そして生活の場である地域の現状と変化を検討しながら生活の実情を考えていきたい。さらに生活は身近な地域を超えた社会の仕組みとの関係によって成り立っているといえ、この社会の仕組みの現状と変化から生活を考えていきたい。以上は生活の広がりという視点で述べたが、一方、今日の生活の中身は、くらしの基盤である労働、日常的な交流と連帯、生活の社会化によって規定されているといえる。講義形式の授業によって、これらのことについて実態調査等をもとに構造的な分析・把握をしていきたい。</p>							
学習成果到達目標	<p>1) 生活に対して、健康問題、世帯の変化、地域の変化等を押さえながら認識できる。 2) 人間らしい生活（くらし）には、くらしの基盤である仕事、日常的な協力・共同といったヨコのつながり、社会政策・公共一般施策・社会福祉といった生活の社会化の発展・拡充が欠かせないことを認識できる。</p>							
評価方法	定期試験 (100 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評価基準	主たる評価の 観点	知識・理解 (論理的な展開力	コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力	課題発見・解決能力			
テキスト	『生活問題と社会保障・社会福祉の基本資料集』高菅出版、2014年。							
参考書	授業時に紹介する							
留意事項	くらしについて家族と一緒に考える							
オフィスアワー	設定しますが、研究室に在室していれば対応します。どうしても場合は、事前にEメールしてください。							

授 業 名		生活構造論	
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題	
第1回	生活とは？ - いのちとくらしは一体 -	(内 容)	生活をとらえる視点について (必要な準備) 自らの生活を振り返る(30分)
第2回	くらしの実態把握 - 視点と枠組み -	(内 容)	生活問題の視点と枠組み (必要な準備) くらし・地域について考察する(30分)
第3回	くらしの実態把握 - くらしの中身 -	(内 容)	くらしの中身について (必要な準備) くらしの中身について考察する(30分)
第4回	くらしの実態把握 - 健康状態 -	(内 容)	くらしと健康状態について (必要な準備) くらしと健康について考察する(30分)
第5回	くらしの実態把握 - くらしの単位 -	(内 容)	くらしの単位について (必要な準備) 家族・家庭について考察する(30分)
第6回	くらしの実態把握 - 世帯構成の変化 -	(内 容)	世帯構成の変化について (必要な準備) わが家の歴史を振り返る(30分)
第7回	くらしの実態把握 - くらしの場 -	(内 容)	くらしの場について (必要な準備) 地域とくらしの関係性を考察する(30分)
第8回	くらしの実態把握 - 地域の変化 -	(内 容)	地域の変化について (必要な準備) 地域の変化を考える(30分)
第9回	くらしの実態把握 - くらしの基盤・しごと -	(内 容)	くらしの基盤について (必要な準備) しごととくらしの関係性を考察する(30分)
第10回	くらしの実態把握 - ヨコのつながり -	(内 容)	ヨコのつながりについて (必要な準備) ヨコのつながりとくらしについて考察する(30分)
第11回	くらしの実態把握 - 日常的協力・共同 -	(内 容)	日常的な協力・共同について (必要な準備) 日常的な協力・共同とくらしについて考察する(30分)
第12回	くらしの実態把握 - 生活の社会化 -	(内 容)	生活の社会化について (必要な準備) くらしを支える制度について考察する(30分)
第13回	くらしの実態把握 - 社会政策とくらし -	(内 容)	生活の社会化・社会政策について (必要な準備) くらしを支える制度・社会政策の考察する(30分)
第14回	くらしの実態把握 - 公共一般施策とくらし -	(内 容)	生活の社会化・公共一般施策について (必要な準備) くらしを支える制度・公共一般施策の考察する(30分)
第15回	くらしの実態把握 - 社会福祉とくらし -	(内 容)	生活の社会化・社会福祉について (必要な準備) くらしを支える制度・社会福祉の考察する(30分)

授業名	ライフデザイン論			開講学年	2回生	単位数	2単位	
英文名	Theory of Life Design			開講時期	秋学期	必修・選択	必修	
担当者	斧出 節子			対象学生	現代家政2回生、食物栄養2回生			
授業の概要	現在、少子高齢化やグローバル化した経済の変化といった社会変動が生じている。それに伴い、家族や個人の生活も変化しつつある。これまで一般的とされてきたライフコースも多様化し、個人の中での家族・職業の位置づけ方も再編成していかなければならない。本講義では、「ワーク・ライフ・バランス」、「ジェンダー」などの視点を含めながら、新しい社会に向けたライフデザインを考えていく。							
学習成果到達目標	1) 現代の女性と男性のさまざまなライフコースの実態を知ることができる。 2) 自分自身のライフデザインを描くことができるようになる。							
評価方法	定期試験 (80 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (20 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評価基準	主たる評価の 観点	知識・理解 (積極的な調査の実施	コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力	課題発見・解決能力	()		
テキスト	適宜資料を配布する。							
参考書	『ライフストーリー分析－質的調査入門』大久保孝治(学文社)、ほかは授業内で紹介する。							
留意事項	講義だけでなく半期間で大きな課題(インタビュー調査)に挑戦するので、積極的な取り組みが必要である							
オフィス アワー	毎週1回(休業期間中を除く。)オフィスアワーを設けます。具体的な日時は研究室に張り出します。 【備考】オフィスアワーに設定している時間帯であっても、会議や出張などで在室できない場合があります。また、あらかじめ予約が必要な場合がありますので、その場合は、メールまたは直接申し出るようにしてください							

授 業 名		ライフデザイン論
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題
第1回	オリエンテーション	(内 容) 授業計画について (必要な準備) シラバスの内容を確認しておくこと
第2回	社会変動と人生：ライフコースの変化	(内 容) ライフストーリーを学ぶ意義について (必要な準備) 前回のまとめをしておく(30分)
第3回	社会変動と人生：高度経済成長期の人生	(内 容) 人生と社会変動の関連性について理解する (必要な準備) 前回のまとめをしておく(30分)
第4回	インタビュー調査について	(内 容) インタビュー調査の目的について理解する (必要な準備) 自分の出生から現在までの社会の出来事を調べておく(30分)
第5回	インタビュー調査の方法	(内 容) インタビューの方法について理解する。 (必要な準備) 前回のまとめをしておく(30分)
第6回	仕事と自己実現	(内 容) 自己実現と仕事の関係について考える (必要な準備) 仕事をする意味について考えておく(30分)
第7回	女性と就労：事例からみる実態	(内 容) 日本女性の就労の実態について、事例から学ぶ (必要な準備) 前回のまとめをしておく(30分)
第8回	女性と就労：統計からみる実態	(内 容) 日本女性の就労の実態について、時計資料から読み解く (必要な準備) 前回のまとめをしておく(30分)
第9回	女性と就労：課題	(内 容) 日本女性の就労の問題点について学ぶ (必要な準備) 前回のまとめをしておく(30分)
第10回	インタビュー調査のケース報告書作成	(内 容) インタビューデータの整理をする (必要な準備) データをまとめておく(30分)
第11回	ケーススタディ1：グループワーク	(内 容) インタビューケースを紹介する (必要な準備) 発表の準備をしておく(30分)
第12回	ケーススタディ2：さまざまな就労の実態	(内 容) 現在の男女の就労の様々なケースをインタビュー調査のデータから理解する (必要な準備) 発表の準備をしておく(30分)
第13回	ライフデザインと政策：ライフコースと政策	(内 容) 仕事と家庭生活を支える政策について (必要な準備) 女性の就労に関係する政策について調べておく(30分)
第14回	ライフデザインと政策：外国の政策とライフコース	(内 容) 外国のケースを例に考える (必要な準備) 前回のまとめをしておく(30分)
第15回	まとめ	(内 容) 授業の振り返りをする (必要な準備) 半期間のまとめをしておく(30分)

授業名	現代家政学演習 s a			開講学年	2回生	単位数	2単位	
英文名	Contemporary Home Economics Seminar			開講時期	春学期	必修・選択	必修	
担当者	秋山 裕之			対象学生	現代家政2回生			
授業の概要	現代日本におけるソーシャル・キャピタルについて、テキストの輪読と討論を通じて考える。輪読の担当者は発表資料を必ず事前に提出する。また、地域のさまざまな取り組みから1つを選んで、調べてまとめたものをパワーポイントで発表する。夏休みから取り組む個人研究のテーマを考えながら、地域が抱えている現代的問題や、日本社会が現在直面している課題への地域・コミュニティでみられる対処について学ぶ。							
学習成果到達目標	1) テキストの輪読と討論を通じて、現代日本における人と人の絆について理解と考えを深める。 2) 調査・研究の適切な方法について、実践と討論を繰り返しながら習得することを目指す。							
評価方法	定期試験 (60 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評価基準	主たる評価の 観点	知識・理解 (コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力) (課題発見・解決能力)			
テキスト	稲葉陽二『ソーシャル・キャピタル入門 孤立から絆へ』[中公新書] 2011年							
参考書	issue + design project 『地域を変えるデザイン』[英治出版]							
留意事項	課題には真摯に取り組んでください。夏休み中に個人研究を進めてもらいます。							
オフィス アワー	週に1時間×1回設定。曜日・時間帯は学生演習室にて掲示。							

授 業 名		現代家政学演習 s a	
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題	
第1回	オリエンテーション、自己紹介、担当者決め	(内 容) オリエンテーション、輪読の担当者決め (必要な準備) 「はじめに」を読んでおく(10分)	
第2回	テキスト輪読 1	(内 容) 第1章、輪読の発表資料の作り方 (必要な準備) 第1章を読んでおく(1時間)	
第3回	テキスト輪読 2	(内 容) 第2章 (必要な準備) 第2章を読んでおく(1時間)	
第4回	テキスト輪読 3	(内 容) 第3章 (必要な準備) 第3章を読んでおく(1時間)	
第5回	テキスト輪読 4	(内 容) 第4章 (必要な準備) 第4章を読んでおく(1時間)	
第6回	テキスト輪読 5	(内 容) 第5章 (必要な準備) 第5章を読んでおく(1時間)	
第7回	テキスト輪読 5	(内 容) 第6章 (必要な準備) 第6章を読んでおく(1時間)	
第8回	テキスト輪読 5	(内 容) 第7章前半 (必要な準備) 第7章前半を読んでおく(1時間)	
第9回	テキスト輪読 5	(内 容) 第7章後半 (必要な準備) 第7章後半を読んでおく(1時間)	
第10回	テキスト輪読 5	(内 容) 第8章 (必要な準備) 第8章を読んでおく(1時間)	
第11回	テキスト輪読 5	(内 容) 第9章、結語 (必要な準備) 第9章と結語を読んでおく(1時間)	
第12回	地域の取り組み 1	(内 容) 調べ学習の発表(PowerPoint) (必要な準備) 担当者は発表準備・他は資料を読んでおく(1時間)	
第13回	地域の取り組み 2	(内 容) 調べ学習の発表(PowerPoint) (必要な準備) 担当者は発表準備・他は資料を読んでおく(1時間)	
第14回	地域の取り組み 3	(内 容) 調べ学習の発表(PowerPoint) (必要な準備) 担当者は発表準備・他は資料を読んでおく(1時間)	
第15回	研究テーマと調査方法	(内 容) 個人研究のテーマ・方法 (必要な準備) 研究テーマと調査方法を考えてくる(1時間)	

授 業 名	現代家政学演習 s b			開 講 学 年	2回生	単 位 数	2単位	
英 文 名	Contemporary Home Economics Seminar			開 講 時 期	春学期	必修・選択	必修	
担 当 者	川島 智生			対 象 学 生	現代家政2回生			
授業の概要	<p>生活学(衣食住)に関連する文献をゼミの参加者で1冊選び、それを分担して読み、担当箇所を発表し、ゼミの中で議論をしてゆく。また、建物や町並みの見学を通して、視点を定めて観察をする経験を重ねたい。ゼミの仲間と話し合うことによって、住環境についての理解を深め、自分の問題意識を明確にする期間としたい。</p>							
学 習 成 果 達 成 目 標	<p>家庭生活の器としての住居のありようを把握し、ならびに生活環境の視点をまなび、事象を客観的に把握する能力を養うことを目標とする。</p>							
評 価 方 法	定期試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 (コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力) (課題発見・解決能力)			
テ キ ス ト	受講生の興味にあわせて選択したテキストを使用する。							
参 考 書	使用しない。							
留 意 事 項								
オ フ ィ ス ア ワ ー	毎週1回(休業期間中を除く。)オフィスアワーを設けます。							

授 業 名		現代家政学演習 s b
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題
第1回	このゼミに望むこと オリエンテーション	(内 容) この1年、どのように学んでいくかを伝える (必要な準備)
第2回	家政学のなかでの住の概念	(内 容) 家政学と住の関係。 (必要な準備) 生活のなかで住む意味を考えておくこと。
第3回	住宅の概念	(内 容) 住宅の意味。 (必要な準備) みずからの住む家について考えておくこと。
第4回	住宅の内容	(内 容) 住宅の建築的内容 (必要な準備) 生活スタイルを考えておくこと
第5回	間取りの読み方	(内 容) 平面図が示す意味 (必要な準備) 配布資料を事前学習
第6回	平面の実測	(内 容) 実測調査を体験する (必要な準備) メジャー・方眼紙・筆記用具を用意すること
第7回	住宅の現地見学会	(内 容) 住空間を体験する (必要な準備) メジャー・方眼紙・筆記用具を用意すること
第8回	見学会の意見交換	(内 容) 意見交換 (必要な準備) 見学会で得られた情報を整理
第9回	発表(1)	(内 容) 各自発表をする (必要な準備) 発表の準備をしておくこと
第10回	発表(2)	(内 容) 各自発表をする (必要な準備) 発表の準備をしておくこと
第11回	発表(3)	(内 容) 各自発表をする (必要な準備) 発表の準備をしておくこと
第12回	企画にむけた取り組み(1)	(内 容) どのような企画を立てるかディスカッションする (必要な準備) 取り組みたい企画を考えておくこと
第13回	企画にむけた取り組み(2)	(内 容) 具体的な企画の決定 (必要な準備) 自分の意見をまとめておくこと
第14回	振り返り	(内 容) 春学期の自己到達点を考える (必要な準備) 春学期の振り返りをしておくこと
第15回	折り返し	(内 容) 秋学期に向けて課題を考える (必要な準備) 秋学期に向けての課題を考えておくこと

授業名	現代家政学演習 SC			開講学年	2回生	単位数	2単位	
英文名	Contemporary Home Economics Seminar			開講時期	春学期	必修・選択	必修	
担当者	豊原 容子			対象学生	現代家政2回生			
授業の概要	本演習では、まず、自らが設定したテーマについてさまざまな手法を用いて情報収集を行い、これらを正しく取捨選択をしていくことについて学ぶ。さらに、その情報収集方法や得られた情報についてまとめ、発表をおこない、質疑応答・討論等を通して多角的にテーマについて検討する能力を養って行く。							
学習成果到達目標	1) 正しい情報を収集し、分析する力がつく。 2) わかりやすいプレゼンテーションをすることができる。 3) 自分の意見をまとめ人に伝えることができる。							
評価方法	定期試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評価基準	主たる評価の 観点	知識・理解 (コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力) (課題発見・解決能力) (
テキスト	使用しない							
参考書	使用しない。							
留意事項	積極的に取り組むことが重要。1回生総合基礎演習のテキスト「新版 大学生のためのレポート・論文術」を使用するので用意しておくこと							
オフィスアワー	設定曜日・時間については研究室ドアに掲示します。それ以外の時間でも研究室に在室していれば対応します。							

授 業 名		現代家政学演習 SC
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題
第1回	オリエンテーション	(内 容) 授業の進め方について (必要な準備) 総基礎演習のテキストを復習しておく、テキストを持参する(30分)
第2回	テーマに関するディスカッション	(内 容) 自分の興味のある問題点について発表し、ディスカッションする (必要な準備) 興味のある事項について考えておく(60分)
第3回	テーマに関するディスカッション	(内 容) テーマを具体的に設定する (必要な準備) 具体的に何を明らかにしていくのかについて考えていく(30分)
第4回	基本的な文献資料の検索	(内 容) 資料検索の方法について学ぶ (必要な準備) テーマに関する資料を集めてみる(60分)
第5回	基本的な文献資料の検索	(内 容) 資料を収集する (必要な準備) 検索方法の復習を行う(30分)
第6回	文献資料を読む	(内 容) 文献・資料を読んで要点を把握する (必要な準備) 資料を整理し、キーワードやわからない用語などについて調べておく(60分)
第7回	文献資料を読む	(内 容) 関連データなどを検索し資料を深く理解していく (必要な準備) 資料を読んでおく(60分)
第8回	読んだ文献資料の要点を発表	(内 容) 発表、ディスカッション (必要な準備) 担当者は発表の準備をする、他の人は発表内容について調べておく(60分)
第9回	読んだ文献資料の要点を発表	(内 容) 発表、ディスカッション (必要な準備) 担当者は発表の準備をする、他の人は発表時の質問について調べておくと、(60分)
第10回	資料の検索	(内 容) 問題点を整理し、さらに関連する資料を収集し読んでいく (必要な準備) 発表時にだされた質問などについて調べておく(60分)
第11回	内容をまとめ、発表する	(内 容) まとめと発表 (必要な準備) 担当者は発表の準備をする(60分)
第12回	内容をまとめ、発表する	(内 容) まとめと発表 (必要な準備) 担当者は発表の準備をする(60分)
第13回	研究成果をレポートとしてまとめる	(内 容) レポート作成方法について学ぶ (必要な準備) レポートの書き方などの復習をしておく(30分)
第14回	研究成果をレポートとしてまとめる	(内 容) レポート作成 (必要な準備) レポートの構成を考えておく(60分)
第15回	総括	(内 容) 春学期を振り返り、今後の課題検討を行う (必要な準備) レポートを完成させ、わからない点について明らかにしておく(60分)

授業名	現代家政学演習 s d			開講学年	2年生	単位数	2単位	
英文名	Contemporary Home Economics Seminar			開講時期	春学期	必修・選択	必修	
担当者	馬場 まみ			対象学生	現代家政2年生			
授業の概要	現代家政学では、女性は、生活者としてまた職業人としてどのような生活設計が考えられ、どのような課題があるのか、衣食住や家族関係など現代生活をとりまく事象にどのような問題が生じているのか、を究明することが重要な課題となる。本演習では、テーマを設定しグループワークを行う。各自が資料を集めて考えを述べ、グループでの意見をまとめて発表する。グループでの発表や議論を行うことにより、多様な視点、考え方があることを学ぶ。最後に、様々な意見をふまえたうえで、各自の考えをレポートにまとめる。							
学習成果到達目標	1. 現代家政学で取り組む課題を認識することができる。 2. 課題に対して人と議論し、自分の意見を説明することができる。							
評価方法	定期試験 (60 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評価基準	主たる評価の 観点	知識・理解 (コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力) (課題発見・解決能力)			
テキスト	使用しない。							
参考書								
留意事項	積極的に取り組むことが重要。							
オフィス アワー	毎週1回（休業期間中を除く）設定します。 ただし、会議や出張などで対応できない場合があります。							

授 業 名		現代家政学演習 s d
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題
第1回	ガイダンス	(内 容) 授業の進め方。 (必要な準備) シラバスを読み、課題について考える。(30分)
第2回	生活を取り巻く課題について考える	(内 容) 生活に関する課題について検討する。 (必要な準備) 各自の意見をまとめてくる。(30分)
第3回	課題に対する資料収集 - 新聞記事	(内 容) 新聞記事から課題に関する意見を集める。 (必要な準備) 新聞を読んでくる。(30分)
第4回	課題に関する資料収集 - 図書	(内 容) 課題に関する図書を読む。 (必要な準備) 図書を検索しておく。(30分)
第5回	課題に関する資料収集 - 論文	(内 容) 課題に関する論文を読む。 (必要な準備) 論文を検索しておく。(30分)
第6回	課題に対してグループで議論する	(内 容) 各自が収集した資料で課題に対する考えを発表し、議論する。 (必要な準備) 各自が収集した資料を整理する。(30分)
第7回	課題に対するグループの意見を集約する	(内 容) 各自の意見をまとめて、議論する。 (必要な準備) 自分の意見をまとめてくる。(30分)
第8回	発表準備	(内 容) 発表のためのパワーポイントの作成。 (必要な準備) パワーポイントに用いる資料を整理する。(30分)
第9回	グループ発表とディスカッション - A・Bグループ	(内 容) グループ発表を行い、議論する。 (必要な準備) 発表の準備。(30分)
第10回	グループ発表とディスカッション - C・Dグループ	(内 容) グループ発表を行い、議論する。 (必要な準備) 発表の準備。(30分)
第11回	課題に対する考察を深める	(内 容) ディスカッションをうけて、さらに資料を収集し読む。 (必要な準備) 資料を収集する。(30分)
第12回	課題に対する考えをまとめる	(内 容) 資料を読み、自分の考えをまとめる。 (必要な準備) 資料を読む。(30分)
第13回	まとめと発表 - A・Bグループ	(内 容) 課題に対する意見を発表する。 (必要な準備) 課題に対する各自の意見をまとめておく。(30分)
第14回	まとめと発表 - C・Dグループ	(内 容) 課題に対する意見を発表する。 (必要な準備) 課題に対する各自の意見をまとめておく。(30分)
第15回	総括	(内 容) 意見交換と総括。 (必要な準備) 各自が取り組みに対する総括を考えてくる。(30分)

授業名	現代家政学演習 t a			開講学年	2回生	単位数	2単位	
英文名	Contemporary Home Economics Seminar			開講時期	春学期	必修・選択	必修	
担当者	坂本 裕子			対象学生	食物栄養2回生			
授業の概要	現代家政学演習 では管理栄養士関連科目に関わりながら、「食品」「健康」「栄養」「管理栄養士」をキーワードに現代日本における健康問題や管理栄養士の職場での役割など、現代家政学部で学ぶ学生として多方面から学び、視野を広げる。							
学習成果到達目標	1) 健康・栄養に関する現代日本における状況と問題点への理解を深める。 2) 管理栄養士の職場、仕事への理解を深める。 3) プレゼンテーション・コミュニケーション能力を高める。							
評価方法	定期試験 (60 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評価基準	主たる評価の 観点	知識・理解 (コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力) (課題発見・解決能力)		
テキスト	『新版 大学生のためのレポート・論文術』小笠原喜康著 講談社							
参考書	適宜参考書を紹介する							
留意事項	積極的に発言・発表する。							
オフィス アワー	研究室に日時を添付するので、確認してください。							

授 業 名		現代家政学演習 t a	
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題	
第1回	オリエンテーション	(内 容) 現代家政学演習 の進め方の確認 (必要な準備) シラバスを読んでおく(30分)	
第2回	春休み課題の振り返り (課題Aのプレゼンテーション)	(内 容) 春休み課題の個人別プレゼンテーション (必要な準備) プレゼンテーションの準備(30分)	
第3回	春休み課題の振り返り (課題Bのプレゼンテーション)	(内 容) 春休み課題の個人別プレゼンテーション (必要な準備) プレゼンテーションの準備(30分)	
第4回	春休み課題の振り返り (課題Cのプレゼンテーション)	(内 容) 春休み課題の個人別プレゼンテーション (必要な準備) プレゼンテーションの準備(30分)	
第5回	文献検索・発表資料の作り方	(内 容) 文献検索・発表資料の作り方について (必要な準備) テキストp.63~104を読んでおく(1時間)	
第6回	グループプレゼンテーションの文献検索・発表資料を作る	(内 容) 文献検索・発表資料の準備 (必要な準備) 前回の内容を復習しておく(1時間)	
第7回	グループプレゼンテーションの文献検索・発表資料を完成させる	(内 容) 発表資料を作る (必要な準備) 文献検索・発表資料の準備(1時間)	
第8回	「食品」についての学び	(内 容) 「食品」についての学び、意見交換 (必要な準備) グループ発表の準備(1時間)	
第9回	グループプレゼンテーション(グループA)	(内 容) グループプレゼンテーション (必要な準備) 前回の学びのレポート作成、発表の準備(1時間)	
第10回	グループプレゼンテーション(グループB)	(内 容) グループプレゼンテーション (必要な準備) 発表の準備(1時間)	
第11回	グループプレゼンテーション(グループC)	(内 容) グループプレゼンテーション (必要な準備) 発表の準備(1時間)	
第12回	「健康」についての学び	(内 容) 「健康」についての学び、意見交換 (必要な準備) 前回の学びの内容を復習しておく(30分)	
第13回	「栄養」についての学び	(内 容) 「栄養」についての学び、意見交換 (必要な準備) 前回の学びのレポート作成(30分)	
第14回	「管理栄養士」についての学び	(内 容) 「管理栄養士」の仕事についての学び、意見交換 (必要な準備) 前回の学びのレポート作成(30分)	
第15回	春学期到達度確認・秋学期の取り組みについて	(内 容) 春学期の振り返りと秋学期の取り組み (必要な準備) 前回の学びのレポート作成(1時間) 秋学期に向けての課題を考えておく(30分)	

授 業 名	現代家政学演習 t b			開 講 学 年	2回生	単 位 数	2単位	
英 文 名	Contemporary Home Economics Seminar			開 講 時 期	春学期	必修・選択	必修	
担 当 者	饗庭 照美			対 象 学 生	食物栄養2回生			
授業の概要	現代家政学演習 では管理栄養士関連科目に関わりながら、「食品」「健康」「栄養」「管理栄養士」をキーワードに現代日本における健康問題や管理栄養士の職場での役割など、現代家政学部で学ぶ学生として多方面から学び、視野を広げる。							
学 習 成 果 到 達 目 標	1) 健康・栄養に関する現代日本における状況と問題点への理解を深める。 2) 管理栄養士の職場、仕事への理解を深める。 3) プレゼンテーション・コミュニケーション能力を高める。							
評 価 方 法	定期試験 (60 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 (コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力) (課題発見・解決能力)		
テ キ ス ト	『新版 大学生のためのレポート・論文術』小笠原喜康著 講談社							
参 考 書	適宜参考書を紹介する							
留 意 事 項	積極的に発言・発表する。							
オ フ ィ ス ア ワ ー	研究室に日時を添付するので、確認してください。							

授 業 名		現代家政学演習 t b	
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題	
第1回	オリエンテーション	(内 容) 現代家政学演習 の進め方の確認 (必要な準備) シラバスを読んでおく(30分)	
第2回	春休み課題の振り返り (課題Aのプレゼンテーション)	(内 容) 春休み課題の個人別プレゼンテーション (必要な準備) プレゼンテーションの準備(30分)	
第3回	春休み課題の振り返り (課題Bのプレゼンテーション)	(内 容) 春休み課題の個人別プレゼンテーション (必要な準備) プレゼンテーションの準備(30分)	
第4回	春休み課題の振り返り (課題Cのプレゼンテーション)	(内 容) 春休み課題の個人別プレゼンテーション (必要な準備) プレゼンテーションの準備(30分)	
第5回	文献検索・発表資料の作り方	(内 容) 文献検索・発表資料の作り方について (必要な準備) テキストp.63~104を読んでおく(1時間)	
第6回	グループプレゼンテーションの文献検索・発表資料を作る	(内 容) 文献検索・発表資料の準備 (必要な準備) 前回の内容を復習しておく(1時間)	
第7回	グループプレゼンテーションの文献検索・発表資料を完成させる	(内 容) 発表資料を作る (必要な準備) 文献検索・発表資料の準備 (1時間)	
第8回	「食品」についての学び	(内 容) 「食品」についての学び、意見交換 (必要な準備) グループ発表の準備 (1時間)	
第9回	グループプレゼンテーション(グループA)	(内 容) グループプレゼンテーション (必要な準備) 前回の学びのレポート作成、発表の準備(1時間)	
第10回	グループプレゼンテーション(グループB)	(内 容) グループプレゼンテーション (必要な準備) 発表の準備(1時間)	
第11回	グループプレゼンテーション(グループC)	(内 容) グループプレゼンテーション (必要な準備) 発表の準備(1時間)	
第12回	「健康」についての学び	(内 容) 「健康」についての学び、意見交換 (必要な準備) 前回の学びの内容を復習しておく(30分)	
第13回	「栄養」についての学び	(内 容) 「栄養」についての学び、意見交換 (必要な準備) 前回の学びのレポート作成(1時間)	
第14回	「管理栄養士」についての学び	(内 容) 「管理栄養士」の仕事についての学び、意見交換 (必要な準備) 前回の学びのレポート作成(1時間)	
第15回	春学期到達度確認・秋学期の取り組みについて	(内 容) 春学期の振り返りと秋学期の取り組み (必要な準備) 前回の学びのレポート作成(1時間) 秋学期に向けての課題を考えておく(30分)	

授業名	現代家政学演習 t c			開講学年	2回生	単位数	2単位	
英文名	Contemporary Home Economics Seminar			開講時期	春学期	必修・選択	必修	
担当者	平 正人			対象学生	食物栄養2回生			
授業の概要	現代家政学演習 では管理栄養士関連科目に関わりながら、「食品」「健康」「栄養」「管理栄養士」をキーワードに現代日本における健康問題や管理栄養士の職場での役割など、現代家政学部で学ぶ学生として多方面から学び、視野を広げる。							
学習成果到達目標	1) 健康・栄養に関する現代日本における状況と問題点への理解を深める。 2) 管理栄養士の職場、仕事への理解を深める。 3) プレゼンテーション・コミュニケーション能力を高める。							
評価方法	定期試験 (60 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評価基準	主たる評価の 観点	知識・理解 (コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力	課題発見・解決能力)		
テキスト	『新版 大学生のためのレポート・論文術』小笠原喜康著 講談社							
参考書	適宜参考書を紹介する							
留意事項	積極的に発言・発表する。							
オフィス アワー	研究室に日時を添付するので、確認してください。							

授 業 名		現代家政学演習 t c
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題
第1回	オリエンテーション	(内 容) 現代家政学演習 の進め方の確認 (必要な準備) シラバスを読んでおく(30分)
第2回	春休み課題の振り返り (課題Aのプレゼンテーション)	(内 容) 春休み課題の個人別プレゼンテーション (必要な準備) プレゼンテーションの準備(30分)
第3回	春休み課題の振り返り (課題Bのプレゼンテーション)	(内 容) 春休み課題の個人別プレゼンテーション (必要な準備) プレゼンテーションの準備(30分)
第4回	春休み課題の振り返り (課題Cのプレゼンテーション)	(内 容) 春休み課題の個人別プレゼンテーション (必要な準備) プレゼンテーションの準備(30分)
第5回	文献検索・発表資料の作り方	(内 容) 文献検索・発表資料の作り方について (必要な準備) テキストp.63~104を読んでおく(1時間)
第6回	グループプレゼンテーションの文献検索・発表資料を作る	(内 容) 文献検索・発表資料の準備 (必要な準備) 前回の内容を復習しておく(1時間)
第7回	グループプレゼンテーションの文献検索・発表資料を完成させる	(内 容) 発表資料を作る (必要な準備) 文献検索・発表資料の準備(1時間)
第8回	「食品」についての学び	(内 容) 「食品」についての学び、意見交換 (必要な準備) グループ発表の準備(1時間)
第9回	グループプレゼンテーション(グループA)	(内 容) グループプレゼンテーション (必要な準備) 前回の学びのレポート作成、発表の準備(1時間)
第10回	グループプレゼンテーション(グループB)	(内 容) グループプレゼンテーション (必要な準備) 発表の準備(1時間)
第11回	グループプレゼンテーション(グループC)	(内 容) グループプレゼンテーション (必要な準備) 発表の準備(1時間)
第12回	「健康」についての学び	(内 容) 「健康」についての学び、意見交換 (必要な準備) 前回の学びの内容を復習しておく(30分)
第13回	「栄養」についての学び	(内 容) 「栄養」についての学び、意見交換 (必要な準備) 前回の学びのレポート作成(1時間)
第14回	「管理栄養士」についての学び	(内 容) 「管理栄養士」の仕事についての学び、意見交換 (必要な準備) 前回の学びのレポート作成(1時間)
第15回	春学期到達度確認・秋学期の取り組みについて	(内 容) 春学期の振り返りと秋学期の取り組み (必要な準備) 前回の学びのレポート作成(1時間) 秋学期に向けての課題を考えておく(30分)

授業名	現代家政学演習 s a			開講学年	2回生	単位数	2単位	
英文名	Contemporary Home Economics Seminar			開講時期	秋学期	必修・選択	必修	
担当者				対象学生	現代家政2回生			
授業の概要	現代家政学演習 をふまえて、学生が自身の興味関心に基づいてより個別的・具体的なテーマを定め、深く調査研究をすすめる。自身の調査テーマが、現代日本社会においてどのように位置づけられるのかについて文献などから学び、個人研究を相対化するための視座をもつ。春学期と同様に、地域の取り組みを題材にした調べ学習も行う。地域社会・コミュニティを素材にして発表と討論を重ね、調査研究の基礎を習得する。							
学習成果到達目標	1) 調査研究の手法や論文へのまとめ方について、基本的なことがらを身につける。 2) 自身や他の学生たちの発表を通して「地域社会・コミュニティ」について新たな知見を得る。							
評価方法	定期試験 (60 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評価基準	主たる評価の 観点	知識・理解 (コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力) (課題発見・解決能力)			
テキスト	使用しない。							
参考書	issue + design project 『地域を変えるデザイン』[英治出版]							
留意事項	学生の発表そのものが学びのための資料となります。しっかりした準備と活発な発言を心がけてください。							
オフィス アワー	週に1時間×1回設定。曜日・時間帯は学生演習室にて掲示。							

授 業 名		現代家政学演習 s a
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題
第1回	参考文献の見つけ方	(内 容) 学術論文の検索方法について (必要な準備) 読みたい論文のキーワードを考えてくる(30分)
第2回	発表資料の作り方	(内 容) 発表資料の作り方について (必要な準備) 個人研究の概要を話す用意をしておく(30分)
第3回	文献発表 1	(内 容) 読んだ論文の内容をプレゼンする (必要な準備) 発表準備(Word資料提出)(30分)
第4回	文献発表 2	(内 容) 読んだ論文の内容をプレゼンする (必要な準備) 発表準備(Word資料提出)(30分)
第5回	文献発表 3	(内 容) 読んだ論文の内容をプレゼンする (必要な準備) 発表準備(Word資料提出)(30分)
第6回	パソコンでの資料作成	(内 容) 地図やExcelの図表を発表資料に用いる (必要な準備) 個人研究のデータ(1時間)
第7回	調査研究発表 1 - 1	(内 容) 学生の調査研究発表 1 回目 (必要な準備) 発表準備(Word資料提出)(1時間)
第8回	調査研究発表 1 - 2	(内 容) 学生の調査研究発表 1 回目 (必要な準備) 発表準備(Word資料提出)(1時間)
第9回	調査研究発表 1 - 3	(内 容) 学生の調査研究発表 1 回目 (必要な準備) 発表準備(Word資料提出)(1時間)
第10回	調査研究発表 1 - 4	(内 容) 学生の調査研究発表 1 回目 (必要な準備) 発表準備(Word資料提出)(1時間)
第11回	調査研究発表 2 - 1	(内 容) 学生の調査研究発表 2 回目 (必要な準備) 発表準備(PowerPoint提出)(1時間)
第12回	調査研究発表 2 - 2	(内 容) 学生の調査研究発表 2 回目 (必要な準備) 発表準備(PowerPoint提出)(1時間)
第13回	調査研究発表 2 - 3	(内 容) 学生の調査研究発表 2 回目 (必要な準備) 発表準備(PowerPoint提出)(1時間)
第14回	調査研究発表 2 - 4	(内 容) 学生の調査研究発表 2 回目 (必要な準備) 発表準備(PowerPoint提出)(1時間)
第15回	振り返り	(内 容) 卒論ゼミへ向けて (必要な準備) 研究成果をWordにまとめる(2時間)

授業名	現代家政学演習 s b			開講学年	2回生	単位数	2単位	
英文名	Contemporary Home Economics Seminar			開講時期	秋学期	必修・選択	必修	
担当者	川島 智生			対象学生	現代家政2回生			
授業の概要	<p>生活する上で、家という空間単位をベースにまわりの環境をどのように捉えていくかを学ぶ。そのことは地域についての物理的な把握であり、地域のまなざしから住を考える。地域との関係からは幼稚園や保育所、小学校といった教育施設や店の建築についても理解を深める。</p>							
学習成果到達目標	<p>理想的なすまいを計画提案する力を養うことに加えて、地域施設である幼稚園や保育所、小学校といった教育施設や公共施設、身近な店の建築などを把握する力を養うことを目標とする。</p>							
評価方法	定期試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評価基準	主たる評価の 観点	知識・理解 (コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力) (課題発見・解決能力)			
テキスト	使用しない。							
参考書	文献を各自が用意する							
留意事項	簡単な製図道具が必要。							
オフィス アワー	毎週1回（休業期間中を除く。）オフィスアワーを設けます。							

授 業 名		現代家政学演習 s b	
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題	
第1回	秋学期のガイダンス	(内 容) 秋学期の授業の進め方について (必要な準備) 春学期の内容を復習しておく	
第2回	地域の概念	(内 容) 地域の概念を学ぶ (必要な準備) 生活の中で地域の持つ意味を考えておくこと	
第3回	地域資源の発見	(内 容) 町に出てフィールド (必要な準備) 対象地の地図を読むこと	
第4回	地域の建築物(1)店	(内 容) 商業施設の建築を学習 (必要な準備) 店の意味を考えておくこと	
第5回	地域の建築物(2)教育施設	(内 容) 教育施設の建築を学習 (必要な準備) 教育施設の意味を考えておくこと	
第6回	集合住宅	(内 容) 集合住宅の建築を学習 (必要な準備) 集合住宅の意味を考えておくこと	
第7回	住宅平面図の模写	(内 容) 住宅の間取りを写す (必要な準備) 方眼紙・筆記用具を用意すること	
第8回	住宅平面図の作成	(内 容) 住宅の間取りをつくる (必要な準備) 方眼紙・筆記用具を用意すること	
第9回	集合住宅の現地見学	(内 容) 名作集合住宅の現地見学 (必要な準備) カメラ・メジャー・スケッチブック	
第10回	見学内容の意見交換	(内 容) 各自発表をする (必要な準備) パワーポイントで各自が 作成	
第11回	発表(1)	(内 容) 各自発表をする (必要な準備) 発表の準備をしておくこと	
第12回	発表(2)	(内 容) 各自発表をする (必要な準備) 発表の準備をしておくこと	
第13回	発表(3)	(内 容) 各自発表をする (必要な準備) 発表の準備をしておくこと	
第14回	2回生の振り返り	(内 容) 春学期・秋学期の自己到達点を考える (必要な準備) 2年間の振り返りをしておくこと	
第15回	3回生に向けて	(内 容) 3回生に向けて課題を考える (必要な準備) 課題を考えておくこと	

授業名	現代家政学演習 SC			開講学年	2回生	単位数	2単位	
英文名	Contemporary Home Economics Seminar			開講時期	秋学期	必修・選択	必修	
担当者	豊原 容子			対象学生	現代家政2回生			
授業の概要	現代家政学演習の内容をさらに進め、本演習ではより専門的な内容の情報を読む力を養っていくとともに、課題事項について深く考えていく力を身につけていく。演習と同様に口頭発表、質疑応答等を行なうとともにレポートを作成を通じて論文作成のための基本的な知識の習得を行なう。さらに現代生活を取りまく課題を多面的に考察することにより、問題意識を深め 卒論の研究テーマ設定につなげていく。							
学習成果到達目標	1) 基本的な調査研究の手法が身についている。 2) 聞く人を意識したわかりやすい発表ができる。 3) 発表を聞き要点を把握し疑問点を明らかにすることができる。							
評価方法	定期試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評価基準	主たる評価の 観点	知識・理解 (コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力) (課題発見・解決能力) (
テキスト	使用しない							
参考書	使用しない。							
留意事項	積極的な取り組みが重要。							
オフィスアワー	設定曜日・時間については研究室ドアに掲示します。それ以外の時間でも研究室に在室していれば対応します。							

授 業 名		現代家政学演習 SC
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題
第1回	オリエンテーション	(内 容) 春学期の基礎的な事項の確認および秋学期の進め方について (必要な準備) 春学期のレポートを読み直しておく(30分)
第2回	テーマ設定	(内 容) 関心のある事項について考える (必要な準備) これまでの学習などを振り返り、関心事項について考えてくる(60分)
第3回	テーマ設定	(内 容) テーマを決定する (必要な準備) テーマについて考えてくる(30分)
第4回	調査研究・資料収集	(内 容) 資料を収集する (必要な準備) 資料の収集方法について復習しておく(30分)
第5回	調査研究・資料収集	(内 容) 資料を収集する (必要な準備) これまでに収集した資料を読んで、資料内にある参考文献からの資料の収集について考えておく(60分)
第6回	調査研究・資料収集	(内 容) 資料を収集する (必要な準備) 収集した資料を読んでいく(60分)
第7回	資料のまとめ	(内 容) 資料のまとめ (必要な準備) 内容について深く理解するために資料等を読んでおく(90分)
第8回	資料のまとめ	(内 容) 資料のまとめ、発表方法の検討 (必要な準備) 発表の準備をする(90分)
第9回	発表とディスカッション	(内 容) 担当者ごとに発表、ディスカッションを行う (必要な準備) 発表の準備をする(60分)
第10回	発表とディスカッション	(内 容) 担当者ごとに発表、ディスカッションを行う (必要な準備) 担当者は発表の準備をする。自分の発表に対しての質問について調べ回答を用意しておく(60分)
第11回	発表とディスカッション	(内 容) 担当者ごとに発表、ディスカッションを行う (必要な準備) 担当者は発表の準備をする。自分の発表に対しての質問について調べ回答を用意しておく(60分)
第12回	発表に関する振り返り	(内 容) それぞれの発表に関して問題点や工夫すべきことなどについてまとめていく (必要な準備) ほかの人の発表を聞いてよかったと思う点、自分の発表の反省点などを考えておく(30分)
第13回	レポート作成	(内 容) 資料を整理し、レポートの構想をまとめる (必要な準備) 追加資料の整理(60分)
第14回	レポート作成	(内 容) レポート作成 (必要な準備) 資料を整理し、文章構成について検討しておく(60分)
第15回	総括	(内 容) これまでの学習の振り返りと卒論ゼミにむけた検討 (必要な準備) レポートの完成と振り返り(30分)

授業名	現代家政学演習 s d			開講学年	2回生	単位数	2単位	
英文名	Contemporary Home Economics Seminar			開講時期	秋学期	必修・選択	必修	
担当者	馬場 まみ			対象学生	現代家政2回生			
授業の概要	現代家政学演習 での考察をふまえて、各自が秋学期に取り組む課題を設定する。課題に関する文献資料やデータを収集し、考えをまとめて発表する。発表、議論の過程で多角的な視点を得、さらに考えを深めてレポートにまとめる。一つの課題に主体的に取り組むことにより、問題意識を深め、卒論での研究テーマの設定につなげる。							
学習成果到達目標	1. 論文作成に必要な文献資料や情報の収集ができる。 2. 課題に対して自分の意見をまとめることができる。							
評価方法	定期試験 (60 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評価基準	主たる評価の 観点	知識・理解 (コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力) (課題発見・解決能力) (
テキスト	使用しない。							
参考書								
留意事項	積極的に研究に取り組むことが重要。							
オフィス アワー	毎週1回(休業期間中を除く)設定します。 ただし、会議や出張などで対応できない場合があります。							

授 業 名		現代家政学演習 s d
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題
第1回	ガイダンス	(内 容) 授業の進め方。 (必要な準備) シラバスを読み、課題について考える。(30分)
第2回	課題について考える	(内 容) どのような課題にするか考えをまとめる。 (必要な準備) 課題について考えてくる。(30分)
第3回	各自が設定した課題について発表する	(内 容) 探究したい課題について説明する。 (必要な準備) 課題について説明する資料を準備する。(30分)
第4回	課題に対する先行研究を読む	(内 容) 課題に対する先行研究を検索し、読む。 (必要な準備) 先行研究のリストを作成する。
第5回	課題に対するデータを収集する	(内 容) データ収集のための手法を学ぶ。 (必要な準備) 必要なデータについて考える。(30分)
第6回	課題に対する図書を読む	(内 容) 課題に対する図書を検索して読む。 (必要な準備) 図書検索の準備を行う。
第7回	課題に対する論文を検索する	(内 容) 論文を検索し論文リストを作成する。 (必要な準備) 論文検索の準備を行う。(30分)
第8回	課題に対する論文資料を読んでまとめる	(内 容) 論文を読み内容を理解してまとめる。 (必要な準備) 論文を準備する。(30分)
第9回	発表準備	(内 容) パワーポイントの作成。 (必要な準備) 資料を整理する。(30分)
第10回	発表とディスカッション Aグループ	(内 容) 課題について発表する。 (必要な準備) 発表準備を行う。(30分)
第11回	発表とディスカッション Bグループ	(内 容) 課題について発表する。 (必要な準備) 発表準備を行う。(30分)
第12回	発表とディスカッション Cグループ	(内 容) 課題について発表する。 (必要な準備) 発表準備を行う。(30分)
第13回	発表とディスカッション Dグループ	(内 容) 課題について発表する。 (必要な準備) 発表準備を行う。(30分)
第14回	発表とディスカッション Eグループ	(内 容) 課題について発表する。 (必要な準備) 発表準備を行う。(30分)
第15回	総括	(内 容) 意見交換と総括。 (必要な準備) 各自が取り組みに対する総括を考えてくる。(30分)

授業名	現代家政学演習 t a			開講学年	2回生	単位数	2単位	
英文名	Contemporary Home Economics Seminar			開講時期	秋学期	必修・選択	必修	
担当者	坂本 裕子			対象学生	食物栄養2回生			
授業の概要	春学期での学びを踏まえて、個人で研究発表を行う。各自で興味関心のあるテーマを決め、先行研究を収集し、レジュメを作り、プレゼンテーションを行う。先行研究を学ぶことにより、研究方法、分析、考察などの論文の構成やまとめ方について学ぶことを目指す。また、2回生全員で行う食育活動を通じて、実践による発見や課題を見つけ、今後の臨地実習などに対する心構えを学ぶ。							
学習成果到達目標	1) テーマに適した論文を収集し、論文作成・まとめ方を理解する。 2) プレゼンテーション・コミュニケーション能力を高める。 3) 食育活動に参加し、体験したことを振り返り、今後の実習・活動に必要な心構えを身につける。							
評価方法	定期試験 (60 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評価基準	主たる評価の 観点	知識・理解 (コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力	課題発見・解決能力)		
テキスト	『新版 大学生のためのレポート・論文術』小笠原喜康著 講談社							
参考書	適宜参考書を紹介する。							
留意事項	積極的に個人研究や食育活動に取り組む。							
オフィス アワー	研究室に日時を添付するので、確認してください。							

授 業 名		現代家政学演習 t a
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題
第1回	オリエンテーション	(内 容) 現代家政学演習 の進め方の確認 (必要な準備) シラバスを読んでおく(30分)
第2回	夏休み課題の振り返り (課題Aのプレゼンテーション)	(内 容) 夏休み課題の個人別プレゼンテーション (必要な準備) プレゼンテーションの準備(30分)
第3回	夏休み課題の振り返り (課題Bのプレゼンテーション)	(内 容) 夏休み課題の個人別プレゼンテーション (必要な準備) プレゼンテーションの準備(30分)
第4回	夏休み課題の振り返り (課題Cのプレゼンテーション)	(内 容) 夏休み課題の個人別プレゼンテーション (必要な準備) プレゼンテーションの準備(30分)
第5回	研究テーマの決め方、研究資料収集について	(内 容) 研究テーマの決め方・資料について (必要な準備) テキストp.105~132を読んでおく(1時間)
第6回	研究テーマと研究資料収集の相談	(内 容) 研究テーマと研究資料収集の個別相談 (必要な準備) 研究テーマを考えてくる(1時間)
第7回	個人研究の発表テーマの決定	(内 容) 研究テーマを決定する (必要な準備) 研究発表テーマの準備(1時間)
第8回	個人研究のテーマに関する先行研究の収集	(内 容) 先行研究の収集 (必要な準備) 発表資料の準備(1時間)
第9回	個人研究の発表準備と個別相談	(内 容) 発表資料を作る (必要な準備) 発表資料の準備(1時間)
第10回	食育活動の企画・準備	(内 容) 食育活動の準備 (必要な準備) 事前に自分の役割について考えておく(30分)
第11回	食育活動の振り返り 個人研究のプレゼンテーションと意見交換(研究テーマA)	(内 容) 食育活動の振り返り、個人研究の発表 (必要な準備) 食育活動を振り返り、発表の準備(1時間)
第12回	個人研究のプレゼンテーションと意見交換(研究テーマB)	(内 容) 個人研究の発表 (必要な準備) 発表の準備(1時間)
第13回	個人研究のプレゼンテーションと意見交換(研究テーマC)	(内 容) 個人研究の発表 (必要な準備) 発表の準備(1時間)
第14回	個人研究のプレゼンテーションと意見交換(研究テーマD)	(内 容) 個人研究の発表 (必要な準備) 発表の準備(1時間)
第15回	秋学期到達度確認・次年度の取り組みについて	(内 容) 秋学期の振り返りと次年度の取り組み (必要な準備) 次年度に向けての課題を考えておく(30分)

授 業 名	現代家政学演習 t b			開 講 学 年	2回生	単 位 数	2単位	
英 文 名	Contemporary Home Economics Seminar			開 講 時 期	秋学期	必修・選択	必修	
担 当 者	饗庭 照美			対 象 学 生	食物栄養2回生			
授業の概要	春学期での学びを踏まえて、個人で研究発表を行う。各自で興味関心のあるテーマを決め、先行研究を収集し、レジュメを作り、プレゼンテーションを行う。先行研究を学ぶことにより、研究方法、分析、考察などの論文の構成やまとめ方について学ぶことを目指す。また、2回生全員で行う食育活動を通じて、実践による発見や課題を見つけ、今後の臨地実習などに対する心構えを学ぶ。							
学 習 成 果 達 成 目 標	1) テーマに適した論文を収集し、論文構成・まとめ方を理解する。 2) プレゼンテーション・コミュニケーション能力を高める。 3) 食育活動に参加し、体験したことを振り返り、今後の実習・活動に必要な心構えを身につける。							
評 価 方 法	定期試験 (60 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 (コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力	課題発見・解決能力)		
テ キ ス ト	『新版 大学生のためのレポート・論文術』小笠原喜康著 講談社							
参 考 書	適宜参考書を紹介する。							
留 意 事 項	積極的に個人研究や食育活動に取り組む。							
オ フ ィ ス ア ワ ー	研究室に日時を添付するので、確認してください。							

授 業 名		現代家政学演習 t b	
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題	
第1回	オリエンテーション	(内 容) 現代家政学演習 の進め方の確認 (必要な準備) シラバスを読んでおく(30分)	
第2回	夏休み課題の振り返り (課題Aのプレゼンテーション)	(内 容) 夏休み課題の個人別プレゼンテーション (必要な準備) プレゼンテーションの準備(30分)	
第3回	夏休み課題の振り返り (課題Bのプレゼンテーション)	(内 容) 夏休み課題の個人別プレゼンテーション (必要な準備) プレゼンテーションの準備(30分)	
第4回	夏休み課題の振り返り (課題Cのプレゼンテーション)	(内 容) 夏休み課題の個人別プレゼンテーション (必要な準備) プレゼンテーションの準備(30分)	
第5回	研究テーマの決め方、研究資料収集について	(内 容) 研究テーマの決め方・資料について (必要な準備) テキストp.105~132を読んでおく(1時間)	
第6回	研究テーマと研究資料収集の相談	(内 容) 研究テーマと研究資料収集の個別相談 (必要な準備) 研究テーマを考えてくる(1時間)	
第7回	個人研究の発表テーマの決定	(内 容) 研究テーマを決定する (必要な準備) 研究発表テーマの準備(1時間)	
第8回	個人研究のテーマに関する先行研究の収集	(内 容) 先行研究の収集 (必要な準備) 発表資料の準備(1時間)	
第9回	個人研究の発表準備と個別相談	(内 容) 発表資料を作る (必要な準備) 発表資料の準備(1時間)	
第10回	食育活動の企画・準備	(内 容) 食育活動の準備 (必要な準備) 事前に自分の役割について考えておく(30分)	
第11回	食育活動の振り返り 個人研究のプレゼンテーションと意見交換(研究テーマA)	(内 容) 食育活動の振り返り、個人研究の発表 (必要な準備) 食育活動を振り返り、発表の準備(1時間)	
第12回	個人研究のプレゼンテーションと意見交換(研究テーマB)	(内 容) 個人研究の発表 (必要な準備) 発表の準備(1時間)	
第13回	個人研究のプレゼンテーションと意見交換(研究テーマC)	(内 容) 個人研究の発表 (必要な準備) 発表の準備(1時間)	
第14回	個人研究のプレゼンテーションと意見交換(研究テーマD)	(内 容) 個人研究の発表 (必要な準備) 発表の準備(1時間)	
第15回	秋学期到達度確認・次年度の取り組みについて	(内 容) 秋学期の振り返りと次年度の取り組み (必要な準備) 次年度に向けての課題を考えておく(30分)	

授 業 名	現代家政学演習 t c			開 講 学 年	2回生	単 位 数	2単位	
英 文 名	Contemporary Home Economics Seminar			開 講 時 期	秋学期	必修・選択	必修	
担 当 者	平 正 人			対 象 学 生	食物栄養2回生			
授業の概要	春学期での学びを踏まえて、個人で研究発表を行う。各自で興味関心のあるテーマを決め、先行研究を収集し、レジュメを作り、プレゼンテーションを行う。先行研究を学ぶことにより、研究方法、分析、考察などの論文の構成やまとめ方について学ぶことを目指す。また、2回生全員で行う食育活動を通じて、実践による発見や課題を見つけ、今後の臨地実習などに対する心構えを学ぶ。							
学 習 成 果 達 成 目 標	1) テーマに適した論文を収集し、論文構成・まとめ方を理解する。 2) プレゼンテーション・コミュニケーション能力を高める。 3) 食育活動に参加し、体験したことを振り返り、今後の実習・活動に必要な心構えを身につける。							
評 価 方 法	定期試験 (60 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 (コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力) (課題発見・解決能力)		
テ キ ス ト	『新版 大学生のためのレポート・論文術』小笠原喜康著 講談社							
参 考 書	適宜参考書を紹介する。							
留 意 事 項	積極的に個人研究や食育活動に取り組む。							
オ フ ィ ス ア ワ ー	研究室に日時を添付するので、確認してください。							

授 業 名		現代家政学演習 t c
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題
第1回	オリエンテーション	(内 容) 現代家政学演習 の進め方の確認 (必要な準備) シラバスを読んでおく(30分)
第2回	夏休み課題の振り返り (課題Aのプレゼンテーション)	(内 容) 夏休み課題の個人別プレゼンテーション (必要な準備) プレゼンテーションの準備(30分)
第3回	夏休み課題の振り返り (課題Bのプレゼンテーション)	(内 容) 夏休み課題の個人別プレゼンテーション (必要な準備) プレゼンテーションの準備(30分)
第4回	夏休み課題の振り返り (課題Cのプレゼンテーション)	(内 容) 夏休み課題の個人別プレゼンテーション (必要な準備) プレゼンテーションの準備(30分)
第5回	研究テーマの決め方、研究資料収集について	(内 容) 研究テーマの決め方・資料について (必要な準備) テキストp.105~132を読んでおく(1時間)
第6回	研究テーマと研究資料収集の相談	(内 容) 研究テーマと研究資料収集の個別相談 (必要な準備) 研究テーマを考えてくる(1時間)
第7回	個人研究の発表テーマの決定	(内 容) 研究テーマを決定する (必要な準備) 研究発表テーマの準備(1時間)
第8回	個人研究のテーマに関する先行研究の収集	(内 容) 先行研究の収集 (必要な準備) 発表資料の準備(1時間)
第9回	個人研究の発表準備と個別相談	(内 容) 発表資料を作る (必要な準備) 発表資料の準備(1時間)
第10回	食育活動の企画・準備	(内 容) 食育活動の準備 (必要な準備) 事前に自分の役割について考えておく(30分)
第11回	食育活動の振り返り 個人研究のプレゼンテーションと意見交換(研究テーマA)	(内 容) 食育活動の振り返り、個人研究の発表 (必要な準備) 食育活動を振り返り、発表の準備(1時間)
第12回	個人研究のプレゼンテーションと意見交換(研究テーマB)	(内 容) 個人研究の発表 (必要な準備) 発表の準備(1時間)
第13回	個人研究のプレゼンテーションと意見交換(研究テーマC)	(内 容) 個人研究の発表 (必要な準備) 発表の準備(1時間)
第14回	個人研究のプレゼンテーションと意見交換(研究テーマD)	(内 容) 個人研究の発表 (必要な準備) 発表の準備(1時間)
第15回	秋学期到達度確認・次年度の取り組みについて	(内 容) 秋学期の振り返りと次年度の取り組み (必要な準備) 次年度に向けての課題を考えておく(30分)

授業名	キャリア教育			開講学年	2回生	単位数	2単位	
英文名	Career Design Including Internship			開講時期	春学期	必修・選択	必修	
担当者	堀出 雅人			対象学生	現代家政2回生、食物栄養2回生			
授業の概要	<p>現在の雇用・労働を取り巻く環境は大きく変わりつつあり、個人の選択肢も多様化し、それに伴ってチャンスとリスクも拡大する傾向にある。同時に、企業組織と従業員個人の関係も変化してきており、かつてのような「会社任せ」ではなく、自ら主体的に自分自身のキャリアをデザインしながら、その目標に向かって学習と経験を積み重ねていくことが必要になっている。</p> <p>自分にとっての「働くこと」の意味を考察し、自立性・自律性をもったキャリア開発を行っていくことの重要性を理解することで、それにつながる有意義な学生生活を送ることを一人ひとりに自覚・認識するため、講義と共にグループワークやプレゼンテーションを行う。</p>							
学習成果到達目標	<p>1) 働く意味、キャリア開発の重要性を理解することができる。</p> <p>2) 自分の大学生生活の送り方について明確な意識を持つことができる。</p> <p>3) インターンシップの意義と心構えを理解することができる。</p>							
評価方法	定期試験 (60 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評価基準	主たる評価の 観点	知識・理解 (コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力	課題発見・解決能力)		
テキスト	<p>テキストは下記の2冊を使用する。授業時の説明やワークで必ず使用するため、購入すること 実践編：“伝える力”を高めよう！「表現力」ワークブック～円滑なコミュニケーションのために～ 東城佐知子 林静香 昌美堂出版 2017 1000円 理論編：キャリア教育のウソ 児美川孝一郎 筑摩書房 2013 842円</p>							
参考書	授業時に随時指示する。							
留意事項	<p>インターンシップに向けて、職場で求められる対人関係に関する基本的な力を習得をめざしているため、授業中にグループワークをおこなう。いつも一緒にいるメンバーとグループワークを行ってばかりでは、上記の力はのばせないため、多くの受講生と対話できるワークを実施していく。</p> <p>毎回の授業時にふりかえりシートを配布する。次の授業時に提出すること。このシートは最終課題のレポートの内容とも関係しているため、毎回の授業への取組が成績評価に大きな影響を与える。</p>							
オフィス アワー	月曜日の昼休み							

授 業 名	キャリア教育	
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題
第1回	オリエンテーション	(内 容) 授業計画・内容・注意事項等。 (必要な準備) シラバスを一読しておく。
第2回	実践：過去、現実、未来へ...はじめの一歩としての自己分析 理論：キャリア教育の意味	(内 容) 自己理解を深めることができる 「キャリア教育」はなにを目指しているのか、説明できる (必要な準備) テキストを一読してくる(テキスト : pp.9-32) ふりかえりシートの提出
第3回	実践：他者理解を深めるコミュニケーション	(内 容) 他者理解を促進する方法を習得できる (必要な準備) ふりかえりシートの提出
第4回	実践：あなたの未来をイメージしよう 理論：キャリア教育の現状	(内 容) 大学卒業の進路をイメージし目標を設定することができる キャリア教育と大学教育との関係について説明できる (必要な準備) テキストを一読してくる(テキスト : pp.33-47) ふりかえりシートの提出
第5回	実践：みんなの未来を共有し、自分のイメージを明確にしよう	(内 容) ワールドカフェ形式のワークを通して、意見交換する中で、自己理解と他者理解を深め、自らの将来像を修正することができる。 (必要な準備) ふりかえりシートの提出
第6回	実践：自分の思いを表現する 理論：日本型雇用慣行の変化	(内 容) アサーティブな自己表現を実践できる 日本型社会の構造的変化とキャリア教育の必要性を説明できる (必要な準備) テキストを一読してくる(テキスト : pp.48-60) ふりかえりシートの提出
第7回	実践：組織の中でのコミュニケーションを学ぶ	(内 容) インターンシップにむけて、職場での挨拶、仕事の基本姿勢、「報・連・相」を理解し、実践にうつすことができる (必要な準備) ふりかえりシートの提出
第8回	実践：「組織の一員として働く」を考える 理論：働くための自分の軸づくり	(内 容) 組織の一員としてどう行動すればよいか、説明できる 「キャリア・アンカー」「キャリア・アダプタビリティ」を説明できる (必要な準備) テキストを一読してくる(テキスト : pp.61-88) ふりかえりシート提出
第9回	実践：話し言葉と書き言葉の使い分け	(内 容) 職場で求められる文章表現や対話の基本的なルールを理解し、実践することができる (必要な準備) ふりかえりシートの提出
第10回	実践：漢字の使い分け、読点・接続詞・表記上の注意点 理論：インターンシップ	(内 容) 間違いやすい漢字や注意すべき文章表現について理解し、実践できる インターンシップについて自分の考えをまとめることができる (必要な準備) テキストを一読してくる(テキスト : pp.89-110) ふりかえりシートの提出
第11回	実践：正しい敬語の使い方：基本編 理論：キャリアプラン	(内 容) 基本的な敬語の使い方について説明できる キャリアプランについて説明できる (必要な準備) テキストを一読してくる(テキスト : pp.111-134) ふりかえりシートの提出
第12回	実践：正しい敬語の使い方：実践編 理論：雇用形態	(内 容) 応用的な敬語の使い方について説明できる 正社員と非正規社員など雇用形態の特徴を説明できる (必要な準備) テキストを一読してくる(テキスト : pp.135-164) ふりかえりシートの提出
第13回	実践：履歴書で「私」を伝えよう 理論：キャリアデザイン	(内 容) 自己紹介文をまとめることができる キャリアデザインについて自分の考えをまとめることができる (必要な準備) テキストを一読してくる(テキスト : pp.165-182) ふりかえりシートの提出
第14回	実践：履歴書も面接もプレゼンテーション力	(内 容) 自己PRを情報機器などを使ってまとめることができる (必要な準備) ふりかえりシートの提出
第15回	実践：自己PRの発表	(内 容) 自己PRをプレゼンテーションすることができる (必要な準備) 自己PR資料を準備してくる ふりかえりシートの提出

授業名	文献講読 a			開講学年	3回生	単位数	2単位	
英文名	Literature Reading			開講時期	春学期	必修・選択	必修	
担当者	馬場 まみ			対象学生	現代家政3回生			
授業の概要	現代私たちの生活を取り巻く社会がどのように形成され、現在どのような状態にあるのかを知ることは重要である。テキストを精読することにより、現代の教育・仕事・家族が直面している課題について学ぶ。授業では、テキストの内容を分担して発表し、質疑応答することにより理解を深める。							
学習成果到達目標	1) 文献内容を理解し、説明することができる。 2) 自分が理解したこと、疑問に思ったことを説明することができる。 3) 問題意識を持ち、さらにそれを深めることができる。							
評価方法	定期試験 (60 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評価基準	主たる評価の 観点	知識・理解 (コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力	課題発見・解決能力)		
テキスト	本田由紀『社会を結びなおす - 教育・仕事・家族の連携へ』岩波書店(岩波ブックレット899)2014年							
参考書	授業で随時紹介する。							
留意事項	初回到授業の進め方の詳細を提示するので必ず出席すること。							
オフィス アワー	毎週1回(休業期間中を除く)設定します。ただし、会議や出張などで対応できない場合があります。							

授 業 名		学 習 内 容 ・ 課 題
授 業 計 画	学 習 項 目	学 習 内 容 ・ 課 題
第1回	オリエンテーション	(内 容) 授業進め方。 (必要な準備) シラバスに目を通しておく。(10分)
第2回	文献の「読み方」	(内 容) 文献の読み方を理解する。 (必要な準備) テキストに目を通す。(30分)
第3回	テキストの序章を読む	(内 容) テキストが明らかにしようとする課題を理解する。 (必要な準備) テキストの該当箇所を読む。(30分)
第4回	テキストP.5-8の購読	(内 容) 社会指標の推移を理解する。 (必要な準備) テキストの該当箇所を読む。(30分)
第5回	テキストP.8-9の購読	(内 容) 戦後社会の時代区分を理解する。 (必要な準備) テキストの該当箇所を読む。(30分)
第6回	テキストP.9-13の購読	(内 容) 戦後世代のライフコースを理解する。 (必要な準備) テキストの該当箇所を読む。(30分)
第7回	テキストP.14-17の購読	(内 容) 戦後日本の「かたち」を理解する。 (必要な準備) テキストの該当箇所を読む。(30分)
第8回	テキストP.17-21の購読	(内 容) 戦後日本型循環モデルについて理解する。 (必要な準備) テキストの該当箇所を読む。(30分)
第9回	テキストP.21-24の購読	(内 容) 戦後モデルの問題点を理解する。 (必要な準備) テキストの該当箇所を読む。(30分)
第10回	テキストP.25-31の購読	(内 容) 戦後モデルが成立した背景を理解する。 (必要な準備) テキストの該当箇所を読む。(30分)
第11回	テキストP.31-34の購読	(内 容) 戦後モデルの成立を支えた要因を理解する。 (必要な準備) テキストの該当箇所を読む。(30分)
第12回	テキストP.38-44の購読	(内 容) 戦後モデルの破綻について理解する。 (必要な準備) テキストの該当箇所を読む。(30分)
第13回	テキスト45-53の購読	(内 容) 新しい社会モデルについて理解する。 (必要な準備) テキストの該当箇所を読む。(30分)
第14回	テキストP.35-37の購読	(内 容) 戦後モデルの学説史的な位置づけを知る。 (必要な準備) テキストの該当箇所を読む。(30分)
第15回	まとめと今後の課題	(内 容) テキストの内容全体を整理し、理解する。 (必要な準備) これまでに学んだことをまとめる。(30分)

授業名	文献講読 b			開講学年	3回生	単位数	2単位	
英文名	Literature Reading			開講時期	春学期	必修・選択	必修	
担当者	秋山 裕之			対象学生	現代家政3回生			
授業の概要	現代家政学の関連領域では統計データを活用した研究が多い。卒業論文においても学生が公的資料などの統計データを活用したり、自らが得たデータを図表化したりすることがある。このクラスでは統計データを中心とした文献の精読を通じて、文脈に即した図表の理解に習熟し、汎用的な読解力を身につけることを目指す。							
学習成果到達目標	1) 統計データを文脈に即して理解できるようになる。 2) 文章の論理構造を理解し、正しく読解できるようになる。 3) 自分が理解した内容を、他者に適切に伝えられるようになる。							
評価方法	定期試験 (40 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (60 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評価基準	主たる評価の 観点	知識・理解 (コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力) (課題発見・解決能力)			
テキスト	久我尚子, 2014, 『若者は本当にお金がないのか? 統計データが語る意外な真実』光文社新書							
参考書	工藤啓・西田亮介, 2014, 『無業者会 働くことができない若者たちの未来』朝日新書							
留意事項	毎週の課題に真摯に取り組むことで確実に力が付きます。しっかりやってください。							
オフィスアワー	週に1時間×1回設定。曜日・時間帯は学生演習室にて掲示。							

授 業 名		文 献 講 読 b
授 業 計 画	学 習 項 目	学 習 内 容 ・ 課 題
第1回	ガイダンス	(内 容) 授業の内容と進め方について説明します (必要な準備) シラバスを読んでおく(5分)
第2回	第1章 統計データを読み解くポイント	(内 容) 課題への取り組み方を例示します (必要な準備) 第1章を読んでおく(30分)
第3回	テキストP.37-62	(内 容) 図表7-19 (必要な準備) テキストP.37-62を読んで図表の説明(2時間)
第4回	テキストP.62-77	(内 容) 図表20-21と図表の作成 (必要な準備) テキストP.63-77を読んで図表の説明・作成(2時間)
第5回	テキストP.77-99	(内 容) 図表22-27 (必要な準備) テキストP.77-99を読んで図表の説明(2時間)
第6回	テキストP.99-115	(内 容) 図表28-34 (必要な準備) テキストP.96-115を読んで図表の説明(2時間)
第7回	テキストP.115-134	(内 容) 図表35-42 (必要な準備) テキストP.115-134を読んで図表の説明(2時間)
第8回	テキストP.134-153	(内 容) 図表43-55 (必要な準備) テキストP.134-153を読んで図表の説明(2時間)
第9回	テキストP.153-174	(内 容) 図表56-65 (必要な準備) テキストP.153-174を読んで図表の説明(2時間)
第10回	テキストP.174-194	(内 容) 図表66-76 (必要な準備) テキストP.174-194を読んで図表の説明(2時間)
第11回	テキストP.194-216	(内 容) 図表77-87 (必要な準備) テキストP.194-216を読んで図表の説明(2時間)
第12回	テキストP.217-236	(内 容) 図表88-100 (必要な準備) テキストP.217-236を読んで図表の説明(2時間)
第13回	テキストP.236-252	(内 容) 図表101-109 (必要な準備) テキストP.236-252を読んで図表の説明(2時間)
第14回	テキストP.253-274	(内 容) 図表110-121 (必要な準備) テキストP.253-274を読んで図表の説明(2時間)
第15回	テキストP.275-279 実力テスト	(内 容) おわりに、実力テスト (必要な準備) テキストP.275-279を読んでくる(10分)

授業名	現代家政学特講 (ライフデザイン)			開講学年	4回生	単位数	2単位	
英文名	Contemporary Home Economics (Life Design)			開講時期	春学期	必修・選択	選択必修	
担当者	斧出 節子			対象学生	現代家政4回生			
授業の概要	現代家政学の領域は「生活」を対象とするという意味で非常に広い。本特講では、1、2回生まで広く学んできたことを、社会学的視点から再度検討していく。具体的には、「食」を題材として取り上げ、「食」を通して見えてくる現代の家族・家庭はどのように位置づけられるのか、また、その課題はどのようなものであるのかを探っていく。							
学習成果到達目標	1) 現代の家庭・家族の生活実態を、食の領域から分析できるようになる。 2) 生活の現代的課題を把握し、解決の道筋を考えることができる。 3) アンケート調査を分析・考察できる。							
評価方法	定期試験 (60 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評価基準	主たる評価の 観点	知識・理解 (積極的な授業参画態度	コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力	課題発見・解決能力)		
テキスト	『平成の家族と食』品田知美編(晶文社)							
参考書	適宜紹介する							
留意事項	毎回、授業のテーマについて、受講生は身近なところで調査を行い、それをもとに発表・議論をします。							
オフィス アワー	毎週1回(休業期間中を除く。)オフィスアワーを設けます。具体的な日時は研究室に張り出します。 【備考】オフィスアワーに設定している時間帯であっても、会議や出張などで在室できない場合があります。また、あらかじめ予約が必要な場合がありますので、その場合は、メールまたは直接申し出るようにしてください							

授 業 名		現代家政学特講 (ライフデザイン)
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題
第1回	オリエンテーション	(内 容) 授業の進め方についての講義 (必要な準備) シラバスを読んでおく
第2回	和食について	(内 容) 該当箇所を、調査資料をふまえ実態を理解する。 (必要な準備) テキストの該当箇所を読み、資料を収集しておく(30分)
第3回	食事時間	(内 容) 該当箇所を、調査資料をふまえ実態を理解する。 (必要な準備) テキストの該当箇所を読み、資料を収集しておく(30分)
第4回	食のファーストフード化	(内 容) 該当箇所を、調査資料をふまえ実態を理解する。 (必要な準備) テキストの該当箇所を読み、資料を収集しておく(30分)
第5回	男性の食事作り	(内 容) 該当箇所を、調査資料をふまえ実態を理解する。 (必要な準備) テキストの該当箇所を読み、資料を収集しておく(30分)
第6回	子どもの食事としつけ	(内 容) 該当箇所を、調査資料をふまえ実態を理解する。 (必要な準備) テキストの該当箇所を読み、資料を収集しておく(30分)
第7回	食事での会話	(内 容) 該当箇所を、調査資料をふまえ実態を理解する。 (必要な準備) テキストの該当箇所を読み、資料を収集しておく(30分)
第8回	弁当	(内 容) 該当箇所を、調査資料をふまえ実態を理解する。 (必要な準備) テキストの該当箇所を読み、資料を収集しておく(30分)
第9回	食のエコ意識	(内 容) 該当箇所を、調査資料をふまえ実態を理解する。 (必要な準備) テキストの該当箇所を読み、資料を収集しておく(30分)
第10回	食の東西・都市規模と食事	(内 容) 該当箇所を、調査資料をふまえ実態を理解する。 (必要な準備) テキストの該当箇所を読み、資料を収集しておく(30分)
第11回	基礎編のまとめ	(内 容) これまでの基礎編を振り返り、総括する。 (必要な準備) これまでの学びを復習しておく(30分)
第12回	分析：家族のコミュニケーション	(内 容) 該当箇所を、調査資料をふまえ実態を理解する。 (必要な準備) テキストの該当箇所を読み、資料を収集しておく(30分)
第13回	分析：食を通じた健康意識	(内 容) 該当箇所を、調査資料をふまえ実態を理解する。 (必要な準備) テキストの該当箇所を読み、資料を収集しておく(30分)
第14回	分析：家族と共食	(内 容) 該当箇所を、調査資料をふまえ実態を理解する。 (必要な準備) テキストの該当箇所を読み、資料を収集しておく(30分)
第15回	まとめ：食から見た日本の家族の現状	(内 容) テキスト全体を通じた総括 (必要な準備) これまでの学びについてまとめておく(60分)

授業名	現代家政学特講 (児童学)			開講学年	4回生	単位数	2単位	
英文名	Contemporary Home Economics (Pedology)			開講時期	春学期	必修・選択	選択必修	
担当者	遠藤 純			対象学生	現代家政4回生			
授業の概要	<p>本授業では、児童学の関連領域である児童文化について扱う。いつの時代にも子どもは存在するが、私たちの眼前に存在する子どもが、歴史的に社会から同じまなざしを向けられてきたわけではない。近代以降、大人たちは子どもたちをいかに見、その文化を創り上げてきたのか、遊びや玩具、児童文化財の検討を通して具体的に検証しつつ、子どもが有する世界観について考える。</p>							
学習成果到達目標	<p>1) 子ども の社会的歴史的変遷に対する理解 2) 子ども に対するおとなのまなざしの歴史的認識 3) 具体的な遊び、児童文化財および子どもの世界観の把握</p>							
評価方法	定期試験 (40 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (60 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評価基準	主たる評価の 観点	知識・理解 (コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力) (課題発見・解決能力) (
テキスト	適宜指示する。							
参考書								
留意事項								
オフィス アワー	授業の初回に連絡する。							

授 業 名		現代家政学特講 (児童学)	
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題	
第1回	ガイダンス 授業の目的および詳細について	(内 容) 授業の目的や内容、取り組みについて詳述する。 (必要な準備) シラバスを読んでおく。	
第2回	子ども とは何か 1	(内 容) 子ども という存在について考える (必要な準備) 子ども の定義について自分なりに考えておく。	
第3回	子ども とは何か 2	(内 容) 子どもの世界認識について考える 1 (必要な準備) 子どもの頃の忘れられない思い出について考えておく。	
第4回	子ども とは何か 3	(内 容) 子どもの世界認識について考える 2 (必要な準備) 子どもの頃の読書についてまとめておく。	
第5回	子ども とは何か 4	(内 容) 子どもの世界認識について考える 3 (必要な準備) 子どもと経済の関係について考えておく。	
第6回	子ども の遊びの種類について 1	(内 容) 遊びとは何かについて学習する。 (必要な準備) 子どもの頃の遊びについて考えておく。	
第7回	子ども の遊びの種類について 2	(内 容) 具体的な遊びの中身について知る 1 (必要な準備) かくれんぼの詳細について調べておく。	
第8回	子ども の遊びの種類について 3	(内 容) 具体的な遊びの中身について知る 2 (必要な準備) げたかくしについて調べておく。	
第9回	子ども の遊びの種類について 4	(内 容) 具体的な遊びの中身について知る 3 (必要な準備) めんこについて調べておく。	
第10回	子ども の遊びの種類について 5	(内 容) 具体的な遊びの中身について知る 4 (必要な準備) かごめかごめについて調べておく。	
第11回	子ども の遊びの種類について 6	(内 容) 具体的な遊びの中身について知る 5 (必要な準備) ビー玉について調べておく。	
第12回	子ども の遊び まとめ	(内 容) 子どもの遊びについて考える。 (必要な準備) かつて行われていた遊びについてまとめておく。	
第13回	玩具と子ども	(内 容) 子ども向け玩具について考える。 (必要な準備) かつて自ら遊んだ玩具を思い出し、気に入っていた点をまとめておく。	
第14回	現代の玩具	(内 容) 玩具とはなにか、自分なりに考えをまとめておく。 (必要な準備) 現代のさまざまな玩具を取り上げ、昔の玩具との違いについて考える。	
第15回	まとめ	(内 容) 授業のまとめをする。 (必要な準備) 児童のための文化について考えをまとめておく。	

授 業 名	現代家政学特講 (人間福祉学)			開 講 学 年	4回生	単 位 数	2単位	
英 文 名	Contemporary Home Economics (Human Welfare)			開 講 時 期	春学期	必修・選択	選択必修	
担 当 者	藤井 伸生			対 象 学 生	現代家政4回生			
授業の概要	現代の家族・家庭は社会の影響を強く受けている。自己責任のみでは家庭生活は成立しない。労働者保護制度、生活環境施設、社会保障、社会福祉等、社会的な生活保障の仕組みがどうなっているかによって、家庭生活は左右される。日本における社会的な生活保障の現状と課題について検討をしていきたい。その際、海外の社会的な生活保障の仕組みがどのようになっているか、主として、スウェーデン、デンマーク、フィンランド、ドイツ、ニュージーランド等の社会的な生活保障の仕組みを通して、日本の課題を考えていきたい。							
学 習 成 果 達 成 目 標	1) 私たちのくらしは社会的な生活保障なしでは成り立たないことが説明できる。 2) 海外の社会的な生活保障の仕組みと日本の違いを説明できる。 3) 国際比較を通して、日本の社会的な生活保障の課題を説明できる。							
評 価 方 法	定期試験 (70 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (30 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 (コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力	課題発見・解決能力)		
テ キ ス ト	プロジェクターを使って資料を表示する。							
参 考 書	授業中に紹介する。							
留 意 事 項	大いに質問すること。							
オ フ ィ ス ア ワ ー	設定しますが、研究室にいれば対応します。どうしても場合は、事前にEメールしてください。							

授業名	現代家政学特講 (人間福祉学)	
授業計画	学習項目	学習内容・課題
第1回	私たちのくらしの仕組みを考える	(内 容) くらしと社会的な生活保障の関係を紹介する (必要な準備) 私たちのくらしをみつめ考える(30分)
第2回	保育所保育の実情 - 日本 -	(内 容) 日本の保育所保育の実情を紹介する (必要な準備) 保育所についてその役割を調べ考える(30分)
第3回	保育所保育の実情 - スウェーデン -	(内 容) スウェーデンの保育所保育の実情を紹介する (必要な準備) 日本の保育所保育の課題をふりかえり考える(30分)
第4回	学童保育所の実情 - スウェーデン -	(内 容) スウェーデンの学童保育の実情を紹介する (必要な準備) 学童保育の実情を調べ考える(30分)
第5回	学童保育所の実情 - ニュージーランド -	(内 容) ニュージーランドの学童保育の実情を紹介する (必要な準備) 海外の学童保育について調べ考える(30分)
第6回	学童保育所の実情 - 日本 -	(内 容) 日本の学童保育の実情を紹介する (必要な準備) 日本の学童保育の課題をふりかえり考える(30分)
第7回	高齢者施設の実情 - スウェーデン -	(内 容) スウェーデンの高齢者施設の実情を紹介する (必要な準備) 高齢者施設について調べ考える(30分)
第8回	高齢者施設の実情 - 日本 -	(内 容) 日本の高齢者施設の実情を紹介する (必要な準備) 日本の高齢者施設の課題をふりかえり考える(30分)
第9回	生活環境・自転車道の実情 - デンマーク -	(内 容) デンマークの自転車道の実情を紹介する (必要な準備) 自転車道について調べ考える(30分)
第10回	生活環境・自転車道の実情 - 日本 -	(内 容) 日本の自転車道の実情を紹介する (必要な準備) 日本の自転車道の課題をふりかえり考える(30分)
第11回	生活環境・公園の実情 - フィンランド・ドイツ -	(内 容) フィンランド・ドイツの公園の実情を紹介する (必要な準備) 生活環境・公園について調べ考える(30分)
第12回	生活環境・公園の実情 - 日本 -	(内 容) 日本の公園の実情を紹介する (必要な準備) 日本の公園の課題をふりかえり考える(30分)
第13回	社会的負担(税)をどう考えるか	(内 容) 生活保障を支える財源について検討する (必要な準備) 税のありようについて調べ考える(30分)
第14回	くらしと議会制民主主義	(内 容) くらしと議会の関係について検討する (必要な準備) 議会の状況を調べ考える(30分)
第15回	これからの日本の生活保障	(内 容) 日本が抱えている生活保障の課題を検討する (必要な準備) 生活保障の役割についてふりかえり考える(30分)

授 業 名	卒業演習（論文を含む。）a ~ i			開 講 学 年	3回生	単 位 数	6単位	
英 文 名	Graduation Thesis			開 講 時 期	秋学期	必修・選択	必修	
担 当 者	斧出 節子・川島 智生・西川 由紀子・馬場 まみ・藤井 伸生・松浦 真理・秋山 裕之・湯浅 俊郎・豊原 容子			対 象 学 生	現代家政3回生			
授業の概要	3回生春学期には卒業演習プレゼミを実施。3回生秋学期には、3回春学期の学習を踏まえて、先行研究や関連資料を収集し、問題意識・研究方法・研究手続き・分析・考察の方法・結果のまとめ方等について学び把握する。ゼミでの研究発表・意見交換・議論・個人指導を通して、卒業研究のテーマを確定する。同時に、課題探求力、問題解決力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力を高めることを目指す。4回生春学期7月に「論文題目」を提出。秋学期12月15日に「卒業論文」を提出。2月に「口頭試問」に臨む。							
学 習 成 果 達 成 目 標	1) 卒業研究テーマを自ら決定し、何をどこまで、どのような方法で明らかにするのか、研究目的と研究方法を決定する。 2) 学士論文としてふさわしい卒業研究論文を完成させるための分析考察方法、結果のまとめ方などを身につける。							
評 価 方 法	定期試験 (80 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (20 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 (コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力	課題発見・解決能力)		
テ キ ス ト	ゼミ担当者より指示する。							
参 考 書	ゼミ担当者より指示する。							
留 意 事 項	3回生春学期の学習を通して興味関心の幅を広げるとともに、積極的に先行研究や関連資料にあたる。研究テーマにかかわる事象や事例に興味関心を持ち、意見交換・考察・討議する習慣をもつ。主体的積極的に研究を進める。							
オ フ ィ ス ア ワ ー	毎週1回（休業期間中を除く）オフィスアワーを設けます（曜日・時間を研究室に掲示）。研究室に在室していれば対応します。どうしても場合は、事前にメール又は直接申出により事前予約が望ましい。							

授 業 名		卒業演習（論文を含む。）a～i	
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題	
第1回	3回生秋学期ガイダンス 自己紹介、研究テーマの紹介、プレゼミ課題・夏期課題の提出	(内 容)	3回秋～4回秋(1年半)のスケジュール、卒業論文作成要項、3回秋ゼミの進め方の確認。プレゼミ課題・夏期課題提出。研究発表日程等を決める。 (必要な準備) プレゼミ課題・夏期課題の提出(1時間以上)
第2回	研究発表1 - (研究テーマ・問題意識・研究概要)	(内 容)	研究発表・質疑応答・討論(発表者はレジュメ配布・発表) (必要な準備) 発表者:レジュメ配布準備・討論テーマ準備(1時間以上)
第3回	研究発表1 - (研究テーマ・問題意識・研究概要)	(内 容)	研究発表・質疑応答・討論(発表者はレジュメ配布・発表) (必要な準備) 発表者:レジュメ配布準備・討論テーマ準備(1時間以上)
第4回	研究発表1 - (研究テーマ・問題意識・研究概要)	(内 容)	研究発表・質疑応答・討論(発表者はレジュメ配布・発表) (必要な準備) 発表者:レジュメ配布準備・討論テーマ準備(1時間以上)
第5回	個別指導(面談)1 - (研究進捗状況の確認と検討)	(内 容)	面談予定者は、研究進捗状況報告レポートを作成して面談時に提出 (必要な準備) 面談資料持参(ゼミ担当分1部;自分用1部)(1時間以上)
第6回	個別指導(面談)1 - (研究進捗状況の確認と検討)	(内 容)	面談予定者は、研究進捗状況報告レポートを作成して面談時に提出 (必要な準備) 面談資料持参(ゼミ担当分1部;自分用1部)(1時間以上)
第7回	個別指導(面談)1 - (研究進捗状況の確認と検討)	(内 容)	面談予定者は、研究進捗状況報告レポートを作成して面談時に提出 (必要な準備) 面談資料持参(ゼミ担当分1部;自分用1部)(1時間以上)
第8回	研究発表2 - (先行研究・資料の研究)	(内 容)	研究発表・質疑応答・討論(発表者はレジュメ配布・発表) (必要な準備) 発表者:レジュメ配布準備・討論テーマ準備(1時間以上)
第9回	研究発表2 - (先行研究・資料の研究)	(内 容)	研究発表・質疑応答・討論(発表者はレジュメ配布・発表) (必要な準備) 発表者:レジュメ配布準備・討論テーマ準備(1時間以上)
第10回	研究発表2 - (先行研究・資料の研究)	(内 容)	研究発表・質疑応答・討論(発表者はレジュメ配布・発表) (必要な準備) 発表者:レジュメ配布準備・討論テーマ準備(1時間以上)
第11回	個別指導(面談)2 - (研究進捗状況の確認と検討)	(内 容)	面談予定者は、研究進捗状況報告レポートを作成して面談時に提出 (必要な準備) 面談資料持参(ゼミ担当分1部;自分用1部)(1時間以上)
第12回	個別指導(面談)2 - (研究進捗状況の確認と検討)	(内 容)	面談予定者は、研究進捗状況報告レポートを作成して面談時に提出 (必要な準備) 面談資料持参(ゼミ担当分1部;自分用1部)(1時間以上)
第13回	個別指導(面談)2 - (研究進捗状況の確認と検討)	(内 容)	面談予定者は、研究進捗状況報告レポートを作成して面談時に提出 (必要な準備) 面談資料持参(ゼミ担当分1部;自分用1部)(1時間以上)
第14回	研究発表3 - (研究テーマの確定)(3回生秋学期の振り返り・今後の課題の把握)	(内 容)	研究テーマの確定・3回生秋学期の振り返り・今後の課題の把握(発表者はレジュメ配布・発表) (必要な準備) 発表者:レジュメ配布準備・討論テーマ準備(1時間以上)
第15回	研究発表3 - (研究テーマの確定)(3回生秋学期の振り返り・今後の課題の把握)	(内 容)	研究テーマの確定・3回生秋学期の振り返り・今後の課題の把握(発表者はレジュメ配布・発表) (必要な準備) 発表者:レジュメ配布準備・討論テーマ準備(1時間以上)

授 業 名	卒業演習（論文を含む。）a～g			開 講 学 年	4回生	単 位 数	6単位	
英 文 名	Graduation Thesis			開 講 時 期	春学期	必修・選択	必修	
担 当 者	斧出 節子・川島 智生・流石 智子・西川 由紀子・ 馬場 まみ・藤井 伸生・松浦 真理			対 象 学 生	現代家政4回生			
授業の概要	卒論テーマについて、先行研究や関連資料を読み込み、問題意識・研究方法・研究手続き・分析・考察の方法・結果のまとめ方等について、ゼミでの研究発表・意見交換・議論・個人指導を通して深めていく。課題探求力、問題解決力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力を高めることを目指す。4回生春学期7月に「論文題目」を提出。秋学期12月15日に「卒業論文」を提出。2月に「口頭試問」に臨む。							
学 習 成 果 達 成 目 標	1) 卒業論文題目を確定し、主体的積極的に研究を進める。 2) 各ゼミで実施する「卒業論文中間発表会」において研究の進捗状況、研究成果を発表する。							
評 価 方 法	定期試験 (80 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (20 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 (コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力	課題発見・解決能力)		
テ キ ス ト	ゼミ担当者より指示する。							
参 考 書	ゼミ担当者より指示する。							
留 意 事 項	先行研究や関連資料に積極的にあたり、研究方法や到達点をつかむ。 意見交換・考察・討議する習慣をもち、主体的積極的に自らの研究を進める。							
オ フ ィ ス ア ワ ー	毎週1回（休業期間中を除く）オフィスアワーを設けます（曜日・時間を研究室に掲示）。 研究室に在室していれば対応します。どうしても場合は、事前にメール又は直接申出により事前予約が望ましい。							

授 業 名		卒業演習（論文を含む。）a～g	
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題	
第1回	研究進捗状況の確認、論文作成手引の確認	（内 容）研究の目的、研究進捗状況の確認をする （必要な準備）先行研究を読み込んでおく（30分～1時間）	
第2回	研究発表1 - （研究テーマ・研究目的・研究方法・進捗状況の発表）	（内 容）研究テーマ・研究目的・研究方法・進捗状況の発表（発表者はレジюме配布・発表） （必要な準備）研究発表、レジюме、討論テーマの準備（30分～1時間）	
第3回	研究発表1 - （研究テーマ・研究目的・研究方法・進捗状況の発表）	（内 容）研究テーマ・研究目的・研究方法・進捗状況の発表（発表者はレジюме配布・発表） （必要な準備）研究発表、レジюме、討論テーマの準備（30分～1時間）	
第4回	研究発表1 - （研究テーマ・研究目的・研究方法・進捗状況の発表）	（内 容）研究テーマ・研究目的・研究方法・進捗状況の発表（発表者はレジюме配布・発表） （必要な準備）研究発表、レジюме、討論テーマの準備（30分～1時間）	
第5回	個別指導（面談）1 - （研究進捗状況の確認と検討）	（内 容）研究進捗状況報告レポートに基づいて面談 （必要な準備）面談資料持参（ゼミ担当分1部；自分用1部）（30分～1時間）	
第6回	個別指導（面談）1 - （研究進捗状況の確認と検討）	（内 容）研究進捗状況報告レポートに基づいて面談 （必要な準備）面談資料持参（ゼミ担当分1部；自分用1部）（30分～1時間）	
第7回	個別指導（面談）1 - （研究進捗状況の確認と検討）	（内 容）研究進捗状況報告レポートに基づいて面談 （必要な準備）面談資料持参（ゼミ担当分1部；自分用1部）（30分～1時間）	
第8回	個別指導（面談）1 - （研究進捗状況の確認と検討）	（内 容）研究進捗状況報告レポートに基づいて面談 （必要な準備）面談資料持参（ゼミ担当分1部；自分用1部）（30分～1時間）	
第9回	個別指導（面談）1 - （研究進捗状況の確認と検討）	（内 容）研究進捗状況報告レポートに基づいて面談 （必要な準備）面談資料持参（ゼミ担当分1部；自分用1部）（30分～1時間）	
第10回	研究発表2 - （研究進捗状況の発表）	（内 容）研究発表・質疑応答・討論（発表者はレジюме配布・発表） （必要な準備）レジюме配布準備・討論テーマ準備（30分～1時間）	
第11回	研究発表2 - （研究進捗状況の発表）	（内 容）研究発表・質疑応答・討論（発表者はレジюме配布・発表） （必要な準備）レジюме配布準備・討論テーマ準備（30分～1時間）	
第12回	研究発表2 - （研究進捗状況の発表）	（内 容）研究発表・質疑応答・討論（発表者はレジюме配布・発表） （必要な準備）レジюме配布準備・討論テーマ準備（30分～1時間）	
第13回	個別指導（面談）2 - （現時点での進捗状況の確認と検討、論文の柱とまとめ方の確認と検討）	（内 容）研究進捗状況報告に基づいて面談 （必要な準備）面談資料持参（ゼミ担当分1部；自分用1部）（30分～1時間）	
第14回	個別指導（面談）2 - （現時点での進捗状況の確認と検討、論文の柱とまとめ方の確認と検討）	（内 容）研究進捗状況報告に基づいて面談 （必要な準備）面談資料持参（ゼミ担当分1部；自分用1部）（30分～1時間）	
第15回	個別指導（面談）2 - （現時点での進捗状況の確認と検討、論文の柱とまとめ方の確認と検討）	（内 容）研究進捗状況報告に基づいて面談 （必要な準備）面談資料持参（ゼミ担当分1部；自分用1部）（30分～1時間）	

授 業 名	卒業演習（論文を含む。）a ~ g			開 講 学 年	4回生	単 位 数	6単位	
英 文 名	Graduation Thesis			開 講 時 期	秋学期	必修・選択	選択	
担 当 者	斧出 節子・川島 智生・流石 智子・西川 由紀子・ 馬場 まみ・藤井 伸生・松浦 真理			対 象 学 生	現代家政4回生			
授業の概要	<p>先行研究や関連資料を読み込み、学士論文としてふさわしい内容を備え、かつ、書式等の所定の条件を満たす卒業研究論文を完成させる。4回生春学期7月に「論文題目」を提出。秋学期12月15日に「卒業論文」を提出。2月に「口頭試問」に臨む。</p>							
学 習 成 果 達 成 目 標	<p>1) 自ら決定した研究テーマについて、主体的積極的に自らの研究を進める。 2) 学士論文としてふさわしい内容を備え、かつ、書式等の所定の条件を満たす卒業研究論文として完成させる。</p>							
評 価 方 法	定期試験 (80 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (20 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 (コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力	課題発見・解決能力)		
テ キ ス ト	ゼミ担当者より指示する。							
参 考 書	ゼミ担当者より指示する。							
留 意 事 項	<p>先行研究や関連資料に積極的にあたり、研究方法や到達点をつかみ、自分の研究を進めていく。 学士論文としてふさわしい内容の卒業研究論文を完成させる。</p>							
オ フ ィ ス ア ワ ー	<p>毎週1回（休業期間中を除く）オフィスアワーを設けます（曜日・時間を研究室に掲示）。 研究室に在室していれば対応します。どうしても場合は、事前にメール又は直接申出により事前予約が望ましい。</p>							

授 業 名		卒業演習（論文を含む。）a～g	
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題	
第1回	研究の進捗状況の確認、論文作成手引の確認	（内 容）研究の進捗状況の確認、論文作成手引の確認 （必要な準備）先行研究を読み込んでおく（1時間以上）	
第2回	研究発表1 - （研究目的・研究方法・分析・考察・引用文献・参考文献の確認）	（内 容）研究目的・研究方法・分析・考察・引用文献・参考文献についての発表 （必要な準備）研究発表、レジュメの準備（1時間以上）	
第3回	研究発表1 - （研究目的・研究方法・分析・考察・引用文献・参考文献の確認）	（内 容）研究目的・研究方法・分析・考察・引用文献・参考文献についての発表 （必要な準備）研究発表、レジュメの準備（1時間以上）	
第4回	研究発表1 - （研究目的・研究方法・分析・考察・引用文献・参考文献の確認）	（内 容）研究目的・研究方法・分析・考察・引用文献・参考文献についての発表 （必要な準備）研究発表、レジュメの準備（1時間以上）	
第5回	個別指導（面談）1 - （研究進捗状況の確認と検討）	（内 容）研究進捗状況報告と面談 （必要な準備）研究進捗状況報告を準備する（1時間以上）	
第6回	個別指導（面談）1 - （研究進捗状況の確認と検討）	（内 容）研究進捗状況報告と面談 （必要な準備）研究進捗状況報告を準備する（1時間以上）	
第7回	個別指導（面談）1 - （研究進捗状況の確認と検討）	（内 容）研究進捗状況報告と面談 （必要な準備）研究進捗状況報告を準備する（1時間以上）	
第8回	個別指導（面談）1 - （研究進捗状況の確認と検討）	（内 容）研究進捗状況報告と面談 （必要な準備）研究進捗状況報告を準備する（1時間以上）	
第9回	研究発表2 - （研究進捗状況の発表）	（内 容）研究進捗状況の発表・質疑応答・討論（発表者はレジュメ配布・発表） （必要な準備）レジュメ配布準備・討論テーマ準備（1時間以上）	
第10回	研究発表2 - （研究進捗状況の発表）	（内 容）研究進捗状況の発表・質疑応答・討論（発表者はレジュメ配布・発表） （必要な準備）レジュメ配布準備・討論テーマ準備（1時間以上）	
第11回	個別指導（面談）2 - （卒論の仕上げ）	（内 容）卒論の仕上げ・提出 （必要な準備）卒業論文の提出原稿の準備（1時間以上）	
第12回	個別指導（面談）2 - （卒論の仕上げ）	（内 容）卒論の仕上げ・提出 （必要な準備）卒業論文の提出原稿の準備（1時間以上）	
第13回	個別指導（面談）2 - （卒論の仕上げ）	（内 容）卒論の仕上げ・提出 （必要な準備）卒業論文の提出原稿の準備（1時間以上）	
第14回	口頭試問準備	（内 容）口頭試問に向けての準備 （必要な準備）口頭試問の質疑応答準備（1時間以上）	
第15回	口頭試問準備	（内 容）口頭試問に向けての準備 （必要な準備）口頭試問の質疑応答準備（1時間以上）	

授業名	からだのしくみu			開講学年	3回生	単位数	2単位	
英文名	Mechanism of Human Body			開講時期	春学期	必修・選択	選択	
担当者	小西 憲子			対象学生	現代家政3回生			
授業の概要	人体の構造と機能および疾病のなりたちについて学んでいく。さらに、健康の概念について学び、豊かな生活を送るための健康の重要性について考えていく。							
学習成果到達目標	1) 人体の構造と機能の基礎的事項が理解できる。 2) 疾病のなりたちについて理解し予防する力を養う 3) 健康の概念を理解し生活に活かしていくことができる							
評価方法	定期試験 (100 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評価基準	主たる評価の 観点	知識・理解 (汎用的能力)	コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力 ()		課題発見・解決能力 ()		
テキスト	人体の構造と機能及び疾病、社会福祉士養成講座編集委員会編、中央法規							
参考書	使用しない。							
留意事項	難解な 医学用語、内容が多いので、毎回の予習および復習は必要である。							
オフィス アワー	初回の授業で連絡します。							

授 業 名		からだのしくみu
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題
第1回	人の成長・発達	(内 容) 成長・発達について (必要な準備) 教科書p1～13を一読しておく事
第2回	老化について、人体の構造	(内 容) 心臓の構造と機能、血液およびリンパ液の成分と循環について (必要な準備) 教科書p14～33を一読しておく事
第3回	各臓器の構造と働き - 1	(内 容) 腎臓、呼吸器、神経 (必要な準備) 教科書p34～43を一読しておく事
第4回	各臓器の構造と働き - 2 疾病の概要	(内 容) 内分泌、生殖器、運動器官、感覚器 (必要な準備) 教科書p44～60を一読しておく事
第5回	脳血管疾患、高血圧、糖尿病	(内 容) 生活習慣との関連についても学ぶ (必要な準備) 教科書p61～75を一読しておく事
第6回	臓器疾患 - 1	(内 容) 呼吸器、消化器、血液疾患、泌尿器系疾患 (必要な準備) 教科書p76～94を一読しておく事
第7回	臓器疾患 - 2	(内 容) 骨、感覚器。感染症、神経疾患・難病 (必要な準備) 教科書p95～112を一読しておく事
第8回	その他疾患	(内 容) 先天性疾患、高齢者に多い疾患 (必要な準備) 教科書p113～128を一読しておく事
第9回	障害 - 1	(内 容) 障害の概要：視覚・聴覚障害 (必要な準備) 教科書p129～145を一読しておく事
第10回	障害 - 2	(内 容) 内部障害、知的障害、認知症 (必要な準備) 教科書p145～161を一読しておく事
第11回	障害 - 3	(内 容) 高次脳機能障害、精神障害、廃用症候群 (必要な準備) 教科書p162～186を一読しておく事
第12回	リハビリテーション	(内 容) リハビリテーションの4つの側面 (必要な準備) 教科書p187～203を一読しておく事
第13回	健康とは？	(内 容) 健康増進の概念と変遷 (必要な準備) 教科書p205～221を一読しておく事
第14回	感染症、保健	(内 容) 感染症対策、労働衛生。歯科保健、環境保健、学校保健 (必要な準備) 教科書p222～238を一読しておく事
第15回	まとめ	(内 容) 授業内容が理解できているかどうか (必要な準備) 教科書全般を一読しておく事

授業名	食生活論 u			開講学年	1回生	単位数	2単位	
英文名	Theory of Dietary Life			開講時期	春学期	必修・選択	選択	
担当者	豊原 容子			対象学生	現代家政1回生、食物栄養1回生			
授業の概要	食に関するさまざまな資料を通して、食にまつわる問題が生じる原因について考える。また理想的な食生活をめざしていくための指針となる事項について学んでいく。							
学習成果到達目標	1) 食の問題点とその原因について理解できる。 2) 自らの食と環境との関連性について理解できる。 3) 理想的な食生活を営むために、情報を取捨選択し正しい判断基準をもち行動することができる。							
評価方法	定期試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評価基準	主たる評価の 観点	知識・理解 (汎用的能力)	コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力	課題発見・解決能力	()		
テキスト	食生活 健康に暮らすために 市川朝子、下坂智恵編著、八千代出版							
参考書	使用しない。							
留意事項	自分で考えることが大切です。自分の身の回りではどうか、常に意識してください。							
オフィス アワー	オフィスアワーの設定曜日・時間は研究室ドアに掲示します。それ以外でも研究室に在室していれば対応します。急ぎの場合は事前にメールで連絡してください。							

授 業 名		食生活論 u	
授 業 計 画	学 習 項 目	学 習 内 容 ・ 課 題	
第1回	「食べる」とは	(内 容) なぜ食べなくてはいけないのかについて考える (必要な準備) シラバスを読んでおく、食事の役割について考えておく(30分)	
第2回	若年者の食生活の問題点1 欠食	(内 容) 若年者の欠食の状況とその弊害について概説 (必要な準備) 自分の食生活を振り返っておく(30分)	
第3回	若年者の食生活の問題点2 肥満	(内 容) 肥満の定義、肥満と疾病との関連性について (必要な準備) 理想的な体型について考えておく(30分)	
第4回	若年者の食生活の問題点3 やせ	(内 容) やせの定義、やせと疾病との関連性について (必要な準備) 若年者の食の問題についてまとめる(60分)	
第5回	乳幼児・学童期の食生活の問題点	(内 容) ライフステージ別の食生活の問題点について知る (必要な準備) 教科書p61-86を読んでおく(30分)	
第6回	成人・高齢期の食生活の問題点	(内 容) ライフステージ別の食生活の問題点について知る (必要な準備) 教科書p86-98を読んでおく(30分)	
第7回	食事の評価方法1 食事バランスガイド	(内 容) 食事バランスガイドを用いた1日の食事の評価方法について (必要な準備) 教科書p30-33を読んでおく(30分)	
第8回	食事の評価方法2 六つの基礎食品群・食生活指針	(内 容) 六つの基礎食品群や食生活指針を用いた食生活の評価方法について (必要な準備) 教科書p1-17を読んでおく(30分)	
第9回	食に関する情報 誤った情報	(内 容) フードファディズム、食の流行などを生む食の情報について (必要な準備) 誤った食の情報を集めてみる(60分)	
第10回	食に関する情報 情報の取捨選択	(内 容) 食品を選択する場合、信頼できる情報をどこから得るのかについて (必要な準備) 自分は食の情報を主にどこから得ているのかについて考えておく(30分)	
第11回	目に見えない食の危険について	(内 容) 食べ物に含まれる有害物質やさまざまなリスクの除去について (必要な準備) 教科書p33-39を読んでおく(30分)	
第12回	飢餓と食糧輸入	(内 容) 世界の食糧事情についておよび日本の食との関連性について概説する (必要な準備) 日常用いられている外国の食品について調べておく(30分)	
第13回	世界の食	(内 容) 世界各地の食事内容や食のタブーなどについて宗教や環境から考察する (必要な準備) 日本の食のタブーについて調べておく(30分)	
第14回	環境問題と食	(内 容) 環境にやさしい食生活を目指して各自ができることについて考える (必要な準備) 各自家庭の食糧購入状況について調べておく(60分)	
第15回	まとめ	(内 容) 自らの食生活をどのように営んでいったらよいのかについて考えていく (必要な準備) 講義内容を復習しておく(60分)	

授業名	小児保健 u			開講学年	1回生	単位数	2単位	
英文名	Infant Health			開講時期	秋学期	必修・選択	選択	
担当者	中村 洋子			対象学生	現代家政1回生			
授業の概要	<p>子どもは未来へつながり、子どもは将来の社会をつくる。その初期段階としての乳幼児期の体や心を健康に保つために、育てる大人、保護者、親、専門職は知識と実践が大切となる。子ども時代を健康に過ごす、また健康増進するために、医学的知識を中心に健康・病気の予防を学んでいく。</p>							
学習成果到達目標	<p>1) 胎児期、乳幼児期、学童期の子どもの身体の仕組みや精神的発達を理解する 2) どのように支援援助したらいいのか等、基本となる生活や対応の仕方等の知識を学ぶ。 3) 医学的基礎知識を理解し、保育・育児の場で対応できる。</p>							
評価方法	定期試験 (60 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評価基準	主たる評価の 観点	知識・理解 (コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力	課題発見・解決能力)		
テキスト	最新版 子どもの保健 (診断と治療社)							
参考書	「図表で学ぶ子どもの保健」 (健帛社) 「大人が知らない子どもの身体の不思議」 (講談社)							
留意事項	子どもの健康については小児医学や保健知識が重要になるので、事前に教科書等読んでおくこと。							
オフィス アワー	毎週1回オフィスアワーを設けます。研究室にいる時は対応します。							

授 業 名		小児保健 u
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題
第1回	科目ガイダンス・小児保健の目的と意義	(内 容) 本講義の目的と意義を理解し、学習にのぞむ (必要な準備)
第2回	小児保健における基本となるもの	(内 容) 基本となる小児の特徴やからだの仕組みについて (必要な準備) 該当する教科書の部分・資料を読んでおくこと(30分)
第3回	胎児の成長と母体の健康	(内 容) 胎児の成長と発達と母体の健康について (必要な準備) 該当する教科書の部分を読んでおくこと(30分)
第4回	身体発育と影響する因子	(内 容) 身体発育の仕方、影響する因子について (必要な準備) 母子手帳持参のこと(自身を見てくること20分)
第5回	身体発育と評価方法	(内 容) 身体発育と計測の仕方、評価方法について (必要な準備) 該当する教科書の部分を読んでおくこと(30分)
第6回	小児の生理機能(ホメオスタシス等基本的生理機能)	(内 容) 小児の体温、水分等基本となる生理機能について (必要な準備) 該当する教科書の部分を読んでおくこと(30分)
第7回	小児の生理機能(呼吸器・循環器)	(内 容) 小児の呼吸器、循環器の仕組みについて (必要な準備) 該当する教科書の部分を読んでおくこと(30分)
第8回	小児の生理機能(感覚器・排泄器官)	(内 容) 小児の感覚器、排泄器官の仕組みについて (必要な準備) 該当する教科書の部分を読んでおくこと(30分)
第9回	小児の運動機能(新生児期・乳児期)	(内 容) 新生児期・乳児期の運動発達について (必要な準備) 該当する教科書の部分を読んでおくこと(30分)
第10回	小児の運動機能(幼児期・学童期)	(内 容) 幼児期、学童期の運動発達について (必要な準備) 該当する教科書の部分を読んでおくこと(30分)
第11回	子どもの精神発達(神経系)	(内 容) 新生児期からの神経系の発達について (必要な準備) 該当する教科書の部分を読んでおくこと(30分)
第12回	子どもの精神発達(ことばと情緒)	(内 容) 言葉と情緒面での発達について (必要な準備) 該当する教科書の部分を読んでおくこと(30分)
第13回	子どもの食生活(消化器官・母乳と乳児期)	(内 容) 消化器官の仕組みと母乳・乳児期について (必要な準備) 該当する教科書の部分を読んでおくこと(30分)
第14回	子どもの食生活(幼児期・学童期)	(内 容) 幼児期、学童期の食事について (必要な準備) 該当する教科書の部分を読んでおくこと(30分)
第15回	母子保健・まとめ	(内 容) 母子保健について、およびこれまでの総復習をする (必要な準備) 教科書・配布資料を見直す(40分)

授業名	栄養学			開講学年	1回生	単位数	2単位	
英文名	Dietetics			開講時期	秋学期	必修・選択	選択	
担当者	豊原 容子			対象学生	現代家政1回生			
授業の概要	健康の保持・増進、疾病の予防における栄養の役割および 栄養素の代謝とその生理的意義を理解するための基礎事項について学ぶ。							
学習成果到達目標	1) 五大栄養素の基礎知識が理解できる。 2) 栄養素の代謝について理解できる。 3) 健康に対する栄養素の重要性が理解できる。							
評価方法	定期試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評価基準	主たる評価の 観点	知識・理解 (汎用的能力	コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力	課題発見・解決能力	()		
テキスト	健康・栄養系教科書シリーズ5 基礎栄養学 第2版 杉山栄子・小長谷紀子・里井恵子著、化学同人							
参考書	使用しない。							
留意事項	随時振り返りテストを行うので、復習を欠かさないこと。							
オフィス アワー	オフィスアワーの設定曜日・時間は研究室ドアに掲示します。それ以外でも研究室に在室していれば対応します。 急ぎの場合は事前にメールで連絡してください。							

授 業 名		栄 養 学	
授 業 計 画	学 習 項 目	学 習 内 容 ・ 課 題	
第1回	栄養とは	(内 容) 栄養の定義、からだのしくみについて (必要な準備) 教科書p1-10を一読しておく(30分)	
第2回	糖質について	(内 容) 糖質の種類と構造 (必要な準備) 教科書p40-47を一読しておく(30分)	
第3回	糖質の働き	(内 容) 糖質の機能について (必要な準備) 前回の復習をしておく(30分)	
第4回	脂質について	(内 容) 脂質の種類と構造について (必要な準備) 教科書p48-55を一読しておく(30分)	
第5回	脂質の働き	(内 容) 脂質の機能について (必要な準備) 前回の復習をしておく(30分)	
第6回	タンパク質について	(内 容) タンパク質の種類と構造 (必要な準備) 教科書p55-64を一読しておく(30分)	
第7回	タンパク質の働き	(内 容) タンパク質の機能 (必要な準備) 前回の復習をしておく(30分)	
第8回	ビタミンについて	(内 容) ビタミンの種類と機能 (必要な準備) 教科書p76-96を一読しておく事(30分)	
第9回	ミネラルについて	(内 容) ミネラルの種類と機能 (必要な準備) 教科書p68-74,97-106を一読しておく(30分)	
第10回	消化のしくみ	(内 容) 消化器系の構造及び消化の流れについて (必要な準備) 教科書p127-137を一読しておく、栄養素について復習しておく(60分)	
第11回	吸収のしくみ	(内 容) 上皮細胞膜通貨の仕組み (必要な準備) 教科書p137-143を一読しておく(30分)	
第12回	エネルギー代謝	(内 容) 三大栄養素とエネルギー産生、基礎代謝量に関わる因子など (必要な準備) 教科書p145-157を一読しておく(30分)	
第13回	食事摂取基準について	(内 容) 食事摂取基準の解説 (必要な準備) 教科書p163-175を一読しておく(30分)	
第14回	食事と生活習慣病 高血圧、糖尿病	(内 容) 高血圧、糖尿病と栄養素・食生活との関連性について (必要な準備) 教科書p32-39を一読しておく(30分)	
第15回	食事と生活習慣病 脂質異常症	(内 容) 脂質異常症と栄養素・植生kつの関連性について (必要な準備) 教科書p64-68を一読しておく(30分)	

授業名	食生活実習			開講学年	2回生	単位数	2単位	
英文名	Dietary Life Training			開講時期	春学期	必修・選択	選択	
担当者	塩田 二三子			対象学生	現代家政2回生			
授業の概要	<p>基本的な調理技術を習得するとともに、その理論を科学的な視点から理解することを目的とする。また、グローバル化が進む今だからこそ、日本食の伝統的文化を再確認するとともに、諸外国の食文化についても理解を深める。さらに、中学校、高等学校の調理実習で指導するうえで必要な技術と知識の習得も目指す。</p>							
学習成果到達目標	<p>1) 基本的な調理技術の習得。 2) 調理技術や食品の調理性について科学的に理解する。 3) 中学校、高等学校の調理実習で指導できる力を習得する。</p>							
評価方法	定期試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評価基準	主たる評価の 観点	知識・理解 (基本的な調理技術の習得	コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力)	課題発見・解決能力 (主体性)		
テキスト	「これからの調理学実習 基本手法から各国料理、行事食まで」新調理研究会編 (オーム社)							
参考書	使用しない。							
留意事項	4~5名を1グループとして実習を行う。食材の季節等の関係上、実習の順番は計画と異なるので、オリエンテーション時に配布する予定表を確認すること。							
オフィスアワー	初回の授業で指示します。							

授 業 名		食生活実習
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題
第1回	オリエンテーション	(内 容) 諸注意、計量、包丁法 (必要な準備) テキストp.2~6をよく読んでおくこと。(15分)
第2回	米粉の電子レンジによる糊化、 緑茶のうま味成分の抽出	(内 容) 電子レンジを利用した和菓子制作 (必要な準備) 事前に作り方を把握しておくこと。(20分)
第3回	炊飯の科学、野菜の調理(クロロフィルの理解)、 煮干しのうま味成分の抽出	(内 容) 炊飯、青茹で、みそ汁の調理 (必要な準備) 事前に作り方を把握しておくこと。(30分)
第4回	小麦粉の膨化調理(イースト発酵)、 野菜の調理(カロテンの理解)	(内 容) パン生地、野菜の煮物 (必要な準備) 事前に作り方を把握しておくこと。(30分)
第5回	加熱調理の科学 (揚げ物、炒め物)、 和え物の調理	(内 容) 揚げ物(炸菜)、炒め物(炒菜)、和え物(拌菜) (必要な準備) 事前に作り方を把握しておくこと。(30分)
第6回	米飯調理(すし飯)の基本、 卵の熱凝固性(希釈卵液)	(内 容) すし飯、希釈卵液の蒸し物 (必要な準備) 事前に作り方を把握しておくこと。(30分)
第7回	鶏骨からのうま味成分の抽出、 ひき肉調理の科学、エマルションの科学	(内 容) コンソメスープ、ひき肉料理、サラダ (必要な準備) 事前に作り方を把握しておくこと。(30分)
第8回	米飯調理(炒飯)の基本、 中華食材(干貝柱等)の理解	(内 容) 炒飯(点心)、湯菜 (必要な準備) 事前に作り方を把握しておくこと。(30分)
第9回	魚の調理、ゲル化剤(ゼラチン)を用いた調理	(内 容) ムニエル、サラダ、ゼリー (必要な準備) 事前に作り方を把握しておくこと。(30分)
第10回	加熱調理の科学 (焼き物、蒸し物)、 ゲル化剤(寒天)を用いた調理	(内 容) 焼き物、蒸し物、寒天 (必要な準備) 事前に作り方を把握しておくこと。(30分)
第11回	衣揚げの基本、和え物の要点、 昆布とかつお節のうま味成分の抽出	(内 容) 天ぷら、和え物、汁物 (必要な準備) 事前に作り方を把握しておくこと。(30分)
第12回	乾麺の扱い方、焼き菓子の科学、 油脂のショートニング性	(内 容) パスタ、クッキー (必要な準備) 事前に作り方を把握しておくこと。(30分)
第13回	加熱調理の科学 (あんかけ物)、卵の起泡性	(内 容) あんかけ物(溜菜)、蒸しカステラ (必要な準備) 事前に作り方を把握しておくこと。(30分)
第14回	もち米の調理、煮物調理の基本	(内 容) もてなし料理(赤飯、炊き合わせ 等) (必要な準備) 事前に作り方を把握しておくこと。(30分)
第15回	テーブルセッティングとマナー	(内 容) 和洋の基本的なセッティングとマナー (必要な準備) テキストをよく読んでおくこと。(20分) p.34~37,72~73,110~113

授 業 名	子どもと運動		開 講 学 年	2回生	単 位 数	2単位		
英 文 名	Children and Exercise		開 講 時 期	春学期	必修・選択	選択		
担 当 者	西村 誠		対 象 学 生	現代家政2回生				
授業の概要	健康（体育）は身体そのものの学習指導であり、あわせて身体活動を通しての心のあり方の学習である。本科目では、その指導の方法論の実際を学習・研究する。この大切な学習指導を進めるためには、子どもの心身の発育・発達の状態の十分な把握と子ども一人ひとりの実態をふまえた展開が重要である。また、この年齢期に将来にわたって不可欠な健康の保持促進、コミュニケーション、レクリエーション等の諸資質を培う。また、その際、教材として児童文化財にかかわる機会を設定するなどし、言語表現を交えた身体表現のあり方を考えていく。							
学 習 成 果 達 成 目 標	<p>体育は応用科学の代表的な分野だといわれています。そのために多様な視点からの学習・研究が求められます。</p> <p>学習・研究の要点として、次にあげた諸点を大切にしながら取り組んでください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもが積極的に取り組むであろう遊びの種類とその展開の方法について。 ・子どもがいろいろな場所、場面での様な行動の仕方を理解し、安全に気をつけて行動するようになるための指導上の留意点について。 ・体育（運動）ぎらいを生みださない学習指導のあり方の研究は大切です。 ・体育実技（健康）を指導する者として、ぜひ身につけておきたい考え方や資質とはどのようなことなのだろうかを常に念頭においておきたい。 ・教師自身の立居振舞・服装等は直ちに幼児に伝授するものである事を心しておく必要がある。 ・子どもはこの時期に健康で安全な生活を送り、日常生活の中で基本的な習慣や態度を身につけさせることが大切である。 ・子どもは一般に種々な感染症にかかりやすい。それを防ぐには、子ども一人ひとりのどのような点に留意して観察する必要があるのかについて理解する必要がある。 							
評 価 方 法	定期試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 (授業参加への意欲	コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力)	課題発見・解決能力 (グループによる研究とその成果			
テ キ ス ト	『伝承遊びのアラカルト辞典』 西村誠 ほか監修 昭和堂							
参 考 書	『体育あそびアラカルト』 榎岡義明 西村誠 編著 朱鷺書房							
留 意 事 項	<p>実技を中心として集中的に展開することになるので、受講にあたっては体育遊びの実体験に耐えられる体力を培っておいてください。「毎回の学習内容・課題」で提示された内容について、事前に調べておくこと。</p> <p><準備物> 運動するのに適した服装（トレーニングズボン、トレーニングシャツ）、体育館シューズ（上履きと下履きの区別をしておく）。</p>							
オ フ ィ ス ア ワ ー	担当授業終了後に実施する。							

授 業 名		子どもと運動	
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題	
第1回	ガイダンス	(内 容) 幼児期の心身の実態。幼児の喜ぶ運動の分類。 (必要な準備)	
第2回	体づくり運動	(内 容) 多様な動きをつくる運動遊びを行い、体力の基礎を培う。 (必要な準備) 多様な動きとはどんな動きかを調べておく	
第3回	伝承遊びを主としたハンドメイキングあそび	(内 容) 何も使わずに出来る伝承あそびを行う。 (必要な準備) 伝承あそびを調べておく。	
第4回	伝承遊びを主としたハンドメイキングあそび・ゲーム	(内 容) 鬼ごっこ、だるまさんが転んだ等の伝承あそび・ゲームを行う。 (必要な準備) 伝承あそび・ゲームを調べておく。	
第5回	ボール遊び	(内 容) ボールの特性について知る。ボールの扱いになれる。少人数でのボール遊びを行う。 (必要な準備) ボールの特性について調べる。	
第6回	ボールでゲーム遊び	(内 容) ボールを使ったゲーム遊びを行う。 (必要な準備) 子どもの頃に行ったゲームを調べておく。	
第7回	フープ遊び	(内 容) フープの特性について知る。まわす・くぐる・転がす・跳ぶなどの遊びを行う。 (必要な準備) 簡単な遊びを考えておく。	
第8回	フープでゲーム遊び	(内 容) フープを使ってゲーム遊びを行う。ゲーム遊びを考える。発表する。 (必要な準備) グループでゲーム遊びを考えておく	
第9回	マット遊び	(内 容) マットを使った運動遊びとマット運動に必要な基本的な動きを行う。 (必要な準備) 腕を使った動物遊びを考えておく	
第10回	マット運動	(内 容) 横転・前転・後転・側転・倒立を行う。補助の方法を学ぶ。(二人組で補助の練習) (必要な準備) 補助の仕方を調べておく。	
第11回	とび箱遊び	(内 容) とび箱に慣れる遊びから、跳び越える遊びに発展させる。跳び越えるためのポイントはどこなのかを考える。 (必要な準備) とび箱を跳ぶには何が大切なのかを考えておく。	
第12回	とび箱遊び・ゲーム	(内 容) とび箱を使った遊びを行う。ゲーム遊びを考え発表する。 (必要な準備) グループでゲーム遊びを考えておく。	
第13回	縄遊び	(内 容) 短い縄を使つての遊び。1人で遊ぶ・2人で遊ぶ・色々な方法で跳ぶ。長縄を使つて皆で跳んでみる。 (必要な準備) 色々な跳び方を考えておく。	
第14回	体操を考える	(内 容) 子ども達が積極的に取り組みたくなるような、ウォーミングアップの方法を考える。グループでまとめる。 (必要な準備) 体操を考えておく	
第15回	まとめ	(内 容) 本授業を振り返りながら、学びや課題等について話し合う。 (必要な準備) 運動を生涯継続していくための良き方法をまとめておく。	

授業名	子どもの食と栄養 u			開講学年	2回生	単位数	2単位	
英文名	Infant Nutrition			開講時期	秋学期	必修・選択	選択	
担当者	豊原 容子			対象学生	現代家政2回生			
授業の概要	小児にとって食生活は単に栄養補給にとどまらず、情緒面などの成長・発達にも影響を及ぼす重要なものである。本演習では、食生活に関する基本的な知識や小児の食生活の問題点などについて学び、正しい小児の食生活を理解する。小児が正しい食生活を営むことができる力をつけていくための食育の進め方などについても考えていく。							
学習成果到達目標	1) 栄養に関する基礎的事項について理解できる。 2) 小児の食生活のありかたについて正しく理解できる。 3) 子どもたちに食育していくことのできる力をもつ。							
評価方法	定期試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評価基準	主たる評価の 観点	知識・理解 (汎用的能力)	コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力	課題発見・解決能力	()		
テキスト	『子どもの食と栄養演習』 第2版 小川雄二編著 建帛社							
参考書	使用しない。							
留意事項								
オフィス アワー	オフィスアワーの設定曜日・時間は研究室ドアに掲示します。それ以外でも研究室に在室していれば対応します。 急ぎの場合は事前にメールで連絡してください。							

授 業 名		子どもの食と栄養 u	
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題	
第1回	食の重要性について	(内 容)	授業の進め方についての説明および「食べる」ことについての重要性について (必要な準備) 自分の食生活を振り返っておく(30分)
第2回	子どもの健康と食生活	(内 容)	子どもの健康と心身の発育・発達における食生活の役割について (必要な準備) 大人と子どもの食の違いについて考えておく教科書p1-2を読んでおく(30分)
第3回	栄養の基礎知識 糖質、脂質、タンパク質	(内 容)	糖質、脂質、タンパク質の種類とその役割について (必要な準備) 教科書p11-16を読んでおく
第4回	栄養の基礎知識 ビタミン、ミネラル	(内 容)	ビタミン、ミネラルの種類とその役割について (必要な準備) 教科書p16-21を読んでおく
第5回	栄養の基礎知識 食事摂取基準、食構成、献立作成	(内 容)	必要な栄養素をどのように満たすかについて (必要な準備) 栄養素について復習しておく、教科書p34-40を読んでおく(60分)
第6回	乳児期の栄養の特性	(内 容)	乳児期の食生活の留意点などについて (必要な準備) 教科書p41-60を読んでおく(30分)
第7回	乳汁栄養の特徴(実習含む)	(内 容)	母乳栄養、人工栄養の特徴について (必要な準備) 教科書p72-92を読んでおく、市販の育児用ミルクの情報を集めておく(30分)
第8回	離乳の進め方	(内 容)	離乳の必要性和授乳・離乳の支援ガイドの概説 (必要な準備) 教科書p92-114を読んでおく(30分)
第9回	離乳食の実際(実習含む)	(内 容)	離乳食の進め方と留意点について (必要な準備) 教科書p199-202を読んでおく、市販のベビーフードを観察しておく(30分)
第10回	幼児期の栄養の特性	(内 容)	幼児の食事摂取基準と食構成および献立作成時の留意点 (必要な準備) 教科書p114-126を読んでおく(30分)
第11回	幼児期の食生活の実際(実習含む)	(内 容)	幼児期の食生活の留意点などについて (必要な準備) 教科書p122,128の演習をやってみる(60分)
第12回	幼児期の食生活上の問題点、学童期の食生活	(内 容)	幼児期の偏食、遊び食べなどの問題行動および学童期の食の留意点について (必要な準備) 教科書p126-134を読んで幼児期の問題行動の原因について、さらに教科書p140-143を読んで学童期の留意点について考えておく(60分)
第13回	特別な配慮を要する子どもの食生活の実際	(内 容)	食物アレルギーや疾病のある子どもへの対応、障害のある子どもへの対応について (必要な準備) 教科書p183-198を読んで食物アレルギーを持つ子供のへの対応について考えておく(30分)
第14回	児童福祉施設における食事	(内 容)	児童福祉施設で提供される食事について (必要な準備) 教科書p172-182を読んでおく(30分)
第15回	食育計画	(内 容)	幼児につけてあげたい力を理解し、食育指導計画をたてる (必要な準備) 教科書p154-164、保育所保育指針・保育所における食育に関する指針などを読み直しておく(60分)

授 業 名	道徳教育論（中・高）			開 講 学 年	1回生	単 位 数	2単位	
英 文 名	Theory of Moral Education			開 講 時 期	秋学期	必修・選択	選択	
担 当 者	毛利 豊和			対 象 学 生	現代家政1回生			
授 業 の 概 要	<p>学校教育の中で、今まで以上に重視されることになった道徳教育。基本的な理論と実践方法を理解し、日々の生活に生かす道徳の授業づくりのスキルを身につける。また、一人の大人として教育者として、自分自身の道徳性を高めて行こうとする態度を身につける。</p> <p>授業内容 道徳授業の実践例から、道徳教育の魅力を知る。 実践例と指導要領から、道徳教育の基本知識を身につける。 指導案作成と模擬授業実施から、授業づくりの具体的なスキルを身につける。</p> <p>学習方法 講義 議論（全体・グループ） 演習（全体・グループ） 模擬授業（考察・実習） 授業外活動：宿題（資料収集・実施演習） 一人学習</p>							
学 習 成 果 達 成 目 標	到達目標 道徳教育の意義と魅力を実感する。 生活に生きる道徳の授業づくりのスキルを身につける。 道徳教育を推進するためのスキルを身につける。 社会の一員として、よりよく生きていこうとする（道徳性）意欲を高める。							
評 価 方 法	定期試験 (30 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (70 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 (コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力	課題発見・解決能力)		
テ キ ス ト	「小学校学習指導要領解説・特別の教科 道徳編」文部科学省（平成27年7月）							
参 考 書	柴原弘志『中学校 新指導要領の展開 特別の教科 道徳編』明治図書 永田繁雄『小学校 新指導要領の展開 特別の教科 道徳編』明治図書							
留 意 事 項	資料及び実践例は、既存のものからオリジナルまで、多様に紹介します。 授業者（毛利）による実践例や模擬授業は、学生が「面白い・大事だ」と実感するものを用意します。 今までの道徳に対する固定観念を見直し、新たに、今あるべき道徳の授業づくりの道を自分自身で見つけてください。まずは、そのための基本的な知識を身につけることから始めます。							
オ フ ィ ス ア ワ ー	担当授業終了後に、実施します。							

授 業 名		道徳教育論（中・高）	
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題	
第1回	オリエンテーション 道徳教育の魅力	(内 容)	オリエンテーション(学習計画、授業の進め方、評価等) 理 論：道徳教育に求められること 実践例：「もしも私が神様に」「幸せの瞬間フォトコンテスト」 技 術：終末(まとめ) 自己を見つめるひとり学習 (必要な準備) なし
第2回	道徳教育の目標と内容 特別の教科 道徳	(内 容)	理 論：道徳教育・道徳科の目標と内容 実践例：絵本で学ぶ「リンゴが一つ」「1こでも100このりんご」 クイズで学ぶ「できますか？」 技 術：多様なものの見方 (必要な準備) 前時のプリント
第3回	道徳教育における発達段階 教材の持つ力	(内 容)	理 論：内容と発達段階 実践例：アニメに学ぶ「ドラえもん(僕の生まれた日)」他 先人に学ぶ「妖怪に学ぶ(ゲゲゲの鬼太郎)」 技 術：教材収集・選択 (必要な準備) 前時のプリント
第4回	現代的な課題 豊かな心 指導技術 中心教材・補助教材	(内 容)	理 論：道徳教育と規範意識・自己有用感 実践例：読み物資料で学ぶ「生協の白石さん」他 漢字で学ぶ「辛・優」 技 術：教材収集・選択 導入 (必要な準備) 前時のプリント
第5回	現代的な課題 豊かな心 指導技術 1時間の流れ	(内 容)	理 論：道徳教育と情報モラル・いじめ 実践例：言葉の力に学ぶ「CM(お～いお茶!)」 ポスターで学ぶ「ごめんですなら警察いらんわ」 技 術：教材分析・提示 大まかな展開 (必要な準備) 前時のプリント
第6回	現代的な課題 豊かな心 指導案の書き方 主題	(内 容)	理 論：道徳教育とアドラー・ピグマリオン・論語 実践例：プラス思考に学ぶ「でも、いっか」 オルゴールに学ぶ「次の方のために」 技 術：主題・教材・中心発問 (必要な準備) 前時のプリント
第7回	道徳教育と保護者・地域との連携 指導案の書き方 中心発問・導入・終末	(内 容)	理 論：考え議論する道徳授業 実践例：先人に学ぶ「ヘレンケラー」「鑑真」 技 術：導入・終末・板書 一人学習 (必要な準備) 前時のプリント・指導案
第8回	道徳教育における発達段階 ミニ模擬授業 (導入・終末)	(内 容)	理 論：問題解決的な道徳授業 実践例：エンカウンターで学ぶ「数字送り」 技 術：模擬授業 声・板書の使い方 一人学習 (必要な準備) 前時のプリント・指導案
第9回	道徳教育における評価 ミニ模擬授業 (導入・終末)	(内 容)	理 論：道徳教育における評価 実践例：トランプマジックで学ぶ「謙虚・寛容」 技 術：模擬授業 指導者の立ち位置・机間巡視 一人学習 (必要な準備) 前時のプリント・指導案
第10回	道徳教育の内容 Aの領域 指導案作成	(内 容)	理 論：Aの領域 実践例：TPOに学ぶ「謙虚・寛容」 技 術：主題設定の理由 (必要な準備) 前時のプリント・指導案・教材
第11回	道徳教育の内容 Bの領域 模擬授業 グループ	(内 容)	理 論：Bの領域 模擬授業指導：評価者・応援者としての分析 指導者の明るさ・声・立ち位置 グループ協議の進め方 (必要な準備) 前時のプリント・指導案・教材
第12回	道徳教育の内容 Cの領域 模擬授業 グループ	(内 容)	理 論：Cの領域 模擬授業指導：評価者・応援者としての分析 教材の魅力・教材提示の工夫・板書 グループ協議の進め方 (必要な準備) 前時のプリント・指導案・教材
第13回	道徳教育の内容 Dの領域 模擬授業 全体	(内 容)	理 論：Dの領域 模擬授業指導：評価者・応援者としての分析 発問の工夫(中心発問・意図的指名) 全体協議の進め方 (必要な準備) 前時のプリント・指導案・教材
第14回	指導計画と全体計画 模擬授業 全体	(内 容)	理 論：指導計画と全体計画 模擬授業指導：評価者・応援者としての分析 教材の力 全体協議の在り方 (必要な準備) 前時のプリント・指導案・教材
第15回	まとめ	(内 容)	・指導者の研究(指導力向上への意欲と自己研鑽) ・教育指導者としてのプラス思考 ・テストについて (必要な準備) 1～14回の授業プリント

授業名	道徳教育論（小）			開講学年	1回生	単位数	2単位	
英文名	Theory of Moral Education			開講時期	秋学期	必修・選択	選択	
担当者	三宅 康夫			対象学生	現代家政1回生			
授業の概要	<p>理論的な内容から実践的な内容へ。道徳授業の実践例を挙げて展開する。 また、一般的な内容から具体的な内容へ。出来るだけ具体例を挙げて展開する。 適宜、授業資料、参考資料、レポート課題等の提示を行う。 指名発問も実施する。 演習形式を取り入れた主体的な学習を展開する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 毎回、学びシートで学習後の思いの記入を行い、課題解決能力を高める。 2) 毎回、数名の学びシートを紹介し、課題を共有する。 3) ほぼ毎回、学生同士で話し合うなどの演習を取り入れる。コミュニケーション力を高める。 4) レポートとして作成した道徳学習指導案に従い、代表者による模擬授業を行う。 代表者はプレゼンテーション力を、出席者はコメントを通して分析力、思考力を養う。 							
学習成果到達目標	<p>学校における道徳教育を進めるにあたって、講義や演習を通して指導方法など教員として必要な資質能力を修得することを目標とする。また、社会人として社会における道徳教育の振興に果たす役割について理解し、実践への意欲を持たせる。</p>							
評価方法	定期試験 (60 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評価基準	主たる評価の 観点	知識・理解 (コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力) (課題発見・解決能力)			
テキスト	文部科学省「小学校学習指導要領解説・道徳編」東洋館出版社							
参考書	赤堀博行『道徳授業で大切なこと』『道徳教育で大切なこと』東洋館出版社2013。 横山利弘『道徳教育とは何だろうか・道徳をどう解く』『道徳教育、画餅からの脱却・道徳をどう説く』暁教育図書 2007。							
留意事項	教職を志望する学生の履修を望む。授業資料（新学習指導要領道徳 平成27年3月告示）や学習指導要領解説を授業前に目を通し、メモを取っておくこと。							
オフィスアワー	担当授業終了後に実施する。							

授業名	道徳教育論（小）	
授業計画	学習項目	学習内容・課題
第1回	オリエンテーション 道徳教育の実際	（内 容）オリエンテーション（授業の役割、授業の展開、評価の方法、マナーなどについて）。道徳教育の実際を知る。 （必要な準備）筆記用具
第2回	「特別の教科 道徳」の概要について	（内 容）「特別の教科 道徳」の設置に当たっての経過を含めたその概要を理解する。 （必要な準備）テキスト、プリント
第3回	道徳教育と道徳科について	（内 容）道徳教育と道徳科のそれぞれの特質について理解する。 （必要な準備）テキスト、プリント
第4回	道徳教育の「内容」と「評価」について	（内 容）道徳教育の目標やその内容、また評価について実践的に理解する。 （必要な準備）テキスト、プリント
第5回	道徳科の授業づくりの基本型について	（内 容）道徳科の授業づくりの基本について学び、考える。 平常試験のレポート課題を提示する。 （必要な準備）テキスト、プリント
第6回	道徳科の授業づくり（導入、教材分析など）	（内 容）授業づくりの大切な導入と特に教材分析について演習を通して学ぶ。 （必要な準備）テキスト、プリント
第7回	道徳科の授業展開（教材提示、発問など）	（内 容）授業展開の教材提示と発問について演習を通して学ぶ （必要な準備）テキスト、プリント
第8回	道徳科の指導方法（話し合い、表現活動、板書など）	（内 容）指導方法の話し合い、役割演技などの表現活動、板書などについて演習を通して学ぶ。 （必要な準備）テキスト、プリント
第9回	生き方を考える道徳科の授業づくり（展開後段、終末など）	（内 容）生き方を考える道徳科の授業づくりに向けて大切な展開後段の発問や終末について具体例をもとに理解する。 （必要な準備）テキスト、プリント
第10回	道徳科授業の指導案の作成（主題設定の理由、ねらい）	（内 容）道徳科授業の指導案の作成に取り組む。第1回は、主題設定の理由とねらいなど。 （必要な準備）テキスト、プリント
第11回	道徳科授業の指導案の作成（教材分析、発問）	（内 容）道徳科授業の指導案の作成に取り組む。第2回は、教材分析と発問など。 （必要な準備）テキスト、プリント
第12回	道徳科授業の指導案の作成（指導方法、板書）	（内 容）道徳科授業の指導案の作成に取り組む。第3回は、指導方法と板書など。 （必要な準備）テキスト、指導案
第13回	作成した指導案をもとに模擬授業 その1	（内 容）次回も含めて代表3人の学生が、30分間の模擬授業を行う。 （必要な準備）テキスト、指導案
第14回	作成した指導案をもとに模擬授業 その2	（内 容）模擬授業について感想、意見交流を行い、道徳科の授業づくりで大切にしたいことを考える。 指導案を仕上げ提出する。 （必要な準備）テキスト、指導案
第15回	道徳教育の学級経営に果たす役割について 家庭や地域社会と連携した道徳教育について	（内 容）道徳教育の学級経営に果たす役割と家庭や地域社会と連携した道徳教育の有効性について考える。 （必要な準備）プリント

授業名	発達心理学（中・高・栄）			開講学年	1回生	単位数	2単位	
英文名	Developmental Psychology			開講時期	春学期	必修・選択	選択	
担当者	西川 由紀子			対象学生	現代家政1回生、食物栄養1回生			
授業の概要	家庭科の一分野である保育を考える上で、子どもの発達を理解することは大変重要である。また、栄養教諭としての役割を果たす上でもそれぞれの子どもの発達の状況をとらえることは重要である。そこでこの授業では、変化の著しい乳幼児期から思春期にわたって、子どもがどんな力を獲得していくかを、年齢をおって解説してゆく。また、発達の遅れや、偏りがある場合の援助についても紹介する。							
学習成果到達目標	1) 子どもの発達を学ぶ意義を理解する。 2) 子どもの発達を理解する。 3) 子どもの発達をとらえる視点を獲得する。							
評価方法	定期試験 (80 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (20 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評価基準	主たる評価の 観点	知識・理解 (コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力	課題発見・解決能力)		
テキスト	西川由紀子「子どもの思いにこころをよせて」かもがわ出版 西川由紀子「かかわりあって育つ子どもたち」かもがわ出版							
参考書	使用しない。							
留意事項								
オフィスアワー	毎週1回（休業期間中を除く。）オフィスアワーを設けます。							

授 業 名		発達心理学 (中・高・栄)	
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題	
第1回	なぜ発達を学ぶのか	(内 容) 保育における発達理解の必要性を解説する (必要な準備) テキスト 1章を読んでくる(30分)	
第2回	乳児期前半	(内 容) 乳児期前半の子どもの発達を解説する (必要な準備) テキスト 2章を読んでくる(30分)	
第3回	乳児期後半	(内 容) 乳児期後半の子どもの発達を解説する (必要な準備) テキスト 3章を読んでくる(30分)	
第4回	1歳児(運動・認知)	(内 容) 1歳児の運動発達・認知発達を解説する (必要な準備) テキスト 4章を読んでくる(30分)	
第5回	1歳児(言語・社会性)	(内 容) 1歳児の言語・社会性の発達を解説する (必要な準備) テキスト 4章を読んでくる(30分)	
第6回	2歳児	(内 容) 2歳児の発達を解説する (必要な準備) テキスト 2章を読んでくる(30分)	
第7回	3歳児	(内 容) 3歳児の発達を解説する (必要な準備) テキスト 3章を読んでくる(30分)	
第8回	4歳児	(内 容) 4歳児の発達を解説する (必要な準備) テキスト 4章を読んでくる(30分)	
第9回	5歳児	(内 容) 5歳児の発達を解説する (必要な準備) テキスト 5章を読んでくる(30分)	
第10回	乳幼児期の発達のまとめ	(内 容) 乳幼児期の発達でたいせつなことをまとめる (必要な準備) ここまでの授業の振り返りをする(30分)	
第11回	児童期	(内 容) 児童期の発達を解説する (必要な準備) プリントを読んでくる(30分)	
第12回	思春期前期	(内 容) 思春期前期の発達を解説する (必要な準備) プリントを読んでくる(30分)	
第13回	思春期後期	(内 容) 思春期後期の発達を解説する (必要な準備) プリントを読んでくる(30分)	
第14回	発達の援助のあり方 自閉症スペクトラム	(内 容) 自閉症スペクトラムの障害の特性と援助方法を解説する (必要な準備) テキスト p108 - 119を読んでくる(30分)	
第15回	発達の援助のあり方 ADHD	(内 容) ADHDの特性と援助方法を解説する (必要な準備) テキスト p108 - 119を読んでくる(30分)	

授業名	発達心理学（幼・小）			開講学年	1回生	単位数	2単位	
英文名	Developmental Psychology			開講時期	春学期	必修・選択	選択	
担当者	西川 由紀子			対象学生	現代家政1回生			
授業の概要	発達を学ぶ意義を確認した上で、変化の著しい乳幼児期に焦点を当てて、運動、認知、言語、自我の発達などを、年齢をおって解説してゆく。また、発達の遅れや、偏りがある場合の援助についても紹介する。							
学習成果到達目標	1) 子どもの発達を学ぶ意義を理解する。 2) 子どもの発達を理解する。 3) 子どもの発達の援助を行う際に留意すべき視点を獲得する。							
評価方法	定期試験 (80 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (20 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評価基準	主たる評価の 観点	知識・理解 (コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力	課題発見・解決能力)		
テキスト	西川由紀子「子どもの思いにこころをよせて」かもがわ出版 西川由紀子「かかわりあって育つ子どもたち」かもがわ出版							
参考書	使用しない。							
留意事項								
オフィスアワー	毎週1回（休業期間中を除く。）オフィスアワーを設けます。							

授 業 名		発達心理学（幼・小）	
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題	
第1回	なぜ発達を学ぶのか	（内 容）保育における発達理解の必要性を解説する （必要な準備）テキスト 1章を読んでくる（30分）	
第2回	乳児期前半	（内 容）乳児期前半の子どもの発達を解説する （必要な準備）テキスト 2章を読んでくる（30分）	
第3回	乳児期後半	（内 容）乳児期後半の子どもの発達を解説する （必要な準備）テキスト 3章を読んでくる（30分）	
第4回	1歳児（運動・認知）	（内 容）1歳児の運動発達、認知発達を解説する （必要な準備）テキスト 4章を読んでくる（30分）	
第5回	1歳児（言語・社会性）	（内 容）1歳児の言語発達・社会性の発達を解説する （必要な準備）テキスト 4章を読んでくる（30分）	
第6回	2歳児	（内 容）2歳児の発達を解説する （必要な準備）テキスト 2章を読んでくる（30分）	
第7回	3歳児	（内 容）3歳の子どもの発達を解説する （必要な準備）テキスト 3章を読んでくる（30分）	
第8回	4歳児	（内 容）4歳の子どもの発達を解説する （必要な準備）テキスト 4章を読んでくる（30分）	
第9回	5歳児	（内 容）5歳の子どもの発達を解説する （必要な準備）テキスト 5章を読んでくる（30分）	
第10回	乳幼児期の発達のまとめ	（内 容）乳幼児期の6年間を通してたいせつなことを解説する （必要な準備）ここまでの授業で扱った箇所を復習してくる（30分）	
第11回	児童期	（内 容）児童期の発達を解説する （必要な準備）プリントを読んでくる（30分）	
第12回	思春期前期	（内 容）思春期前期の発達を解説する （必要な準備）プリントを読んでくる（30分）	
第13回	思春期後期	（内 容）思春期後期の発達を解説する （必要な準備）プリントを読んでくる（30分）	
第14回	発達の援助のあり方 自閉症スペクトラム	（内 容）自閉症スペクトラムの障害の特性と援助方法を解説する （必要な準備）テキスト p108 - 119を読んでくる（30分）	
第15回	発達の援助のあり方 ADHD	（内 容）ADHDの特性と援助方法を解説する （必要な準備）テキスト p108 - 119を読んでくる（30分）	

授業名	教育原理 u (中・高・栄)			開講学年	1回生	単位数	2単位	
英文名	Principles of Education			開講時期	秋学期	必修・選択	選択	
担当者	浅田 瞳			対象学生	現代家政1回生、食物栄養1回生			
授業の概要	洋の東西を問わず、教育に求められる役割はますます肥大化し、教師の役割も同様になりつつある。本講義では、教育の基本的な考え方やしくみを社会や歴史との関係を踏まえながら学習する。とりわけ、学校教育に大きな影響を与えたルソー、ペスタロッチ、J.ロックの思想を中心に、教育に求められる基本概念について学ぶ。また、今後の教育のあり方を予測するとともに、人間の発達や現代社会と教育との関係をもとに、教育で大切なことは何か、さまざまな資料や記事をもとに自らの意見を述べる力を身につけることが本講義の目標である。							
学習成果到達目標	1) 諸外国における教育の変遷や原理の違いについて説明できる。 2) 教育の発展過程について、専門的な知識をもとに説明できる。 3) 子どもに対する教育観について、自らの経験を踏まえながら説明できる。							
評価方法	定期試験 (60 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評価基準	主たる評価の 観点	知識・理解 (コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力	課題発見・解決能力)		
テキスト	『やさしい教育原理』（新版補訂版）田島一、中野新之祐、福田須美子、狩野浩二著							
参考書	適宜指示する。							
留意事項	主として講義により授業を進める。ただ、教育に関する時事について不定期に問うため、適宜指名して意見の発表もしくは記述を求める。緊張感をもって授業に臨んでもらいたい。							
オフィス アワー	第1回目の授業にて告知							

授 業 名		教育原理 u (中・高・栄)
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題
第1回	イントロダクション	(内 容) 進め方の説明後、教育学が扱う領域について説明する。 (必要な準備) 自分が受けてきた教育について振り返っておく。
第2回	教育とは何か	(内 容) 教育とは何かについて考える。 (必要な準備) テキストpp.1-11をよく読んでおくこと
第3回	学ぶことと教えること	(内 容) 「学び」と「教え」について考察する (必要な準備) テキストpp.12-26をよく読んでおくこと
第4回	教育・教化と形成	(内 容) 教育・教化と形成の違いについて考える (必要な準備) テキストpp.27-37をよく読んでおくこと
第5回	学校とは何か	(内 容) なぜ学校が登場したのかについて考える (必要な準備) テキストpp.39-47をよく読んでおくこと
第6回	近代学校の登場	(内 容) なぜすべての子どもが学校に通うようになったのかについて考える (必要な準備) テキストpp.48-55をよく読んでおくこと
第7回	我が国の教育のあゆみ	(内 容) 日本の教育の変遷について考える (必要な準備) テキストpp.68-86をよく読んでおくこと
第8回	身体の発達と道徳	(内 容) 教育と発達に関する理論について概観する (必要な準備) テキストpp.99-110をよく読んでおくこと
第9回	教育計画	(内 容) 子どもたちの学びを推進するための教育計画について学ぶ (必要な準備) テキストpp.117-132をよく読んでおくこと
第10回	教育評価を考える	(内 容) 評価の理論について概観する (必要な準備) テキストpp.133-149をよく読んでおくこと
第11回	理論と実践のつながりについて考える	(内 容) フレイレや生活綴り方運動を概観し、理論と実践のつながりについて考える (必要な準備) テキストpp.159-168をよく読んでおくこと
第12回	青年期と教育	(内 容) 青年期における教育の課題について考える (必要な準備) テキストpp.203-218をよく読んでおくこと
第13回	社会教育と生涯学習	(内 容) 社会教育と生涯学習について考える (必要な準備) テキストpp.219-232をよく読んでおくこと
第14回	教育の権利について考える	(内 容) 知識基盤社会における子どもの権利について考える (必要な準備) テキストpp.233-248をよく読んでおくこと
第15回	教育改革の動向とまとめ	(内 容) 現行の教育改革はどのように進んでいるのか、総括をおこなう (必要な準備) これまでの授業の振り返り

授業名	教育原理 u (幼・小)			開講学年	1回生	単位数	2単位	
英文名	Principles of Education			開講時期	秋学期	必修・選択	選択	
担当者	松浦 真理			対象学生	現代家政1回生			
授業の概要	教育とは個人が社会人として生きていけるように成長発達を支援していくものであると同時に、社会全体を維持発展させていくものである。このような教育の重要性を理解するために、学校教育、歴史、政治経済、家庭教育など多様な観点から教育を考え、今後の教育のあり方を模索していく。							
学習成果到達目標	1) 個人及び社会の両方と教育とのかかわりを理解し、説明できる。 2) 教育が、学校だけでなく、社会のその他の部分と関わっていることを理解し、説明できる。 3) 現代の世界的な教育の流れを踏まえ、これからの教育について想定できる。							
評価方法	定期試験 (60 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評価基準	主たる評価の 観点	知識・理解 (コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力	課題発見・解決能力)		
テキスト	内海崎貴子編著『教職のための教育原理』(八千代出版)							
参考書								
留意事項								
オフィス アワー	随時。メールでの予約が望ましい。							

授 業 名		教育原理 u (幼・小)	
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題	
第1回	授業の進め方、現代社会と教育	(内 容)	進め方の説明後、自分の教育歴を振り返ると同時に、現代社会における教育の諸問題について考えてみる。 (必要な準備) シラバスを確認しておく。自分が受けてきた教育について振り返っておく。 (30分程度)
第2回	教育の意味と役割及び限界	(内 容)	教育の意味や重要性について考える。人間の特質をもとに考える。同時に教育の限界についても知る。 (必要な準備) テキストの該当部分(4章)を読み、予習としての課題をやっておく。 (1時間)
第3回	子どもの発達と教育で育てる「力」	(内 容)	子どもの発達についての考え方を概観し、教育が関与して育てる「力」について理解する。 (必要な準備) テキストの該当部分(5章)を読み、予習としての課題をやっておく。 (1時間)
第4回	近代以降の日本の教育制度	(内 容)	日本の教育史について、主として明治期以降を取り扱い、教育と社会制度との関連を理解する。 (必要な準備) テキストの該当部分(6章)を読み、予習として課題をやっておく。 (1時間)
第5回	西洋教育思想の歩み	(内 容)	西洋における教育概念と、今日の内容や方法につながる、歴史上の人物の教育思想について学ぶ (必要な準備) テキストの該当部分(7章)を読み、予習として課題をやっておく。 (1時間)
第6回	子ども理解の重要性	(内 容)	予習として課題をやっておく。 (必要な準備) 予習としての課題をやっておく。(30分程度)
第7回	道徳教育	(内 容)	近年重視されている道徳教育について歴史的経緯や、位置づけ、方法論などについて理解し、考察する。 (必要な準備) テキストの該当部分(10章)を読み、予習としての課題をやっておく。 (1時間)
第8回	人権と教育	(内 容)	子どもの人権、「権利条約」、近年の諸問題などについて理解する。 (必要な準備) テキストの該当部分(11章)を読み、予習として課題をやっておく。 (1時間)
第9回	ジェンダー問題	(内 容)	養育におけるジェンダーの問題を考える。 (必要な準備) テキストの該当部分(12章)を読み、予習としての課題をやっておく。 (1時間)
第10回	特別支援教育	(内 容)	特別支援教育の今日的課題について概観する。 (必要な準備) テキストの該当部分(13章)を読み、予習としての課題をやっておく。 (1時間)
第11回	学校と地域社会	(内 容)	学校が存在する地域は、社会の変化によって「コミュニティ」へと変化していることを理解する。 (必要な準備) テキストの該当部分(14章)を読み、予習としての課題をやっておく。 (1時間)
第12回	子どもと学校をめぐる現代的課題	(内 容)	子どもと学校、地域、家庭そして政治経済状況をめぐる諸課題について整理する。 (必要な準備) 予習としての課題をやっておく。 (3時間程度)
第13回	子どもと家庭環境との関係	(内 容)	家族・家庭と子どもとの関係について整理し、問題提起し、提案をする。(グループによる発表) (必要な準備) 予習としての課題をやっておく。(1時間)
第14回	子どもと社会状況との関係	(内 容)	親の家庭状況や地域社会とのつながりなどと子どもとの関係について整理し、問題提起し、提案をする。(グループによる発表) (必要な準備) 予習として課題をやっておく。(1時間)
第15回	まとめ	(内 容)	教育やそれを取り巻く諸状況について、これまでの授業を振り返り、教育について自分が取り組んでいきたいことを整理する。 (必要な準備) これまでの授業を振り返っておく。(1時間)

授業名	精神保健 u			開講学年	2回生	単位数	2単位
英文名	Mental Health			開講時期	春学期	必修・選択	選択
担当者	岸 優子			対象学生	現代家政2回生		
授業の概要	<p>1)メンタルヘルスについて、生活スタイル、価値観の変化など、社会環境が大きく変化してきた背景となる要因を学ぶ。</p> <p>2)受講者自身が自己理解・他者理解を学び、社会で暮らしていく力を身につける。</p> <p>3)最近クローズアップされてきた発達障害・精神障害・認知症等についての学びを深める。</p>						
学習成果到達目標	<p>1)胎生期、乳幼児期、学童期、思春期、成人期、高齢期のメンタルヘルスの基本的知識を習得する。</p> <p>2)自己理解・他者理解を学ぶことで、メンタルヘルスの実際を体験できる。</p> <p>3)発達障害児・精神障害・認知症等の理解と支援方法を習得し、支援方法を理解できる。</p>						
評価方法	定期試験 (60 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40 %)	筆記試験 口述	レポート 実習 制作物 実技
評価基準	主たる評価の 観点	知識・理解 (コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力) (課題発見・解決能力)		
テキスト	使用しない。(適宜プリントを配布する)						
参考書	使用しない。						
留意事項	ワークを通し、主体的に学ぶ事を重視するので、積極的参加すること。						
オフィス アワー	担当授業終了後に実施する						

授 業 名		精神保健 u	
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題	
第1回	メンタルヘルスを学ぶ目的意義	(内 容) ガイダンス：授業の目標、進め方など全体の流れを把握する。 (必要な準備) シラバスを読んでおく。(10分)	
第2回	胎生期のメンタルヘルス	(内 容) 胎生期のメンタルヘルスについて、胎生期の危機 周産期の危機を学ぶ。 (必要な準備) 胎児の成長について復習し、胎生期のウェルビーイングを考える。(20分)	
第3回	乳幼児期のメンタルヘルス	(内 容) 乳幼児期のメンタルヘルスについて特徴と配慮事項を学ぶ (必要な準備) スターン、ポウルビィを中心に前回の復習をする。(60分)	
第4回	自分の歴史	(内 容) 自分史について振り返る (必要な準備) レポート提出	
第5回	学童期のメンタルヘルス	(内 容) 学童期のメンタルヘルスについての特徴と配慮事項を学ぶ (必要な準備) 発達の高齢性を理解し、分類方法・基準についてまとめる。(40分)	
第6回	思春期のメンタルヘルス	(内 容) 思春期のメンタルヘルスについての特徴・配慮事項を学ぶ。(大人になること、親離れ・子別れ) (必要な準備) 思春期の基本的概念について復習する。(40分)	
第7回	ワーク 1	(内 容) 自己理解を深める (必要な準備) ライフスキルについて復習をする。(40分)	
第8回	成人期のメンタルヘルス	(内 容) 成人期のメンタルヘルスの特徴・配慮事項を学ぶ (必要な準備) ゲゼル、エリクソンについて復習をする。(40分)	
第9回	老年期のメンタルヘルス	(内 容) 老年期のメンタルヘルスの特徴・配慮事項を学ぶ (必要な準備) 老化について、前回の復習をする。(20分)	
第10回	ワーク 2	(内 容) 自己理解を深める (必要な準備) 前回の復習をする。(20分)	
第11回	精神科の病気 1	(内 容) うつ病・統合失調症等、精神科疾患の理解 (必要な準備) 精神科の病気に関わる様々な職種の専門家(精神科医・看護師・臨床心理士・作業療法士・PSW・薬剤師)の役割を調べる。(60分)	
第12回	精神科の病気 2	(内 容) 認知症、ターミナルケアとメンタルヘルス (必要な準備) 前々回の復習をする。(60分)	
第13回	こころとからだ(ストレス反応)	(内 容) ストレス反応 (必要な準備) 自己のストレスについて知り、そのコントロール方法について考える。(20分)	
第14回	対人援助職のメンタルヘルス	(内 容) 対人援助職のメンタルヘルスについて考える (必要な準備) 教師・保育者のメンタルヘルスについて復習をする。(30分)	
第15回	まとめと振り返りをし、今後の課題を見出す	(内 容) これまでの内容を振り返り、メンタルヘルスについての今後の課題を考察する。 (必要な準備) 今までのまとめをして、質問事項を明確にしておくこと。(60分)	

授業名	教育心理学u (中・高)			開講学年	3回生	単位数	2単位
英文名	Educational Psychology			開講時期	秋学期	必修・選択	選択
担当者	吉田 博子			対象学生	現代家政3回生		
授業の概要	<p>教育心理学は、教育にかかわる心理現象を研究する心理学の一分野であり、発達・学習・知能・思考・記憶・意欲・人格・適応・社会性・教育評価など多様な分野がある。本授業では、教育心理学の歴史、理論のよりどころとなっている実証的な研究との関係を理解するとともに、「人は本来自ら学び、学ぶことに喜びを見出す存在である」「生涯を通して学びつづける存在である」「人は誰もが自己効力感をもって創造的に生きることを願う存在である」を理解する。そして、人間はどのような条件の下で学習・成長・発達し、それぞれどのような特性を身につけていくかを明らかにする。</p>						
学習成果到達目標	<p>1)自らの教育観・保育観・学習観・学力観・子ども観・人間観を見つめ把握できるようになる。 2)より良い教育・保育のために教育心理学の知見を活用できるようになる。 3)現代の教育・保育にかかわる諸課題・諸問題についての理解を深め、問題解決に役立てることができる。</p>						
評価方法	定期試験 (60 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40 %)	筆記試験 口述	レポート 実習 制作物 実技
評価基準	主たる評価の 観点	知識・理解 (コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力	課題発見・解決能力)	
テキスト	岡田尊司『愛着障害 子ども時代を引きずる人々』光文社新書						
参考書	随時参考資料を配付する。						
留意事項	テキスト・配付資料を積極的に読み込むこと。 事前学習をしっかりと行うこと。						
オフィス アワー	担当授業後に実施する。						

授 業 名	教育心理学 u (中・高)	
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題
第1回	オリエンテーション 教育とは、教育心理学とは、発達とは	(内 容) 本講義の目標を理解し、学習計画を立てる。 教育とは、教育心理学とは、教育心理学の研究領域、発達とは、遺 伝と環境、発達の原理について学ぶ。 (必要な準備) シラバスを確認しておくこと(40分)
第2回	発達段階(乳児期・幼児期)	(内 容) 発達段階(乳児期・幼児期)について学ぶ (必要な準備) 前回のまとめをしておく(40分)
第3回	発達段階(児童期・青年期)	(内 容) 発達段階(児童期・青年期)について学ぶ (必要な準備) 前回のまとめをしておく(40分)
第4回	教育評価(性格診断・性格検査)	(内 容) 性格診断・性格検査について学ぶ (必要な準備) 前回のまとめをしておく(40分)
第5回	性格診断・性格検査の分析・考察	(内 容) 性格診断・性格検査の解説 (必要な準備) 前回のまとめをしておく(40分)
第6回	学習の理論(学習の定義・条件付け・問題解決)	(内 容) 学習の理論(学習の定義・条件付け・問題解決)について学ぶ (必要な準備) 前回のまとめをしておく(40分)
第7回	学習の理論(社会的学習理論等)	(内 容) 学習の理論(社会的学習理論等)について学ぶ (必要な準備) 前回のまとめをしておく(40分)
第8回	適応と指導(適応・動機づけ・葛藤・原因帰属)	(内 容) 適応・内発的動機づけ・外発的動機づけ・葛藤・原因帰属について 学ぶ (必要な準備) 前回のまとめをしておく(40分)
第9回	愛着障害	(内 容) 愛着障害について学ぶ (必要な準備) 前回のまとめをしておく(40分)
第10回	愛着障害の事例	(内 容) 愛着障害の事例をとおして学ぶ (必要な準備) 前回のまとめをしておく(40分)
第11回	人格(人格の意味・人格の理論)	(内 容) 人格・性格・気質、人格の理論について学ぶ (必要な準備) 前回のまとめをしておく(40分)
第12回	適応と指導	(内 容) 適応機制・防衛機制・不適応・個人指導・心理療法について学ぶ (必要な準備) 前回のまとめをしておく(40分)
第13回	社会性・道徳性の発達	(内 容) 社会性・道徳性の発達・幼児期の自我・自己形成と社会化について 学ぶ (必要な準備) 前回のまとめをしておく(40分)
第14回	学級集団・教育評価	(内 容) 学級集団の理解・学級集団の特性・教師の影響・測定と評価につい て学ぶ (必要な準備) 前回のまとめをしておく(40分)
第15回	授業のまとめ	(内 容) 教育心理学のまとめをする (必要な準備) 前回のまとめをしておく(40分)

授業名	教育心理学u (幼・小)			開講学年	3回生	単位数	2単位	
英文名	Educational Psychology			開講時期	春学期	必修・選択	選択	
担当者	藤井 裕子			対象学生	現代家政3回生			
授業の概要	<p>1、教育心理学の基礎的知見を学び、教育現場で心理学を応用して用いる力を養う。</p> <p>2、児童・生徒の発達や学習過程を理解し、学びを育む教育方法や教育環境、学習のメカニズムについて理解を深める。</p> <p>3、個別の教育的支援の必要な児童・生徒への理解を深め実際の関わりや支援についても考察する。</p>							
学習成果到達目標	<p>1、教育心理学の基礎的知識を習得する。</p> <p>2、心理学の知識や考え方を応用して幅広く教育を実践する力を養う。</p> <p>3、学習に困難の見られる児童・生徒に対する理解を深め、教育心理学を基盤にした支援に結び付ける。</p>							
評価方法	定期試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評価基準	主たる評価の 観点	知識・理解 (コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力) (課題発見・解決能力)
テキスト	プリント配布する							
参考書	子安増生ほか「教育心理学」有斐閣							
留意事項	講義を中心とするがテーマによってはグループ発表も取り入れる。理論と実践を結び付けていく。事前事後学習をすること。							
オフィスアワー	毎週1回(休業期間中を除く)オフィスアワーを設ける。(曜日、時間を研究室に掲示)。できれば事前予約が望ましい。							

授 業 名		教育心理学 u (幼・小)
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題
第1回	オリエンテーション 教育とは、教育心理学とは、発達とは	(内 容) 本講義の目標を理解し、学習計画を立てる 教育とは、教育心理学とは、教育心理学の研究領域、発達とは、遺 伝と環境、発達の原理について学ぶ。 (必要な準備) ノートやファイルを準備する。
第2回	発達理論と発達段階(乳児期・幼児期・児童期・ 青年期)	(内 容) 発達段階(乳児期・幼児期・児童期・青年期)について学び、主な 発達理論を理解する。 (必要な準備) 配布プリントを読みまとめる。
第3回	認知の発達	(内 容) 認知の発達、概念や言葉の獲得や子どもの思考の特徴について学ぶ 。 (必要な準備) 配布プリントを読みまとめる
第4回	知能の発達	(内 容) 知能の種類や発達、知能の評価方法について学ぶ。 (必要な準備) 配布プリントを読みまとめる
第5回	学習理論、学習の過程	(内 容) 主な学習理論を習得し、低次の学習から高次の学習への移行につい て理解する。 (必要な準備) 配布プリントを読みまとめる
第6回	記憶の分類とその特徴	(内 容) 記憶の仕組みと記憶の種類を学び、記憶の歪みや忘却について理解 を上げる。 (必要な準備) 配布プリントを読みまとめる
第7回	外発的動機づけ、内発的動機づけ	(内 容) 学びの基本を形成する動機づけについて学ぶ。学習目標や自己効力 感について理解する。 (必要な準備) 配布プリントを読み演習問題を解く。
第8回	適応と指導(適応・動機づけ・葛藤)、さまざま な学習方法	(内 容) 適応・動機づけ・葛藤について学ぶ。さまざまな学習スタイルを理 解する。 (必要な準備) 配布プリントを読み演習問題を解く。
第9回	教育場面における評価	(内 容) 学力の評価や子どもの日常生活の評価、教員自らの教育実践の省察 について学ぶ。 (必要な準備) 配布プリントを読み演習問題を解く。
第10回	子どもの学びへの支援(1)学習意欲が乏しい場 合	(内 容) さまざまな子どもの課題に向き合い理解し支援する方法を学ぶ。学 習意欲の乏しい子どもへの理解と関わりを考察する。 (必要な準備) 配布プリントを読み事例について考える。
第11回	子どもの学びへの支援(2)登校しぶりへの理解	(内 容) 登校しぶりや不登校の問題を理解し支援や指導について考察を深め る。 (必要な準備) 配布プリントを読み事例について考える。
第12回	子どもの学びへの支援(3)発達障害への理解	(内 容) 特別支援教育について理解し、発達障害や個別の教育的支援を必要 とする子どもへの支援を考察する。 (必要な準備) 配布プリントを読み事例について考える。
第13回	子どもの学びへの支援(4)問題行動への理解	(内 容) 問題行動や非行傾向のある子どもの背景を学び問題解決の方策を考 察する。 (必要な準備) 配布プリントを読み事例について考える。
第14回	教育評価(性格診断・性格検査)、教育心理学の 最新のトピックス	(内 容) 性格診断・性格検査について学ぶ。最近の教育現場の問題を知り、 子どもを理解し教育的支援を行う実践につなげる。 (必要な準備) 配布資料を読み、演習問題を解く。
第15回	講義全体を通して振り返り まとめ	(内 容) 教育心理学のまとめをする (必要な準備) 自分の考えをまとめておく。

授業名	人間福祉論			開講学年	1回生	単位数	2単位	
英文名	Theory of Human Welfare			開講時期	春学期	必修・選択	選択	
担当者	藤井 伸生			対象学生	現代家政1回生			
授業の概要	現代社会における人間のくらしの実態を明らかにしながら、社会福祉の役割について考える。社会福祉の歴史的社会的必然性、社会福祉の研究対象である対象・主体・方法、社会福祉制度の概要の理解をしていく。海外の社会福祉の実情も紹介し、わが国の課題を考察する。							
学習成果到達目標	1) 社会事象に目を向け、授業との関連性を認識できるようになる。 2) 私たち人間のくらしにおいて社会福祉が果たしている役割について理解できるようになる。 3) くらしを支える最後の拠り所である社会福祉の重要性を理解できるようになる。							
評価方法	定期試験 (100 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評価基準	主たる評価の 観点	知識・理解 (論理的な展開力	コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力	課題発見・解決能力)		
テキスト	『生活問題と社会保障・社会福祉の基本資料集』高菅出版、2014年。							
参考書	授業時に紹介							
留意事項	ノートをしっかりとること。新聞を読むこと。							
オフィス アワー	オフィスアワーは設定しますが、研究室に在室していれば対応します。どうしても場合は、事前にEメールしてください。							

授業名	人間福祉論	
授業計画	学習項目	学習内容・課題
第1回	なぜ我々は学ぶのか、どう学ぶか	(内 容) 社会福祉を学ぶ姿勢について話す (必要な準備) 社会福祉の事象に思いをよせる(30分)
第2回	歴史的社会的存在としての社会福祉 - 慈善 -	(内 容) 生活問題と生活保障の理解 (必要な準備) 社会福祉の歴史を調べ考える(30分)
第3回	歴史的社会的存在としての社会福祉 - 慈恵・博愛・相互扶助 -	(内 容) 慈恵・博愛・相互扶助について (必要な準備) 社会福祉の誕生について調べ考える(30分)
第4回	社会事業・社会福祉の成立	(内 容) 社会福祉の成立について (必要な準備) 社会福祉の今日の役割を調べ考える(30分)
第5回	社会福祉の動向と課題 - 対象 -	(内 容) 社会福祉の対象理解について (必要な準備) 暮らしの基盤について家族と対話し考える(30分)
第6回	社会福祉の動向と課題 - 主体 -	(内 容) 社会福祉の主体について (必要な準備) 企業と社会福祉について調べ考える(30分)
第7回	社会福祉の動向と課題 - 方法 -	(内 容) 社会福祉の方法について (必要な準備) 社会福祉の方法について調べ考える(30分)
第8回	社会福祉制度の概要 - 社会保険 -	(内 容) 社会福祉としての保険制度について (必要な準備) 自らの加入している保険を調べる(30分)
第9回	社会福祉制度の概要 - 社会手当 -	(内 容) 社会手当について (必要な準備) 家族が受給している手当を家族から学ぶ(30分)
第10回	社会福祉制度の概要 - 生活保護 -	(内 容) 生活保護制度について (必要な準備) 貧困について調べ考える(30分)
第11回	社会福祉制度の概要 - 児童福祉 -	(内 容) 児童福祉について (必要な準備) 保育所をはじめ児童について考える(30分)
第12回	社会福祉制度の概要 - 施設・サービス -	(内 容) 施設・サービスについて (必要な準備) 施設・サービスに関わっている事象を調べ考える(30分)
第13回	社会福祉の国際比較 - 保育 -	(内 容) 社会福祉の国際比較 - 保育 - (必要な準備) 海外の保育情報に目を向ける調べる(30分)
第14回	社会福祉の国際比較 - 介護 -	(内 容) 社会福祉の国際比較 - 介護 - (必要な準備) 海外の介護情報に目を向け調べる(30分)
第15回	社会福祉の今日的課題	(内 容) 社会福祉の動向と課題 (必要な準備) 新聞等から今日の話題をつかむ(30分)

授 業 名	生涯学習論			開 講 学 年	2回生	単 位 数	2単位	
英 文 名	Theory of Lifelong Learning			開 講 時 期	秋学期	必修・選択	選択	
担 当 者	岸 優子			対 象 学 生	現代家政2回生			
授業の概要	人は生まれたときから死ぬまで自ら学ぶ存在である。学びが多ければ多いほど人は自らをより高めることができ、豊かな人生を送ることができる。生涯学習の理念やその歴史的展開を学ぶことを通して、生涯学び続ける女性を目指すとともに、学びを支える側の立場や考え方も知り、生涯学習の意義と重要性をまなび、自らの生活に生かしていける視点を与えることを目的とする。							
学 習 成 果 達 成 目 標	1) 生涯学習の理念、現状と課題、推進方策について基本的知識を習得する。 2) だれもが・いつでも・どこでも学習できる「学習社会」の在り方を提示することができる。 3) 教育を学校教育に限定するのではなく、成人や高齢者を対象とするインフォーマルな学習なども含めた全ての教育活動を支援・推進する方策を提示することができる。							
評 価 方 法	定期試験 (60 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 (コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力)	(課題発見・解決能力)	
テ キ ス ト	授業中に指示する。							
参 考 書	授業中に指示する。							
留 意 事 項	授業中に与えられた課題については主体的に取り組むこと。							
オ フ ィ ス ア ワ ー	授業後実施する。							

授 業 名		生涯学習論
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題
第1回	ガイダンス	(内 容) 本講義の目標を理解し、学習計画を立てる。 (必要な準備) シラバスを読んでおく。(10分)
第2回	生涯学習とは何か	(内 容) 生涯学習の理念について概説する。 (必要な準備) 身近なところから生涯学習に関わることがないかどうかを調べておくこと。(20分)
第3回	人間形成と生涯学習	(内 容) 人間形成と学ぶことの意味について考察する。 (必要な準備) 学習することの意味について考えておくこと。(30分)
第4回	生涯発達と発達課題	(内 容) 人間の生涯にわたる発達段階とそれぞれの発達課題の内容について考察する。 (必要な準備) 人間の発達について調べておくこと。(30分)
第5回	生涯学習論の発端と経緯について	(内 容) 生涯学習論の発生の背景とその後の経緯について解説する。 (必要な準備) 前回までの復習をしておくこと。(30分)
第6回	ラングランの生涯教育論	(内 容) ラングランの提唱した生涯教育の理念について解説する。 (必要な準備) プリントを読んでおくこと。(30分)
第7回	ハッチンスの学習社会論	(内 容) ハッチンスの学習社会論について解説する。 (必要な準備) プリントをよく読んでおくこと。(30分)
第8回	フォーール報告にみる学習観	(内 容) フォール報告にみる学習観、人間観について解説する。 (必要な準備) プリントをよく読んでおくこと。(30分)
第9回	OECDのリカレント教育	(内 容) OECDのリカレント教育について解説する。 (必要な準備) プリントをよく読んでおくこと。(30分)
第10回	我が国における生涯教育論の展開	(内 容) 学習社会論や生涯教育論から生涯学習論への展開について概説する。 (必要な準備) プリントをよく読んでおくこと。(20分)
第11回	我が国における生涯学習の必要性と各種審議会答申について	(内 容) 社会教育審議会、中央教育審議会等に見られる生涯教育の理念と具体案について整理する。 (必要な準備) プリントをよく読んでおくこと。(20分)
第12回	生涯学習社会における家庭教育について	(内 容) 生涯学習社会における家庭教育の役割について考察する。 (必要な準備) 家庭教育の具体的内容について考えておくこと。(30分)
第13回	生涯学習社会における学校教育について	(内 容) 生涯学習社会における学校教育の役割について考察する。 (必要な準備) 学校教育と生涯学習の関わりについて調べておくこと。(30分)
第14回	生涯学習社会における社会教育について	(内 容) 生涯学習の中核を担う社会教育の役割について考察する。 (必要な準備) 社会教育の具体的内容について調べておくこと。(40分)
第15回	生涯学習の事例発表	(内 容) 各地域社会の生涯学習の取り組みについて調査し、その内容を発表する。 (必要な準備) 発表用資料を準備する。(60分)

授 業 名	ターミナルケア論 u			開 講 学 年	4回生	単 位 数	2単位	
英 文 名	Theory of Terminal Care			開 講 時 期	秋学期	必修・選択	選択	
担 当 者	野田 隆生			対 象 学 生	現代家政4回生			
授業の概要	<p>私たちは、この世に生を受けた瞬間からすでにあの世（死）へと向かう存在となっている。本講では、現代社会における誕生と死の実態を起点に、ターミナル・ケアのありようについて学んでいく。さらに、生殖補助医療や安楽死などについて正しく理解し、それに対応できるような事例を取り上げながら、その課題について考察を深めていく。</p>							
学 習 成 果 達 成 目 標	<p>1) 現代社会における誕生と死の実態について説明することができる。 2) 全人的な痛みの背景について説明することができる。 3) 「ターミナル・ケア」「ホスピス」「ピハラ」「PCU」等の用語について理解し、説明ができる。</p>							
評 価 方 法	定期試験 (70 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (30 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 (コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力	課題発見・解決能力 ()
テ キ ス ト	使用しない。配布資料あり。							
参 考 書	杉本一義著『人生福祉の根本問題 苦難と援助の人間学』彩流社、小畑万里編著『地域・施設で死を看取るとき いのちと死に向き合う支援』明石書店、垂水雄二著『生命倫理と環境倫理 生物学からのアプローチ』八坂書房、マリ・ロイド編、若林佳史訳『緩和ケアにおける心理社会的問題』星和書店、宮川俊行著『安楽死の論理と倫理』東京大学出版局、中澤正夫著『死のメンタルヘルス 最期に向けての対話』岩波書店、香西豊子著『流通する「人体」 献体・献血・臓器提供の歴史』勁草書房、吉武久美子著『医療倫理と合意形成 治療・ケアの現場での意思決定』東信堂							
留 意 事 項	安直な動機での履修は歓迎しない。問いかけに対して自ら問題意識をもつように心がけること。 グループもしくはペアワークを取り入れながら、学生の意見を基調に進めていく。							
オ フ ィ ス ア ワ ー	授業初回時に連絡をします。 基本的に研究室に在室していれば対応をします。また、急な質問等については学内E-mailを利用して下さい。							

授業名	ターミナルケア論 u	
授業計画	学習項目	学習内容・課題
第1回	はじめに ～「死」とは何なのか？～	(内 容) 講義の進め方、成績評価の方法について解説した後、「死」に関する意識調査アンケートを行う。 (必要な準備) シラバスから学びの道筋をイメージしておく。(30分)
第2回	現代社会における誕生と死	(内 容) 統計資料に基づく誕生と死の現状を把握し、社会とのつながりについて学ぶ。 (必要な準備) 『国民の福祉と介護の動向』を閲覧しておく。(60分)
第3回	社会問題としてのターミナル・ケア	(内 容) ターミナル・ケアが社会問題となっている背景について学ぶ。 (必要な準備) 『国民衛生の動向』を閲覧しておく。(60分)
第4回	ターミナル・ケアの歴史 ～ホスピス・PCUの成立過程～	(内 容) ターミナルケアの歴史をその語源よりたどりながら、ホスピスならびにPCUへと変遷する過程について学ぶ。 (必要な準備) 紹介した書籍を読む。(90分)
第5回	ターミナル・ケアの歴史 ～ビハーラの誕生と成立過程～	(内 容) 仏教を基盤としたターミナル・ケアの成立過程について学ぶ。 (必要な準備) 紹介した書籍を読む。(90分)
第6回	ホスピス病棟の紹介 ～遺族へのケアについて～	(内 容) 遺族へのケアについて映像を通じて理解する。 (必要な準備) 紹介した書籍を読む。(60分)
第7回	死にゆく人の「苦しみ」と「痛み」 ～心理的・社会的ニード～	(内 容) 全人的痛みの理解とその援助について事例を通じて学ぶ。 (必要な準備) 紹介した書籍を読む。(60分)
第8回	死にゆく人の「苦しみ」と「痛み」 ～スピリチュアルニード～	(内 容) 全人的痛みの理解とその援助について事例を通じて学ぶ。 (必要な準備) 紹介した書籍を読む。(60分)
第9回	ビハーラ病棟の紹介 ～患者からの最期のことば～	(内 容) 映像を観て、シートに記録する。 演習形式 (必要な準備) 紹介した書籍を読む。(45分)
第10回	ビハーラ病棟の紹介 ～痛みからの解放～	(内 容) 映像を観て、シートに記録する。 演習形式 (必要な準備) 紹介した書籍を読む。(45分)
第11回	宗教者の役割について ～ビハーラ僧の場合～	(内 容) 映像と事例を通じて解説を行う。 (必要な準備) 紹介した書籍を読む。(45分)
第12回	MSWの役割と機能について	(内 容) MSWの事例紹介を通じて、ターミナル・ケア期における福祉援助の基礎について学ぶ。 (必要な準備) 紹介した書籍を読む。(60分)
第13回	生死をめぐる課題 ～生殖補助医療とその課題～	(内 容) 生殖補助医療の現状と代理出産の現実から、主題に迫っていく。 資料をよく読み込んだ上でディスカッションを行う。 (必要な準備) 生殖補助医療や代理出産について調べておく。(60分)
第14回	生死をめぐる課題 ～安楽死と尊厳死～	(内 容) 安楽死と尊厳死の違いを理解し、現場にて齟齬なく援用できるようになることの必要性を事例を通して学ぶ。 資料をよく読み込んだ上でディスカッションを行う。 (必要な準備) 安楽死・尊厳死・脳死・臓器移植について調べておく。(60分)
第15回	まとめにかえて ～「生ききる」ことを支えるケアとは～	(内 容) 「生ききる」ことを支えるケアについて考える。 (必要な準備) これまでの学びについて各回の要点を押さえておくことと、配布資料に目を通しておくこと。(30分)

授 業 名	家族関係論			開 講 学 年	2回生	単 位 数	2単位	
英 文 名	Theory of Family Romance			開 講 時 期	秋学期	必修・選択	選択	
担 当 者	秋山 裕之			対 象 学 生	現代家政2回生、食物栄養2回生			
授業の概要	<p>社会の変化に伴い、家族の形態や機能も変化している。家族のあり方が多様化する中で、家族の機能低下や家族関係の希薄化などが問題点として指摘されている。その一方でバブル経済崩壊後は「一番大切なもの」に家族を挙げる人が4割以上を占めるなど、家族は現代人にとってもっとも重要な心の拠り所である。本講義では、家族を取り巻く複雑な状況をふまえて、家族関係の実態を概観しながら、望ましい家族関係について考察する。</p>							
学 習 成 果 達 成 目 標	<p>1) 現代日本の家族の実態について先入観にとらわれずに客観的に把握するための視座を持つ。 2) 家族が持つ可能性と抱えている困難を理解したうえで望ましい家族について考えることができる。</p>							
評 価 方 法	定期試験 (60 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 (思考力)	コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力 ()		課題発見・解決能力 ()		
テ キ ス ト	河合隼雄1980『家族関係を考える』講談社現代新書							
参 考 書	岡田尊司2014『母という病』2015『父という病』 尾木直樹2015『親子共依存』 すべてポプラ新書							
留 意 事 項	毎回の予習とグループ討議での活発な意見交換を求めます。座席は指定します。							
オ フ ィ ス ア ワ ー	週に1時間×1回設定。曜日・時間帯は学生演習室にて掲示。							

授 業 名		学 習 内 容 ・ 課 題
授 業 計 画	学 習 項 目	学 習 内 容 ・ 課 題
第1回	オリエンテーション	(内 容) この授業のテーマと進め方について (必要な準備) シラバスを読んでくる(5分)
第2回	いま家族とは何か	(内 容) テキスト第1章 (必要な準備) テキストの第1章を読んでくる(30分)
第3回	個人・家・社会	(内 容) テキスト第2章 (必要な準備) テキストの第2章を読んでくる(30分)
第4回	親子であること	(内 容) テキスト第3章 (必要な準備) テキストの第3章を読んでくる(30分)
第5回	夫婦の絆	(内 容) テキスト第4章 (必要な準備) テキストの第4章を読んでくる(30分)
第6回	父と息子	(内 容) テキスト第5章 (必要な準備) テキストの第5章を読んでくる(30分)
第7回	母と娘	(内 容) テキスト第6章 (必要な準備) テキストの第6章を読んでくる(30分)
第8回	父と娘	(内 容) テキスト第7章 (必要な準備) テキストの第7章を読んでくる(30分)
第9回	きょうだい	(内 容) テキスト第8章 (必要な準備) テキストの第8章を読んでくる(30分)
第10回	家族の危機	(内 容) テキスト第9章 (必要な準備) テキストの第9章を読んでくる(30分)
第11回	老人と家族	(内 容) テキスト第10章 (必要な準備) テキストの第10章を読んでくる(30分)
第12回	家族のうち・そと	(内 容) テキスト第11章 (必要な準備) テキストの第11章を読んでくる(30分)
第13回	これからの家族	(内 容) テキスト第12章 (必要な準備) テキストの第12章を読んでくる(30分)
第14回	現代日本の家族 親子共依存	(内 容) 親子共依存 (必要な準備) 自分の意見をまとめてくる(30分)
第15回	家族関係を考える	(内 容) テキスト総復習 (必要な準備) 自分の意見をまとめてくる(30分)

授業名	子どもと生活 u			開講学年	2回生	単位数	2単位	
英文名	Children and Life			開講時期	秋学期	必修・選択	選択	
担当者	山川 宏和・藤井 伸生			対象学生	現代家政2回生			
授業の概要	小学校及び幼稚園の生徒が、身近な人々や地域とのかかわりに関心を持つための生活について学ぶ。集団や社会への愛着、その中で果たす自らの役割について考え、適切に行動するためには何が必要かについても学ぶ。そのために、家族や学校、自然、動植物、公共が子どもの生活にどのようにかかわりを持つかについて総合的に学ぶ。							
学習成果到達目標	1) 子どもが、自らをはじめ、身近な人々、社会や自然とのかかわりに関心をもつような具体的な活動や体験とは何かが説明できる。 2) 生活が、子どもの成長・発達にどのような影響を及ぼすかを知り、身につけるべき生活上必要な習慣や技能とは何かが説明できる。							
評価方法	定期試験 (60 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評価基準	主たる評価の 観点	知識・理解 (コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力	課題発見・解決能力)		
テキスト	『小学校学習指導要領解説 生活編』文部科学省(日本文教出版)							
参考書	適宜配布する。							
留意事項	幼稚園・小学校教職に必要な科目であり、自ら実践する内容が多いので、積極的に学ぶ意欲を持つ人に履修してほしい。							
オフィス アワー	毎週1回(休業期間中を除く。)オフィスアワーを設けます。 【備考】オフィスアワーに設定している時間帯であっても、会議や出張などで在室できない場合があります。また、あらかじめ予約が必要な場合がありますので、その場合は、メールまたは直接申し出るようにしてください							

授 業 名	子どもと生活 u	
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題
第1回	子どもと生活（オリエンテーション）	（内 容） 子どもと生活の目標、授業方法について （必要な準備） シラバスを読んでおく
第2回	生活科の解説	（内 容） 生活科創設の経緯・変遷について説明する （必要な準備） 指導要領解説を読んでおく
第3回	教育指導要領の解説	（内 容） 生活科に関する指導要領の内容を説明する （必要な準備） 指導要領解説を読んでおく
第4回	季節の変化と生活 秋を観察する	（内 容） 学外の自然観察に必要な内容を説明する （必要な準備） 前回のまとめをしておく
第5回	授業計画の目的と意義について	（内 容） 生活科の9領域を説明し、グループに分かれる （必要な準備） 生活科の9つの領域を調べておく
第6回	グループ・セッション	（内 容） グループを移動しながら意見交換を行う （必要な準備） 前回の内容を振り返っておく
第7回	グループ・セッション	（内 容） グループを移動しながら意見交換を行う （必要な準備） グループ内で出された意見をまとめておく
第8回	授業計画の策定 ねらい	（内 容） 授業計画をグループでまとめる （必要な準備） 計画作りに必要な材料や資料を用意しておく
第9回	授業計画の策定 方法	（内 容） 各グループ内で授業計画を完成させる （必要な準備） 計画作りに必要な材料や資料を用意しておく
第10回	季節の変化と生活 秋を体験する	（内 容） 学外の自然に触れ、季節の変化について体験する （必要な準備） 体験するための準備をしておく
第11回	ポスターセッション	（内 容） 授業計画を展示し、他グループの内容を参照する （必要な準備） 展示の準備をしておく
第12回	発表 前半グループ	（内 容） ポスターセッションの内容を発表する （必要な準備） 発表内容をまとめておく
第13回	発表 後半グループ	（内 容） ポスターセッションの内容を発表する （必要な準備） 発表内容をまとめておく
第14回	季節の変化と生活 秋を伝える	（内 容） 学外で体験した季節の変化について振り返る （必要な準備） 観察体験をまとめておく。学外での体験を授業計画に反映させる方法を考えておく
第15回	まとめ	（内 容） 半期の学びを総括し、試験について説明する （必要な準備） 半期間のまとめをしておく

授 業 名	幼児理解			開 講 学 年	3回生	単 位 数	2単位	
英 文 名	Understanding Infants			開 講 時 期	春学期	必修・選択	選択	
担 当 者	西川 由紀子			対 象 学 生	現代家政3回生			
授業の概要	講義形式の授業を通して、生活場面の随所に見られる子どもの力を正確にとらえ、その力が弱い場面では、的確な援助が出来るようになるための基礎的な学習を行う。具体的には、保育所での保育場面のビデオを視聴したり、指導計画とその展開の実践論文を読んだりして、保育場面でみられる子どもの姿を解説してゆく。また、子どもの理解にかかせない保護者と保育者の関係づくりに有効な、カウンセリングの基礎的トレーニングもおこなう。							
学 習 成 果 達 成 目 標	1) 子どもの発達を理解する。 2) 保育の中でそれがどう展開していくことができるかを考えられるようにする。							
評 価 方 法	定期試験 (90 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (10 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 (コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力	課題発見・解決能力)		
テ キ ス ト	保育計画研究会編「実践に学ぶ保育計画のつくり方・いかし方」ひとなる書房 西川由紀子「かかわりあって育つ子どもたち」かもがわ出版							
参 考 書	使用しない。							
留 意 事 項								
オ フ ィ ス ア ワ ー	毎週1回(休業期間中を除く。)オフィスアワーを設けます。							

授 業 名		幼児理解	
授 業 計 画	学 習 項 目	学 習 内 容 ・ 課 題	
第1回	子どもを理解するために必要なことは何か	(内 容) 子ども理解に必要なことを考える (必要な準備)	
第2回	0歳児の発達と保育	(内 容) 0歳児の発達と保育の特徴を保育場面から学ぶ (必要な準備) テキスト p40から読んでくる(30分)	
第3回	1歳児の発達と保育	(内 容) 1歳児の発達と保育の特徴を保育場面から学ぶ (必要な準備) テキスト p88から読んでくる(30分)	
第4回	2歳児の発達と保育(ビデオ編)	(内 容) 2歳児の発達と保育の特徴を保育場面から学ぶ (必要な準備) テキスト p126から読んでくる(30分)	
第5回	2歳児の発達と保育(場面記録編)	(内 容) 2歳児の発達と保育の特徴を保育場面から学ぶ (必要な準備) テキスト 2章を読んでくる(30分)	
第6回	3歳児の発達と保育(ビデオ編)	(内 容) 3歳児の発達と保育の特徴を保育場面から学ぶ (必要な準備) テキスト p146から読んでくる(30分)	
第7回	3歳児の発達と保育(場面記録編)	(内 容) 3歳児の発達と保育の特徴を場面記録から学ぶ (必要な準備) テキスト 3章を読んでくる(30分)	
第8回	4歳児の発達と保育(ビデオ編)	(内 容) 4歳児の発達と保育の特徴を保育場面から学ぶ (必要な準備) テキスト p200から読んでくる(30分)	
第9回	4歳児の発達と保育(場面記録編)	(内 容) 4歳児の発達と保育の特徴を場面記録から学ぶ (必要な準備) テキスト 4章を読んでくる(30分)	
第10回	5歳児の発達と保育(ビデオ編)	(内 容) 5歳児の発達と保育の特徴を保育場面から学ぶ (必要な準備) テキスト p232から読んでくる(30分)	
第11回	5歳児の発達と保育(場面記録編)	(内 容) 5歳児の発達と保育の特徴を場面記録から学ぶ (必要な準備) テキスト 5章を読んでくる(30分)	
第12回	保育相談の留意点	(内 容) ロジャースの3原則を解説する。 (必要な準備) プリントを読んでくる(30分)	
第13回	カウンセリングの実際(ロールプレイ)	(内 容) ロールプレイを行う (必要な準備) 前週のプリントを復習する(30分)	
第14回	カウンセリングの実際(振り返り)	(内 容) ロールプレイの振り返りを行う。 (必要な準備) ロールプレイの振り返りをしておく(30分)	
第15回	子どもの問題行動のとりえ方	(内 容) 子どもの問題行動をとらえる視点を解説する (必要な準備) プリントを読んでくる(30分)	

授業名	家族ソーシャルワーク論			開講学年	3回生	単位数	2単位	
英文名	Theory of Family Social Work			開講時期	春学期	必修・選択	選択	
担当者	流石 智子			対象学生	現代家政3回生			
授業の概要	<p>ソーシャルワークの包括的な理解と実際の援助活動への方法を学ぶ。家族を理解し、家族構成員の中に、障害を持っている子どもや介護の必要な高齢者、多くの問題をかかえている家族がいるなど、複雑化した家族問題があることを学ぶ。クライアントとしての家族への様々な支援が必要となるので、家族へのアプローチを検討していくことになる。その際、保育所、保健センター、児童相談所、地域包括支援センターなど多職種・多機関との連携のあり方等を学ぶ。</p>							
学習成果到達目標	<p>1) 家族が抱える問題がどのようなものかを理解することができる。 2) ソーシャルワークの包括的な理解と実際の援助活動への方法を理解することができる。 3) 特に家族をとりまく問題解決を、ソーシャルワークを通して学びを深めることができる。</p>							
評価方法	定期試験 (80 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (20 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評価基準	主たる評価の 観点	知識・理解 ()	コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力 ()	課題発見・解決能力 ()			
テキスト	喜多祐荘・小林 理編著『よくわかる ファミリーソーシャルワーク』ミネルヴァ書房							
参考書	授業にて指示する							
留意事項	授業で次回までに準備をしてほしい学習課題を出すので、事前の学習を積極的にしてもらいたい。アクティヴ・ラーニングを中心にして、グループでの討議を行い家族の問題を相互理解する時間を設ける。							
オフィス アワー	基本は、木曜日の12時10分～13時とします。在室の時は可能です。(時間が取れない時は、調整して連絡します。)研究室に掲示するので、確認してください。							

授 業 名		家族ソーシャルワーク論	
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題	
第1回	共同社会と家族の変容	(内 容) 変容する家族や共同社会について理解する。 (必要な準備) テキストの8～13頁を読み、理解しておく。(30分)	
第2回	家族と共同社会による子育て・教育・人間形成	(内 容) 家族や共同社会での子育て・人間形成について学ぶ。 (必要な準備) テキストの24～27頁を読み、理解しておく。(30分)	
第3回	家族システムの危機に対する社会による支援	(内 容) 家族の危機をどのように支援するかを学ぶ。 (必要な準備) テキストの36～39頁を読み、理解しておく。(30分)	
第4回	家族の問題解決支援の事例研究	(内 容) 家族の問題解決をどのように支援していくかを理解する。 (必要な準備) テキストの40～43頁を読み、理解しておく。(30分)	
第5回	家族福祉の必要性	(内 容) 家族福祉とソーシャルワークの視座について理解する。 (必要な準備) テキストの44～51頁を読み、理解しておく。(30分)	
第6回	ソーシャルワークの視座と方法	(内 容) 在宅や施設におけるソーシャルワークの方法について学ぶ。 (必要な準備) テキストの52～57頁を読み、理解しておく。(30分)	
第7回	子育て支援・子育て・親育ち支援の意義と活動	(内 容) 子育て支援の意義と活動について理解する。 (必要な準備) テキストの62～65頁を読み、理解しておく。(30分)	
第8回	障害児者・家族支援の意義と活動	(内 容) 障害児者・家族支援の意義と活動について学ぶ。 (必要な準備) テキストの66～69頁を読み、理解しておく。(30分)	
第9回	高齢者・介護家族支援について	(内 容) 高齢者・介護家族支援の意義と活動について理解する。 (必要な準備) テキストの70～75頁を読みまとめる。(30分)	
第10回	家族支援の制度・施策の現状と課題(家族・児童)	(内 容) 家族福祉サービスと児童家庭福祉サービスについて学ぶ。 (必要な準備) テキストの76～85頁について理解する。(30分)	
第11回	家族支援の制度・施策の現状と課題(障害児者・高齢者)	(内 容) 障害児者福祉のサービスと高齢者福祉サービスについて理解する。 (必要な準備) テキストの86～93頁を読み、理解しておく。(30分)	
第12回	家族支援の専門職とネットワーク	(内 容) 家族支援を専門的に行うことの理解とそのネットワークについて学ぶ。 (必要な準備) テキストの98～101頁を読み、理解しておく。(30分)	
第13回	事例：児童福祉施設の子どもと家族への支援	(内 容) 児童福祉施設に入所している子どもの家族支援の実際を学ぶ。 (必要な準備) テキストの144～151頁を読み、理解を深める。(30分)	
第14回	事例：離婚した親と子どもへの支援	(内 容) 離婚した親と子どもへの支援について考える。 (必要な準備) テキストの164～167頁を読み、理解する。(30分)	
第15回	事例：認知症の人と家族への支援	(内 容) 認知症がいる家族への支援について考える。 (必要な準備) テキストの188～193頁を読み、理解しておく。また、家族支援の必要性についてまとめておく。(1時間以上)	

授業名	衣生活論			開講学年	1回生	単位数	2単位	
英文名	Clothing and Human Life			開講時期	春学期	必修・選択	選択	
担当者	馬場 まみ			対象学生	現代家政1回生、食物栄養1回生			
授業の概要	<p>衣服について総合的に理解する。</p> <p>1. 衣服の役割について、</p> <p>2. 衣服の材料・構成・衛生・管理について</p>							
学習成果到達目標	<p>1) 衣服の機能を理解し、説明することができる。</p> <p>2) 快適な衣生活を営むために必要な知識を身につけ、実践することができる。</p>							
評価方法	定期試験 (90 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (10 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評価基準	主たる評価の 観点	知識・理解 (思考力)	コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力 ()		課題発見・解決能力 ()		
テキスト	消費者の視点からの衣生活概論 [井上書院]							
参考書	随時指示する。							
留意事項								
オフィス アワー	毎週1回(休業期間中を除く)設定する。ただし、会議や出張などで在室できない場合がある。							

授 業 名		衣生活論
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題
第1回	科目ガイダンス	(内 容) 講義の目的 (必要な準備) テキストに目を通す。(30分)
第2回	衣服の役割	(内 容) 衣服の役割について理解する (必要な準備) テキストの1章を読む。(30分)
第3回	衣服材料1:布の構造	(内 容) 織物と編物の構造を知る (必要な準備) テキストの25-30頁を読む。(30分)
第4回	衣服材料2:糸の種類	(内 容) 紡績糸とフィラメント糸について理解する (必要な準備) テキストの30-32頁を読む。(30分)
第5回	衣服材料3:繊維の種類	(内 容) 繊維の種類と特色を知る (必要な準備) テキストの31-32頁を読む。(30分)
第6回	衣服材料4:天然繊維	(内 容) 天然繊維の特徴を知る (必要な準備) テキストの33-34頁を読む。(30分)
第7回	衣服材料4:化学繊維	(内 容) 化学繊維の種類と特徴を知る (必要な準備) テキストの34-36頁を読む。(30分)
第8回	衣服のデザイン	(内 容) 衣服と色彩、デザインについて理解する (必要な準備) テキストの37-45頁を読む。(30分)
第9回	体型と衣服	(内 容) 体型と衣服の形について理解する (必要な準備) テキストの46-51頁を読む。(30分)
第10回	衣服のサイズ表示	(内 容) サイズ規格と表示について知る (必要な準備) テキストの51-59頁を読む。(30分)
第11回	型紙の作成	(内 容) 自分にあった型紙を作成する (必要な準備) 配付資料を読んでおく。(30分)
第12回	型紙の完成	(内 容) 型紙を完成させる (必要な準備) 配付資料を読んでおく。(30分)
第13回	快適な衣服:気候と衣服	(内 容) 体温調節と衣服について理解する (必要な準備) テキストの60-73頁を読む。(30分)
第14回	衣服の手入れと洗濯	(内 容) 洗濯と洗剤について理解する (必要な準備) テキストの74-87頁を読む。(30分)
第15回	現代社会と衣服	(内 容) 高機能衣服素材・ユニバーサルデザインについて理解する (必要な準備) テキストの88-128頁を読む。(30分)

授 業 名	衣生活実習			開 講 学 年	1回生	単 位 数	2単位	
英 文 名	Dress Making Practice			開 講 時 期	秋学期	必修・選択	選択	
担 当 者	乾 眞理子			対 象 学 生	現代家政1回生、食物栄養1回生			
授業の概要	市場には多種多様な衣料品が出回り、素材は日々変化している。そのような中、実習を通して、衣服の形状や布の特性、生産過程、管理の方法など衣服の基礎知識を深めることは、衣服の適切な選択、管理を行う上でも大変重要である。本実習では、基礎縫いとズボンやブラウスのデザインから型紙製作、縫製を行う。							
学 習 成 果 達 成 目 標	1) 基礎的な縫製の技術を身につける。 2) ズボンとブラウスを完成させる。							
評 価 方 法	定期試験 (60 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 (基本技術の習得	コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力) (課題発見・解決能力)			
テ キ ス ト	プリントを配布する。							
参 考 書	使用しない。							
留 意 事 項	教職を志望する学生は履修すること。							
オ フ ィ ス ア ワ ー	初回に提示する							

授 業 名		衣生活実習	
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題	
第1回	「ズボンの製作1」採寸、型紙作図	(内 容) 採寸と作図を行う。 (必要な準備) 裁縫道具の確認をして持参する(30分)。	
第2回	「ズボンの製作2」裁断・縫製	(内 容) 裁断と印付け、ミシンの使い方を理解し実践する。 (必要な準備) 前回までのところを完成し、レポートを作成しておく(20分)。	
第3回	「ズボンの製作3」縫製	(内 容) 本縫いと縫い代の始末を行う。 (必要な準備) 前回までのところを完成し、レポートを作成しておく(20分)。	
第4回	「ブラウス製作1」身頃の作図	(内 容) ブラウスの身頃を作図する。 (必要な準備) 前回までのところを完成し、レポートを作成しておく(20分)。	
第5回	「ブラウス製作2」袖・襟の作図	(内 容) ブラウスの袖・襟を製図する。 (必要な準備) 前回までのところを完成し、レポートを作成しておく(30分)。	
第6回	「ブラウス製作4」裁断としるしつけ	(内 容) 型紙から布を裁断し、印付けを行う。 (必要な準備) ブラウス用の布地・糸等を用意しておくこと。前回までのところを完成し、レポートを作成しておく(80分)。	
第7回	「ブラウス製作5」仮縫いと補正	(内 容) 仮縫い合わせ、補正を行う。 (必要な準備) 前回までのところを完成し、レポートを作成しておく(30分)。	
第8回	「ブラウス製作6」「本縫い(1)」本縫いの準備、身頃づくり	(内 容) 縫い代を整理し、ダーツ縫い、見返しの始末を行う。 (必要な準備) 前回までのところを完成し、レポートを作成しておく(30分)。	
第9回	「ブラウス製作7」「本縫い(2)」身頃作り	(内 容) 肩縫い合わせ、脇縫い合わせ、裾の始末を行う。 (必要な準備) 前回までのところを完成し、レポートを作成しておく(30分)。	
第10回	「ブラウス製作8」「本縫い(3)」襟作り	(内 容) 接着芯をはり、襟をつくる。 (必要な準備) 前回までのところを完成し、レポートを作成しておく(30分)。	
第11回	「ブラウス製作9」「本縫い(4)」袖作り	(内 容) 袖山をいせ込み、袖下・袖口を縫う。 (必要な準備) 前回までのところを完成し、レポートを作成しておく(30分)。	
第12回	「ブラウス製作10」「本縫い(5)」衿付け	(内 容) 襟を身頃につける。 (必要な準備) 前回までのところを完成し、レポートを作成しておく(30分)。	
第13回	「ブラウス製作11」「本縫い(6)」袖付け	(内 容) 袖を身頃につける。 (必要な準備) 前回までのところを完成し、レポートを作成しておく(30分)。	
第14回	「ブラウス製作12」「本縫い(7)」ボタンホール、ボタン付け、仕上げ	(内 容) ボタンホールを作り、ボタンを付ける。仕上げを行う。 (必要な準備) 前回までのところを完成し、レポートを作成しておく(30分)。	
第15回	試着とまとめ	(内 容) 試着、観察。部分縫いの製作を行う。 (必要な準備) 前回までのところを完成し、レポートを作成しておく(30分)。	

授 業 名	生活と色彩			開 講 学 年	1回生	単 位 数	2単位	
英 文 名	Life and Color			開 講 時 期	秋学期	必修・選択	選択	
担 当 者	山部 泰司			対 象 学 生	現代家政1回生、食物栄養1回生			
授業の概要	色彩理論を学び、色彩についての基礎知識と基礎能力の修得を目指すとともに、生活の中で色彩を有効に活用するため、他者とのコミュニケーションにおいて色彩が持ち得る役割について理解を深める。							
学 習 成 果 達 成 目 標	1) 衣食住における色彩について学ぶ。 2) 科学的、心理的、文化的アプローチや様々な色彩理論によって色彩の理解を深める。 3) ワークシートを使って、配色や色彩計画の演習を行う。							
評 価 方 法	定期試験 (60 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 (コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力	課題発見・解決能力)		
テ キ ス ト	『カラーコーディネーター入門色彩 改訂増補版』大井義雄、川崎秀昭著、(日本色研事業株式会社)							
参 考 書	使用しない。							
留 意 事 項	実際に色カードや絵の具による配色演習を行なう							
オ フ ィ ス ア ワ ー	担当授業終了後に実施する。							

授 業 名		生活と色彩
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題
第1回	色彩について1	(内 容) 導入 色彩にふれる (必要な準備) テキストに目を通しておく(15分程度)
第2回	色彩について2	(内 容) 光と色/目の働きについて理解する (必要な準備) テキストp.2~7を読む(30分程度)
第3回	色彩の体系と属性1	(内 容) 色名と表色系:色の記録と伝達について (必要な準備) テキストp.8~15を読む(30分程度)
第4回	色彩の体系と属性2	(内 容) 日本色研配色体系(PCCS)について (必要な準備) テキストp.16~19を読む(30分程度)
第5回	色彩の体系と属性3	(内 容) マンセルシステム、オストワルトシステム他 (必要な準備) テキストp.20~27を読む(30分程度)
第6回	色彩の混合1	(内 容) 色の混合:加法混色、減法混色等を理解する (必要な準備) テキストp.28~33を読む(30分程度)
第7回	色彩の混合2	(内 容) 色の混合の実験:色彩の混合を体験する (必要な準備) 今までの講義内容を確認しておく(30分程度)
第8回	照明/色彩の心理1	(内 容) 照明と色彩/色の見えの効果:見えないものが見えることについて (必要な準備) テキストp.34~39を読む(30分程度)
第9回	色彩の心理2	(内 容) 色の見えの効果:見えやすさ、見え方の変化 (必要な準備) テキストp.40~42を読む(30分程度)
第10回	色彩の心理3	(内 容) 色のイメージ:色の社会的な意味について (必要な準備) テキストp.43~47を読む(30分程度)
第11回	色彩調和の理論1	(内 容) 様々な基準に基づく色彩調和について (必要な準備) テキストp.48~53を読む(30分程度)
第12回	色彩調和の理論2	(内 容) 配色技法の体験 (必要な準備) テキストp.54~63を読む(30分程度)
第13回	色彩計画(カラープランニング)	(内 容) 配色技法の応用:日常空間の配色を考える (必要な準備) テキストp.70~71を読む(30分程度)
第14回	色彩計画(カラープランニング)	(内 容) 住空間の配色を考えてみる (必要な準備) テキストp.72~73を読む(30分程度)
第15回	まとめ	(内 容) 色彩についてのまとめ (必要な準備) ワーキングシートを完成させておく(必要な時間)

授 業 名	食の科学 (調理学)			開 講 学 年	1回生	単 位 数	2単位	
英 文 名	Food Science			開 講 時 期	春学期	必修・選択	選択	
担 当 者	豊原 容子			対 象 学 生	現代家政1回生			
授業の概要	調理は、安全で栄養効率のよいおいしい食べ物を調製するために行なう操作である。食物のもつ特性を理解し、科学理論に基づいた操作を行なうことができるよう基礎的事項について学ぶ。							
学 習 成 果 達 成 目 標	1) 調理の目的・調理理論を理解できる 2) おいしさに関する因子について理解できる 3) 理論を理解し日常の調理に実践することができる							
評 価 方 法	定期試験 (70 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (30 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 (汎用的能力)	コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力 ()	課題発見・解決能力 ()			
テ キ ス ト	調理学の基本 第三版 中嶋加代子編著 同文書院							
参 考 書	使用しない。							
留 意 事 項	常に自分の「食べているもの」を意識し、調理上の疑問を明らかにしておくこと							
オ フ ィ ス ア ワ ー	オフィスアワーの設定曜日・時間は研究室ドアに掲示します。それ以外でも研究室に在室していれば対応します。急ぎの場合は事前にメールで連絡してください。							

授 業 名		食の科学 (調理学)	
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題	
第1回	調理の意義と目的	(内 容) 調理の変遷、食事形態の特徴などについて知り調理の目的・意義について学ぶ (必要な準備) 教科書を読んでおく(30分)	
第2回	おいしさに関する要因1(食べ物の因子)	(内 容) おいしさに関与する食べ物の化学的・物理的因子などについて (必要な準備) 教科書を読んでおく(30分)	
第3回	おいしさに関する要因2(食べる人の因子)	(内 容) おいしさに関与する喫食者側の生理的・心理的因子などについて (必要な準備) 教科書を読んでおく(30分)	
第4回	食事計画と調理	(内 容) 食事計画における調理環境などの因子についての考え方 (必要な準備) 献立の立て方について復習しておく(30分)	
第5回	調理操作1(予備操作)	(内 容) 浸漬、洗浄、切断、混合他の操作と調理用具について (必要な準備) 教科書を読んでおく(30分)	
第6回	調理操作2(非加熱操作)	(内 容) 生食料理の注意事項、冷凍・冷蔵について (必要な準備) 教科書を読んでおく(30分)	
第7回	調理操作3(加熱操作)	(内 容) 湿式加熱、乾式加熱、誘電・誘導加熱の特徴について (必要な準備) 加熱調理器具の特徴について考えてまとめておく(30分)	
第8回	調理操作4(調味)	(内 容) 調味料の特徴と調味操作について (必要な準備) 家庭にある調味料の種類と利用状況について調べておく(30分)	
第9回	植物性食品の調理特性1(穀類)	(内 容) 米、小麦の成分と調理特性について (必要な準備) 米や小麦を使った調理例について調べておく(30分)	
第10回	植物性食品の調理特性2(豆類、イモ類)	(内 容) 豆、イモ類の成分と調理特性について (必要な準備) 教科書を読んでおく(30分)	
第11回	植物性食品の調理特性3(野菜類、果実類など)	(内 容) 野菜、果実の成分と調理特性について (必要な準備) 教科書を読んでおく(30分)	
第12回	動物性食品の調理特性1(食肉)	(内 容) 牛、豚、鶏肉の体組織の構造と調理特性について (必要な準備) 教科書を読んでおく(60分)	
第13回	動物性食品の調理特性2(魚介類)	(内 容) 魚介類の体組織の構造と調理特性について (必要な準備) よく利用される魚と魚料理にどのようなものがあるか調べておく(30分)	
第14回	動物性食品の調理特性3(卵類、乳・乳製品)	(内 容) 卵の構造・成分と調理特性、乳・乳製品の調理特性について (必要な準備) 教科書を読んでおく(30分)	
第15回	成分抽出素材・調味料の調理特性	(内 容) でんぷん、ゲル化材料、砂糖、塩などの調理特性について (必要な準備) 教科書を読んでおく(30分)	

授 業 名	住生活論			開 講 学 年	2回生	単 位 数	2単位	
英 文 名	Living Life Theory			開 講 時 期	春学期	必修・選択	選択	
担 当 者	川島 智生			対 象 学 生	現代家政2回生、食物栄養2回生			
授業の概要	<p>住むことと生活との関わり合いについて学ぶ。住居に関する機能や歴史などの基礎的な知識の習得をおこない、住宅図面の基礎的な読解能力ならびに作図能力を学習する。現在のわれわれが抱える少子高齢化や居住福祉、ライフスタイルなどといった居住をめぐる問題の解決方法を、住居のありようから探り、本当に快適な住環境とはどのようなものかについて総合的に考える。</p>							
学 習 成 果 達 成 目 標	<p>1) 今後のあるべき住居の理想像を生活の観点から提示できることを目標とする。 2) 住宅図面の基礎的な読解能力ならびに作図能力の習得を目標とする。 3) 住居に関する機能や歴史などの基礎的な知識の習得を目標とする。</p>							
評 価 方 法	定期試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 (コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力) (課題発見・解決能力) (
テ キ ス ト	未定							
参 考 書	図説・近代日本住宅史 内田青蔵 他 鹿島出版会 2001、住まいと家族をめぐる物語 西川祐子 集英社新書 2004							
留 意 事 項	外部の住宅見学を実施する。							
オ フ ィ ス ア ワ ー	オフィスアワーは設定しますが、研究室に在室していれば対応します。どうしても場合は、事前にメール又は直接申出を							

授 業 名		住生活論	
授 業 計 画	学 習 項 目	学 習 内 容 ・ 課 題	
第1回	住生活論を学ぶ意義	(内 容) 住まいの意味・日本人の住居観・住まいの快適さ (必要な準備)	
第2回	生活空間の計画	(内 容) 生活の分析・各空間の機能・寸法と単位 (必要な準備) テキストもしくは配布資料を事前学習	
第3回	住居の計画	(内 容) 間取りの意味・室空間の取扱 (必要な準備) テキストもしくは配布資料を事前学習	
第4回	現代の住宅	(内 容) 和風と洋風の住まい (必要な準備) テキストもしくは配布資料を事前学習	
第5回	日本の住宅史	(内 容) 伝統的な住まいのありよう (必要な準備) テキストもしくは配布資料を事前学習	
第6回	住宅見学(1)	(内 容) 京都市内の名作住宅の見学 (必要な準備) 方眼紙とメジャー、カメラなど	
第7回	外国の住宅史	(内 容) ヨーロッパ・アメリカ・アジア・アフリカ (必要な準備) テキストもしくは配布資料を事前学習	
第8回	集合住宅の意義	(内 容) 共同して住む家 (必要な準備) テキストもしくは配布資料を事前学習	
第9回	環境と住まい	(内 容) 気候風土と室内環境 (必要な準備) テキストもしくは配布資料を事前学習	
第10回	都市と住まい	(内 容) 市街化住宅(町家と長屋)と郊外型住宅(ニュータウン) (必要な準備) テキストもしくは配布資料を事前学習	
第11回	住宅見学(2)	(内 容) 京都市内の名作住宅の見学 (必要な準備) 方眼紙とメジャー、カメラなど	
第12回	住宅図面の読解能力(1)	(内 容) 設計図面の内容・表記方法 (必要な準備) 物差しなどを用意	
第13回	住宅図面の読解能力(2)	(内 容) 設計図面の内容・表記方法 (必要な準備) 物差しなどを用意	
第14回	名作住宅の紹介(1)	(内 容) 聴竹居・町家など京都の住宅を事例に (必要な準備) 配布資料を事前学習	
第15回	名作住宅の紹介(2)	(内 容) 住吉の長屋、山邑邸などの建築を事例に (必要な準備) 配布資料を事前学習	

授業名	食の科学（食品学）			開講学年	1回生	単位数	2単位	
英文名	Food Science			開講時期	秋学期	必修・選択	選択	
担当者	豊原 容子			対象学生	現代家政1回生			
授業の概要	健康を維持し豊かな食生活を送るためには、食品成分の特性さらにおいしさを感じさせる要因である食品の物性や機能性成分、食品中の化学変化などをよく理解し食品選択することが必要である。本講義ではこれらの食品に関する基礎的事項について学んでいく。							
学習成果到達目標	1) 食品に含まれている成分の特性が理解できる。 2) 食品のもつ機能について理解できる。 3) 食品の加工・調理による変化について理解できる。							
評価方法	定期試験 (70 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (30 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評価基準	主たる評価の 観点	知識・理解 (コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力	課題発見・解決能力)		
テキスト	最新 食品学・総論・各論-(第4版) 甲斐達男・石川洋哉 編 講談社							
参考書	食品解説つき新ビジュアル食品成分表「新しい食生活を考える会」編、(株)大修館書店							
留意事項	予習、復習をしっかりとすること。							
オフィス アワー	オフィスアワーの設定曜日・時間は研究室ドアに掲示します。それ以外でも研究室に在室していれば対応します。 急ぎの場合は事前にメールで連絡してください。							

授 業 名		食の科学 (食品学)
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題
第1回	食品とは	(内 容) 食品の定義および生活の変化により生じた食品の多様性について (必要な準備) シラバスを読んでおく。教科書p.1-5を予習しておく(30分)
第2回	食品の分類	(内 容) 食品成分表の目的と概要、食品の分類法 (必要な準備) 教科書p6-17を予習しておく(30分)
第3回	食品中の一般成分 三大栄養素	(内 容) 炭水化物、タンパク質、脂質の特性と食品中の働き (必要な準備) 教科書p18-56を予習しておく(60分)
第4回	食品中の一般成分 ビタミン、ミネラル	(内 容) ビタミン、ミネラルの特性と働き (必要な準備) 教科書p57-72を予習しておくこと(30分)
第5回	食品中の一般成分 水	(内 容) 水の働き (必要な準備) 教科書p73-75を予習しておく、一般成分について復習しておく(60分)
第6回	食品中の嗜好成分 色、香り、テクスチャー	(内 容) 色、香、テクスチャーに関わる成分の種類とその働き (必要な準備) 教科書p76-100を予習しておく(60分)
第7回	食品中のその他の成分	(内 容) 機能性成分および有毒成分の種類とその働き (必要な準備) 教科書p101-111を予習しておくこと(30分)
第8回	食品の加工による変化 褐変	(内 容) 酵素的褐変と非酵素的褐変について (必要な準備) 教科書112-120を予習しておくこと(30分)
第9回	食品の加工による変化 油脂	(内 容) 油脂の酸化について (必要な準備) 油脂の特徴について復習しておく(30分)
第10回	微生物・酵素を用いた食品の加工	(内 容) 微生物・酵素を用いた食品加工における食品成分の変化について (必要な準備) 教科書p121-126を予習しておくこと(30分)
第11回	植物性食品の特徴 穀類、芋類、豆類、種実類	(内 容) 穀類、芋類、豆類、種実類の特性および加工について (必要な準備) 教科書p127-141を予習しておくこと(60分)
第12回	植物性食品の特徴 野菜類、果物類、キノコ類、海藻類	(内 容) 野菜類、果物類、キノコ類、海藻類の特性および加工について (必要な準備) 教科書p142-162を予習しておくこと(60分)
第13回	動物性食品の特徴 肉類、魚類	(内 容) 肉類と魚類の特性および加工について (必要な準備) 教科書p163-170,185-193を予習しておく(30分)
第14回	動物性食品の特徴 卵類、乳類	(内 容) 卵類、乳類の特性および加工について (必要な準備) 教科書p171-184を予習しておく(30分)
第15回	その他の食品の特徴	(内 容) 新規に開発された食品などの特徴について (必要な準備) 遺伝子組み換え食品などについて調べておく(30分)

授業名	家庭経済学			開講学年	2回生	単位数	2単位
英文名	Home Economics			開講時期	秋学期	必修・選択	選択
担当者	足立 正樹			対象学生	現代家政2回生、食物栄養2回生		
授業の概要	<p>金銭で表わされる家庭の収入・支出関係を家計というが、ここで学ぶ家庭経済はこの家計よりも広い概念である。まず、生活経済システムの中で家庭経済はどのように位置づけられ、他のシステムとどのように関連しているのかを学ぶ。そしてさらに家計や家計費の構造、個人と家計の関係はどのようになっているのかを理解する。講義形式の授業を通して、多様化する個人の価値観やライフスタイルの変化も視野に入れながら、制度やシステムの課題にもアプローチしていく。</p>						
学習成果到達目標	<p>1) 家庭経済の基本的事実と経済システムとの関連についての基礎的知識を習得する。 2) 家庭経済が果たしている機能を理解する。</p>						
評価方法	定期試験 (70 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (30 %)	筆記試験 口述	レポート 実習 制作物 実技
評価基準	主たる評価の 観点	知識・理解 (コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力) (課題発見・解決能力)		
テキスト	使用しない。						
参考書	使用しない。						
留意事項							
オフィス アワー	担当授業の前後に行う。						

授 業 名		家庭経済学
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題
第1回	家庭経済の概念	(内 容) 家庭経済とは何か (必要な準備) 家庭経済という言葉の意味を調べておく。
第2回	家庭経済と経済学	(内 容) 経済学はどのような学問か (必要な準備) 経済学の考え方を理解しておく。
第3回	近代化と生活の変化	(内 容) 「近代」という時代の特徴 (必要な準備) 「近代」について調べておく。
第4回	市場システムの特徴	(内 容) 市場とはいかなるシステムでどのような役割を果たしているか (必要な準備) 物の価格がどのように決められているか考えてみる。
第5回	市場の機能条件	(内 容) 市場が適切に機能するためにはいかなる条件が必要か (必要な準備) 完全競争について調べておく。
第6回	市場の失敗	(内 容) 市場はいかなる限界をもっているか (必要な準備) 市場の失敗とはどのようなことが調べる。
第7回	消費行動の経済分析(1)	(内 容) 消費の目的は何か (必要な準備) 自分が物やサービスを購入するときの目的を考えてみる。
第8回	消費行動の経済分析(2)	(内 容) 個々の財の消費はどのように決定されるか (必要な準備) 自分が物やサービスの購入において考慮する項目・条件についてまとめておく。
第9回	勤労行動の経済分析(1)	(内 容) 労働供給はどのように決定されるか (必要な準備) 働く目的にはどのようなものがあるかを調べる。
第10回	勤労行動の経済分析(2)	(内 容) 労働・自由時間はどのように決定されるか (必要な準備) 労働時間の推移を調べる。
第11回	家庭経済と無償労働	(内 容) 無償労働は如何なる役割を果たしているか (必要な準備) 無償労働にはどのようなものがあるか考えてみる。
第12回	家庭経済と少子化問題	(内 容) 無償労働としての育児活動の困難 (必要な準備) 育児活動の困難を調べる。
第13回	少子化と年金問題	(内 容) 年金制度が少子化を促進する (必要な準備) 少子化と年金のかかわりを調べておく。
第14回	高齢化と家庭経済	(内 容) 高齢者介護にはいかなる方式が適しているか (必要な準備) 介護の諸方式を調べておく。
第15回	家庭経済の展望	(内 容) これからの家庭経済はいかにあるべきか (必要な準備) 家庭経済のあるべき姿を考えておく。

授業名	生活経営学			開講学年	3回生	単位数	2単位	
英文名	Theory of Life Management			開講時期	春学期	必修・選択	選択	
担当者	斧出 節子			対象学生	現代家政3回生			
授業の概要	個人における日常の生活は、家族や家庭外のさまざまなシステムとかがわっており、それらといかにかうまく連携し、新たなシステムを作っていくかが生活の質を決定していく。つまり、生活者がいかに自分自身のもっている資源や自分の外にある外部資源をうまくマネジメントしていくかが重要なこととなる。そこで本講義では、くらしを取り巻くシステム、システム間の連関、課題など、生活の諸次元の現状と問題点を学び、生活経営の新たな試みの現状を探っていく。							
学習成果到達目標	1) 自分自身の生活を営むことには、さまざまな社会の領域がかかっているということを理解できる。 2) どのようなシステムが、個々のウェルビーイングの達成を可能にするのかを考えることができる。							
評価方法	定期試験 (60 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評価基準	主たる評価の 観点	知識・理解 (積極的な授業態度	コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力	課題発見・解決能力)		
テキスト	『暮らしを作りかえる生活経営力』日本家政学会生活経営学部会編(朝倉書店)							
参考書	『下層化する女性たち：労働と家庭からの排除と貧困』宮本みち子ほか編(勁草書房)、『ライフコースから見た女性学・男性学』乙部由子(ミネルヴァ書房)							
留意事項	アクティブ・ラーニングの方法を積極的に用い、ワークショップを催し、個々のプレゼンテーションの機会を設ける。							
オフィス アワー	毎週1回(休業期間中を除く。)オフィスアワーを設けます。具体的な日時は研究室に張り出します。 【備考】オフィスアワーに設定している時間帯であっても、会議や出張などで在室できない場合があります。また、あらかじめ予約が必要な場合がありますので、その場合は、メールまたは直接申し出るようにしてください							

授 業 名		生活経営学
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題
第1回	オリエンテーション	(内 容) 授業の進め方について説明する。 (必要な準備) シラバスを読んでおく。
第2回	生活枠組みの変容と新たな生活経営主体の形成	(内 容) 家族や雇用の変化について理解する。 (必要な準備) テキストを読んでおく。(30分)
第3回	生活枠組み変容の事例	(内 容) 価値観の変化について理解する。 (必要な準備) テキストを読んでおく。(30分)
第4回	経済システムと家族・個人	(内 容) 家族や個人が経済システムの中でどのように位置づけられているのかを理解する。 (必要な準備) 前回のまとめをしておく。(30分)
第5回	家事・子育て・介護と社会保障	(内 容) ワークショップを行い、家事・子育て・介護の社会的な位置づけについて理解する。 (必要な準備) ワークショップの準備をしておく。(30分)
第6回	女性の就業と生活経営	(内 容) 女性の就業についての問題を理解する。 (必要な準備) 資料を収集し、まとめておく。(30分)
第7回	就業と法律	(内 容) 就業に関連した法律について学ぶ。 (必要な準備) 前回のまとめをしておく。(30分)
第8回	就業と母性保護	(内 容) 母性保護に関連した法律について学ぶ。 (必要な準備) 配布資料を読んでおく。(30分)
第9回	生活の社会化と生活資源	(内 容) 生活資源の調達について考える。 (必要な準備) テキストを読んでおく。(30分)
第10回	生活の社会化と生活資源をコントロールした事例研究	(内 容) 保育の社会化の事例などについて学ぶ。 (必要な準備) テキストを読んでおく。(30分)
第11回	参加と協働でつくる組織	(内 容) 第3セクターの実態・可能性について考える。 (必要な準備) テキストを読んでおく。(30分)
第12回	新しい協働のケーススタディ	(内 容) コレクティブハウス等の事例について学ぶ。 (必要な準備) テキストを読んでおく。(30分)
第13回	福祉社会と生活保障	(内 容) 福祉レジームについて学ぶ。 (必要な準備) 配布資料を読んでおく。(30分)
第14回	個人と社会を結ぶ生活保障システムの構築	(内 容) 今後の生活保障システムについて考える。 (必要な準備) 前回のまとめをしておく。(30分)
第15回	まとめ	(内 容) これまでの授業のふりかえりをする。 (必要な準備) 半期間の授業のまとめをしておく。(30分)

授 業 名	家族社会学			開 講 学 年	2回生	単 位 数	2単位	
英 文 名	Family Sociology			開 講 時 期	春学期	必修・選択	選択	
担 当 者	斧出 節子			対 象 学 生	現代家政2回生			
授業の概要	<p>私たちは出生から死亡までの一生を通じて、あらゆるライフステージにおいて家族とさまざまな関わりをもちながら生活している。つまり多くの人々が自分自身の「家族にかかわる体験」をもつため、個々が経験したり見聞きしたりすることを一般化しがちで、相対化することが難しい。そこで本講義では、家族にかかわる現象を理解するため、家族社会学についての基礎的な概念や家族社会学の方法を学び、家族の相対化を試みる。できるだけグループワークなどの手法を用いながら、参加型の授業にしていきたい。</p>							
学 習 成 果 達 成 目 標	<p>1) 家族に関する現象を客観的に分析する視点をもつことにより、「家族問題」とされている事象を多角的に分析できるようになる 2) データを読み解く力がつく</p>							
評 価 方 法	定期試験 (80 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (20 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 (積極的な授業参画態度)	コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力	課題発見・解決能力			
テ キ ス ト	『よくわかる現代家族』神原文子ほか編著、ミネルヴァ書房 ほか配布プリント							
参 考 書	『21世紀家族へ 第3版』落合恵美子(有斐閣) 『家族を超える社会学』牟田和恵編著(新曜社) 『未来をひらく男女共同参画』西岡正子(ミネルヴァ書房)							
留 意 事 項	授業時には積極的な発言が期待されます。							
オ フ ィ ス ア ワ ー	毎週1回(休業期間中を除く。)オフィスアワーを設けます。具体的な日時は研究室に張り出します。 【備考】オフィスアワーに設定している時間帯であっても、会議や出張などで在室できない場合があります。また、あらかじめ予約が必要な場合がありますので、その場合は、メールまたは直接申し出るようにしてください							

授 業 名		家族社会学	
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題	
第1回	家族とは何かーファミリー・アイデンティティ	(内 容) 主観的家族について考える (必要な準備) シラバスを確認しておく	
第2回	近代家族の成立	(内 容) 近代家族の成立過程について理解をする (必要な準備) テキストの関連箇所を読んでおく(30分)	
第3回	家族の変化: 家族機能	(内 容) 家族機能の変化について学ぶ (必要な準備) テキストの関連箇所を読んでおく(30分)	
第4回	家族の自助原則	(内 容) 家族の自助原則・地域社会との関係について理解する。 (必要な準備) 前回の授業をまとめておく(30分)	
第5回	戦後の子育ての変化1	(内 容) 戦後から高度経済成長期までの子育てについて理解する。 (必要な準備) テキストの関連箇所を読んでおく(30分)	
第6回	戦後の子育ての変化2	(内 容) 高度経済成長期以降の子育てについて理解する。 (必要な準備) テキストの関連箇所を読んでおく(30分)	
第7回	家族の変化: 家族形態	(内 容) 家族形態の変化について学ぶ (必要な準備) テキストの関連箇所を読んでおく(30分)	
第8回	結婚の動向: 未婚化・晩婚化の実情	(内 容) 晩婚化・未婚化の実態について学ぶ (必要な準備) テキストの関連箇所を読んでおく(30分)	
第9回	結婚の動向: 未婚化・晩婚化の要因	(内 容) 未婚化・晩婚化の要因について考える。 (必要な準備) テキストの関連箇所を読んでおく(30分)	
第10回	出産と少子化	(内 容) 少子化の現状とその要因・影響について学ぶ (必要な準備) テキストの関連箇所を読んでおく(30分)	
第11回	生殖技術と家族: 技術の現状	(内 容) 生殖技術の実態について理解する。 (必要な準備) テキストの関連箇所を読んでおく(30分)	
第12回	生殖技術と家族: 課題	(内 容) 生殖技術の家族への影響について理解する。 (必要な準備) テキストの関連箇所を読んでおく(30分)	
第13回	家族における抑圧と暴力	(内 容) 愛情規範と暴力の関係について考える。 (必要な準備) テキストの関連箇所を読んでおく(30分)	
第14回	「純粋な関係」について	(内 容) 「純粋な関係」の概念を理解する。 (必要な準備) テキストの関連箇所を読んでおく(30分)	
第15回	まとめ	(内 容) 半期間の学びの振り返りとまとめ (必要な準備) 半期間のまとめをしておく(30分)	

授 業 名	比較家族論		開 講 学 年	2回生	単 位 数	2単位		
英 文 名	Comparative Study of Family		開 講 時 期	秋学期	必修・選択	選択		
担 当 者	秋山 裕之		対 象 学 生	現代家政2回生				
授業の概要	一口に家族といってもそのありようは様々であり、社会・文化・宗教によって多様な形態をとる。本講義では「子を育て、生をつなぐための、親族を基盤とした社会的装置」として家族を位置づけ、世帯レベルだけでなくそれを内包する親族集団をも射程にとらえて、多様な家族像を通文化的かつ人類史的に概観する。それらの多様性をふまえたうえで、現代日本における家族のありようの動態をとらえ、将来の日本の家族像を展望する。							
学 習 成 果 達 成 目 標	1)文化・地域・歴史などにより家族は多様であることを学び、家族の形と社会のあり方の関係を理解する。 2)子を育てる社会的装置としての機能に注目し、日本の家族が抱える問題について考える。							
評 価 方 法	定期試験 (60 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 (コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力	課題発見・解決能力)		
テ キ ス ト	使用しない。プリントを配布する。							
参 考 書	授業中に適宜紹介する。							
留 意 事 項	受講生による討論を行います。積極的に発言してください。							
オ フ ィ ス ア ワ ー	週に1時間×1回設定。曜日・時間帯は学生演習室にて掲示。							

授 業 名		比較家族論	
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題	
第1回	家族とは何か～はじめに	(内 容) 家族の定義について考える (必要な準備) 「家族とは何か」について考えておく(30分)	
第2回	家族の起源	(内 容) 霊長類の社会集団 (必要な準備) 資料を読んでおく(30分)	
第3回	アフリカ狩猟採集民 1	(内 容) ブッシュマンの家族と親族集団 1 (必要な準備) 資料を読んでおく(30分)	
第4回	アフリカ狩猟採集民 2	(内 容) ブッシュマンの家族と親族集団 2 (必要な準備) 資料を読んでおく(30分)	
第5回	東アフリカ牧畜民	(内 容) 東アフリカ牧畜民の家族と親族集団 (必要な準備) 資料を読んでおく(30分)	
第6回	アフリカ農耕民	(内 容) アフリカ農耕民の家族と親族集団 (必要な準備) 資料を読んでおく(30分)	
第7回	極北インディアン	(内 容) ヘヤー・インディアンにおける家族 (必要な準備) 資料を読んでおく(30分)	
第8回	イスラム圏	(内 容) イスラム教圏における家族 (必要な準備) 資料を読んでおく(30分)	
第9回	西洋	(内 容) 西洋キリスト教社会における家族 (必要な準備) 資料を読んでおく(30分)	
第10回	タイ	(内 容) 仏教圏の家族 (必要な準備) 資料を読んでおく(30分)	
第11回	韓国	(内 容) 家父長制と儒教理念 (必要な準備) 資料を読んでおく(30分)	
第12回	一妻多夫	(内 容) 一妻多夫性の家族 (必要な準備) 資料を読んでおく(30分)	
第13回	多様な家族：家族と社会の関係	(内 容) 家族と社会の関係・日本の家族 (必要な準備) 討論に備えて自分の考えをまとめておく(30分)	
第14回	子を育てる社会的装置	(内 容) 子育ての比較文化論 (必要な準備) 討論に備えて自分の考えをまとめておく(30分)	
第15回	家族とは何か～おわりに	(内 容) 授業をふまえて家族について考える (必要な準備) 討論に備えて自分の考えをまとめておく(30分)	

授業名	服装社会学			開講学年	3回生	単位数	2単位	
英文名	Theory of Clothing Society			開講時期	春学期	必修・選択	選択	
担当者	馬場 まみ			対象学生	現代家政3回生			
授業の概要	<p>服装は、社会生活を営むうえで重要な役割を果たしている。歴史的にも、社会階層やジェンダー意識などを反映して形成されてきた。近代以降、服装が社会制度や規範意識を反映してどのように変遷してきたのかを知り、服装の社会的機能について理解する。</p>							
学習成果到達目標	<p>1) 服装が歴史的にどのような役割を担っていたのか説明することができる。 2) 現代の服装の多様な役割について説明することができる。</p>							
評価方法	定期試験 (90 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (10 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評価基準	主たる評価の 観点	知識・理解 (思考力)	コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力 ()	課題発見・解決能力 ()			
テキスト	使用しない。							
参考書	授業で随時紹介する。							
留意事項								
オフィス アワー	毎週1回（休業期間中を除く）設定します。ただし、会議や出張などで対応できない場合があります。							

授 業 名		服装社会学	
授 業 計 画	学 習 項 目	学 習 内 容 ・ 課 題	
第1回	科目ガイダンス	(内 容) 授業の概要。 (必要な準備) シラバスを読んでおく。(10分)	
第2回	近代社会と服装	(内 容) 近代化の過程について理解する。 (必要な準備) 近代社会について調べる。(30分)	
第3回	資料にみる近代庶民の生活と服装	(内 容) 近代化と庶民の装いについて理解する。 (必要な準備) 配付資料を読んでおく。(30分)	
第4回	近代社会と服装 - 近代化と庶民の服装の変化	(内 容) 庶民の装いの変化について理解する。 (必要な準備) 配付資料を読んでおく。(30分)	
第5回	近代社会と服装 - 上層階級の服装の変化	(内 容) 近代化と洋服の導入の過程を知る。 (必要な準備) 配付資料を読んでおく。(30分)	
第6回	資料にみる上層階級の服装	(内 容) 近代化と洋服の意味づけについて理解する。(30分) (必要な準備) 配付資料を読んでおく。(30分)	
第7回	近代社会と服装 - 近代化と洋服	(内 容) 洋服の定着について知る。 (必要な準備) 配付資料を読んでおく。(30分)	
第8回	近代社会と服装 - 和服の意味づけ	(内 容) 近代の和服観について理解する。 (必要な準備) 配付資料を読んでおく。(30分)	
第9回	近代社会と服装 - 洋服・和服とジェンダー	(内 容) 近代の服装とジェンダーについて理解する。 (必要な準備) ジェンダーについて調べる。(30分)	
第10回	近代社会と服装 - 近代的和服の形成	(内 容) 和服のデザインと百貨店の役割について理解する。 (必要な準備) 配付資料を読んでおく。(30分)	
第11回	ヨーロッパの服装	(内 容) 19世紀の西洋の服装を知る。 (必要な準備) 配付資料を読んでおく。(30分)	
第12回	コルセットからの解放とデザイナーの活躍	(内 容) 20世紀の女性の生活と服装について理解する。 (必要な準備) デザイナーについて調べる。(30分)	
第13回	服装と階層・ジェンダー	(内 容) 女性の生活と服装について理解する。 (必要な準備) 配布資料を読んでおく。(30分)	
第14回	高度経済成長とアパレル産業の発達	(内 容) 現代ファッションとアパレル産業について理解する。 (必要な準備) アパレル産業について調べる。(30分)	
第15回	総括	(内 容) 現代の服装と社会の関係を理解する。 (必要な準備) 授業を振り返り考えたことをまとめておく。(30分)	

授業名	食文化			開講学年	3回生	単位数	2単位	
英文名	Food Culture			開講時期	春学期	必修・選択	選択	
担当者	饗庭 照美			対象学生	現代家政3回生			
授業の概要	わが国は南北に細長く、地域により様々な自然環境や風土を有し、各地域で伝統的な食文化が形成されてきた。日本はアジアモンスーン圏として「米と魚」を柱とする特徴を持っており、各地域独特の伝統料理や在来の食材がある。京都、滋賀を中心に食文化の特徴をとらえ、行事食、祭りの食についても学んでいく。							
学習成果到達目標	1) 日本食の特徴、地域の伝統食材、料理、行事食、祭りの食への理解を深める。 2) 世界的な視野から日本の食文化を捉えることを修得する。 3) 故郷の伝統食材と食文化への理解を深める。							
評価方法	定期試験 (70 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (30 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評価基準	主たる評価の 観点	知識・理解 (コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力)	(課題発見・解決能力)	
テキスト	資料を配付する。							
参考書	『日本の食生活全集』『聞き書京都の食事』『聞き書滋賀の食事』【農文協】、食文化論【建帛社】、改訂栽培食物の起源と伝播【二宮書店】							
留意事項	授業で配布するプリント資料について調べておくこと。							
オフィスアワー	研究室に日時を添付するので、確認してください。							

授 業 名		食文化	
授 業 計 画	学 習 項 目	学 習 内 容 ・ 課 題	
第1回	栽培植物の起源と食文化圏	(内 容) 文明と栽培植物、世界の食文化マップ (必要な準備) シラバスを読んでおく(30分)	
第2回	雑穀文化	(内 容) 世界の雑穀文化と日本の雑穀 (必要な準備) 配布資料について調べておく(30分)	
第3回	いも文化	(内 容) 世界の芋文化と日本の芋文化 (必要な準備) 配布資料について調べておく(30分)	
第4回	豆文化	(内 容) 世界の豆文化と日本の豆文化 (必要な準備) 配布資料について調べておく(30分)	
第5回	稲作の歴史と米文化	(内 容) 稲作、飯、餅文化について (必要な準備) 配布資料について調べておく(30分)	
第6回	小麦粉の文化	(内 容) 世界の小麦粉文化と日本の麺類について (必要な準備) 配布資料について調べておく(30分)	
第7回	魚食文化	(内 容) 京都の魚食文化 (必要な準備) 配布資料について調べておく(30分)	
第8回	淡水魚文化とナレズシ	(内 容) 淡水魚文化の特徴とナレズシ (必要な準備) 配布資料について調べておく(30分)	
第9回	野菜と漬物文化	(内 容) 京都の伝統野菜と京漬物 (必要な準備) 配布資料について調べておく(30分)	
第10回	世界の発酵食品と日本の発酵食品	(内 容) 発酵食文化、味噌、醤油、魚醤、乳発酵食品 (必要な準備) 配布資料について調べておく(30分)	
第11回	精進料理	(内 容) 各種の精進料理の特徴 (必要な準備) 配布資料について調べておく(30分)	
第12回	茶道・茶懐石・和菓子	(内 容) 茶道と茶懐石、茶道の和菓子の文化 (必要な準備) 配布資料について調べておく(30分)	
第13回	日本の雑煮文化・おせち料理	(内 容) 全国の雑煮・おせち料理の地域ごとの特色 (必要な準備) 配布資料について調べておく(30分)	
第14回	自分の故郷の伝統料理について(前半グループ発表)	(内 容) 自分の故郷の伝統料理について調べ、発表する (必要な準備) 発表準備(1時間)	
第15回	自分の故郷の伝統料理について(後半グループ発表)、授業の総括	(内 容) 自分の故郷の伝統料理について調べ、発表する (必要な準備) 発表準備(1時間)	

授業名	服装文化			開講学年	3回生	単位数	2単位	
英文名	Clothing Culture			開講時期	秋学期	必修・選択	選択	
担当者	馬場 まみ			対象学生	現代家政3回生			
授業の概要	「洋服」以外の衣服、民族服について、どのようにして形成されたのかについて理解する。興味をもったアジアやヨーロッパの民族服について調べ、発表する。さらに、日本の和服に関するテーマを設定して調べ、発表する。これらのことを通し、服装に関する理解を深める。							
学習成果到達目標	1) 民族服について説明できる。 2) 日本の服飾文化について説明することができる。							
評価方法	定期試験 (60 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評価基準	主たる評価の 観点	知識・理解 (思考力)	コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力 ()	課題発見・解決能力 ()			
テキスト	指定しない							
参考書	授業で随時紹介する。							
留意事項								
オフィス アワー	毎週1回(休業期間中を除く)設定する。ただし、会議や出張などで対応できない場合がある。							

授 業 名		服装文化	
授 業 計 画	学 習 項 目	学 習 内 容 ・ 課 題	
第1回	科目ガイダンス	(内 容) 科目ガイダンス (必要な準備) シラバスを読み、民族服について考える。(30分)	
第2回	民族服とは	(内 容) 民族服について理解する。 (必要な準備) 配付資料を読む。(30分)	
第3回	近代化と民族服形成	(内 容) 民族服の形成について理解する。 (必要な準備) 配付資料を読む。(30分)	
第4回	民族服について調べる 国の歴史と服装	(内 容) 民族の歴史と着用状況について調べる。 (必要な準備) 必要な資料を準備する。(30分)	
第5回	民族服について調べる 衣服の形	(内 容) 民族服の男女それぞれの衣服の形と特徴を調べる。 (必要な準備) 必要な資料を準備する。(30分)	
第6回	民族服について調べる 染織技法と文様	(内 容) 民族服の染織技法と文様について調べる。 (必要な準備) 必要な資料を準備する。(30分)	
第7回	世界の民族服について発表する	(内 容) 民族服について発表する。 (必要な準備) 発表に必要な資料を作成する。(30分)	
第8回	世界の民族服と洋服	(内 容) 民族服と洋服の関係について理解する。 (必要な準備) 発表内容について振り返りを行う。(30分)	
第9回	和服の概要	(内 容) 和服について知る。 (必要な準備) 配付資料を読む。(30分)	
第10回	和服について調べる 歴史	(内 容) 和服の歴史について調べる。 (必要な準備) 必要な資料を準備する。(30分)	
第11回	和服について調べる 種類	(内 容) 和服の種類について調べる。 (必要な準備) 必要な資料を準備する。(30分)	
第12回	和服について調べる 染織技法と文様	(内 容) 和服に用いられている染織技法とについて調べる。 (必要な準備) 必要な資料を準備する。(30分)	
第13回	和服について発表する	(内 容) 和服について調べたことを発表する。 (必要な準備) 発表資料の作成。(30分)	
第14回	現代の和服産業	(内 容) 現代の和服産業の状況について講義する。 (必要な準備) 和服産業について調べてくる。(30分)	
第15回	総括	(内 容) 全体のまとめ (必要な準備) これまでの振り返りを行う。(30分)	

授業名	児童文化論			開講学年	4回生	単位数	2単位	
英文名	Cultural Studies of Children			開講時期	春学期	必修・選択	選択	
担当者	岸 優子			対象学生	現代家政4回生			
授業の概要	<p>1) 近代以降、大人たちは子どもたちをいかに見、その文化を創り上げてきたのかを学ぶ。 2) 遊びや玩具、児童文化財の検討を通して具体的に検証する。 3) 子ども固有のものの方、考え方、感じ方について理解できる。</p>							
学習成果到達目標	<p>1) 子ども の社会的歴史的変遷に対する理解できる。 2) 子ども に対するおとなのまなざしの歴史的認識を習得する。 3) 具体的な遊び、児童文化財および子どもの世界観の把握し、実際に自分の言葉で3分間のプレゼンテーションができる。</p>							
評価方法	定期試験 (60 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評価基準	主たる評価の 観点	知識・理解 (コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力) (課題発見・解決能力)			
テキスト	使用しない。							
参考書	使用しない。							
留意事項	受講生の興味・関心に応じて、毎回のテーマは柔軟に対応することもある。							
オフィス アワー	授業後に実施する。							

授 業 名		児童文化論	
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題	
第1回	ガイダンス 授業の目的および詳細について	(内 容) 授業の目的や内容、取り組みについて理解する。 (必要な準備) シラバスを読んでおく。(10分)	
第2回	子ども とは何か 1	(内 容) 子ども という存在について考える (必要な準備) 子ども の定義について自分なりに考えておく。(30分)	
第3回	子ども とは何か 2	(内 容) 「子どもの発見」についての考え方を理解する 1 (必要な準備) 子どもの頃の忘れられない思い出について書いてくる。(40分)	
第4回	子ども とは何か 3	(内 容) 子どものものの見方、感じ方、考え方を学ぶ 2 (必要な準備) 子どもの頃どのようなことをして過ごしていたか、楽しかったこと、悲しかったことなど覚えていることを書いてくる。(40分)	
第5回	子ども とは何か 4	(内 容) 子どもと大人の関係性について学ぶ 3 (必要な準備) 子どもと大人の関係について考える。幼少期の経験の中で印象に残った出来事を考えてくる。(40分)	
第6回	子ども の遊びの種類について 1	(内 容) 遊びとは何かについて学習する。 (必要な準備) 子どもの頃の楽しかった遊びについて書いてくると共に、その理由を考えてくる。(40分)	
第7回	子ども の遊びの種類について 2	(内 容) 具体的な遊びの内容について知る 1 (必要な準備) 子どもの頃、ひとりで熱中した遊びの詳細について書いてくる。(40分)	
第8回	子ども の遊びの種類について 3	(内 容) 具体的な遊びの内容について知る 2 (必要な準備) 子どもの頃、友達と夢中になった遊びについて書いてくる。(40分)	
第9回	子ども の遊びの種類について 4	(内 容) 具体的な遊びの内容について知る 3 (必要な準備) 戸外の遊びについて調べておく。	
第10回	子ども の遊びの種類について 5	(内 容) 具体的な遊びの内容について知る 4 (必要な準備) かごめかごめについて調べておく。(40分)	
第11回	子ども の遊びの種類について 6	(内 容) 具体的な遊びの内容について知る 5 (必要な準備) ビーズについて調べておく。(40分)	
第12回	子ども の遊び まとめ	(内 容) 子ども の遊びについて考える。 (必要な準備) かつて行われていた遊びについてまとめておく。(60分)	
第13回	玩具と子ども	(内 容) 子ども向け玩具について考える。 (必要な準備) かつて自ら遊んだ玩具を思い出し、気に入っていた点をまとめておく。(40分)	
第14回	現代の玩具	(内 容) 現代のさまざまな玩具を取り上げ、昔の玩具との違いについて考える。 (必要な準備) 玩具とはなにか、自分なりに考えをまとめておく。(40分)	
第15回	これまでの内容を振り返ることで気づいたこと、考えたことをまとめる。	(内 容) 授業のまとめをし、児童文化について今後の課題を考える。 (必要な準備) 児童文化とは何か、考えをまとめておく。(50分)	

授業名	保育原理 u			開講学年	1回生	単位数	2単位	
英文名	Principles of Child Care			開講時期	春学期	必修・選択	選択	
担当者	流石 智子			対象学生	現代家政1回生			
授業の概要	<p>子どもの育ちを考えると、保育の問題は社会状況と深くかかわりながら行われてきた。この授業では、保育の理念や概念、保育制度などの理解を深める。また、保育所保育指針や保育の特性、保育実践等について乳幼児の発達を理解しながら学ぶ。また、保育の歴史にもふれ、保育の現状と課題についても考える。</p>							
学習成果到達目標	<p>1) 現代家庭の保育事情を理解することができる。 2) 保育の理念、保育制度、保育所保育指針の内容、保育実践などについて理解することができる。 3) 保育の歴史を学び、これからの日本の保育について考察することができる。</p>							
評価方法	定期試験 (80 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (20 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評価基準	主たる評価の 観点	知識・理解 (思考・判断力	コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力	課題発見・解決能力)		
テキスト	天野珠路・北野幸子編著 『基本保育シリーズ 保育原理』中央法規 2015年							
参考書	随時指示する。							
留意事項	授業で課題を出し、レポート提出をする。そのテーマは、事前学習や事後学習との関連で行う。ビデオを見ることもあり、レポート提出で考察を求めることもある。							
オフィスアワー	木曜日の12時10分～13時を基本とします。在室の時は可能です。(時間が取れない時は、あとで連絡をします。メールにより、予約も可能です。) 研究室に掲示をするので、確認してください。							

授 業 名		u
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題
第1回	保育の理念と概念	(内 容) 保育の理念、概念・子どもを育てること (必要な準備) テキストp2～13を読み、まとめる。(30分)
第2回	保育の社会的役割	(内 容) 子どもの権利擁護・保育所の社会的責任 (必要な準備) テキストp14～25を読み、まとめる。(30分)
第3回	保育の制度	(内 容) 保育制度と地域の子育て事業 (必要な準備) テキストp26～37を読み、保育と制度を理解する。(30分)
第4回	保育所保育指針について	(内 容) 保育所保育指針と幼保連携型認定子ども園 (必要な準備) テキストp38～46を読み理解する。(30分)
第5回	保育の特性と保育実践	(内 容) 養護と教育、保育実践の基本 (必要な準備) テキストp50～59を読みまとめる。(30分)
第6回	保護者支援	(内 容) 保護者支援の基本と実際 (必要な準備) テキスト62～73を読み、理解する。(30分)
第7回	保育の目標	(内 容) 保育の目標と保育所の役割 (必要な準備) テキストp74～85を読み、まとめる。(30分)
第8回	保育の方法	(内 容) 保育所保育指針にみる保育の方法 (必要な準備) テキストp86～97を読み、理解する。(30分)
第9回	保育の計画	(内 容) 保育の計画の意義 (必要な準備) テキストp98～101を読みまとめる。(30分)
第10回	保育の評価	(内 容) 保育の計画、実践、省察、評価 (必要な準備) テキストp102～107を読み、理解する。(30分)
第11回	諸外国の保育の思想と歴史	(内 容) 児童中心主義の思想の広がり (必要な準備) テキストp122～133を読みまとめる。(30分)
第12回	日本の保育の思想と歴史	(内 容) 保育制度の整備と思想 (必要な準備) テキストp146～153を読み、理解する。(30分)
第13回	諸外国の保育	(内 容) 諸外国の保育制度と子育て (必要な準備) テキストp158～169を読み、理解する。(30分)
第14回	日本の保育の現状と課題	(内 容) 待機児童問題と少子社会 (必要な準備) テキストp170～173を読み、理解する。(30分)
第15回	日本のこれからの保育	(内 容) 地域で育てる子ども、保育保障 (必要な準備) テキストを参照して、この授業での学びについて、特に印象に残ったことをまとめる。(1時間)

授 業 名	児童福祉論		開 講 学 年	1回生	単 位 数	2単位		
英 文 名	Theory of Child Welfare		開 講 時 期	秋学期	必修・選択	選択		
担 当 者	山川 宏和		対 象 学 生	現代家政1回生				
授業の概要	1. 少子化・保育・虐待など児童問題について 2. 現代の子どもの生活について 3. 諸外国の児童福祉について 4. 児童福祉の法制度について							
学 習 成 果 到 達 目 標	1) 社会問題のひとつである児童問題と児童福祉の関係が理解できる。 2) 保育士に求められる福祉援助職としての働きが理解できる。 3) 児童福祉の制度が、日本と諸外国ではどのように相違があるか理解できる。 4) 児童福祉の法制度の対象とサービス内容が理解できる。							
評 価 方 法	定期試験 (65 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (35 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 ()	コミュニケーション能力 ()	プレゼンテーション能力 ()	課題発見・解決能力 ()			
テ キ ス ト	赤木正典・流王治郎 編著 「児童家庭福祉論 第2版」[建帛社]							
参 考 書	随時指示する。							
留 意 事 項	レポートの出来が評価に影響する。予習・復習をしっかりと行うこと。積極的な発表も評価の対象となる。							
オ フ ィ ス ア ワ ー	オフィスアワーは設定しますが、研究室に在室していれば対応します。どうしても場合は、事前にメール又は直接申出を。							

授 業 名		児童福祉論	
授 業 計 画	学 習 項 目	学 習 内 容 ・ 課 題	
第1回	現代社会と子ども	(内 容) 人口減少社会 (必要な準備) テキスト1章を参照しておく	
第2回	児童の権利保障	(内 容) コルチャック、子どもの権利条約について (必要な準備) テキスト2章を参照しておく	
第3回	児童福祉の歴史	(内 容) 日本・欧米の児童福祉史 (必要な準備) テキスト2章を参照しておく	
第4回	児童福祉法について 児童相談所	(内 容) 児童福祉六法、行政機関について (必要な準備) テキスト3章を参照しておく	
第5回	児童福祉法について 1997、2001年の改正	(内 容) 児童福祉法改正について (必要な準備) テキスト3章を参照しておく	
第6回	児童福祉法について 2004～2008年の改正	(内 容) 児童福祉法と児童虐待防止法について (必要な準備) テキスト3章を参照しておく	
第7回	児童福祉法について 2012～2016年の改正	(内 容) 近年の児童福祉法改正について (必要な準備) テキスト3章を参照しておく	
第8回	児童虐待について 身体的虐待・ネグレクト	(内 容) 児童虐待の定義と対策 (必要な準備) テキスト7章を参照しておく	
第9回	児童虐待について 心理的・性的虐待	(内 容) 児童虐待の定義と対策 (必要な準備) テキスト7章を参照しておく	
第10回	児童福祉の専門職について	(内 容) 児童福祉に従事する専門職について (必要な準備) テキスト4章を参照しておく	
第11回	保育支援と福祉について	(内 容) 日本と諸外国の保育政策・サービスについて (必要な準備) テキスト9章を参照しておく	
第12回	母子保健について	(内 容) 妊産婦死亡率や保健所、未熟児医療について (必要な準備) テキスト4章を参照しておく	
第13回	ひとり親家庭の福祉について	(内 容) ひとり親家庭への福祉サービスについて (必要な準備) テキスト8章を参照しておく	
第14回	障がい児の福祉について	(内 容) 障がい児の現状と福祉サービスについて (必要な準備) テキスト4章を参照しておく	
第15回	児童の健全育成について	(内 容) 児童館・児童厚生員について (必要な準備) テキスト5章を参照しておく	

授 業 名	乳児保育 u			開 講 学 年	2回生	単 位 数	2単位	
英 文 名	Infant Care			開 講 時 期	春学期	必修・選択	選択	
担 当 者	西川 由紀子			対 象 学 生	現代家政2回生			
授業の概要	乳児保育が果たしている役割を解説した後、0歳から2歳の保育の生活とあそびを解説する。そうした乳児保育の知識を得た上で、実際の保育所保育の見学を行う。さらに、乳児向けのおもちゃや絵本を実際に見て、乳児保育のイメージをしっかりつくり、乳児保育でたいせつにしたいことを伝える。							
学 習 成 果 達 成 目 標	1) 乳児保育の理念と保育所における乳児の歩み、現状と課題について理解することができる。 2) 0歳児クラス、1歳児クラス、2歳児クラスの保育での生活とあそびについて理解する。 3) 絵本や手遊びなど3歳未満児との関わりに有効な教材を使いこなせるようになる。							
評 価 方 法	定期試験 (70 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (30 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 (教材の工夫力	コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力	課題発見・解決能力			
テ キ ス ト	乳児保育研究会編 『改訂新版 資料でわかる乳児保育の保育新時代』（ひとなる書房） 保育計画研究会編 『改訂版 実践に学ぶ保育計画のつくり方・いかし方（ひとなる書房） 西川由紀子 『子どもの思いにこころをよせて』（かもがわ出版）							
参 考 書								
留 意 事 項								
オ フ ィ ス ア ワ ー	毎週1回（休業期間中を除く。）オフィスアワーを設けます。							

授 業 名		乳児保育 u
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題
第1回	乳児保育のとらえかた	(内 容) 子どもの発達を考えた上で、乳児保育の意義をどうとらえるかを解説する。 (必要な準備) 第5章を読んでくる(30分)
第2回	乳児保育の目標	(内 容) 乳児保育の目指すものと解説する (必要な準備) 第2章1, 2を読んでくる(30分)
第3回	0歳児保育の生活とあそび	(内 容) 0歳児保育の生活とあそびについて解説する (必要な準備) 第2章3-1, 2、第3章1, 2-1、 の0歳児の部分を読んでくる(30分)
第4回	1歳児保育の生活とあそび	(内 容) 1歳児保育の生活とあそびについて解説する (必要な準備) 第2章3-3, 4と第3章2-2、 の1歳児の部分を読んでくる(30分)
第5回	2歳児保育の生活とあそび	(内 容) 2歳児保育の生活とあそびについて解説する (必要な準備) 第2章3-5, 6と第3章2-3、 の2歳児の部分を読んでくる(30分)
第6回	子どもにとってのおもちゃの魅力	(内 容) 子どもにとってのおもちゃの魅力を解説する (必要な準備) おもちゃについて調べる(30分)
第7回	子どもにとっての絵本の魅力	(内 容) 子どもにとっての絵本の魅力を解説する(30分) (必要な準備) 乳児向け絵本をみてる(30分)
第8回	保育所見学	(内 容) 保育所を見学する (必要な準備) 保育所見学の目標を立てる(30分)
第9回	乳児向けのおもちゃづくり	(内 容) 乳児クラスの子どもの対象としたおもちゃをつくる (必要な準備) おもちゃをつくる準備をする(30分)
第10回	保育所保育の実際	(内 容) 保育所見学で学んだことを共有する (必要な準備) 保育所見学で学んだことをまとめてくる(60分)
第11回	保育者連携のあり方	(内 容) 乳児保育における保育者連携について解説する (必要な準備) 第6章を読んでくる(30分)
第12回	絵本交流会	(内 容) 自分が選んだ絵本を発表する (必要な準備) 発表する絵本を選び、発表の練習をする(60分)
第13回	乳児保育の歴史と現状	(内 容) 乳児保育のあゆみと現状を解説する (必要な準備) 第7章1, 2を読んでくる(30分)
第14回	手遊び交流会	(内 容) 年齢にあわせた手遊びをみんなで共有する (必要な準備) 発表する手遊びを考えてくる(60分)
第15回	乳児保育でたいせつにしたいこと	(内 容) 乳児保育でたいせつにしたいことを解説する (必要な準備) これまでの授業をふりかえってくる(30分)

授業名	障害児保育 u			開講学年	2回生	単位数	2単位	
英文名	Childcare for Children with Disability			開講時期	春学期	必修・選択	選択	
担当者	岸 優子			対象学生	現代家政2回生			
授業の概要	<p>1) 障害のある乳幼児の発達を保障する場として、保育所・幼稚園・認定こども園に求められる役割を学ぶ。 2) 健常児との生活が単なる「場の共有」ではなく、どちらも健やかに発達できる条件を考えることが出来る。 3) 障害児の理念や歴史の変遷、支援の在り方についての理解を深める。 4) 乳幼児としての発達を促す観点を習得し、特別なニーズを必要とする子どもの援助に活用出来る。</p>							
学習成果到達目標	<p>1) 障害に関する基礎知識を習得する。 2) 生活と集団を大切にす障害児保育を学ぶことで、実際の保育場面で理解する視点を説明できる。 3) 障害児保育を通して、多様な人間発達の理解を深めることで、実際の支援方法・配慮事項について説明できる。</p>							
評価方法	定期試験 (60 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評価基準	主たる評価の 観点	知識・理解 (コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力) (課題発見・解決能力) (
テキスト	使用しない。							
参考書	適宜プリントを配布する。							
留意事項	<p>保育者として実際の現場で活用できるように、授業の復習をしっかりとしておくこと。 授業内容の順番については、受講生の興味・関心に応じて柔軟に対応するので、変更することもある。</p>							
オフィス アワー	授業後に実施する。							

授 業 名		障害児保育 u	
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題	
第1回	障害児理解と歴史の変遷	(内 容) 障害をどのように理解するか (必要な準備) 障害について知りたい情報を考えておく。(20分)	
第2回	障害児保育の制度について	(内 容) 歴史の変遷や制度、発達保障など (必要な準備) 前回の授業のポイントをまとめ、復習をしておく。(20分)	
第3回	障害児保育の思想について	(内 容) 障害モデルの変遷、乳幼児健診の内容 (必要な準備) 乳幼児健診の目的、時期、内容について調べておく。(50分)	
第4回	障害の基礎知識と保育：発達について	(内 容) 子どもの発達の多様性を理解する (必要な準備) 健常児と障害児について見極めるための視点を理解しておく。(20分)	
第5回	障害の基礎知識と保育	(内 容) 知的障害・身体障害・精神障害の理解 (必要な準備) 前回の復習をしておく。(20分)	
第6回	障害の基礎知識と保育：知的障害、情緒障害	(内 容) 知的障害、情緒に課題のある子どもの特性 (必要な準備) 前回の復習をしておく。(20分)	
第7回	障害の基礎知識と保育：発達障害(1)	(内 容) 発達障害 (自閉スペクトラム症) (必要な準備) 発達障害者支援法について調べておく。(40分)	
第8回	障害の基礎知識と保育：発達障害(2)	(内 容) 発達障害 (ADHD、LD) (必要な準備) 前回のポイントをまとめておく。(40分)	
第9回	障害に関する基礎知識と保育：小テスト	(内 容) 今までの授業の理解を確認する。 (必要な準備) 発達障害について、今までの授業内容を復習しておく。(40分)	
第10回	障害の基礎知識と保育：発達の理解 (脳・体・心)	(内 容) 発達課題、発達の理解(脳・体・心) (必要な準備) 発達課題について調べておく。(40分)	
第11回	障害に関する基礎知識と保育：視覚・聴覚	(内 容) 視覚障害・聴覚障害 (必要な準備) 前回の復習をしておく。(20分)	
第12回	障害に関する基礎知識と保育：言語・てんかん	(内 容) 言語障害・てんかん (必要な準備) 前回の復習をしておく。(20分)	
第13回	障害に関する基礎知識と保育：運動障害	(内 容) 運動障害、重度重複障害児、要医療ケア児 (必要な準備) 前回の復習をしておく。(20分)	
第14回	障害のある子どもの保育の現状と課題	(内 容) 保護者、きょうだいに対する援助 (必要な準備) 前回の復習をしておく。(20分)	
第15回	障害に関する基礎知識と保育：小テスト	(内 容) 今までの授業の理解を振り返り、基本的知識を確認する (必要な準備) 今までの授業内容を復習しておく(60分)	

授業名	子育て支援論 u			開講学年	4回生	単位数	2単位	
英文名	Theory of Child-care Support			開講時期	春学期	必修・選択	選択	
担当者	流石 智子			対象学生	現代家政4回生			
授業の概要	現代の家庭は、親のみでは子育てすることが難しくなっている。この現状を理解して子育て支援策の検討が必要である。現代家庭の抱える問題を把握して、現在、親は子育て支援を有効に活用しているか、必要な子育て支援策は何かを検討したい。子どもの育ちにとってどのような子育て支援が良いのかも考察する。							
学習成果到達目標	1) 家庭における様々な子育ての問題点を理解できるようになる。 2) 家庭における子育て支援策を具体化することができる。 3) 自分の子育て観の確認ができる。							
評価方法	定期試験 (80 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (20 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評価基準	主たる評価の 観点	知識・理解 (コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力	課題発見・解決能力)		
テキスト	新保幸男・小林理編集『基本保育シリーズ 家庭支援論』中央法規 2016年							
参考書	授業中に適宜紹介する。							
留意事項	ワークショップを実施する。アクティブ・ラーニングでの授業を行うので、事前準備など積極的な授業への取り組みを期待する。							
オフィス アワー	基本は、木曜日の12時10分～13時とします。在室の時は可能です。(時間が取れない時は、調整して連絡します。)研究室に日時を貼付するので、確認してください。							

授 業 名		子育て支援論 u
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題
第1回	家庭の意義と機能	(内 容) 家族の定義の変化と家庭機能の変化 (必要な準備) テキスト2頁から12頁を読み、理解しておく。(30分)
第2回	家庭支援の必要性	(内 容) 家庭における生活課題を理解し、生活の主体である家庭について学ぶ。 (必要な準備) テキスト14頁から24頁までを読み、理解しておく。(30分)
第3回	保育士等が行う家庭支援の原理	(内 容) 保育所、幼稚園における家庭支援を理解する。 (必要な準備) テキスト26頁から36頁までを読み、理解しておく。(30分)
第4回	家庭生活を取り巻く社会的状況の変化	(内 容) 家庭と子育て家庭の貧困について学ぶ。 (必要な準備) テキスト38頁から47頁までを読み、理解しておく。(30分)
第5回	地域社会の変容と家庭支援	(内 容) 地域社会の変容と家庭支援の必要性を学ぶ。 (必要な準備) テキスト50頁から61頁までを読み、理解しておく。(30分)
第6回	現代の家庭における人間関係	(内 容) 現代の家族、家庭の変容と家庭における人間関係について学ぶ。 (必要な準備) テキスト64頁から73頁までを読み、理解しておく。(30分)
第7回	男女共同参画社会とワーク・ライフ・バランス	(内 容) 男女共同参画社会について理解し、子どもの生活とワーク・ライフ・バランスについて学ぶ。 (必要な準備) テキスト76頁から86頁までを読み、理解しておく。(30分)
第8回	子育て家庭の福祉を図るための社会資源	(内 容) 児童家庭福祉の施策体系と社会資源とその関係機関を理解する。 (必要な準備) テキスト88頁から98頁を読み、理解しておく。(30分)
第9回	子育て支援施策・次世代育成支援施策の推進	(内 容) 子ども・子育て関連3法の成立過程と新制度について学ぶ。 (必要な準備) テキスト100頁から110頁までを読み、理解しておく。(30分)
第10回	多様な子育て支援サービスの概要	(内 容) 子育て支援を必要とする家庭のための保育等のサービスを理解する。 (必要な準備) テキスト112頁から124頁までを読み、理解しておく。(30分)
第11回	保育所入所児童の家庭への支援	(内 容) 保育所の役割と入所している子どもの保護者への支援について学ぶ。 (必要な準備) テキスト126頁から138頁までを読み、理解しておく。(30分)
第12回	地域の子育て家庭への支援	(内 容) 地域の子育て家庭への支援とは何かについて学ぶ。 (必要な準備) テキスト140頁から149頁までを読み、理解しておく。(30分)
第13回	要保護児童およびその家庭に対する支援	(内 容) 要保護児童とその家庭に対する支援のあり方について理解し、親子関係の再構築支援について学ぶ。 (必要な準備) テキスト152頁から162頁までを読み、理解しておく。(30分)
第14回	子育て支援における関係機関との連携	(内 容) 子育て支援における関係機関と連携する意味や方法、技術について学ぶ。 (必要な準備) テキスト164頁から173頁までを読み、理解しておく。(30分)
第15回	子育て支援サービスの課題	(内 容) 子育て支援の意味を理解し、この授業で学んだ子育て支援についてまとめる。 (必要な準備) 授業で印象に残った子育て支援について具体例をあげてまとめておく。(1時間)

授 業 名	図書館概論 u			開 講 学 年	1回生	単 位 数	2単位	
英 文 名	Introduction to Library			開 講 時 期	秋学期	必修・選択	選択	
担 当 者	渡邊 雄一			対 象 学 生	現代家政1回生			
授業の概要	図書館の機能や社会における意義や役割について理解を図り、図書館の歴史と現状、館種別図書館と利用者ニーズ、図書館職員の役割と資格、類縁機関との関係、今後の課題と展望等の基本を学んでいく。							
学 習 成 果 達 成 目 標	<p>1) 図書館の概略を把握し、基本的な専門用語を覚えること。図書館司書資格を習得するための基礎的な知識を習得する。</p> <p>2) 図書館というものが人間の暮らしにおいて持つ意味、歴史の中で果たしてきた役割について理解すること。</p>							
評 価 方 法	定期試験 (60 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 (コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力	課題発見・解決能力)		
テ キ ス ト	『図書館概論』(JLA図書館情報学テキストシリーズ 1)、塩見昇、日本図書館協会、2012年							
参 考 書	随時指示する。							
留 意 事 項	授業で学んだことを自分で経験して確かめるために、居住地の公共図書館を積極的に利用すること。							
オ フ ィ ス ア ワ ー	毎週1回(休業期間中を除く。)オフィスアワーを設けます。							

授 業 名		図書館概論 u	
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題	
第1回	ガイダンス	(内 容) 本講義の目標を理解し、学習計画を立てる。 (必要な準備)	
第2回	図書館とは	(内 容) 図書館の定義、種類について概説する。 (必要な準備) テキストP.13～P.20をよく読んでおくこと。	
第3回	図書館の理念：図書館の自由など	(内 容) 「図書館の自由に関する宣言」について解説する。 (必要な準備) テキストP.57～P.64をよく読んでおくこと。	
第4回	図書館の自由について考える	(内 容) 図書館の自由に関してグループディスカッションを行い、互いに意見を出し合い、自分の考えを発表する。 (必要な準備) 「図書館の自由に関する宣言」(テキストP.65～P.67)を読んでおくこと。	
第5回	図書館法規と行政	(内 容) 公共図書館の根拠となる法的基盤について考察する。 (必要な準備) 「教育基本法」、「社会教育法」の条文を読んでおくこと。	
第6回	図書館の歴史的展開(欧米)	(内 容) 欧米における公立図書館の制度化の歴史について概説する。 (必要な準備) テキストP.225～P.228をよく読んでおくこと。	
第7回	図書館の歴史的展開(日本)	(内 容) 日本の図書館の歴史的展開を概説する。 (必要な準備) テキストP.229～P.232をよく読んでおくこと。	
第8回	公共図書館の制度と機能	(内 容) 「図書館法」の構成と性格を理解する。 (必要な準備) 「図書館法」の条文を読んでおくこと。	
第9回	公共図書館のサービス	(内 容) 公共図書館が提供するサービスについて概説する。 (必要な準備) テキストP.146～P.150をよく読んでおくこと。	
第10回	公立図書館の管理運営について考える	(内 容) 公立図書館の管理運営に関してグループディスカッションを行い、互いに意見を出し合い、自分の考えを発表する。 (必要な準備) 指定管理者制度に関する配付プリントをよく読んでおくこと。	
第11回	学校図書館の制度と機能	(内 容) 学校図書館の役割と機能について概説する。 (必要な準備) テキストP.161～P.168をよく読んでおくこと。	
第12回	大学図書館の制度と機能	(内 容) 大学図書館の法的根拠、機能などについて考察する。 (必要な準備) テキストP.177～P.183をよく読んでおくこと。	
第13回	専門図書館の制度と機能	(内 容) 専門図書館の特性、類別、機能などについて概説する。 (必要な準備) テキストP.190～P.193をよく読んでおくこと。	
第14回	国立図書館の制度と機能	(内 容) 国立図書館の法的基盤、図書館奉仕などについて概説する。 (必要な準備) テキストP.203～211をよく読んでおくこと。	
第15回	出版文化と図書館	(内 容) 出版文化と図書館の貸出サービスとの関係について考察する。 (必要な準備) テキストP.45～P.48をよく読んでおくこと。	

授 業 名	児童館の機能			開 講 学 年	4回生	単 位 数	2単位
英 文 名	Function of Jido-kan			開 講 時 期	春学期	必修・選択	選択
担 当 者	丸岡 敦子			対 象 学 生	現代家政4回生		
授業の概要	子どもを取り巻く環境がどのように移り変わってきているかを解説し、子どもが子どもと自然に出会い、子どもの間であそびの継承を行い、あそびを創出するという、本来人が持っていたあそぶ力が弱まっている状況のなかでプレイリーダーとしての児童館職員の役割が大きくなってきていることを説明し、理解してもらおう。その上で、児童館がどのような機能を持っているかを、子ども育成活動、子ども家庭支援活動、地域福祉促進活動、学童クラブ事業それぞれについて、解説する。講義形式と実技を取り入れて、具体的な児童館の活動事例を紹介し、イメージを共有してゆく。						
学 習 成 果 達 成 目 標	1) 子どもの成長・発達にとっての『あそび』の必要性を理解する。 2) 子どもや子育て中の保護者に寄り添い、支援する事の必要性を理解する。 3) 子どもを取り巻く地域や児童館など、大人の役割を理解する。						
評 価 方 法	定期試験 (100 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (%)	筆記試験 口述	レポート 実習 制作物 実技
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 (コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力) (課題発見・解決能力)		
テ キ ス ト	使用しない。						
参 考 書	使用しない。						
留 意 事 項	・児童館の機能と役割について、講義を中心に、実技も交えて進めていく。 ・児童館については実習以外でも、見学や活動に参加する機会を持つと、理解が深まるであろう。						
オ フ ィ ス ア ワ ー	担当授業終了後に実施する。						

授 業 名		児童館の機能	
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題	
第1回	児童館とは	(内 容) 児童福祉法と児童館 (必要な準備) 児童館がどんな所か考えておく。	
第2回	現代社会の子ども達	(内 容) 子どもを取り巻く環境の移り変わり (必要な準備) 子どもの頃、どんなあそびをどんな所でしていたか？	
第3回	現代社会の子ども達	(内 容) 子どもを取り巻く環境の移り変わり (必要な準備) 自分の子どもの頃と今の違いを考える。	
第4回	子どものあそびと健全育成	(内 容) 子どもにとってのあそび (必要な準備) 「健全育成」の意味を自分なりに考えておく。	
第5回	子どものあそび(実技 ゲーム・運動)	(内 容) 子どもにとっての「あそび」の検証 (必要な準備) 動きやすい服装	
第6回	児童館の機能 1 子ども育成活動	(内 容) 子どもたちの成長・発達を支援する活動 (必要な準備) 児童館のあそびの活動を調べておく。	
第7回	児童館の機能 2 子ども家庭支援活動	(内 容) 親子・家族を支援する活動 (必要な準備) 児童館の子育て支援プログラムを調べる。	
第8回	児童館の機能 3 地域福祉促進活動	(内 容) 地域の養育力を高め、子どもが育つ活動 (必要な準備) 児童館の活動になぜ地域が必要なのか考える	
第9回	児童館の機能 4 学童クラブ事業	(内 容) 学童クラブ事業の意義と役割 (必要な準備) 学童クラブがなぜ必要なのかを考える 制度が変わり、6年生までが対象になった事の検証	
第10回	子どものあそび(実技 音楽・身体表現)	(内 容) 子どもの伝承・表現あそびの検証 (必要な準備) 動きやすい服装で	
第11回	子どものあそびと発達(7歳まで)	(内 容) 0歳～7歳 心と身体の発達 (必要な準備) 乳幼児期から7歳くらいまでの思い出は何？	
第12回	子どものあそびと発達(8歳から)	(内 容) 8、9歳～ 心と身体の発達 (必要な準備) どんなあそびをしていたか。	
第13回	子どものあそび(実技 伝承・工作)	(内 容) 子どもの伝承・工作あそびの検証 (必要な準備) 「おりがみ」子どもの頃、どんなおりがみを折りましたか	
第14回	子どものあそびと児童館	(内 容) 子どもの育ちと児童館の役割 (必要な準備) もう一度、児童館の役割について考える	
第15回	子どもの自立と児童館 まとめ	(内 容) 子どもの自立～自律へと児童館の役割まとめ (必要な準備) 子どもの育ちと児童館の役割を考える。	

授業名	生徒指導論（中・高）			開講学年	3年生	単位数	2単位	
英文名	Theory of Student Guidance			開講時期	秋学期	必修・選択	選択	
担当者	岡田 敏之			対象学生	現代家政3年生			
授業の概要	生徒指導の目的や意義・役割について考えるとともに、実際に学校で生起している具体的な問題について考え、生徒指導の理論と方法を習得する。							
学習成果到達目標	1) 生徒指導の全体像が理解できる。 2) それを具現するために教員として不可欠な内容・方法を認識できる。							
評価方法	定期試験 (40 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (60 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評価基準	主たる評価の 観点	知識・理解 (コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力	課題発見・解決能力)		
テキスト	「生徒指導提要」(文部科学省)							
参考書								
留意事項	単に覚える学びでなく、自ら調べ仲間と共に考える、主体的で対話的な学びを重視する。							
オフィス アワー	担当授業終了後に実施する。							

授 業 名		生徒指導論（中・高）	
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題	
第1回	ガイダンス 教育を取り巻く社会の状況	（内 容）本講義の概要。 教育を取り巻く社会の状況を理解する。 （必要な準備）「生徒指導提要」の準備	
第2回	生徒指導の基礎概念	（内 容）生徒指導の全体像を理解する。 （必要な準備）「生徒指導提要」の予習と前講の復習	
第3回	教育相談と生徒指導	（内 容）教育相談の全体像を理解する。 （必要な準備）「生徒指導提要」の予習と前講の復習	
第4回	学級経営と生徒指導	（内 容）学級担任が行う教育相談の在り方を理解する。 （必要な準備）「生徒指導提要」の予習と前講の復習	
第5回	望ましい集団づくり - 実習CHR -	（内 容）集団におけるコンセンサスの在り方を学ぶ。 （必要な準備）前講の復習	
第6回	望ましい集団づくり - 生徒会活動を考える -	（内 容）生徒会活動の実践例について考察する。 （必要な準備）「生徒指導提要」の予習と前講の復習	
第7回	学校不応と問題行動	（内 容）生徒の問題行動について理解する。 （必要な準備）「生徒指導提要」の予習と前講の復習	
第8回	子どもの規範意識を育てる - 非行防止教室 -	（内 容）非行防止教室の実践を体験する。 （必要な準備）前講の復習	
第9回	いじめ問題の理解と対応 - いじめの原因 -	（内 容）いじめ問題について理解する。 （必要な準備）関連報道記事の収集と前講の復習	
第10回	いじめ問題の理解と対応 - 未然防止に向けて -	（内 容）いじめ問題の対応について考える。 （必要な準備）関連報道記事の収集と前講の復習	
第11回	不登校の理解と対応	（内 容）不登校の現状について理解する。 （必要な準備）関連報道記事の収集と前講の復習	
第12回	発達障害の理解と対応	（内 容）発達障害について理解する。 （必要な準備）「生徒指導提要」の予習と前講の復習	
第13回	保護者対応	（内 容）保護者との連携の在り方について理解する。 （必要な準備）「生徒指導提要」の予習と前講の復習	
第14回	子どもの意欲を育てる - コーチングスキルより -	（内 容）コーチングスキルの基本を身につける。 （必要な準備）「生徒指導提要」の予習と前講の復習	
第15回	特別講義「学びの原点を追究する」、まとめ	（内 容）本講義のポイントを整理して理解する。 （必要な準備）前講の復習	

授業名	生徒指導論（小）			開講学年	3年生	単位数	2単位
英文名	Theory of Student Guidance			開講時期	秋学期	必修・選択	選択
担当者	岡田 敏之			対象学生	現代家政3年生		
授業の概要	生徒指導の目的や意義・役割について考えるとともに、実際に学校で生起している具体的な問題について考え、生徒指導の理論と方法を習得する。						
学習成果到達目標	1) 生徒指導の全体像が理解できる。 2) それを具現するために教員として不可欠な内容・方法を認識できる。						
評価方法	定期試験 (40 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (60 %)	筆記試験 口述	レポート 実習 制作物 実技
評価基準	主たる評価の 観点	知識・理解 (コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力) (課題発見・解決能力)		
テキスト	「生徒指導提要」(文部科学省)						
参考書							
留意事項	単に覚える学びでなく、自ら調べ仲間と共に考える、主体的で対話的な学びを重視する。						
オフィス アワー	担当授業終了後に実施する。						

授 業 名		生徒指導論（小）	
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題	
第1回	ガイダンス 教育を取り巻く社会の状況	（内 容）本講義の概要。 教育を取り巻く社会の状況を理解する。 （必要な準備）「生徒指導提要」の準備	
第2回	生徒指導の基礎概念	（内 容）生徒指導の全体像を理解する。 （必要な準備）「生徒指導提要」の予習と前講の復習	
第3回	教育相談と生徒指導	（内 容）教育相談の全体像を理解する。 （必要な準備）「生徒指導提要」の予習と前講の復習	
第4回	学級経営と生徒指導	（内 容）学級担任が行う教育相談の在り方を理解する。 （必要な準備）「生徒指導提要」の予習と前講の復習	
第5回	望ましい集団づくり - 実習CHR -	（内 容）集団におけるコンセンサスの在り方を学ぶ。 （必要な準備）前講の復習	
第6回	望ましい集団づくり - 児童会活動を考える -	（内 容）児童会活動の実践例について考察する。 （必要な準備）「生徒指導提要」の予習と前講の復習	
第7回	学校不適應と問題行動	（内 容）児童生徒の問題行動について理解する。 （必要な準備）「生徒指導提要」の予習と前講の復習	
第8回	子どもの規範意識を育てる - 非行防止教室 -	（内 容）非行防止教室の実践を体験する。 （必要な準備）前講の復習	
第9回	いじめ問題の理解と対応 - いじめの原因 -	（内 容）いじめ問題について理解する。 （必要な準備）関連報道記事の収集と前講の復習	
第10回	いじめ問題の理解と対応 - 未然防止に向けて -	（内 容）いじめ問題の対応について考える。 （必要な準備）関連報道記事の収集と前講の復習。	
第11回	不登校の理解と対応	（内 容）不登校の現状について理解する。 （必要な準備）関連報道記事の収集と前講の復習	
第12回	発達障害の理解と対応	（内 容）発達障害について理解する。 （必要な準備）「生徒指導提要」の予習と前講の復習	
第13回	保護者対応	（内 容）保護者との連携の在り方について理解する。 （必要な準備）「生徒指導提要」の予習と前講の復習	
第14回	子どもの意欲を育てる - コーチングスキルより -	（内 容）コーチングスキルの基本を身につける。 （必要な準備）「生徒指導提要」の予習と前講の復習	
第15回	特別講義「学びの原点を追究する」、まとめ	（内 容）本講義のポイントを整理して理解する。 （必要な準備）前講の復習	

授業名	教育相談（中・高）			開講学年	4回生	単位数	2単位
英文名	School Counseling			開講時期	春学期	必修・選択	選択
担当者	吉田 博子			対象学生	現代家政4回生		
授業の概要	<p>教育・保育現場では相談・援助・カウンセリング・ガイダンスの必要性が増している。教師・保育者はカウンセリングの専門家ではないが、相談・援助・カウンセリング・ガイダンスに関する基礎・基本を身に付けておくことが必須となっている。</p> <p>この授業では、教育相談やカウンセリングの理論や歴史的経緯、扱われるさまざまな問題領域について学ぶとともに、教育相談・カウンセリングの基本技法を身に付け、教育保育現場において役立てることをめざす。また、予防的開発的技法として活用されている構成的グループエンカウンター、ソーシャル・スキル・トレーニングについても体験を通して学ぶ。</p>						
学習成果到達目標	<p>1)教育相談・カウンセリングにかかわる理論・人間観を理解する。</p> <p>2)教育相談・カウンセリングの基本技法を身につけ、教育・保育、家族・保護者・仲間・ピアヘルピングなどに役立てることができるようになる。</p> <p>3)「一人ひとりの心を育てる」とともに、「集団を育てる」を理解して集団対応ができるようになる。</p>						
評価方法	定期試験 (60 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40 %)	筆記試験 口述	レポート 実習 制作物 実技
評価基準	主たる評価の 観点	知識・理解 (コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力) (課題発見・解決能力)		
テキスト	岸見一郎『アドラー心理学入門』ベスト新書 配付資料						
参考書	國分康孝『カウンセリングの理論』誠信書房 随時参考資料を配付する。						
留意事項	テキスト・配付資料を積極的に読み込むこと。 事前学習をしっかりと行うこと。						
オフィス アワー	担当授業後に実施する。						

授 業 名		教育相談（中・高）
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題
第1回	オリエンテーション	（内 容）本講義の目標を理解し、学習計画を立てる。 （必要な準備）シラバスを確認しておくこと（10分）
第2回	教育相談・カウンセリングとその人間観	（内 容）教育相談・カウンセリングの歴史・定義・人間観、折衷主義・育てるカウンセリングについて理解する。 （必要な準備）前回のまとめをしておく（40分）
第3回	教育相談・カウンセリングの方法とスキル：リレーション・受容・支持・繰り返し	（内 容）リレーション・受容・支持・繰り返しについて学ぶ。 （必要な準備）前回のまとめをしておく（40分）
第4回	教育相談・カウンセリングの方法とスキル：明確化・質問	（内 容）明確化・質問について学ぶ。 （必要な準備）前回のまとめをしておく（40分）
第5回	教育相談・カウンセリングの方法とスキル：構成的グループエンカウンター	（内 容）構成的グループエンカウンターについて実際体験を通して理解する。 （必要な準備）前回のまとめをしておく（40分）
第6回	教育相談・カウンセリングを支える理論：自己理論	（内 容）自己理論の理論・人間観を理解する。 （必要な準備）前回のまとめをしておく（40分）
第7回	教育相談・カウンセリングを支える理論：精神分析理論	（内 容）精神分析理論の理論・人間観を理解する。 （必要な準備）前回のまとめをしておく（40分）
第8回	教育相談・カウンセリングを支える理論：精神分析理論・諸概念	（内 容）精神分析理論の理論・人間観・諸概念を理解する。 （必要な準備）前回のまとめをしておく（40分）
第9回	教育相談・カウンセリングを支える理論：行動主義	（内 容）行動主義の理論・人間観を理解する。 （必要な準備）前回のまとめをしておく（40分）
第10回	教育相談・カウンセリングを支える理論：論理療法	（内 容）論理療法の理論・人間観を理解する。 （必要な準備）前回のまとめをしておく（40分）
第11回	教育相談・カウンセリングの方法とスキル：ソーシャルスキルトレーニング	（内 容）ソーシャルスキルトレーニングについて学ぶ。 （必要な準備）前回のまとめをしておく（40分）
第12回	教育相談・カウンセリングを支える理論：アドラー心理学	（内 容）アドラー心理学の理論・人間観を理解する。 （必要な準備）前回のまとめをしておく（40分）
第13回	教育相談・カウンセリングを支える理論：アドラー心理学・勇気づけ	（内 容）アドラー心理学の理論・勇気づけを理解する。 （必要な準備）前回のまとめをしておく（40分）
第14回	構成的グループエンカウンター	（内 容）構成的グループエンカウンターについて実際体験を通して理解する。 （必要な準備）前回のまとめをしておく（40分）
第15回	構成的グループエンカウンター 授業のまとめ	（内 容）構成的グループエンカウンターについて実際体験を通して理解する。 この授業のまとめをする。 （必要な準備）前回のまとめをしておく（40分）

授業名	教育相談（幼・小）			開講学年	4回生	単位数	2単位	
英文名	School Counseling			開講時期	春学期	必修・選択	選択	
担当者	藤井 裕子			対象学生	現代家政4回生			
授業の概要	<p>1、教育現場における児童・生徒の理解と総合的な支援を実践できる力を養う。</p> <p>2、学校で応用できる臨床心理学の基礎的な理論や知見を学ぶ。</p> <p>3、児童が直面している問題について解決の方策を探り、専門機関との連携について理解を深める。</p>							
学習成果到達目標	<p>1、学校教育における教育相談の意義や役割について理解できる。</p> <p>2、子どもの成長を促すカウンセリングや保護者や教員コンサルテーションを実践できる力を養う</p> <p>3、学校臨床のさまざまな問題について対応できる教員の専門性を高める。</p>							
評価方法	定期試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評価基準	主たる評価の 観点	知識・理解 (コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力) (課題発見・解決能力) (
テキスト	配付資料							
参考書	春日井敏之・伊藤美奈子編「よくわかる教育相談」ミネルヴァ書房、講義の中で随時紹介する							
留意事項	積極的な授業への参画を求める。講義を中心とするが、ロールプレイやグループワークも適宜取り入れるので積極的に取り組むこと。							
オフィスアワー	毎週1回（休業期間中を除く）オフィスアワーを設ける（曜日・時間を研究室に掲示）。できれば事前予約が望ましい。							

授 業 名	教育相談（幼・小）	
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題
第1回	オリエンテーション 教育相談・カウンセリングとその人間観、教育相談の意義と役割	（内 容）本講義の目標を理解し、学習計画を立てる。教育相談・カウンセリングの歴史・定義・人間観、折衷主義・育てるカウンセリングについて理解する。 （必要な準備）ノート、ファイルを用意する。
第2回	教育相談の基本的知識、その現状と課題	（内 容）学校における教育相談の意義や役割を学ぶ。現状における問題や課題について理解する。 （必要な準備）配布プリントを読んでおく。
第3回	カウンセリングの基礎知識（1）基本的な応答技法	（内 容）カウンセリングマインド、基本的な応答技法、共感的理解、受容、支持的応答などについて学ぶ。 （必要な準備）配布プリントを読んでおく。
第4回	カウンセリングの基礎知識（2）コミュニケーション力を高める	（内 容）非言語的コミュニケーション、明確化・質問方法、介入し仕方について学ぶ。 （必要な準備）配布プリントを読んでおく。
第5回	教育相談と生徒指導、コンサルテーションの方法	（内 容）教育相談と生徒指導の共通点と異なる方法を理解し、子どもへの効果的な支援について学ぶ。 （必要な準備）配布プリントを読んでおく。
第6回	保健室・養護教諭との連携	（内 容）保健室の養護教諭との連携、校内ネットワークのあり方を学ぶ。 （必要な準備）配付資料を読み、演習問題を解く。
第7回	教育相談の実際（1）子どもの成長を促す	（内 容）子どもの問題行動について理解を深め、成長を促す取り組みについて考えを深める。 （必要な準備）配付資料を読み、演習問題を解く。
第8回	教育相談の実際（2）いじめ問題への対応	（内 容）いじめの問題について多面的に理解し、解決への方策を考える。 （必要な準備）配付資料を読み、演習問題を解く。
第9回	教育相談の実際（3）不登校への理解育	（内 容）登校しぶりや不登校の問題について理解し、支援や指導について方策を考える。 （必要な準備）配付資料を読み、演習問題を解く。
第10回	教育相談の実際（4）非行問題への理解	（内 容）問題行動、非行の問題について多面的に理解し、解決への糸口を考える。 （必要な準備）配付資料を読み、演習問題を解く。
第11回	教育相談の実際（5）精神保健の向上、子ども、教員、保護者も含めたメンタルヘルスについて学ぶ。	（内 容）子ども、教員、保護者のメンタルヘルスが向上するようにストレスの問題やその解決への手立てについて理解を深める。 （必要な準備）配付資料を読み、演習問題を解く。
第12回	保護者対応への理解と支援	（内 容）保護者自身の問題について理解し、支援や信頼関係の構築を深める。 （必要な準備）配付資料を読み、演習問題を解く。
第13回	専門機関との連携	（内 容）医療機関、教育相談機関、児童相談所などの役割や意義、連携について学ぶ。 （必要な準備）配付資料を読み、演習問題を解く。
第14回	緊急支援における教育相談	（内 容）事故や災害時における教育相談の役割を理解し適切な支援ができるようになる。 （必要な準備）配付資料を読み、演習問題を解く。
第15回	振り返りとまとめ	（内 容）講義全体を通して振り返り、資料をまとめ学んだことを確認する。 （必要な準備）配付資料やノートを整理する。

授業名	ボランティア論u			開講学年	1回生	単位数	2単位	
英文名	Theory of Volunteer			開講時期	秋学期	必修・選択	選択	
担当者	名賀 亨			対象学生	現代家政1回生			
授業の概要	人間性豊かな福祉社会を創出するためには市民の主体的な社会参加・参画が不可欠である。そうした視点から注目されているボランティア・市民活動について、理論と実践事例などを交えながらその全体像を理解する。							
学習成果到達目標	1) ボランティア活動の根本にあるボランティアの原理を理解し説明できる。 2) ボランティア・市民活動の歴史の変遷を理解することができる。 3) ボランティア・市民活動の基本を理解することで、専門職と市民との協同のあり方、それに伴うボランティアコーディネートの必要性とその方法について具体的に理解できる。							
評価方法	定期試験 (70 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (30 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評価基準	主たる評価の 観点	知識・理解 (コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力) (課題発見・解決能力)			
テキスト	ボランティア論 - 「広がり」から「深まり」へ - 編著者：柴田謙治・原田正樹・名賀亨 出版社：株式会社みらい							
参考書	学生のためのボランティア論 岡本栄一、菅井直也、妻鹿ふみ子 編 大阪ボランティア協会出版部 発行							
留意事項	常に新聞等から社会情勢の変化を読み取り、ボランティアとの関連性について考えておく。また、授業には主体的かつ積極的に参加し、講義内容を整理し必要に応じてプレゼンテーションできるようにする。							
オフィスアワー	水曜日 昼休み							

授 業 名		ボランティア論u	
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題	
第1回	オリエンテーション	(内 容)	授業の枠組みや授業評価など、授業の全体像を説明 (必要な準備) シラバスを確認するとともに、自分なりにボランティアの意味を整理しておく。(30分)
第2回	ボランティア活動の基本 自発性・社会性	(内 容)	ボランティア活動の基本としてある、自発性、社会性、開拓性などの意義について学ぶ。 (必要な準備) さまざまな実践を事例としてボランティア活動の根本の意味を整理しておく。(30分)
第3回	ボランティア活動の基本 根本にある思想	(内 容)	ボランティア活動の原点にある「ボランタリズム」の精神について、その考え方や意味、社会との関係性について学ぶ。 (必要な準備) ボランティア活動の基本である自発性・主体性の意味を整理しておく。(30分)
第4回	ボランティア活動の基本 活動の歴史	(内 容)	ボランティア・市民活動の歴史的な移り変わりを、社会の変遷と対比しながら学ぶ。 (必要な準備) 社会状況の変化とボランティア活動の変遷についてボランタリズムとの関係性から整理しておく。(30分)
第5回	ボランティア活動の変遷 活動支援の広がり 1	(内 容)	全国各地にある社会福祉協議会に設置されているボランティアセンターでのボランティア活動支援の始まりと事業の変遷について学ぶ。 (必要な準備) 徳島県で始まった善意銀行について整理しておく。(30分)
第6回	ボランティア活動の変遷 活動支援の広がり 2	(内 容)	社会福祉協議会とは別に、全国各地にある民間のボランティア活動支援センターの変遷について学ぶ。 (必要な準備) 大阪ボランティア協会など、社会福祉協議会とは違う位置からのボランティア活動支援について整理しておく。(30分)
第7回	ボランティア活動の変遷 ボランティア元年といわれた1995年以降	(内 容)	ボランティア・市民活動の歴史の中で阪神淡路大震災でのボランティア活動が、NPO法の成立につながるなど一つの大きな転換期になったことについて、その具体的な内容と意味について学ぶ。 (必要な準備) 阪神淡路大震災時にボランティアがどのような活動を実践したのか整理しておく。(30分)
第8回	災害とボランティア活動 災害ボランティア支援	(内 容)	災害時のボランティア活動支援に不可欠な災害ボランティアセンターの役割と意義について学ぶ (必要な準備) 阪神淡路大震災・東日本大震災など大災害時にボランティア活動支援がどのように行われたのか整理しておく。(30分)
第9回	ボランティア学習の理解 ワークキャンプ運動	(内 容)	国内外で様々な形で実践されているワークキャンプ運動を事例に、その内容や実践の意味、今後の必要性和可能性について学ぶ。 (必要な準備) ワークキャンプの意味について整理しておく。(30分)
第10回	ボランティア学習の理解 活動と学び	(内 容)	ボランティア活動に内在する学びに関して、ボランティア学習という観点からその意味について学ぶ。 (必要な準備) ボランティア学習の概念を整理しておく。(30分)
第11回	ボランティア学習の理解 学びの実践事例	(内 容)	ボランティア活動に内在する学びに関して、DVDなどの教材視聴を通して理解し、それぞれの可能性や学習効果について学ぶ。 (必要な準備) ボランティア活動を通じた学びについて、実践事例からその実践学習の現状を整理しておく。(30分)
第12回	ボランティアコーディネート つなぐ仕組み	(内 容)	ボランティア活動実践に不可欠なボランティアコーディネートの意味やその方法などの基本を学ぶ。 (必要な準備) ボランティアコーディネート意味を整理しておく。(30分)
第13回	ボランティアコーディネート 役割とその内容	(内 容)	ボランティアコーディネートを実践するボランティアコーディネーターの役割や活動の特徴について学ぶ。 (必要な準備) ボランティアコーディネートの専門性について整理しておく。(30分)
第14回	ボランティアの可能性と展望 福祉の原点	(内 容)	ボランティア・市民活動さらにNPOなどの今後の社会的な可能性について学ぶ。 (必要な準備) これまでの授業内容を振り返り、これからのボランティア活動の在り方について整理しておく。(30分)
第15回	まとめ	(内 容)	全体の総括をしながら、今後のボランティア・市民活動の在り方を考えていく。 (必要な準備) 授業全体を踏まえて今後の展望について整理しておく。(30分)

授業名	地域福祉論			開講学年	3回生	単位数	2単位	
英文名	Theory of Community Welfare			開講時期	春学期	必修・選択	選択	
担当者	藤井 伸生			対象学生	現代家政3回生			
授業の概要	<p>私たちのくらしは、地域福祉の存在で成り立っている。地域ごとでくらしの問題、生活問題は異なる。高齢者の多い地域、子どもの多い地域、低所得者の多い地域などでくらしの課題は違ってくる。生活問題の地域性に注目して、誰もが安心して暮らしていける地域社会の実現に向けて地域福祉の果たすべき役割と課題を考えていきたい。特に地域住民の課題と専門機関である社会福祉協議会及び行政の課題、両方に視点を当てて考えていきたい。</p>							
学習成果到達目標	<p>1) 地域福祉とは何かを理解できるようになる。 2) 地域福祉は生活問題の地域性を対象にした総合的体系的な社会制度であることを理解できるようになる。 3) 社会保障の一環であること、まちづくりの一環であることの認識ができるようになる。</p>							
評価方法	定期試験 (70 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (30 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評価基準	主たる評価の 観点	知識・理解 (論理的な展開力	コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力	課題発見・解決能力)		
テキスト	適宜、プリントなどを配布する。							
参考書	授業時に紹介する。							
留意事項	地域における地域福祉活動の実際に触れる努力をして欲しい。							
オフィスアワー	設定しますが、研究室に在室しているときは対応します、どうしてもというときは、事前にEメールをしてください。							

授 業 名		地域福祉論	
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題	
第1回	私たちのくらしと地域福祉	(内 容) 私たちのくらしと地域福祉について解説する。 (必要な準備) シラバスを確認し、地域福祉のイメージづくりをする(30分)	
第2回	地域福祉の対象	(内 容) 地域福祉の対象について、各地の状況を踏まえ紹介する。 (必要な準備) 自分の地域に目を向け特性を理解してみる(30分)	
第3回	社会保障の一環としての地域福祉	(内 容) 社会保障と地域福祉の関係性について解説する。 (必要な準備) くらしを支える制度を調べ考察する(30分)	
第4回	まちづくりの一環としての地域福祉	(内 容) まちづくりと地域福祉の関係性について解説する。 (必要な準備) 自分のまちの課題は何かについて調べる(30分)	
第5回	地域福祉活動の実際 - 鹿児島県の事例 -	(内 容) 鹿児島県の地域活動を紹介する。 (必要な準備) 自分のまちの地域福祉活動を調べる(30分)	
第6回	地域福祉活動の実際 - 豊中市の事例 -	(内 容) 豊中市の地域福祉活動を紹介する (必要な準備) 自分のまちの地域福祉活動にふれる(30分)	
第7回	地域福祉活動の実際 - 滋賀県日野町の事例 -	(内 容) 滋賀県日野町の地域福祉活動を紹介する。 (必要な準備) 自分のまちの地域福祉活動について住民の声を聞く(30分)	
第8回	地域福祉の実際 - 京都市の事例 -	(内 容) 京都市の地域福祉活動を紹介する (必要な準備) 自分のまちの地域福祉活動の課題を考える(30分)	
第9回	地域福祉活動の実際 - 私の実践事例 -	(内 容) 私が実践している地域福祉活動を紹介する。 (必要な準備) 自分が実践できそうな地域福祉活動を考える(30分)	
第10回	地域福祉と社会福祉協議会	(内 容) 社会福祉協議会の役割と現状について紹介する。 (必要な準備) 社会福祉協議会について調べ、役割を考える(30分)	
第11回	地域福祉と地区社協	(内 容) 地区社協の役割と現状を解説する。 (必要な準備) 地区社協の存在を調べる(30分)	
第12回	地域福祉と民生・児童委員	(内 容) 民生・児童委員が果たしている役割と現状について解説する。 (必要な準備) 民生・児童委員の存在を調べる(30分)	
第13回	地域福祉活動の事業と運動	(内 容) 地域福祉活動がめざすべき目的について考察する。 (必要な準備) よりよい地域づくりには何が必要か考える(30分)	
第14回	地域福祉活動と地域福祉	(内 容) 地域福祉活動と地域福祉の関係を考察する。 (必要な準備) 地域福祉とは何かについて調べ考える(30分)	
第15回	住民自治と地域福祉	(内 容) 住民自治と地域福祉の関係を考察する。 (必要な準備) 住民自治について調べ考える(30分)	

授 業 名	高 齢 者 福 祉 論			開 講 学 年	3回生	単 位 数	2単位	
英 文 名	Theory of Welfare for Elderly People			開 講 時 期	春学期	必修・選択	選択	
担 当 者	高 岡 理 恵			対 象 学 生	現代家政3回生			
授 業 の 概 要	高齢者の身体的・心理的・社会的特性を取り上げ、高齢者の生活事態と高齢者を取り巻く諸問題について学ぶ。高齢者に関する法律や制度を整理し、高齢者保健医療福祉の現状と課題について考える。							
学 習 成 果 到 達 目 標	1) 高齢者の特性を多角的に捉え、説明できるようになる 2) 高齢者を取り巻く社会的問題や高齢者保健福祉に関わる法制度の概要を説明できるようになる 3) これからの高齢者福祉の在り方について考えることができるようになる							
評 価 方 法	定期試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 (論理的思考力	コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力	課題発見・解決能力)		
テ キ ス ト	『新・社会福祉士養成講座13 高齢者に対する支援と介護保険制度 高齢者福祉論』、中央法規							
参 考 書	随時指示する							
留 意 事 項								
オ フ ィ ス ア ワ ー	第1回目の授業で紹介する							

授 業 名		高 齢 者 福 祉 論	
授 業 計 画	学 習 項 目	学 習 内 容 ・ 課 題	
第1回	科目ガイダンス	(内 容) 講義のねらいと計画 (必要な準備) シラバスを読んでおく	
第2回	高齢者の特性 身体的特性 感覚器、呼吸器等	(内 容) 高齢者によくみられる身体的特性を理解する (必要な準備) テキスト第1章第2節をよく読む	
第3回	高齢者の特性 身体的特性 消化器、心循環器等	(内 容) 高齢者によくみられる紫嚢的的特性を理解する (必要な準備) テキスト第1章第3節をよく読む	
第4回	高齢者の特性 精神的特性 知能、意欲	(内 容) 高齢者によく見られる精神的特徴を理解する 知能の老化や意欲の減退について学ぶ (必要な準備) テキストp18～19を読んでおく	
第5回	高齢者の特性 精神的特性 脳の機能と委縮	(内 容) 高齢者によく見られる精神的特徴を理解する 脳の委縮からくる病気について学ぶ (必要な準備) テキスト第1章第3節をよく読む	
第6回	高齢者の特性 精神的特性 認知症	(内 容) 認知症の人の心理について学ぶ (必要な準備) 配布資料を読んでおく 認知症について調べておく	
第7回	高齢者の特性 老年期の心の病気	(内 容) 老年期の心の病気であるうつ病やせん妄について学ぶ (必要な準備) テキスト19～23を読んでおく	
第8回	高齢者の総合的理解	(内 容) 高齢者のライフサイクルを知るとともに、世代背景を理解する (必要な準備) テキスト24～27を読んでおく 高齢者に世代背景とともにその人の生き方についてインタビューしてくる	
第9回	少子高齢社会と社会的問題	(内 容) 少子高齢化の要因の理解と家族の状況変化について理解する (必要な準備) テキスト30～40を読んでおく	
第10回	高齢者を取り巻く諸問題	(内 容) 高齢者の健康・介護問題について考える (必要な準備) 新聞・メディアから高齢者の健康や介護問題をひとつ抽出しまとめてくる	
第11回	高齢者保健福祉の発展1 老人福祉法の制定	(内 容) 老人福祉法制定までの高齢者保健福祉の発展 (必要な準備) テキストp62～80を読んでおく	
第12回	高齢者保健福祉の発展2 介護保険法の制定	(内 容) 老人福祉法制定後の高齢者保健福祉の発展 (必要な準備) テキストp80～93を読んでおく	
第13回	高齢者支援の関係法規1 基本法	(内 容) 高齢社会対策基本法と老人福祉法 (必要な準備) テキストp94～105を読んでおく	
第14回	高齢者支援の関係法規3 その他の法律	(内 容) 高齢者虐待防止法などその他の法律 (必要な準備) テキストp106～117を読んでおく	
第15回	まとめ	(内 容) これまでの学習内容の復習 (必要な準備) 高齢者をとりまく諸問題についてまとめておく	

授業名	障害者福祉論			開講学年	3回生	単位数	2単位	
英文名	Theory of Welfare for Persons with Disability			開講時期	春学期	必修・選択	選択	
担当者	武田 康晴			対象学生	現代家政3回生			
授業の概要	障害者福祉とは、障害によって生じた生活課題を抱えながら自分の人生を生きている当事者を側面から支えていくことである。また「障害」と一口に言っても、実に多種多様なニーズが考えられる。この講義では、障害者福祉を「生活」の視点から捉えることを通して、障害をもつ人達が生活していく上で必要な援助について考えていく。							
学習成果到達目標	1) 障害者福祉の歴史的展開について、社会の動向と関連づけて理解している。 2) ノーマライゼーションや自立支援といった障害者福祉の基本理念を理解している。 3) 障害をもつ人を援助する制度、施策、専門職その他を体系的に理解している。							
評価方法	定期試験 (80 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (20 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評価基準	主たる評価の 観点	知識・理解 (自分自身の考え、見解を持つ	コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力	課題発見・解決能力			
テキスト	小澤温編『よくわかる障害者福祉 第6版』ミネルヴァ書房							
参考書	必要に応じて紹介する。							
留意事項	少しでも障害者福祉に興味を持てるように事例を紹介しながら授業を進めます。授業の内容は「自分が考えるきっかけ」ですので、自分の意見、見解を常に意識しながら授業に参加して下さい。							
オフィス アワー	水曜日、木曜日、金曜日の12:30～13:00							

授 業 名		障害者福祉論	
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題	
第1回	障害者福祉とは何か？（導入）	（内 容）隣接領域と比較しながら独自性を解説する。 （必要な準備）シラバスの内容を確認しておく。	
第2回	障害者福祉の基本理念 ノーマライゼーションと自立支援	（内 容）障害者福祉の基本理念について学ぶ。 （必要な準備）教科書の該当項目と事前配布した資料に目を通しておく。	
第3回	障害者福祉の基本理念 リハビリテーションほか	（内 容）障害、障害者の歴史の変遷を学ぶ。 （必要な準備）教科書の該当項目と事前配布した資料に目を通しておく。	
第4回	身体障害児・者の生活ニーズと福祉サービス	（内 容）統計資料も活用して現状を学ぶ。 （必要な準備）教科書の該当項目と事前配布した資料に目を通しておく。	
第5回	知的障害児・者の生活ニーズと福祉サービス	（内 容）統計資料も活用して現状を学ぶ。 （必要な準備）教科書の該当項目と事前配布した資料に目を通しておく。	
第6回	精神障害児・者の生活ニーズと福祉サービス	（内 容）教科書の該当項目と統計資料も活用して現状を学ぶ。 （必要な準備）教科書の該当項目と事前配布した資料に目を通しておく。	
第7回	制度とサービスの動向 制度とサービスの変遷	（内 容）歴史的経過を追い、障害者福祉の動向を学ぶ。 （必要な準備）教科書の該当項目と事前配布した資料に目を通しておく。	
第8回	制度とサービスの動向 障害者福祉の法体系	（内 容）法体系を中心に障害者福祉の現状を学ぶ。 （必要な準備）教科書の該当項目と事前配布した資料に目を通しておく。	
第9回	障害者総合支援法の内容 法成立までの経過と経緯	（内 容）措置費・支援費制度からの経過を含めて学ぶ。 （必要な準備）教科書の該当項目と事前配布した資料に目を通しておく。	
第10回	障害者総合支援法の内容 支給決定のプロセスほか	（内 容）改革のポイントを含めて概要を学ぶ。 （必要な準備）教科書の該当項目と事前配布した資料に目を通しておく。	
第11回	障害者総合支援法の内容 自立支援給付の構成	（内 容）事業、サービス内容について学ぶ。 （必要な準備）教科書の該当項目と事前配布した資料に目を通しておく。	
第12回	障害者総合支援法の内容 現状と課題	（内 容）現状と課題、今後の展望について学ぶ。 （必要な準備）教科書の該当項目と事前配布した資料に目を通しておく。	
第13回	障害者福祉の実際 関連領域の動向と連携	（内 容）事例を使って援助の実際について学ぶ。 （必要な準備）教科書の該当項目と事前配布した資料に目を通しておく。	
第14回	障害者福祉の実際 相談支援の充実	（内 容）事例を使って援助の実際について学ぶ。 （必要な準備）教科書の該当項目と事前配布した資料に目を通しておく。	
第15回	障害者福祉の展望	（内 容）講義内容を総括し、今後の在り方について考える。 （必要な準備）これまでの内容を確認しておく。	

授 業 名	介護概論			開 講 学 年	2回生	単 位 数	2単位	
英 文 名	Introduction to Nursing Care			開 講 時 期	春学期	必修・選択	選択	
担 当 者	高岡 理恵			対 象 学 生	現代家政2回生			
授業の概要	要介護者の生活支援においては、まず、自分自身が自己覚知できていることが大切です。また同時に対象である「その人」の理解も深くしなければなりません。理解するためには「勘やコツ」ではなく、根拠に基づいた科学的思考を用いることが必要です。さらに、人が生活する上で困難になり、それを支えていくために必要な生活支援技術の基礎理論を習得することを目的とします。							
学 習 成 果 達 成 目 標	1) 介護を取り巻く社会的背景について説明できる。 2) 介護の範囲とそれに関わる他職種の役割を説明できる。 3) 介護の思考過程を用いて利用者を理解することができる。 4) 生活を支援する具体的方法の根拠について説明できる。							
評 価 方 法	定期試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 (コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力	課題発見・解決能力) (
テ キ ス ト	社会福祉士養成講座編集委員会、新・社会福祉士養成講座『高齢者に対する支援と介護保険制度』、中央法規							
参 考 書	適宜紹介							
留 意 事 項	テキスト9章から14章までを範囲とします。 講義を中心に授業を行うが、適宜、学生自身の発表も実施する。主体的且つ積極的な授業参加を期待します。							
オ フ ィ ス ア ワ ー	1回目の授業で紹介します							

授 業 名		介護概論	
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題	
第1回	人を理解するということと自己覚知	(内 容)	自分自身を理解する 人に与える印象と観察方法について学ぶ (必要な準備) シラバスを読んでおく
第2回	社会福祉士と介護福祉士の役割	(内 容)	専門職の役割の違いを理解する (必要な準備) テキスト p 274 ~ 278 を読んでおく
第3回	介護の概念と範囲	(内 容)	介護の定義や法制度の位置づけを理解する (必要な準備) テキスト p 290 ~ 309 を読んでおく
第4回	専門職の倫理	(内 容)	社会福祉士及び介護福祉士の倫理要領をよみときながら それぞれの専門性について学ぶ (必要な準備) テキスト p 286 ~ 289 を読んでおく
第5回	介護の理念	(内 容)	介護の専門性を支える理念と価値について学ぶ (必要な準備) テキスト p 303 ~ 309 を読んでおく
第6回	介護過程の概要	(内 容)	介護過程とケアプランとの関係 介護過程という思考過程の考え方について理解する (必要な準備) テキスト p 326 ~ 335 を読んでおく
第7回	介護過程の展開方法	(内 容)	情報収集を行う意味と利用者理解について学ぶ (必要な準備) テキスト p 336 ~ 346 を読んでおく
第8回	介護過程の展開方法	(内 容)	ニーズの捉え方と優先順位 マズローの欲求段階について学ぶ (必要な準備) 配布資料に目を通しておくこと
第9回	介護各論 1 体の使い方	(内 容)	ボディメカニクスを理解する (必要な準備) テキスト p 357 ~ 366 を読んでおく
第10回	介護各論 2 食べること	(内 容)	食支援においての必要な視点を理解する (必要な準備) テキスト p 367 ~ 373 を読んでおく
第11回	介護各論 3 清潔にすること	(内 容)	入浴の意義や方法について理解する (必要な準備) テキスト p 374 ~ 379 を読んでおく
第12回	介護各論 4 排泄すること	(内 容)	排せつ動作や失禁について理解する (必要な準備) テキスト p 194 ~ 204 を読んでおく
第13回	介護を必要とする人 認知症の身体的理解	(内 容)	認知症の原因と中核症状を理解する (必要な準備) テキスト p 382 ~ 391 を読んでおく
第14回	介護を必要とする人 認知症の心理的理解	(内 容)	認知症の周辺症状の理解をする (必要な準備) テキスト p 392 ~ 391 の事例を予習しておく
第15回	介護を必要とする人 終末期ケア	(内 容)	終末期の定義と高齢者の身体変化を理解する (必要な準備) テキスト p 399 ~ 410 を読んでおく

授 業 名	保健医療サービス		開 講 学 年	3回生	単 位 数	2単位		
英 文 名	Health and Medical Teratment Services		開 講 時 期	秋学期	必修・選択	選択		
担 当 者	高岡 理恵		対 象 学 生	現代家政3回生				
授業の概要	患者や利用者、その家族が、病気や障害を抱えながらも日常生活を継続させていくためには、包括的な保健・医療・福祉サービスの利用や支援が必要となる。そのような支援体制を構築するため（ネットワーク作り）に、保健・医療と福祉の連携は欠かすことができない。社会福祉士を目指す学生にとって、保健・医療分野の知識、そこで働く専門職の理解は、現場で働く時、ネットワーク作りやチームケアを行うために必須のスキルとなるだろう。この授業は講義を通して、保健医療の機関・専門職・サービス内容を理解し、社会福祉の専門職の役割や期待されていることを、事例などを用いて具体的に伝えていきたい。							
学 習 成 果 達 成 目 標	1) 保健医療機関の基本的仕組みや現状や課題が理解できる。 2) 保健医療分野での社会福祉士の役割が理解できる。 3) 保健医療分野で働く時、自分が何をすればよいのか明確にすることができる。							
評 価 方 法	定期試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 (コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力	課題発見・解決能力)		
テ キ ス ト	新・社会福祉士養成講座 1 7 保健医療サービス 中央法規出版							
参 考 書	適宜紹介する。							
留 意 事 項	積極的な学習態度で授業にのぞむこと。							
オ フ ィ ス ア ワ ー	担当授業終了後に実施する。							

授 業 名		保健医療サービス	
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題	
第1回	ガイダンス	(内 容) 保健医療サービスとは何か概略を学ぶ。 (必要な準備) テキスト第1章第1節を読む。	
第2回	医療保健サービスの歴史	(内 容) 戦後の保健医療サービスの歴史を知る。 (必要な準備) テキスト第1章第2節を読む。	
第3回	医療に係わる法律	(内 容) 主に医療法を学ぶ。 (必要な準備) テキスト第1章第3節、第2章第1節を読む。	
第4回	「保健医療サービスの提供と経済的保障」 医療保険制度	(内 容) 医療保険制度について学ぶ。 (必要な準備) テキスト第5章第1節を読む。	
第5回	「保健医療サービスの提供と経済的保障」 診療報酬	(内 容) 診療報酬と公費負担医療について学ぶ。 (必要な準備) テキスト第5章第1・3節を読む。	
第6回	「保健医療サービスの提供と経済的保障」 介護保険制度	(内 容) 介護保険制度と介護報酬について学ぶ (必要な準備) テキスト第5章第2節を読む。	
第7回	「医療保健に関わる施設とシステム」 医療法に規定された医療施設	(内 容) 医療法による医療施設の機能・類型を学ぶ。 (必要な準備) テキスト第2章第1節を読む。	
第8回	「医療保健に関わる施設とシステム」 診療報酬上に規定された医療施設	(内 容) 保健医療政策・診療報酬における医療施設を学ぶ。 (必要な準備) テキスト第2章第2・3節を読む。	
第9回	「医療保健に関わる施設とシステム」 介護保険法による施設	(内 容) 介護保険法による施設の機能・類型を学ぶ。 (必要な準備) テキスト第2章第4・5節	
第10回	医療ソーシャルワーカーの歴史と業務の枠組み	(内 容) 医療ソーシャルワーカーの定義や歴史を知る。 (必要な準備) テキスト第3章第1節を読む。	
第11回	「医療ソーシャルワーカーの業務」 医療ソーシャルワーカーの業務	(内 容) 基本的な業務内容を学ぶ。 (必要な準備) テキスト第3章第2・3・4節を読む。	
第12回	「医療ソーシャルワーカーの業務」 医療ソーシャルワーカーの事例	(内 容) 事例を通じて具体的な業務内容を学ぶ。 (必要な準備) テキスト第3章 事例を読む。	
第13回	保健医療サービスにおける連携	(内 容) 領域の専門職とその連携方法について学ぶ (必要な準備) テキスト第4章を読む。	
第14回	保健医療の専門職との連携の実際	(内 容) チームケアの実際を学ぶ (必要な準備) テキスト第6章を読む。	
第15回	まとめと今後の課題	(内 容) 今後の課題について検討する。 (必要な準備) テキスト第7章を読む。	

授業名	社会福祉サービス運営			開講学年	3回生	単位数	2単位	
英文名	Administration of Social Welfare Service			開講時期	春学期	必修・選択	選択	
担当者	山西 辰雄			対象学生	現代家政3回生			
授業の概要	高齢者・障害者等の施設（居宅を含む）において利用者支援のみならず職員処遇の確保と施設経営の安定という課題が浮上しているが、このような動向を踏まえて社会福祉サービスの組織と経営のあり方を理解することを目的とする。講義形式の授業によって、措置制度や契約制度の内容を理解し、今日の施設経営に係る資金管理について知り、社会福祉サービスに従事する組織の運営について理解していく。社会福祉法人の理解、施設の設立、人事管理、リスクマネジメント等についても今日的なあり方を検討していきたい。							
学習成果到達目標	1) 社会福祉の組織と経営のあり方への疑問や意見を表明することができる。 2) 福祉サービスを提供する事業所の「質」の確保の必要性やその方法について見解をもつことができる。 3) 社会福祉の組織においてリーダーシップを発揮する必要性や方法について考えることができる。							
評価方法	定期試験 (80 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (20 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評価基準	主たる評価の 観点	知識・理解 (コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力	課題発見・解決能力)		
テキスト	新・社会福祉士養成講座第11巻『福祉サービスの組織と経営』中央法規							
参考書								
留意事項	社会福祉士国家試験のレベルにおいて学習する必要があるが、上記について基礎的な理解を養うことを優先する。自分の目指すところに添って、努力し学修してほしい。							
オフィス アワー	担当授業終了後に実施する。							

授 業 名		社会福祉サービス運営	
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題	
第1回	科目ガイダンス 社会福祉の「経営」への理解が必要な理由と背景	(内 容) 本講義の特徴を理解し、学習計画を立てる (必要な準備)	
第2回	福祉経営の基本指針	(内 容) 事業所経営の手順について理解する (必要な準備) 想像力	
第3回	福祉サービスの提供に関する基礎知識 法制度	(内 容) 社会福祉法が規定する内容を理解する (必要な準備) 法令への親近感	
第4回	同 上 提供組織	(内 容) 法人格をもつ手続や法人間の相違を理解する (必要な準備) 社会における多様な組織への親近感	
第5回	福祉経営の基礎理論 組織	(内 容) 経営組織の力動性を理解する (必要な準備) 想像力	
第6回	同 上 意思決定	(内 容) 組織の意思決定の手法、手続過程を理解する (必要な準備) 手順を踏むことへの親近感	
第7回	同 上 リーダーシップ	(内 容) 組織の多層性と連携手法を理解する (必要な準備) 手順を踏むことへの親近感	
第8回	同 上 経営戦略	(内 容) 組織の目標や内外の状況把握と分析を理解する (必要な準備) 手順を踏むことへの親近感	
第9回	同 上 サービス・マネージメント	(内 容) 関連し影響する人・組織・機関を理解する (必要な準備) 手順を踏むことへの親近感	
第10回	サービス提供組織のマネジメント 社会福祉法人	(内 容) 社会福祉法人の特色や独自性を理解する (必要な準備) 法令への親近感	
第11回	同 上 P O法人	N	(内 容) N P O法人の特色や独自性を理解する (必要な準備) 法令への親近感
第12回	同 上 株式会社等	株	(内 容) 株式会社等の特色や独自性を理解する (必要な準備) 法令への親近感
第13回	福祉サービスの管理 苦情解決とサービス評価	(内 容) 苦情解決とサービス評価を理解する (必要な準備) 手順を踏むことへの親近感	
第14回	同 上 理	人材確保と職員の管	(内 容) 人材確保と職員の業務管理を理解する (必要な準備) 手順を踏むことへの親近感
第15回	まとめ 事業所における社会福祉専門職の役割	(内 容) 社会福祉専門職の位置づけと役割を考究する (必要な準備) 想像力	

授 業 名	消費科学			開 講 学 年	2回生	単 位 数	2単位	
英 文 名	Consumption Science			開 講 時 期	秋学期	必修・選択	選択	
担 当 者	井上 博子			対 象 学 生	現代家政2回生			
授業の概要	消費者市民とは、くらしの法律・経済の基礎知識、IT被害、若者を取りまくワケルール、地球環境問題など、最新の消費者問題について解説する。現実に直面するさまざまな社会問題に目を向け、法ルールの基本原理や現代経済社会の仕組みを理解し、批判的思考を働かせながら、「消費者市民」としての社会人基礎力を養う。							
学 習 成 果 達 成 目 標	1) 消費者問題の現状について、知識を身につけるだけでなく、提言やプレゼンテーションができるようになる。 2) 「消費者市民」のセンス（自立性・公共性・批判的思考）を理解し、積極的に社会参画できる。 3) 倫理、社会、経済、環境面を考慮した消費行動ができる。							
評 価 方 法	定期試験 (60 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 (コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力)	(課題発見・解決能力)	
テ キ ス ト	国民センター編・発行『くらしの豆知識』							
参 考 書	『ハンドブック消費者』消費者庁、 『18歳から考える消費者と法』法律文化社 『大学生が知っておきたい生活のなかの法律』慶應義塾大学出版会							
留 意 事 項	消費者問題は、政治・経済・社会システムと密接に関連しているので、時事問題や社会現象に関心を持つこと。フードスペシャリスト資格試験の受験予定者は受講すること。予習、復習をしっかりとしておくこと。							
オ フ ィ ス ア ワ ー	担当授業終了後に実施する。							

授業名	消費科学	
授業計画	学習項目	学習内容・課題
第1回	現代社会と消費者問題（ガイダンス）	（内 容）授業の到達目標、具体的な進め方、受講に関する諸注意 （必要な準備）シラバスを読んでおくこと
第2回	「消費者市民」と消費者教育（消費者基本法と消費者庁）	（内 容）消費者の権利と責任、消費者行政について （必要な準備）配布資料を事前学習
第3回	契約の基礎知識（消費者契約法、クーリング・オフ制度）	（内 容）契約とは、契約をやめるには、クーリング・オフの手続き方法 （必要な準備）配布資料を事前学習
第4回	若者の消費者トラブルと消費者行政	（内 容）消費者庁や消費生活センターによせられる若者の相談事例について （必要な準備）配布資料を事前学習
第5回	IT社会と契約トラブル（消費者関連法規）	（内 容）消費者契約法や民法など契約に関する法ルールについて （必要な準備）発表の準備や論点を整理しておくこと。
第6回	情報をクリティカルに読み解く	（内 容）誇大広告と景品表示法について （必要な準備）テキストをよく読み、配布資料を事前学習
第7回	金融のしくみと機能	（内 容）銀行、クレジットカード、電子マネーについて （必要な準備）発表の準備、配布資料の事前学習
第8回	自立のための生活経済	（内 容）クレジットのルールと利用のポイント、金利や利息、リボルビング払いの計算について （必要な準備）発表の準備、配布資料の事前学習
第9回	雇用と労働問題	（内 容）雇用契約、若者の雇用環境、ブラックバイトについて （必要な準備）発表の準備、配布資料の事前学習
第10回	くらしの事故注意報	（内 容）子どもの事故、リコール制度について （必要な準備）発表の準備、配布資料の事前学習
第11回	地球環境の現状と廃棄物問題	（内 容）環境に関する国際会議、食料消費と環境問題、エコラベルについて （必要な準備）発表の準備、配布資料の事前学習
第12回	大気汚染と公害	（内 容）公害の歴史、水俣病、越境汚染について （必要な準備）発表の準備、配布資料の事前学習
第13回	エネルギー問題と原発	（内 容）原発のしくみ、再生可能エネルギー問題について （必要な準備）これまでの復習、配布資料の事前学習
第14回	グローバル社会のフェアトレード事情	（内 容）フェアトレード、絶滅危惧種（生物多様性）について （必要な準備）これまでの復習、配布資料の事前学習
第15回	CSRとエシカル消費	（内 容）エシカル消費者とは、これまでのまとめ （必要な準備）これまでの授業内容を整理し、確認しておく

授業名	地方行政論			開講学年	3年生	単位数	2単位
英文名	Theory of Local Government			開講時期	秋学期	必修・選択	選択
担当者	湯浅 俊郎			対象学生	現代家政3年生		
授業の概要	<p>地方公共団体は、その財産を管理し、事務を処理し、及び行政を執行する機能を有すると、憲法に定められている。この地方公共団体、具体的には基礎自治体としての市町村、広域自治体としての都道府県、さらに道州制等の行政の役割と機能について理解することが本講義の目的である。今日、住民の身近な存在である市町村行政の役割が強調されているが、その果たすべき役割と内容等についてとくに重視していきたい。また一方で広域行政の議論が登場しているが、その意味するところは何かについても論究していきたい（授業の進捗度合いにより予定の変更もあります）</p>						
学習成果到達目標	<p>1) 市役所や町村役場、都道府県庁、中央省庁、そこに勤める公務員と言われる人たちの活動を把握することができるようになる。 2) 日常生活と行政との関わりが理解できるようになる。 3) 行政について、マスコミなどが指摘する問題が起こる「しくみ」が理解できるようになる。</p>						
評価方法	定期試験 (60 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40 %)	筆記試験 口述	レポート 実習 制作物 実技
評価基準	主たる評価の 観点	知識・理解 (コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力) (課題発見・解決能力)		
テキスト	新藤宗幸,2012,『新版 行政ってなんだろう』岩波ジュニア新書						
参考書	授業時に適宜紹介します						
留意事項	積極的・主体的な学習参加を期待する						
オフィス アワー	毎週1回（休業期間中を除く。）オフィスアワーを設けます。 オフィスアワーに設定している時間帯であっても、会議や出張などで在室できない場合がありますので、予めご承知おきください。						

授 業 名		地方行政論
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題
第1回	オリエンテーション	(内 容) 授業の進め方について説明します。 (必要な準備)
第2回	行政をみる眼	(内 容) 政治と行政との関係について説明します。 (必要な準備) テキスト10～19頁を読んでください(60分)。
第3回	行政の国家の広がりとその変化 --福祉国家について	(内 容) 福祉国家への道とその反転について説明します。 (必要な準備) テキスト22～39頁を読んでください(60分)。
第4回	行政の国家の広がりとその変化 --行政国家について	(内 容) 行政国家とは何かについて説明します。 (必要な準備) テキスト39～53頁を読んでください(60分)。
第5回	日本の行政制度の変遷と現状 --日本国憲法 行政の国家の広がりとその変化	(内 容) 日本国憲法による原理の転換と戦前について (必要な準備) テキスト56～66頁を読んでください(60分)。
第6回	日本の行政制度の変遷と現状 --議員内閣制 行政の国家の広がりとその変化	(内 容) 議員内閣制と内閣の位置について (必要な準備) テキスト66～77頁を読んでください(60分)。
第7回	日本の行政制度の変遷と現状 --省庁	(内 容) 省庁の設置と管理について (必要な準備) テキスト78～95頁を読んでください(60分)。
第8回	日本の行政制度の変遷と現状 --公務員制度	(内 容) 公務員制度について (必要な準備) テキスト96～106頁を読んでください(60分)。
第9回	日本の行政制度の変遷と現状 --中央省庁と自治体	(内 容) 中央省庁と自治体との関係について (必要な準備) テキスト106～114頁を読んでください(60分)。
第10回	行政の働きが変えた市民の暮らし --行政の活動	(内 容) 行政の活動とその手段について (必要な準備) テキスト116～131頁を読んでください(60分)。
第11回	行政の働きが変えた市民の暮らし --政府規制	(内 容) 政府規制について。 (必要な準備) テキスト131～144頁を読んでください(60分)。
第12回	行政の働きが変えた市民の暮らし --公共事業	(内 容) 公共事業の問題について (必要な準備) テキスト145～164頁を読んでください(60分)。
第13回	行政の働きが変えた市民の暮らし --福祉政策	(内 容) 福祉政策について (必要な準備) テキスト164～182頁を読んでください(60分)。
第14回	行政の働きが変えた市民の暮らし --政府の事業	(内 容) 政府の事業について。 (必要な準備) テキスト182～200頁を読んでください(60分)。
第15回	道州制について --大阪都構想について	(内 容) 道州制について説明します。 (必要な準備) 市町村合併について調べてください(60分)。

授 業 名	公的扶助論			開 講 学 年	3回生	単 位 数	2単位	
英 文 名	Theory of Public Assistance			開 講 時 期	春学期	必修・選択	選択	
担 当 者	張 帆			対 象 学 生	現代家政3回生			
授業の概要	公的扶助制度の中心的制度である生活保護制度の仕組みについて学習する。生活保護制度の対象となる貧困問題とはどういう意味かを理解し、貧困問題が改めて社会問題となる現状を踏まえながら、貧困対策の在り方を考察する。							
学 習 成 果 達 成 目 標	1) 貧困・低所得問題を理解すること。 2) 生活保護制度を中心とした公的扶助制度について学ぶこと。 3) 公的扶助の今日の課題を考察することができるようになること。							
評 価 方 法	定期試験 (70 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (30 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 (論理的思考力)	コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力	課題発見・解決能力			
テ キ ス ト	『新・社会福祉士養成講座16 低所得者に対する支援と生活保護制度 公的扶助論』第4版(2016年) [中央法規] *2017年版が出版されている場合、2017年版を使用する							
参 考 書	随時指示する							
留 意 事 項								
オ フ ィ ス ア ワ ー	担当授業終了後に実施する							

授 業 名		公的扶助論	
授 業 計 画	学 習 項 目	学 習 内 容 ・ 課 題	
第1回	科目ガイダンス	(内 容) 本講義のねらいと計画 (必要な準備)	
第2回	公的扶助の概念	(内 容) 公的扶助の概念と範囲 (必要な準備) テキストの第1章第1節をよく読む	
第3回	公的扶助の意義と役割	(内 容) 社会保障制度の1つとして公的扶助の意義と役割 (必要な準備) テキストの第1章第2節をよく読む	
第4回	貧困・低所得者問題と社会排除 1 貧困の定義	(内 容) 貧困とは何を指すか (必要な準備) テキストの第2章第1節をよく読む	
第5回	貧困・低所得者問題と社会排除 2 貧困の要因	(内 容) 貧困の要因と社会的排除 (必要な準備) テキストの第2章第2節をよく読む	
第6回	公的扶助制度の歴史(イギリス)	(内 容) イギリスにおける公的扶助制度の歴史 (必要な準備) テキストの第3章第1節をよく読む	
第7回	公的扶助制度の歴史(日本)	(内 容) 日本における公的扶助制度の歴史 (必要な準備) テキストの第3章第2節をよく読む	
第8回	生活保護制度の仕組み 1 原理と原則	(内 容) 生活保護の原理・原則 (必要な準備) テキストの第4章第1節をよく読む	
第9回	生活保護制度の仕組み 2 種類	(内 容) 生活保護の種類 保護施設 (必要な準備) テキストの第4章第2, 3節をよく読む	
第10回	生活保護制度の仕組み 3 権利と義務	(内 容) 生活保護の権利・義務 不服申立て・訴訟 (必要な準備) テキストの第4章第4, 5, 6節をよく読む	
第11回	最低生活保障水準と生活保護基準	(内 容) 生活保護基準の具体的な計算方法 (必要な準備) テキストの第5章をよく読む	
第12回	生活保護実施体制	(内 容) 福祉事務所等の役割 (必要な準備) テキストの第8章をよく読む	
第13回	生活保護の動向と問題点	(内 容) 生活保護の動向と生活保護行政の課題 (必要な準備) テキストの第6章をよく読む	
第14回	生活保護制度改革	(内 容) 生活保護制度改革と将来の展望 (必要な準備) 関連する新聞記事を読む	
第15回	まとめ	(内 容) これまでの学習内容の復習 (必要な準備)	

授業名	教育制度論（中・高・栄）			開講学年	2回生	単位数	2単位	
英文名	Theory of Educational Systems			開講時期	秋学期	必修・選択	選択	
担当者	松浦 真理			対象学生	現代家政2回生、食物栄養2回生			
授業の概要	<p>教免法に定められた「教育に関する社会的、制度的又は経営的事項」を学ぶ基礎理論科目として、教育を枠組み、つまり制度から見つめ、その意義とこれまでの発展を理解し、今後の展開について考察することを目的とする。制度は政治経済的な側面と大きくかわるため、それについても考えていく。</p>							
学習成果到達目標	<p>1) 教育制度、とくに学校制度に関する歴史的な変遷と現在、今後の課題について説明ができる 2) 幼稚園、小学校、中学校、の学校教育制度を理解して、課題をつかむことができる。 3) 日本の教育行政制度、教育課程行政、教職員制度、学校経営に関する基礎的な知識を身につける。</p>							
評価方法	定期試験 (60 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評価基準	主たる評価の 観点	知識・理解 (コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力	課題発見・解決能力)		
テキスト	高妻紳二郎編著『新・教育制度論』（ミネルヴァ書房、2014）							
参考書	教育制度研究会編『要説教育制度』（学術図書出版）、尾崎ムゲン『日本の教育改革』（中公新書）など。							
留意事項	教員免許取得必須科目であり、本学実習要件科目になっている課程もあるので、対象者は頑張してほしい。							
オフィスアワー	随時。メールなどでの予約が望ましい。							

授 業 名		教育制度論（中・高・栄）	
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題	
第1回	イントロダクション「制度を学ぶ意義」	（内 容）授業の進め方、教育制度を学ぶ意義 （必要な準備）シラバスを読んでおく（20分）	
第2回	教育制度の基本原則	（内 容）日本の教育制度の基本原則を理解する （必要な準備）テキスト1章に関する前週に出した課題（30分）	
第3回	諸外国の教育制度	（内 容）諸外国の教育制度と比較して、違いと意味を考える （必要な準備）事前に出した課題をやっておく（30分）	
第4回	学校制度の発展と現在	（内 容）学校制度の定義、種類、系統、設置者など （必要な準備）テキスト2章に関する前章に題した課題（30分）	
第5回	義務教育制度	（内 容）日本の義務教育制度の確認 （必要な準備）教育基本法、学習指導要領総則を読む （30分）	
第6回	教職員の職務内容と義務	（内 容）教職員の責務と学校運営 （必要な準備）テキスト3章に関する前週に出した課題（30分）	
第7回	教員養成と現職研修	（内 容）教員に求められる資質能力と免許高度化 （必要な準備）テキスト4・5章に関する前週に出した課題（30分）	
第8回	教育委員会制度	（内 容）教育委員会の組織と権限 （必要な準備）テキスト6章に関する前週に出した課題（30分）	
第9回	学校評価の導入と手法	（内 容）学校評価の目的と手法 （必要な準備）テキスト8章に関する前週に出した課題（30分）	
第10回	新しい教員評価制度の仕組み	（内 容）新しい教員評価制度の仕組み （必要な準備）テキスト9章に関する前週に出した課題（30分）	
第11回	地域や親との連携に関わる諸制度	（内 容）地域住民の学校参画、学校選択制度 （必要な準備）テキスト14章に関する前週に出した課題（30分）	
第12回	教科書制度	（内 容）教科書検定・採択の特徴 （必要な準備）テキスト11章に関する前週に出した課題（30分）	
第13回	学校給食の制度	（内 容）学校給食の具体的形態と食育 （必要な準備）テキスト10章に関する前週に出した課題（30分）	
第14回	奨学金制度の行方	（内 容）教育費負担の諸課題 （必要な準備）テキスト13章に関する前週に出した課題（30分）	
第15回	まとめ	（内 容）これまでの内容から教育制度の意義の再確認 （必要な準備）前週に出した課題（1時間）	

授業名	教育制度論（幼・小）			開講学年	2回生	単位数	2単位	
英文名	Theory of Educational Systems			開講時期	秋学期	必修・選択	選択	
担当者	松浦 真理			対象学生	現代家政2回生			
授業の概要	<p>教免法に定められた「教育に関する社会的、制度的又は経営的事項」を学ぶ基礎理論科目として、教育を枠組み、つまり制度から見つめ、その意義とこれまでの発展を理解し、今後の展開について考察することを目的とする。制度は政治経済的な側面と大きくかかわるため、それについても考えていく。</p>							
学習成果到達目標	<p>1) 教育制度、とくに学校制度に関する歴史的な変遷と現在、今後の課題について説明ができる 2) 幼稚園、小学校、中学校、の学校教育制度を理解して、課題をつかむことができる。 3) 日本の教育行政制度、教育課程行政、教職員制度、学校経営に関する基礎的な知識を身につける。</p>							
評価方法	定期試験 (60 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評価基準	主たる評価の 観点	知識・理解 (コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力	課題発見・解決能力)		
テキスト	高妻紳二郎編著『新・教育制度論』（ミネルヴァ書房、2014）							
参考書	教育制度研究会編『要説教育制度』（学術図書出版）、尾崎ムゲン『日本の教育改革』（中公新書）ほか、適宜紹介する。							
留意事項	教員免許取得必須科目であり、本学実習要件科目になっている課程もあるので、対象者は頑張してほしい。							
オフィスアワー	随時。メールなどでの予約が望ましい。							

授 業 名		教育制度論（幼・小）	
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題	
第1回	イントロダクション「制度を学ぶ意義」	（内 容）授業の進め方、教育制度を学ぶ意義 （必要な準備）シラバスを読んでおく（20分）	
第2回	教育制度の基本原則	（内 容）日本の教育制度の基本原則と世界の制度 （必要な準備）テキスト1章に関する前週に出した課題（30分）	
第3回	学校制度の発展と現在	（内 容）学校制度の定義、種類、系統、設置者など （必要な準備）テキスト2章に関する前週に出した課題（30分）	
第4回	就学前教育制度	（内 容）日本の就学前教育制度の確認 （必要な準備）教育基本法、幼稚園教育要領該当箇所を読む（30分）	
第5回	義務教育制度	（内 容）日本の義務教育制度の確認 （必要な準備）教育基本法、学習指導要領総則を読む（30分）	
第6回	教職員の職務内容と義務	（内 容）教職員の責務と学校運営 （必要な準備）テキスト3章に関する前週に出した課題（30分）	
第7回	教員養成と現職研修	（内 容）教員に求められる資質能力と免許高度化 （必要な準備）テキスト4・5章に関する前週に出した課題（30分）	
第8回	教育委員会制度	（内 容）教育委員会の組織と権限 （必要な準備）テキスト6章に関する前週に出した課題（30分）	
第9回	学校評価の導入と手法	（内 容）学校評価の目的と手法 （必要な準備）テキスト8章に関する前週に出した課題（30分）	
第10回	新しい教員評価制度の仕組み	（内 容）新しい教員評価制度の仕組み （必要な準備）テキスト9章に関する前週に出した課題（30分）	
第11回	地域や親との連携に関わる諸制度	（内 容）地域住民の学校参画、学校選択制度 （必要な準備）テキスト14章に関する前週に出した課題（30分）	
第12回	教科書制度	（内 容）教科書検定・採択の特徴 （必要な準備）テキスト11章に関する前週に出した課題（30分）	
第13回	学校給食の制度	（内 容）学校給食の具体的形態と食育 （必要な準備）テキスト10章に関する前週に出した課題（30分）	
第14回	奨学金制度の行方	（内 容）教育費負担の諸課題 （必要な準備）テキスト13章に関する前週に出した課題（30分）	
第15回	まとめ	（内 容）これまでの内容から教育制度の意義の再確認 （必要な準備）前週に出した課題（1時間）	

授 業 名	ライフスタイルと法			開 講 学 年	2回生	単 位 数	2単位
英 文 名	Lifestyle and Law			開 講 時 期	秋学期	必修・選択	選択
担 当 者	渡辺 暁彦			対 象 学 生	現代家政2回生		
授業の概要	法（法律）と聞いて、皆さんはどのようなイメージをもちますか。皆さんのイメージを出発点にして、私たちの身近な生活のなかで法がどのような働きをしているのかについて考えていきます。その際には、裁判（所）の役割にも目を向ける必要があります。最近では、小・中学校における「法教育」の取組みも進んできました。本講義では、法の概念や法の体系・種類、法の解釈といった法律学上の基本事項について学ぶとともに、小・中学校における法教育のあり方等についても皆で話し合いたいと考えています。						
学 習 成 果 達 成 目 標	1) 身近な生活のなかで法（法律）がどのような役割を果たしているかについて理解できる。 2) 具体的な事件等について、法的な考え方にたつて問題点と解決策を説明することができる。 3) 小・中学校における法教育のあり方について学び、自分なりの実践案をまとめ、それを説明することができる。						
評 価 方 法	定期試験 (60 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40 %)	筆記試験 口述	レポート 実習 制作物 実技
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 (コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力	課題発見・解決能力)	
テ キ ス ト	森本直子ほか編『法学ダイアリー』（ナカニシヤ出版、2017年4月出版予定） *詳細は、初回授業の際に説明します。						
参 考 書	W・キャシディ&R・イエーツ編『小学校で法を語ろう』（成文堂、2015年）。また、可能であれば『六法』を準備していただきたいところですが、この点も含めて、初回に詳しい説明を行います。						
留 意 事 項	日々の新聞および雑誌記事の切り抜きを課題とします。そうした切り抜き（日々の出来事や事件など）を通して、私たちの生活のなかで、法や裁判がどのような役割を果たしているかについて考えてみてください。						
オ フ ィ ス ア ワ ー	担当授業終了後実施します。						

授 業 名	ライフスタイルと法	
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題
第1回	ガイダンス ~法律学への誘い、法とは何か、法の解釈とは~	(内 容) 法とは何か、法を学ぶことの意味について考えます。 (必要な準備) テキストの目次及び「プロローグ」に簡単に目を通しておくこと。
第2回	誕生と法 ~法の対象となるヒトとは?~	(内 容) ヒト(人)の誕生をめぐる法的問題について学ぶ。 (必要な準備) テキスト第1章に目を通しておくこと。(30分)
第3回	子どもと法	(内 容) 法の解釈とはどのようなものか、様々な解釈手法について取り上げます。 (必要な準備) テキスト第2章に目を通しておくこと。(30分)
第4回	市民生活と法	(内 容) 市民としての私たちの責務、特に選挙や納税をめぐる問題、そして裁判員制度等について学ぶ。 (必要な準備) テキスト第3章に目を通しておくこと。(30分)
第5回	消費生活と法 ~消費者の権利~	(内 容) 契約に関わる法的問題について学ぶ。 (必要な準備) テキスト第4章に目を通しておくこと。(30分)
第6回	職業生活と法 ~労働に関する法的ルール~	(内 容) 労働法の基本問題について学ぶ。 (必要な準備) テキスト第5章に目を通しておくこと。(30分)
第7回	パートナーシップと法	(内 容) 婚姻や離婚をめぐる法的問題について学ぶ。 (必要な準備) テキスト第6章に目を通しておくこと。(30分)
第8回	事故と法 ~事故の法的責任~	(内 容) 学校事故などを例に、民法の不法行為について学ぶ。 (必要な準備) テキスト第7章に目を通しておくこと。(30分)
第9回	犯罪と法	(内 容) 刑法の基礎について学ぶ。 (必要な準備) テキスト第8章に目を通しておくこと。(30分)
第10回	高齢化と法	(内 容) 社会保障法の基礎について学ぶ。 (必要な準備) テキスト第9章に目を通しておくこと。(30分)
第11回	終末期と法	(内 容) 安楽死・尊厳死問題等を素材に医事法の基本について学ぶ。 (必要な準備) テキスト第10章に目を通しておくこと。(30分)
第12回	人の死と法	(内 容) 民法(特に、親族・相続法)の基本を学ぶ。 (必要な準備) テキスト第11章に目を通しておくこと。(30分)
第13回	情報社会と法	(内 容) 情報公開制度や個人情報保護制度、インターネットをめぐる法的問題について学ぶ。 (必要な準備) テキスト第12章に目を通しておくこと。(30分)
第14回	環境と法	(内 容) 環境法の基本について学ぶ。 (必要な準備) テキスト第13章に目を通しておくこと。(30分)
第15回	まとめ ~グローバル社会に生きる私たち~	(内 容) グローバル社会のなかで、あらためて法の役割とは何かについて皆で話し合う。 (必要な準備) テキスト第14章に目を通すとともに、これまでの講義内容を振り返り、あらためて法とは何かについて自らの意見をまとめておく。(1時間)

授業名	行政学			開講学年	2回生	単位数	2単位	
英文名	Public Administration			開講時期	春学期	必修・選択	選択	
担当者	山谷 清秀			対象学生	現代家政2回生			
授業の概要	<p>日常生活において「行政」という言葉は特段身近ではない。しかしながら私たちの生活を支えているのは確かに行政であり、電気、水道、食事、ゴミ、買い物、学校、保育、道路など、いずれの領域においても行政にたどり着くサービスが展開されている。また、少子高齢化、教育問題、女性の社会進出等の多様な社会問題に対応していくのも、市民から選ばれた議員を通じて行政が行うのである。</p> <p>しかしながら、近年は行政、とりわけ行政職員・公務員に対する政治家やマスコミからの批判も多く、またそれらが支持される場合も少なくない。他方でそれらの批判が単なる感情論から脱却し、的確に問題の本質を捉え、社会問題の解決につながり得る場合がどれほどあろうか。</p> <p>本講義では行政の基本的な知識を身につけるとともに、行政の特徴、すなわち長所や短所、問題点や課題を理解することによって、一市民として生活者の視点から現状の行政の問題点を的確に捉えることを目的とする。</p> <p>講義のなかでは、教科書的な内容もちろん含むが、個別具体的な社会問題を取り上げ、行政がどのように対応し活動しているかという視点からの説明もし、できる限り行政学に親しみやすくわかりやすい講義を行う。</p>							
学習成果到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 行政学の各領域における学問分野の基礎知識を身につける。 ・ 主体的に行政の役割やあり方について考えを持てるようになる。 ・ 実務に役立てることができる知識や考え方を身につける。 ・ 社会問題に対してどのように対処できるか自らの考えを持ち、主張できるようになる。 							
評価方法	定期試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評価基準	主たる評価の 観点	知識・理解 (筆記試験は自らの考えを論述してもらう。)	コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力	課題発見・解決能力	(毎授業時に小コメントを提出してもらう。)		
テキスト	テキストは指定しない。							
参考書	西尾勝 (2001) 『行政学〔新版〕』有斐閣。 真淵勝 (2009) 『行政学』有斐閣。 今村都南雄ほか (2015) 『ホーンブック 基礎行政学〔第3版〕』北樹出版。 佐藤竺監修、今川晃・馬場健編 (2009) 『市民のための地方自治入門 新訂版』実務教育出版。 今川晃編著 (2014) 『地方自治を問いなおす』法律文化社。							
留意事項	毎回の授業時に数行程度のコメントカードを提出してまいります。授業での感想・質問・意見を書いてください。それをもって平常点とします。書いていただいた内容については、次授業時に回答します。							
オフィス アワー	メールにて連絡をとる。							

授 業 名	行政学	
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題
第1回	行政学とはなにか、イントロダクション	(内 容) 授業の説明、「行政学」の歴史について、行政学を学ぶ意味について (必要な準備) 行政学について簡単に調べてくる。
第2回	政治と行政	(内 容) 政治と行政はなにがちがうのか、政治学と行政学はなにがちがうのか。どのような関係にあるのか。分ける意味。 (必要な準備) 政治とはなにか、政治学とはなにかを確認しておく。
第3回	行政国家	(内 容) 現代の多岐にわたる行政について、その役割や課題、改革についてを見る。 (必要な準備) 行政国家がどのような意味を持つのか、現代における課題を確認しておく。
第4回	日本の行政組織	(内 容) 日本における行政組織、その役割や相互の関係、課題についてを見る。 (必要な準備) 日本の行政組織に関して、テキストの該当箇所やニュース、新聞記事等を確認しておく。
第5回	財政と行政	(内 容) 行政と財政の関係についてを見る。 (必要な準備) 日本の予算執行について、テキストの該当箇所やニュース、新聞記事等を確認しておく。
第6回	公務員制度	(内 容) 中央政府や地方政府の官僚・公務員の制度について、そのしくみを確認するとともに課題や行われてきた改革について説明する。 (必要な準備) 日本の公務員制度の課題について、ニュースや新聞記事等を確認しておく。
第7回	行政管理	(内 容) 「行政を管理する」というのはどのような意味なのかを確認するとともに、実際にどのように管理しているのかを見る。 (必要な準備) 「行政管理」という名称を持つ行政組織について確認しておく。
第8回	行政責任と行政統制	(内 容) 行政の責任とは何なのかを具体的な事例を踏まえながら確認する。その責任をいかに確保するか(=どう統制するか)についても確認する。 (必要な準備) 最近の行政の責任を問うニュースを調べておく。
第9回	行政苦情救済	(内 容) 行政と市民の関係について、とりわけ行政統制の観点から見る。 (必要な準備) 行政苦情救済という言葉がどのように用いられているのかを確認しておく。
第10回	行政改革・NPM	(内 容) とりわけ日本において、行政にどのような課題が見受けられ、どのように改革されてきたかの歴史をたどるとともに、「新しい公共」の概念について、そしてどのような取り組みがあるかを見る。 (必要な準備) 「行政改革」や「新しい公共」といった概念について確認しておく。
第11回	政府間関係・中央地方関係	(内 容) とりわけ日本の中央政府と地方政府の関係について、具体的な事例も踏まえながら確認する。 (必要な準備) 中央政府と地方政府が争うような事例、そしてどのように解決されるかを調べておく。
第12回	地方自治の意義	(内 容) 日本における地方自治やその課題、改革についてを確認する。海外における事例も見る。 (必要な準備) 「地方自治」とは何なのかを確認しておく。
第13回	政策形成・実施・評価	(内 容) 行政学の1つの大きなテーマである「政策」の概念、そして政策体系(政策・施策・事業)を確認し、行政がどのように政策を形成し、実施し、評価し、そして次の事業につなげているのかを確認する。 (必要な準備) 「政策」の定義、「政策学」の定義について確認しておく。
第14回	行政の役割と市民の役割	(内 容) 一市民として社会問題にどのように対応していくのか、そして行政はなにができるのか。 (必要な準備) 社会問題に対して一市民ができることを考える。
第15回	まとめ	(内 容) これまでの授業のまとめ、質問が多かった点等について確認する。 (必要な準備)

授 業 名	行政法			開 講 学 年	2回生	単 位 数	2単位	
英 文 名	Administrative Law			開 講 時 期	春学期	必修・選択	選択	
担 当 者	武蔵 勝宏			対 象 学 生	現代家政2回生			
授業の概要	<p>行政法の特徴は、民法などと異なり「行政法」という一般法典が存在しないことにあります。そのため、行政法総論の内容は、多くの行政法規を整理し、学説・判例などを踏まえて体系化されたもので、「行政作用法」、「行政救済法」、「行政組織法」の3分野から構成されています。</p> <p>講義では主に「行政作用法」と「行政組織法」を中心に取り上げ、その基本的な考え方を学びます。</p> <p>講義を通じて多くの学生が行政法に関心を持ってもらえるよう、できるだけ身近な例を紹介しながら講義を進めていきます。</p>							
学 習 成 果 達 成 目 標	行政法の総論、行政組織に関する基礎的な知識を獲得する。							
評 価 方 法	定期試験 (70 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (30 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 (コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力	課題発見・解決能力)		
テ キ ス ト	吉田利宏「つかむ・つかえる行政法」法律文化社、2011年。							
参 考 書								
留 意 事 項	法と社会の動きは関連しています。日ごろから新聞に目を通して、裁判や政治、行政に関心を持つようにしてください。							
オ フ ィ ス ア ワ ー	担当授業終了後に実施する。							

授 業 名		行政法
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題
第1回	行政法とは	(内 容) 行政法を学ぶ意味とは (必要な準備) テキスト1章を読みまとめること(30分)。
第2回	行政法になれる	(内 容) 法令や法律の構造を読み解く (必要な準備) テキスト2章を読みまとめること(30分)。
第3回	公務員	(内 容) 行政を支える人 (必要な準備) テキスト3章を読みまとめること(30分)。
第4回	国や自治体の組織	(内 容) 行政を支える組織 (必要な準備) テキスト4章を読みまとめること(30分)。
第5回	行政と司法制度	(内 容) 司法制度の現在と未来 (必要な準備) テキスト5章を読みまとめること(30分)。
第6回	行政立法	(内 容) 行政行為論 1 (必要な準備) テキスト6章を読みまとめること(30分)。
第7回	行政行為の特徴と効力	(内 容) 行政行為論 2 (必要な準備) テキスト7章を読みまとめること(30分)。
第8回	行政裁量・非権力的な活動	(内 容) 行政行為論 3 (必要な準備) テキスト8章を読みまとめること(30分)。
第9回	行政調査・義務履行の手段	(内 容) 行政行為論4 (必要な準備) テキスト9章を読みまとめること(30分)。
第10回	地方分権改革と自治体	(内 容) 自治体論1 (必要な準備) テキスト10章を読みまとめること(30分)。
第11回	自治基本条例と市民参加	(内 容) 自治体論2 (必要な準備) テキスト11章を読みまとめること(30分)。
第12回	市民自治を支える仕組み1	(内 容) 二元代表制と直接請求権 (必要な準備) テキスト12章を読みまとめること(30分)。
第13回	市民自治を支える仕組み 2	(内 容) 住民投票・パブリックコメント・審議会 (必要な準備) テキスト13章を読みまとめること(30分)。
第14回	自治体議会	(内 容) 議会と住民参加 (必要な準備) テキスト14章を読みまとめること(30分)。
第15回	行政法を活かす	(内 容) 全講義を総括し、行政を活かす方法を考える (必要な準備) 全体の講義ノートを通読する(1時間)

授 業 名	行政法		開 講 学 年	2回生	単 位 数	2単位		
英 文 名	Administrative Law		開 講 時 期	秋学期	必修・選択	選択		
担 当 者	武蔵 勝宏		対 象 学 生	現代家政2回生				
授業の概要	<p>行政法が民法や刑法などの科目と異なる点は、行政法という名前の法律が存在しないことです。しかし、行政法は、国や地方自治体等の組織や活動に関する法律として、現行法律の大半を占めており、日常生活と密接に関連する法分野です。たとえば、道路交通法や食品衛生法といった法律の名前は誰でも一度は聞いたことがあると思います。本講義では、こうした私たちの日常生活に身近な行政法のうち、「行政救済法」の分野を中心に、行政手続法や情報公開法についても学ぶこととします。講義では、行政法の重要性と面白さに気づいてもらえるよう説明します。</p>							
学 習 成 果 達 成 目 標	行政法、特に行政救済法に関する基礎的な知識を身につけることができるようになる。							
評 価 方 法	定期試験 (70 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (30 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 (コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力) (課題発見・解決能力)			
テ キ ス ト	吉田利宏「つかむ・つかえる行政法」法律文化社、2011年。							
参 考 書								
留 意 事 項	法と社会の動きは関連しています。日ごろから新聞に目を通して、裁判や政治、行政に関心を持つようにしてください。							
オ フ ィ ス ア ワ ー	担当授業終了後に実施する。							

授 業 名		行政法
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題
第1回	行政法総論の全体像	(内 容) 行政法総論の概要 (必要な準備) テキストの1章から14章のアウトラインを読みまとめること(1時間)
第2回	行政救済法の全体像	(内 容) 行政救済法の全体構造 (必要な準備) テキストの15章を読みまとめること(30分)
第3回	不服申立ての対象・種類・結果	(内 容) 行政不服審査法1 (必要な準備) テキストの16章を読みまとめること(30分)
第4回	不服申立ての手続	(内 容) 行政不服審査法2 (必要な準備) テキストの17章を読みまとめること(30分)
第5回	行政不服審査法の改正後	(内 容) 行政不服審査法3 (必要な準備) テキストの18章を読みまとめること(30分)
第6回	行政事件訴訟法の概論	(内 容) 行政事件訴訟法の概要 (必要な準備) テキストの19章を読みまとめること(30分)
第7回	どんなときに取消訴訟を起こすことができるか1	(内 容) 行政訴訟における処分性の問題 (必要な準備) テキストの20章を読みまとめること(30分)
第8回	どんなときに取消訴訟を起こすことができるか2	(内 容) 行政訴訟における原告適格・訴えの利益の問題 (必要な準備) テキストの21章を読みまとめること(30分)
第9回	取消訴訟以外の抗告訴訟	(内 容) 義務付け訴訟・差し止め訴訟 (必要な準備) テキストの22章を読みまとめること(30分)
第10回	2004年法改正のインパクト	(内 容) 行政事件訴訟法改正の意味 (必要な準備) テキストの23章を読みまとめること(30分)
第11回	国家賠償法の意義・1条	(内 容) 公務員による損害の救済 (必要な準備) テキストの24章を読みまとめること(30分)
第12回	国家賠償法2条	(内 容) 物による損害の救済 (必要な準備) テキストの25章を読みまとめること(30分)
第13回	処分に関する手続	(内 容) 行政手続法1 (必要な準備) テキストの26章を読みまとめること(30分)
第14回	行政指導に関する手続・パブリックコメント	(内 容) 行政手続法2 (必要な準備) テキストの27章を読みまとめること(30分)
第15回	情報公開法	(内 容) 情報公開法とそれを支える仕組み (必要な準備) テキストの28章を読みまとめること(30分)

授業名	統計学			開講学年	2回生	単位数	2単位
英文名	Statistics			開講時期	春学期	必修・選択	選択
担当者	堀出 雅人			対象学生	現代家政2回生		
授業の概要	調査で収集したデータをまとめたり分析したりするために必要な、基礎的な統計学の知識を習得することを目的としている。授業は、確率論の基礎的な知識をまじえながら、基本統計量の算出、度数分布表やクロス集計表の作成などからはじめ、サンプリングと統計的な検定の原理や、分散、相関に関する分析手法について解説する。すべての授業を通じて、具体例を用いて作業しながら学べるよう心がける。なお、この授業内容は、秋学期に開講予定の「統計」と連続している。本授業で、統計の基本的なルールを理解した上で、「統計」においては統計を研究や仕事の場面で活用できるよう実践的な力を伸ばすため応用的な課題を自ら解決する態度がもとめられる。						
学習成果到達目標	テキスト内に紹介されている活用事例を通して、統計の基本的な考え方やルールを説明することができる 統計処理ソフト(Excel)を用いて、自ら、統計の分析ができるようになる。 統計の分析の結果をグラフや表などで視覚化できる。また、分析結果に対して考察を加えることができる。 毎回の授業時にふりかえりシートを配布する。受講生は次の回に必ず提出すること。 ふりかえりシートでまとめたものが最終のレポート課題の一部となるため、毎回の授業への取り組み方が重要である。						
評価方法	定期試験 (60 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40 %)	筆記試験 口述	レポート 実習 制作物 実技
評価基準	主たる評価の 観点	知識・理解 (コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力) (課題発見・解決能力) (
テキスト	活用事例でわかる!統計リテラシー 数学が苦手でも大丈夫! noa出版 2014年12月10日発行 1,667円+税						
参考書	授業の進捗に合わせて、適宜、参考となる書籍や記事などを紹介する						
留意事項	毎回テキストを用いた学習が中心となる。必ずテキストを購入すること。 本授業(基礎)と秋学期開講の「統計」(応用)は内容は続きになっている。						
オフィス アワー	月曜日の昼休み						

授 業 名		統計学	
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題	
第1回	統計のイメージに出会う (テキストpp.1-14)	(内 容)	表現手法としての統計を学ぶ 「物語作りの流れ」と「統計の流れ」の比較する (必要な準備) 学習項目に指定されたテキストの範囲を一読してくる
第2回	統計の流れを理解する 統計で分析するための対象、範囲、方針 (テキストpp.15-28)	(内 容)	統計で分析を行うテーマを決定する際の、対象、範囲、方針の絞り方を理解する (必要な準備) 前回の授業のふりかえりを作成 学習項目に指定されたテキストの範囲を一読してくる
第3回	統計の流れを理解する 統計の素材となる情報収集の方法、集めた情報を見せ方 (テキストpp.29-42)	(内 容)	統計に必要な情報として全体像、関係性、事実の3つの観点を意識し収集することを理解する。図書館やインターネット上の公官庁統計、論文データの収集方法を習得する。数値、表、グラフ、図解で統計データを視覚化しまとめる方法を練習する。 (必要な準備) 前回授業のふりかえりを作成、学習項目のテキストの範囲を一読
第4回	統計の流れを理解する 仮説から分析の見通しをたてる 分析結果の考察のまとめ方 (テキストpp.43-70)	(内 容)	統計による分析をおこなうための仮説のたて方を学ぶ。 統計の結果と考察の報告のまとめ方を理解する。 (必要な準備) 前回の授業のふりかえりを作成 学習項目に指定されたテキストの範囲を一読してくる
第5回	統計の活用事例に学ぶ 平均値、中央値、標準偏差 (テキストpp.71-85)	(内 容)	顧客分析を体験する ・購入金額の平均値を調べる ・グラフからばらつきを読み取る ・平均値や標準偏差を活用し顧客をグループ化する (必要な準備) 前回授業のふりかえりを作成、学習項目の指定テキスト範囲を一読
第6回	統計の活用事例を学ぶ 散布図、相関関係、相関係数、近似直線、 (テキストpp.86-99)	(内 容)	天気と売上の関係から、効果的な販売・仕入れを考える ・販売個数のデータの傾向を把握する、変動の要因を考える ・気温と販売個数から相関を読み取る数値での表し方を学ぶ ・天気予報から販売個数を予想する近似直線の数式を理解をする (必要な準備) 前回授業のふりかえりを作成、学習項目の指定テキスト範囲を一読
第7回	統計の活用事例を学ぶ 標本調査、標本(サンプル)、正規分布、標準偏差 (テキストpp.100-111)	(内 容)	統計的思考で商品の品質をチェック! ・品質管理を例にサンプリングの考え方を学ぶ ・正規分布を活用し品質管理する方法や標準誤差について理解する (必要な準備) 前回の授業のふりかえりを作成 学習項目に指定されたテキストの範囲を一読してくる
第8回	統計の活用事例を学ぶ 代表値、ヒストグラム、統計的検定、有意差、t検定 (テキストpp.112-12)	(内 容)	統計的検定で効果判定 ・代表値(最大値 最小値 データ幅 平均値 中央値 標準偏差) ・ヒストグラムで表し全体を把握する方法やt検定を用いて有意差を導く (必要な準備) 前回授業のふりかえりを作成、学習項目のテキストの範囲を一読
第9回	統計の活用事例を学ぶ 分散分析、一元配置、二元配置、多元配置分散分析、分散分析表、F検定 (テキストpp.124-136)	(内 容)	統計にもとづく商品陳列で購買促進 ・分散分析をつかって3つ以上のグループの差をもとめながら、分散分析の種類を理解する (必要な準備) 前回授業のふりかえりを作成、学習項目に指定されたテキストの範囲を一読
第10回	統計の考え方を習得する 名義尺度、順序尺度、間隔尺度、比例尺度 (テキストpp.138-147)	(内 容)	データを数値やグラフで要約する ・記述統計と推測統計の違いを説明できる ・定性データと定量データのそれぞれの尺度の違いを説明できる (必要な準備) 前回の授業のふりかえりを作成 学習項目に指定されたテキストの範囲を一読してくる
第11回	統計の方法を習得する 分散と標準偏差、四分位範囲と四分位偏差、散布図と相関係数 (テキストpp.148-159)	(内 容)	ヒストグラムをつかってばらつきを示し、Excelの関数で散や標準偏差をもとめることができる。また、散布図や相関係数から分布や関係の理解する (必要な準備) 前回授業のふりかえりを作成、学習項目に指定されたテキストの範囲を一読
第12回	統計の考え方を習得する 数学的確率と統計的確率、一様分布、二項分布 (テキストpp.160-173)	(内 容)	できごとを確率で考える ・トランプやサイコロの例から確率の考え方を説明できる ・さまざまな事象を表す多様な確率分布のモデルを理解する (必要な準備) 前回の授業のふりかえりを作成 学習項目に指定されたテキストの範囲を一読してくる
第13回	統計の考え方を習得する 推測統計、標本調査、統計的検定 (テキストpp.174-194)	(内 容)	一部から全体を推測する～標本調査と検定～ ・調査の設計と計画について、統計的検定について、正規分布の特徴や統計的検定の考え方を学ぶ (必要な準備) 授業のふりかえりを作成、学習項目に指定されたテキスト範囲を一読
第14回	統計の考え方を習得する 回帰分析、無相関検定、説明(独立)変数、目的(従属)変数 (テキストpp.195-208)	(内 容)	データから関係を探る～回帰分析入門～ ・回帰分析の考え方を説明できる ・回帰分析の注意点を説明できる (必要な準備) 前回の授業のふりかえりを作成 学習項目に指定されたテキストの範囲を一読してくる
第15回	まとめ	(内 容)	これまでの授業の復習 最終課題の説明 「統計」に向けての準備事項の説明 (必要な準備) 前回の授業のふりかえりを作成 学習項目に指定されたテキストの範囲を一読してくる

授業名	統計学			開講学年	2回生	単位数	2単位	
英文名	Statistics			開講時期	秋学期	必修・選択	選択	
担当者	堀出 雅人			対象学生	現代家政2回生			
授業の概要	<p>社会調査で得られたデータの分析で用いる基礎的な多変量解析法について、その基本的な考え方と主要な計量モデルを解説する授業である。特に、因果関連を明らかにするために用いる分析手法である重回帰分析と、変数を要約するために用いる分析手法である因子分析について詳しくとりあげ、データを読み解く力をつけていく。</p>							
学習成果到達目標	<p>テキスト内に紹介されている活用事例を通して、統計の基本的な考え方やルールを説明することができる 統計処理ソフト(Excel)を用いて、自ら、統計の分析ができるようになる。 統計の分析の結果をグラフや表などで視覚化できる。また、分析結果に対して考察を加えることができる。 毎回の授業時にふりかえりシートを配布する。受講生は次の回に必ず提出すること。 ふりかえりシートでまとめたものが最終のレポート課題の一部となるため、毎回の授業への取り組み方が重要である。</p>							
評価方法	定期試験 (60 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評価基準	主たる評価の 観点	知識・理解 (コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力	課題発見・解決能力) (
テキスト	<p>活用事例でわかる!統計リテラシー 数学が苦手でも大丈夫! noa出版 2014年12月10日発行 1,667円+税 統計学がわかる【回帰分析・因子分析編】 向後千春 富永敦子 2008 1,814円</p>							
参考書	<p>授業の進捗状況に合わせて適宜指示する</p>							
留意事項	<p>本授業は、春学期に開講された「統計」と連続した構成となっている。「統計」は基礎、「統計」は応用を学ぶ。 したがって、受講生には「統計」と「統計」の連続受講を望む。</p>							
オフィスアワー	<p>月曜日の昼休み</p>							

授 業 名		統計学
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題
第1回	公的統計の活用 (テキスト :pp.210-212)	(内 容) <実践> 公的統計を使って都市計画に挑戦 ・人口統計の活用と読み取り方を学ぶ ・人口増減率をグラフにし分析結果を文章にまとめることができる (必要な準備) 学習項目に指定されたテキストの範囲を一読してくる
第2回	平均値、中央値、最大値、最小値、標準偏差 X? 検定 (テキスト :pp.213-215)	(内 容) <実践> Web上の文字情報を活用した予備調査 ・意識調査の回答データから代表値をまとめることができる ・代表値からデータをグループ分けし偏りや誤差を検定する (必要な準備) ふりかえりシート提出、学習項目に指定されたテキストの範囲を一読してくる
第3回	散布図、相関関係、近似直線、単回帰式 (テキスト :pp.216-218)	(内 容) <実践> 作物統計から農業の現状を把握する ・作物統計調査から日本の農業の現状把握し将来の生産予測 ・散布図で相関関係を読み取り近似直線を描き単回帰式をもとめる (必要な準備) ふりかえりシート提出、学習項目に指定のテキスト範囲を一読してくる
第4回	統計的意識決定論、標準偏差 (テキスト :pp.219-223)	(内 容) <実践> リスク×利益で統計的な経営判断 ・さまざまな条件を仮定し、複数の選択肢の先にある結果や期待値やその実現確率を数値化し総合的に判断する手法を学ぶ (必要な準備) ふりかえりシート提出、学習項目に指定されたテキストの範囲を一読してくる
第5回	パラメータ設計、シグナル・ノイズ比、二元配置分散分析表、F検定 (テキスト :pp.224-226)	(内 容) <実践> 材料の品質を見極める ・品質管理に使用する統計値やグラフを作成し、要因効果図やSN比を理解し、分散分析で2要因の影響を判断できる (必要な準備) ふりかえりシート提出、テキストの学習項目指定範囲を一読してくる
第6回	X? 検定、基本統計量 (テキスト :pp.227-230)	(内 容) <実践> アンケートの統計分析で教育効果を測定 ・2つのグループでのアンケート結果から満足度に与える要因を統計的に検討することができる。 (必要な準備) ふりかえりシート提出、学習項目に指定されたテキストの範囲を一読してくる
第7回	重回帰分析とは (テキスト :第4章)	(内 容) 単回帰と重回帰のモデルの違いが説明できる (必要な準備) ふりかえりシート提出、学習項目に指定されたテキストの範囲を一読してくる
第8回	重回帰分析の適用方法 (テキスト :第5章)	(内 容) 重相関係数を求めることができる (必要な準備) ふりかえりシート提出、学習項目に指定されたテキストの範囲を一読してくる
第9回	重回帰分析の問題点 (テキスト :第6章)	(内 容) 疑似相関について説明できる (必要な準備) ふりかえりシート提出、学習項目に指定されたテキストの範囲を一読してくる
第10回	重回帰分析の実践	(内 容) 重回帰分析を行う課題を統計処理ソフトを用いてもとめることができる、さらに、分析結果を文章で説明することができる。 (必要な準備) ふりかえりシート提出
第11回	因子分析とは (テキスト :第7章)	(内 容) 共通因子と観測変数の関係を説明できる。 (必要な準備) ふりかえりシート提出、学習項目に指定されたテキストの範囲を一読してくる
第12回	因子分析の適用方法 (テキスト :第8章)	(内 容) 具体的な事例をもとに因子分析を分析の流れを説明できる (必要な準備) ふりかえりシート提出、学習項目に指定されたテキストの範囲を一読してくる
第13回	因子分析の実践	(内 容) 因子分析を行う課題を統計処理ソフトを用いてもとめることができる、さらに、分析結果を文章で説明することができる。 (必要な準備) ふりかえりシート提出
第14回	因子分析の実践結果の報告	(内 容) 因子分析を行う課題をまとめた結果を共有するため、受講生同士、発表する (必要な準備) ふりかえりシート提出、発表資料を作成し提出する
第15回	まとめ	(内 容) 主に重回帰分析、因子分析の特徴を説明することができる 最終課題のレポートの内容を把握する (必要な準備) 発表のふりかえりシートを作成し提出

授 業 名	労働法			開 講 学 年	2回生	単 位 数	2単位	
英 文 名	Labor Law			開 講 時 期	春学期	必修・選択	選択	
担 当 者	中川 直毅			対 象 学 生	現代家政2回生			
授 業 の 概 要	<p>現役実務家の人事部長、社会保険労務士として、実務と理論を融合させながら、労働法の基礎知識を体系的に学ぶことで、学生の皆さんが、働く際に自分の身を自分で守っていけるよう、その知識と知恵を提供していきます。授業は教科書に沿いながらも豊富な事例を織り込みながら「明るく、楽しく、分かりやすく」、そして「役に立つ」授業内容としていきます。</p> <p>昨今問題のブラック企業への対抗策も授業の中で取り上げていきます。また、新卒採用の面接などの話題についても法的視点でお話していきます。</p>							
学 習 成 果 達 成 目 標	<p>1) 働く際に自己の権利を守る為の、労働法の必須知識が身につく</p> <p>2) 手を差し伸べるべき人々に、労働法を駆使して援助できる基礎知識が身につく</p> <p>3) ブラック企業について労働法視点でその特長を説明することができる</p>							
評 価 方 法	定期試験 (100 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 (思考・判断力	コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力	課題発見・解決能力			
テ キ ス ト	<p>公益社団法人全国労働基準関係団体連合会 編 「知らなきゃトラブる 労働基準関係法の要点 新訂3版」 公益社団法人全国労働基準関係団体連合会 2016年刊 1800円(税別)</p>							
参 考 書	必要に応じて授業で指示する							
留 意 事 項	特になし							
オ フ ィ ス ア ワ ー	<p>毎回授業終了後に実施する。 アルバイト先などの職場で、働くルールについて疑問点がある場合の相談にも応じる。</p>							

授業名	労働法	
授業計画	学習項目	学習内容・課題
第1回	オリエンテーション	(内 容) 授業計画について / 労働法の全体像と労働紛争解決機関について (必要な準備) シラバスの内容を確認しておくこと (予習: 30分)
第2回	採用と労働契約 ～労働基準法、職業安定法、若者雇用促進法	(内 容) 新卒採用、採用内定、労働契約などについて学ぶ (必要な準備) テキストP7～P20について目を通しておくこと (予習: 30分)
第3回	職場のルールブック ～労働基準法、労働契約法	(内 容) 就業規則、労働者代表、不利益変更の禁止、人事考課、懲戒、昇格・降格などについて学ぶ (必要な準備) テキストP22～P28について目を通しておくこと (予習: 30分)
第4回	勤務する時間と心休まる休日 ～労働基準法	(内 容) 労働時間、休日、時間外労働(残業)、36協定などについて学ぶ (必要な準備) テキストP29～P53について目を通しておくこと (予習: 30分)
第5回	休む権利は保障されている ～労働基準法、育児介護休業法、労働時間等設定改善法	(内 容) 年次有給休暇、育児休業、介護休業、ワークライフバランスなどについて学ぶ (必要な準備) テキストP55～P68について目を通しておくこと (予習: 30分)
第6回	お給料を法的に考える ～労働基準法、最低賃金法、賃金支払確保法	(内 容) 賃金の範囲・支払ルール、残業代、最低賃金の法的保護などについて学ぶ (必要な準備) テキストP69～P89について目を通しておくこと (予習: 30分)
第7回	生命(いのち)を守る労働安全衛生法 ～労働安全衛生法	(内 容) 安全配慮義務、安全衛生委員会、ヒヤリハット、健康診断、受動喫煙などについて学ぶ (必要な準備) テキストP90～P108について目を通しておくこと (予習: 30分)
第8回	ブラック企業とハラスメント ～労働基準法、労働安全衛生法、労災保険法	(内 容) 過重労働、メンタル対策、パワハラ、労働災害(業務災害・通勤災害)などについて学ぶ (必要な準備) テキストP109～P120について目を通しておくこと (予習: 30分)
第9回	会社はヒトを簡単に辞めさせることはできない ～労働基準法、雇用保険法	(内 容) 解雇、退職と定年、リストラ、失業と雇用保険などについて学ぶ (必要な準備) テキストP121～P132について目を通しておくこと (予習: 30分)
第10回	女性を守る法律 ～労働基準法、男女雇用機会均等法、育児介護休業法	(内 容) 男女差別の禁止、女性労働者保護、女性活躍推進、未成年者などについて学ぶ (必要な準備) テキストP133～P143について目を通しておくこと (予習: 30分)
第11回	セクハラとマタハラの法と実務 ～男女雇用機会均等法、育児介護休業法	(内 容) 配布レジメにそって、セクハラ、マタハラについて学ぶ (必要な準備) テキストP144～P145について目を通しておくこと (予習: 30分)
第12回	多様な雇われ方で働く人を守る(1) ～パート労働法、高齢者雇用安定法	(内 容) パート労働者、高齢雇用者、外国人技能実習生の法的保護などについて学ぶ (必要な準備) テキストP147～P160、P208～P215について目を通しておくこと (予習: 30分)
第13回	多様な雇われ方で働く人を守る(2) ～労働契約法、労働者派遣法	(内 容) 有期契約社員、派遣先の派遣労働者の法的保護などについて学ぶ (必要な準備) テキストP161～P178、P187～P201について目を通しておくこと (予習: 30分)
第14回	労働組合、団結してパワーアップ ～労働組合法	(内 容) 配布レジメにそって、労働組合の要件、労働協約、ユニオンショップ、団体交渉、不当労働行為などについて学ぶ (必要な準備) 労働組合についての情報をホームページや図書館で収集しておくこと (予習: 30分)
第15回	まとめ	(内 容) 授業の振り返りをする (必要な準備) テキストをもう一度通読し、期間内の授業を簡単に復習しておくこと (予習: 80分)

授 業 名	就労支援サービス			開 講 学 年	3回生	単 位 数	2単位
英 文 名	Work Support Service			開 講 時 期	春学期	必修・選択	選択
担 当 者	大西 雅裕			対 象 学 生	現代家政3回生		
授業の概要	講義形式の授業によって、ソーシャルワークにおいて必要となる各種の就労支援制度、就労支援に係る組織、団体及び専門職や就労支援分野との連携について理解することを目的とする。講義形式の授業を通して、労働法規についての概要、雇用・就労の全般的動向、就労支援制度の概要、就労支援に係る組織・団体の役割、就労支援に関わる専門職の役割と実際、就労支援分野との連携とその実際等について教授していきたい。障害者、母子世帯、被保護者等を対象とした具体的な就労支援の実態と課題について論究していきたい。						
学 習 成 果 達 成 目 標	1) 今日の就労全体について理解できる。 2) 障害者に対する支援制度、サービスの状況が理解できる。 3) 今日の障害者等の就労支援の状況が理解できる。						
評 価 方 法	定期試験 (85 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (15 %)	筆記試験 口述	レポート 実習 制作物 実技
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 (コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力) (課題発見・解決能力)		
テ キ ス ト	新・社会福祉士養成講座18 就労支援サービス 第4版 中央法規出版						
参 考 書	社会福祉学習双書編集委員会編「社会福祉援助技術論」全国社会福祉協議会 その他適宜紹介する						
留 意 事 項	積極的な学習態度で授業にのぞむこと。						
オ フ ィ ス ア ワ ー	担当授業終了後に実施する予定						

授 業 名		就労支援サービス	
授 業 計 画	学 習 項 目	学 習 内 容 ・ 課 題	
第1回	ガイダンス就労支援の実際	(内 容) 就労支援についての現状 (必要な準備) 就労への支援には何が必要か考える。	
第2回	働くことの意味と社会福祉士の役割	(内 容) 労働の意味 (必要な準備) 働くということについて事前に考えてくる	
第3回	労働法規の概要	(内 容) 労働法を中心とした関連法について理解する (必要な準備) 労働法規について予習する	
第4回	障害者の就労状況	(内 容) 就労の現状 (必要な準備) 障害者に対する障壁について予習する	
第5回	雇用施策の状況	(内 容) 現状としての雇用制度を理解する (必要な準備) 就労サービス制度について予習する	
第6回	障害者福祉施策としての就労状況	(内 容) 福祉施策としての就労制度を観る。 (必要な準備) 事前資料を予習する	
第7回	就労支援に関わる機関等	(内 容) 就労支援に関わる公的機関等 (必要な準備) ハローワークの機能について予習する	
第8回	障害者就労支援に団体等	(内 容) 障害者就労支援に関わる団体 (必要な準備) 就労支援団体としてどんなものがあるか予習する	
第9回	障害者就労支援の現状	(内 容) 事例を通して就労支援の現状を理解する (必要な準備) 事例について予習してくる	
第10回	低所得者への就労支援	(内 容) 現状について (必要な準備) 今なにか問題となっているか予習する	
第11回	低所得者への就労支援制度	(内 容) 現状の支援制度と支援団体等 (必要な準備) 制度・サービスについて予習する	
第12回	低所得者への就労支援	(内 容) 専門職の役割等 (必要な準備) 専門職について予習する	
第13回	就労支援と連携と専門職	(内 容) 諸機関等連携の現状 (必要な準備) どんな機関、専門職が関わるか予習する	
第14回	連携の実際	(内 容) 連携の実際について (必要な準備) ネットワーキングの意味を予習する 連携とは何かについて予習する。	
第15回	就労支援サービスの体系についてとまとめ	(内 容) 全体の振り返りとまとめ (必要な準備) 全体を通して質問を考えてくる	

授業名	社会保障論 u			開講学年	3回生	単位数	2単位	
英文名	Theory of Social Security I			開講時期	春学期	必修・選択	選択	
担当者	高岡 理恵			対象学生	現代家政3回生			
授業の概要	<p>社会保障は、現代社会においてすべての人が生きていく上で不可欠の貢献をしており、それに寄せられる期待はますます大きくなっている。しかしながら、人口構造の高齢化や財政難の深刻化によって様々な問題が急増しており、その将来像は決して明るいものではない。講義形式及びグループワークを通して、社会保障の必要性の根拠、それを支える基本的な思想、それを構成する主要な原則と制度を検討しながら、社会保障の将来を展望するとともに現代社会における社会保障のあるべき姿を解明する。</p>							
学習成果到達目標	<p>1) 日本における各種の社会保障制度について基本的な内容を理解し説明できるようになること。 2) 少子高齢化が進む中、社会保障制度について自分なりの問題意識を持つようになること。 3) これからの社会保障制度の在り方について自分なりの考察を展開できるようになること。</p>							
評価方法	定期試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評価基準	主たる評価の 観点	知識・理解 (論理的思考力	コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力	課題発見・解決能力)		
テキスト	埋橋孝文・大塩まゆみ編著「5 社会保障」ミネルヴァ書房							
参考書	『はじめての社会保障』第13版(2016) 有斐閣							
留意事項								
オフィス アワー	1回目の授業で紹介します							

授 業 名		社会保障論 U
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題
第1回	科目ガイダンス	(内 容) 授業のねらい (必要な準備) シラバスを読んでくること
第2回	少子高齢社会	(内 容) 日本の少子・高齢化状況をグラフから読む (必要な準備) テキスト第1章第1節を読む
第3回	少子高齢社会の影響による課題	(内 容) 少子高齢社会から受ける課題について考える (必要な準備) 新聞・メディアから情報を得、課題を発表できるようにしておく
第4回	社会保障の概念	(内 容) 社会保障の理解 社会保障の必要性について (必要な準備) テキスト第1章第2節を読む
第5回	社会保障の源流	(内 容) 中世以降の社会保障の考え方について理解を深める (必要な準備) ロックとルソーの考え方について調べてきてください
第6回	社会保障の誕生と普及	(内 容) 社会保障誕生の歴史と発展について理解を深める (必要な準備) テキストの第1章第3節をよく読む
第7回	日本の社会保障制度の特徴	(内 容) 日本の社会保障制度の特徴を理解する (必要な準備) テキストの第1章第4節をよく読む
第8回	公的扶助 生活困窮者の状況	(内 容) 近年の生活保護受給者と社会的背景を理解する (必要な準備) テキスト第2章第1節2節を読む
第9回	公的扶助 生活保護制度	(内 容) 生活保護制度のしくみを理解する (必要な準備) テキスト第2章第3節を読む
第10回	公的扶助 生活保護施設と福祉事務所	(内 容) 福祉事務所とその業務を学ぶ 居宅で生活できない保護受給者のための施設の役割について学ぶ (必要な準備) テキスト第2章第4節を読む
第11回	年金制度 体系と沿革	(内 容) 年金制度の必要性和体系について学ぶ (必要な準備) テキスト第3章第1節を読む
第12回	年金制度 仕組みと内容	(内 容) 年金制度の仕組みについて学ぶ (必要な準備) テキスト第3章第2節～5節を読む
第13回	年金制度 年金制度の現状と課題	(内 容) 少子化が年金制度に与える影響について理解する (必要な準備) テキスト第3章第6節を読む
第14回	雇用保険 制度の沿革と内容	(内 容) 制度の沿革を理解する (必要な準備) テキスト第6章1節を読む
第15回	雇用保険 労働災害補償	(内 容) 労働災害補償や休業補償等について学ぶ (必要な準備) テキスト第6章2節を読む

授業名	社会福祉行政			開講学年	3回生	単位数	2単位
英文名	Social Welfare Administration			開講時期	秋学期	必修・選択	選択
担当者	野田 隆生			対象学生	現代家政3回生		
授業の概要	<p>1) 社会福祉事業の運営を担う福祉行政の組織とそこで働く専門職の役割や専門性について学ぶ。</p> <p>2) 社会福祉事業に関する行政や財政の仕組み(各種社会福祉担当部局課、福祉事務所、児童相談所等)や、社会福祉計画(老人福祉計画、介護保険事業計画、障害福祉計画、次世代育成支援行動計画、地域福祉計画等)の意義や目的について理解することを学ぶ。</p> <p>3) 国・都道府県・市町村の役割を理解し、国と地方自治体との関係や組織及び団体における専門職の役割等について学ぶ。</p>						
学習成果到達目標	<p>1) 社会福祉事業に関する行政・財政の仕組みを理解できる。</p> <p>2) 社会福祉行政の実施体制を理解し、その現状を把握することができる。</p> <p>3) 社会福祉計画(老人福祉計画、障害福祉計画、次世代育成支援行動計画、地域福祉計画等)の意義や目的について理解することができる。</p>						
評価方法	定期試験 (70 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (30 %)	筆記試験 口述	レポート 実習 制作物 実技
評価基準	主たる評価の 観点	知識・理解 (思考・判断力	コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力	課題発見・解決能力)	
テキスト	磯部文雄/府川哲夫編著『概説福祉行政と福祉計画』ミネルヴァ書房,2016,3						
参考書	山口道昭著『福祉行政の基礎』(有斐閣,2016,10) 畑本裕介著『社会福祉行政—行政と福祉計画』(法律文化社,2012,4) 神野直彦・山本隆・山本恵子編著『社会福祉行政財政計画論』(法律文化社,2011,7) 石川久著『図解福祉行政はわかり』(学陽書房,2014,12) 竹端寛・伊藤健次・望月宗一郎・上田美穂編著『自分たちで創る現場を変える地域包括ケアシステム—わがまちでも実現可能なレシビ』(ミネルヴァ書房,2016,3)						
留意事項	下記について理解した上で履修されたし。 現代社会の動きに対応するために、新聞・雑誌等に常に目を通しておく。 時事問題を各自が取り上げ、それに基づきディスカッションができるようになる。 個別の発表内容を限られた時間に、必要な資料に基づき伝えることができるようになる。 筆記試験については、テキストの持ち込みを可とする。						
オフィス アワー	授業初回時に連絡をします。 基本的に研究室に在室していれば対応をします。また、急な質問等については学内E-mailを利用して下さい。						

授 業 名	社会福祉行政	
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題
第1回	はじめに ～社会福祉とは～	(内 容) 本講の進め方、成績評価の方法について解説した後、「社会福祉」の理解に向けた復習を行う。 (必要な準備) テキスト第1章(pp.1-8)を読んでおく。(45分)
第2回	福祉行政の組織と専門職について	(内 容) 福祉行政の理解ならびに社会福祉の実施体制について学ぶ。 (必要な準備) テキスト第2章(pp.10-27)を読んでおく。(45分)
第3回	福祉行政と福祉事務所について	(内 容) 福祉行政における福祉事務所の位置づけやその役割について理解を深める。 (必要な準備) テキスト第3章(pp.28-38)を読んでおく。(45分)
第4回	福祉行政の法体系について	(内 容) 福祉行政に関する法令について学ぶ。 (必要な準備) テキスト第4章(pp.39-57)を読んでおく。(45分)
第5回	「措置」から「契約」への移行について	(内 容) 社会福祉基礎構造改革について学び、措置から契約へと移行した社会背景について理解する。 (必要な準備) テキスト第5章(pp.58-66)を読んでおく。(45分)
第6回	福祉行政と地方分権改革について	(内 容) 地方分権改革を踏まえた福祉行政について学ぶ。 (必要な準備) テキスト第6章(pp.67-80)を読んでおく。(45分)
第7回	福祉財政と社会保障 ～社会福祉の位置づけと国の福祉予算～	(内 容) 国の一般会計予算に占める「社会保障関係費」について理解し、その課題について学ぶ。 (必要な準備) テキスト第7章(pp.81-89)を読んでおく。(45分)
第8回	福祉財政と社会保障 ～地方自治体と民間社会福祉事業～	(内 容) 地方自治体や民間社会福祉事業の財政基盤について理解し、その課題について学ぶ。 (必要な準備) テキスト第8章(pp.90-104)を読んでおく。(45分)
第9回	福祉財政と社会保障 ～市町村の福祉財源～	(内 容) 市町村の福祉財源の概況と民生費について理解し、その課題について学ぶ。 (必要な準備) テキスト第9章(pp.105-116)を読んでおく。(45分)
第10回	福祉計画の意義と目的について	(内 容) 福祉計画の意義・目的・法的位置付けについて理解する。 (必要な準備) テキスト第10章(pp.118-129)を読んでおく。(45分)
第11回	高齢者に関する福祉計画について	(内 容) 1980年代以降の高齢者に関する福祉計画について理解し、その課題について学ぶ。 (必要な準備) テキスト第11章(pp.130-146)を読んでおく。(45分)
第12回	障害者に関する福祉計画について	(内 容) 1980年代以降の障害児者に関する福祉計画について理解し、その課題について学ぶ。 (必要な準備) テキスト第12章(pp.147-161)を読んでおく。(45分)
第13回	地域福祉に関する福祉計画について	(内 容) 地域福祉における福祉計画について理解し、その課題について学ぶ。 (必要な準備) テキスト第13章(pp.162-174)を読んでおく。(45分)
第14回	子ども・子育てに関する福祉計画について	(内 容) 子どもや子育てに関する福祉計画について理解し、その課題について学ぶ。 (必要な準備) テキスト第14章(pp.175-186)を読んでおく。(45分)
第15回	まとめにかえて ～自分らしく生きることのできる社会とは?～	(内 容) 社会福祉行政の制度改革のねらいと地域住民のニーズへの対応は連動しているのかを考え、これからの展望についてディスカッションをする。 (必要な準備) テキスト第15章(pp.187-195)を読み、自分の考えをまとめておく。(90分)

授 業 名	権利擁護の実際			開 講 学 年	3回生	単 位 数	2単位	
英 文 名	Actual Conditions of Right Protection			開 講 時 期	秋学期	必修・選択	選択	
担 当 者	大西 雅裕			対 象 学 生	現代家政3回生			
授業の概要	<p>ソーシャルワークと法（日本国憲法の基本原理、民法・行政法の理解を含む）との関わり、成年後見制度（後見人等の役割を含む）の概要とその実際、成年後見制度に関する権利擁護活動について理解することを目的とする。社会福祉協議会、法務局、家庭裁判所等の組織団体の役割及び関連する専門職の役割を認識する。具体的には、認知症高齢者、被虐待児・者、非行少年、ホームレス、知的障害者、精神障害者等への支援対応の実際について事例を通して学んでいく。講義形式を基本とするが、学生にも発表してもらう。</p>							
学 習 成 果 達 成 目 標	<p>1) 相談援助活動と法制度について理解できる。 2) 人権と成年後見制度について理解できる。 3) 実際の事例を通して制度・支援の実際について理解できる。</p>							
評 価 方 法	定期試験 (85 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (15 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 (コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力	課題発見・解決能力)		
テ キ ス ト	新・社会福祉士養成講座19 権利擁護と成年後見制度 第4版 中央法規出版							
参 考 書	額田洋一監修 「成年後見制度とは・・・」社会福祉法人 東京都社会福祉協議会 その他適宜紹介する							
留 意 事 項	積極的な学習態度で授業にのぞむこと。							
オ フ ィ ス ア ワ ー	担当授業終了後に実施する等に対応します。							

授 業 名		権利擁護の実際	
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題	
第1回	ガイダンスと権利擁護	(内 容) ガイダンスと権利擁護について (必要な準備) 基本的人権について予習する	
第2回	法制度についての理解を深める	(内 容) 日本の法体系について理解する (必要な準備) 日本国憲法について予習する	
第3回	成年後見制度はなぜ必要なのか	(内 容) 成年後見制度の背景を知る (必要な準備) 身近な人権について予習する。	
第4回	成年後見制度の概要(あらまし)	(内 容) 制度の概要を知る (必要な準備) 制度の概要について予習する	
第5回	補助制度について	(内 容) 補助制度の概要 (必要な準備) 補助人等について予習する	
第6回	保佐制度について	(内 容) 保佐制度の概要 (必要な準備) 保佐任等について予習する	
第7回	後見制度について	(内 容) 後見制度の概要を知る (必要な準備) 制度についての事前学習をする	
第8回	成年後見人等と成年後見監督人等	(内 容) 後見人の選任とその監督人について知る (必要な準備) 後見人について予習する	
第9回	制度の利用手続き	(内 容) 制度利用の流れを知る (必要な準備) 機関組織について予習する	
第10回	権利擁護に関わる機関	(内 容) 家庭裁判所等の機関について知る (必要な準備) 機関等の役割内容を予習する	
第11回	任意後見制度・日常生活自立支援事業について	(内 容) 高齢者の人権について考える。 (必要な準備) 事例について予習してくる	
第12回	権利擁護に関わる障害者事例の検討	(内 容) 障害者事例を通して考える (必要な準備) 事例の予習をする。	
第13回	権利擁護に関わる高齢者事例の検討	(内 容) 事例を通しての理解 (必要な準備) 事例について事前学習する	
第14回	人権侵害についての権利擁護活動の実際	(内 容) 人権侵害事例の検討 (必要な準備) 事例について事前学習する	
第15回	成年後見制度とそのまとめ	(内 容) まとめ (必要な準備) 全体について質問項目を考える	

授 業 名	男女共同参画社会論			開 講 学 年	3回生	単 位 数	2単位	
英 文 名	Theory of Gender Equality			開 講 時 期	秋学期	必修・選択	選択	
担 当 者	斧出 節子			対 象 学 生	現代家政3回生			
授業の概要	男女が共同参画しながら社会を形成していくことは、男女平等を達成するために必要であるとともに、ポスト経済成長時代の社会形成にも重要である。グローバル化、脱工業化といった社会の仕組みが変化するにしたがって、なぜ男女共同参画が重要となってくるのかを、ジェンダー・人権という視点を基底におきながら考える。男女共同参画の現状は諸領域においてどのような状況であるのかを検証し、これからの課題を探る。							
学 習 成 果 達 成 目 標	1) 日本社会の男女共同参画の現状について、国際動向に照らし合わせながら理解できる。 2) 受講生一人一人が、男女共同参画社会の担い手になる自覚をもつことができる。 3) 具体的な課題を設定し、その課題解決に向けての提言ができるようになる。							
評 価 方 法	定期試験 (80 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (20 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 (積極的な授業への取り組み)	コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力	課題発見・解決能力			
テ キ ス ト	『未来をひらく男女共同参画 - ジェンダーの視点から』西岡正子編 (ミネルヴァ書房)							
参 考 書	随時紹介する							
留 意 事 項	ジェンダー論を履修しておくことが望ましい。参加型の授業を目指すので、授業内での積極的な発言を求める。							
オ フ ィ ス ア ワ ー	毎週1回 (休業期間中を除く。) オフィスアワーを設けます。具体的な日時は研究室に張り出します。 【備考】オフィスアワーに設定している時間帯であっても、会議や出張などで在室できない場合があります。また、あらかじめ予約が必要な場合がありますので、その場合は、メールまたは直接申し出るようにしてください							

授 業 名		男女共同参画社会論
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題
第1回	オリエンテーション 男女共同参画とは	(内 容) 男女共同参画社会とは何かについてについて理解する。 (必要な準備) シラバスを読んでおく。
第2回	メディアのなかの男女共同参画	(内 容) メディアのなかの男女共同参画の実態を理解する。 (必要な準備) テキストの該当箇所を読んでおく。(30分)
第3回	メディアにおける男女共同参画の課題	(内 容) メディアが人々に及ぼす影響とその課題について考える。 (必要な準備) テキストの該当箇所を読んでおく。(30分)
第4回	教育における男女共同参画：教科書	(内 容) 教科書における男女共同参画について考える。 (必要な準備) テキストの該当箇所を読んでおく。(30分)
第5回	男女共同参画社会の子育て：母親	(内 容) 母親の子育ての現状を理解する。 (必要な準備) 配布資料を読んでおく。(30分)
第6回	男女共同参画社会の子育て：父親	(内 容) 父親の子育ての現状を理解する。 (必要な準備) 配布資料を読んでおく。(30分)
第7回	男女共同参画社会における子育て支援の仕組み	(内 容) 北欧の子育て支援のしくみを学び、日本の課題を考える。 (必要な準備) 配布資料を読んでおく。(30分)
第8回	法律と男女共同参画社会	(内 容) 法律における男女共同参画の実態について学ぶ。 (必要な準備) テキストの該当箇所を読んでおく。(30分)
第9回	法律における男女共同参画の実態	(内 容) 法律における男女共同参画の課題について考える。 (必要な準備) テキストの該当箇所を読んでおく。(30分)
第10回	女性差別撤廃条約	(内 容) 女性差別撤廃条約の制定過程とその内容について理解する。(30分) (必要な準備) 配布資料を読んでおく。
第11回	ワーク・ライフ・バランスと男女共同参画	(内 容) ワーク・ライフ・バランスについて理解する。 (必要な準備) テキストの該当箇所を読んでおく。(30分)
第12回	「課題解決型企画」のワークショップ	(内 容) グループで課題設定し、企画書について学ぶ。 (必要な準備) 企画する「課題」設定を考えてくる。(30分)
第13回	各自のアクションプランの発表 グループ	(内 容) これまでの復習と学んだことを発表する。 (必要な準備) 発表の準備をしてくる。(60分)
第14回	各自のアクションプランの発表 グループ	(内 容) これまでの復習と学んだことを発表する。 (必要な準備) 発表の準備をしてくる。(60分)
第15回	全体のまとめと振り返り	(内 容) これまでのまとめと振り返りをする。 (必要な準備) 各自、授業を振り返っておく(30分)

授業名	情報ネットワーク論			開講学年	2回生	単位数	2単位	
英文名	Theory of Infomation Network			開講時期	秋学期	必修・選択	選択	
担当者	堀出 雅人			対象学生	現代家政2回生			
授業の概要	<p>情報ネットワークの急速な発展は、社会に様々な変化を起こすとともに、大きな可能性を秘めている。その反面、これまではない新たな社会問題にも直面する。授業では、情報ネットワークに対する幅広い基礎知識との活用力の育成が求められている。テキストでの学習を踏まえ、授業の後半は、グループ学習を導入して、わたしたちの暮らしと情報ネットワークの関係をケーススタディによって知識・理解を深める。その中で、情報倫理と情報の安全性を厳守し、情報ネットワークを利用できることをめざす。</p>							
学習成果到達目標	<p>1) 普段利用している情報ネットワークの基礎的な仕組みを説明できる 2) 情報ネットワークの活用や安全性を考えたり、専門家に質問したりできるようになる 3) 情報ネットワークを利用する場合、大学生として、社会人として求められる情報倫理が説明でき、実践できる</p>							
評価方法	定期試験 (60 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評価基準	主たる評価の 観点	知識・理解 (コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力	課題発見・解決能力)		
テキスト	<p>草野真一(2014)メールは届くのか インターネットのしくみがよくわかる, 講談社 noa出版(2017)情報倫理ハンドブック 2017年度版, noa出版</p>							
参考書	<p>その他、適宜、授業中に紹介する</p>							
留意事項	<p>定期試験60%、平常試験40%の割合で評価する。平常試験40%のうち、30%が授業でのグループ学習や個人学習の成果、5%が毎回授業時に提出をもとめるコメントカード、5%が授業への貢献(発言、進行促進など)。定期試験のレポート内容については、授業時に詳しく説明をするが、15回の授業を通して学んできた成果を集約したものとする。グループ学習や個人学習でまとめた資料を文章化しレポートにまとめ、各人の授業の学びの記録と気づきがわかるものとする。したがって、毎回の授業の出席および予習や復習の学修成果がレポートの出来に直結しているものとみなす。</p>							
オフィス アワー	<p>授業期間中の月曜日・木曜日の昼休み(研究室:1号館3階)</p>							

授 業 名		情報ネットワーク論
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題
第1回	情報ネットワークの基礎 インターネットの誕生と発展を説明できる	(内 容) インターネットの歴史を学ぶ (必要な準備) シラバスを読んでくる 予習: テキスト『メールはなぜ届くのか』pp.186~204
第2回	情報ネットワークの基礎 デジタルデータの特徴を説明できる	(内 容) デジタルデータの特徴について学ぶ (必要な準備) 予習: テキスト『メールはなぜ届くのか』pp.14~29
第3回	情報ネットワークの基礎 ネットワークのプロトコルの必要性を説明できる	(内 容) プロトコルについて学ぶ (必要な準備) 予習: テキスト『メールはなぜ届くのか』pp.30~41
第4回	情報ネットワークの仕組み ウェブページを閲覧できる仕組みを説明できる	(内 容) ウェブページの閲覧ができる仕組みを学ぶ (必要な準備) 予習: テキスト『メールはなぜ届くのか』pp.44~58
第5回	情報ネットワークの仕組み 電子メールの通信の仕組みを説明できる	(内 容) 電子メールが届く仕組みを学ぶ (必要な準備) 予習: テキストpp.『メールはなぜ届くのか』58~86
第6回	情報ネットワークの仕組み クラウドサービスの特徴と危険性を説明できる	(内 容) クラウドサービスの特徴について学ぶ (必要な準備) 予習: テキスト『メールはなぜ届くのか』pp.88~119
第7回	情報ネットワークの仕組み パケット通信とIPアドレスについて説明できる	(内 容) パケット通信とIPアドレスについて学ぶ (必要な準備) 予習: テキスト『メールはなぜ届くのか』pp.122~160
第8回	情報ネットワークの仕組み プロトコルとOSI参照モデルについて説明できる	(内 容) OSI参照モデルについて学ぶ (必要な準備) 予習: テキスト『メールはなぜ届くのか』トpp.160~184
第9回	情報ネットワークとネットコミュニケーション 著作権・肖像権侵害および個人情報の漏えいの事例と対策を説明できる	(内 容) 著作権, 肖像権, 個人情報の定義を学ぶ / グループ学習 (必要な準備) 予習: テキスト『情報倫理ハンドブック』トpp.5~13 グループごとに割り振られたテーマを資料にまとめてくる。
第10回	情報ネットワークとネットコミュニケーション ネットコミュニケーションを促進するさまざまなツールの特徴と使用上の注意を説明することができる。	(内 容) さまざまなコミュニケーションツールについて学ぶ / グループ学習 (必要な準備) グループごとに割り振られたテーマを資料にまとめてくる。 予習: テキスト『情報倫理ハンドブック』トpp.14~25 グループごとに割り振られたテーマを資料にまとめてくる。
第11回	情報ネットワークと情報セキュリティ 情報セキュリティを考える上で重要な3つな観点とともに現在情報セキュリティを脅かす事例について説明できる。	(内 容) 情報セキュリティの守るべき3観点を学ぶ / グループ学習 (必要な準備) グループごとに割り振られたテーマを資料にまとめてくる。 予習: テキスト『情報倫理ハンドブック』トpp.26~36 グループごとに割り振られたテーマを資料にまとめてくる。
第12回	情報ネットワークと情報セキュリティ 情報セキュリティを守るために現在構築されているセキュリティのための技術について説明できる。	(内 容) 情報セキュリティを守るための技術について学ぶ / グループ学習 (必要な準備) 予習: テキスト『情報倫理ハンドブック』トpp.160~184 グループごとに割り振られたテーマを資料にまとめてくる。
第13回	情報ネットワークとネットトラブル SNSやサイト上で起こる炎上などトラブルの原因と対策を具体的に説明することができる。	(内 容) ネットトラブルについて具体的な事例を挙げながら学ぶ / グループ学習 (必要な準備) 予習: テキスト『情報倫理ハンドブック』トpp.160~184 グループごとに割り振られたテーマを資料にまとめてくる。
第14回	情報ネットワークとIoT わたしたちの生活を支えるIoTの技術とその効果や影響について具体的な事例をあげながら説明することができる。	(内 容) IoTの技術について、その特徴とわたしの生活に与える効果について学ぶ。 (必要な準備) IoTの技術について、新聞や雑誌、Webサイトなどの各記事のなかから、自身がもっとも興味関心を受けた内容について、発表できるように、資料をまとめてくる。
第15回	これまでの情報ネットワークに関する学習を踏まえて、メールはなぜ届くのか、なぜインターネットから情報を得ることができるのか、それぞれのもっとも興味をもった観点から説明することができる。	(内 容) 15回の学習を通して、情報ネットワーク技術のこれまでの発展とこれからの展望を自ら描く。 (必要な準備) 授業を通してもっとも興味関心をもったテーマに沿って自ら学習した結果を発表できるようにまとめてくる。

授業名	社会調査の基礎			開講学年	2回生	単位数	2単位	
英文名	Basics of Social Survey			開講時期	春学期	必修・選択	選択	
担当者	湯浅 俊郎			対象学生	現代家政2回生			
授業の概要	<p>< 授業の概要 > 社会調査の意義と目的及び方法の概要について理解することを目的とする。社会調査の歴史の変遷を押さえながら、その意義と目的、調査方法としての「量的調査」（全数調査・標本調査・横断調査・縦断調査等）、「質的調査」（観察法・面接法等）の基本をふまえ、社会調査の方法（郵送法、留め置き法、訪問聴き取り法等）とその活用方法（社会福祉サービスの再考、社会福祉計画の策定等）について、実際の調査例をまじえながら概観する。講義形式の授業を通して、社会調査の倫理、社会調査における個人情報保護の重要性についても教授する。</p>							
学習成果到達目標	1) 社会調査の種類や方法・手順が理解できるようになる。 2) 調査設計の流れが理解できるようになる。 3) 新聞などマスコミが公表している調査結果の妥当性など検討することができるようになる。							
評価方法	定期試験 (60 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評価基準	主たる評価の 観点	知識・理解 (コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力	課題発見・解決能力)
テキスト	玉野和志,2008,『実践社会調査入門? 今すぐ調査を始めたい人へ』世界思想社.							
参考書	適宜、紹介します。							
留意事項	積極的・主体的な学習参加を期待する							
オフィスアワー	毎週1回（休業期間中を除く。）オフィスアワーを設けます。 オフィスアワーに設定している時間帯であっても、会議や出張などで在室できない場合がありますので、予めご承知おきください。							

授 業 名		社会調査の基礎
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題
第1回	オリエンテーション	(内 容) 授業の進め方について説明します。 (必要な準備)
第2回	社会調査の目的と意義について 社会調査にできることについて説明します。	(内 容) 社会調査の内容について説明します。 (必要な準備) テキスト『第1章 社会調査にできること』を読んでおく(60分)。
第3回	社会調査の倫理について	(内 容) 社会調査における倫理について説明します。 (必要な準備) 新聞などでおこなわれるアンケート調査など収集してみる(60分)。
第4回	社会調査の歴史 質的調査・量的調査の展開過程について	(内 容) 社会調査の歴史について説明し、質的・量的調査は、どのように展開していったのか説明します。 (必要な準備) テキスト4ページから14ページの内容を整理しておく(60分)。
第5回	社会調査の種類 目的による分類について?	(内 容) 社会調査の3つの方法について説明します。 (必要な準備) テキスト「第2章 社会調査とはどんなものか」を読んでおく(60分)。
第6回	社会調査の種類 方法による分類について--量的調査?	(内 容) アンケート調査について説明します。 (必要な準備) テキスト149ページから159ページまでを読んで整理してみる(60分)。
第7回	社会調査の種類 方法による分類について--質的調査?	(内 容) インタビューなど質的調査について説明します。 (必要な準備) テキスト63ページから76ページまでを読んで整理してみる(60分)。
第8回	社会調査の種類 統計的研究について	(内 容) 統計的な検定の考え方などについて説明します。 (必要な準備) テキスト「第6章 サーベイ調査の方法」を読んでおく(60分)。
第9回	社会調査の種類 事例研究について	(内 容) 事例研究について説明します。 (必要な準備) テキスト77ページから88ページまでを読んで整理してみる(60分)。
第10回	社会調査の種類 調査対象による分類について?	(内 容) 社会調査の3つの方法の組み合わせ方などについて説明します(60分)。 (必要な準備) テキスト「第3章 社会調査はどうやるか」を読んでおく(60分)。
第11回	聞き取り調査の方法と手順 インタビューについて	(内 容) インタビューの方法と手順について説明します。 (必要な準備) 雑誌・新聞などのインタビュー記事を集めてくる(60分)。
第12回	書かれた資料の収集と分析の方法と手順 文献調査について	(内 容) 文献調査の方法と手順について説明します。 (必要な準備) テキスト「第5章 書かれた資料の収集と分析」を読んでおく(60分)。
第13回	アンケート調査の方法と手順 アンケート調査について	(内 容) アンケート調査の方法と手順について説明します(60分)。 (必要な準備) 新聞の世論調査の記事など、きちんとサンプリングされているアンケート調査を収集する(60分)。
第14回	社会調査の実例 コミュニティ調査など	(内 容) 「コミュニティ調査の実際」について説明します。 (必要な準備) 配布資料を読んでおく(60分)。
第15回	社会調査の実例 家族調査など	(内 容) 「家族調査の実際」について説明します。 (必要な準備) 配布資料を読んでおく(60分)。

授 業 名	消費者調査法			開 講 学 年	3回生	単 位 数	2単位	
英 文 名	Consumer Survey			開 講 時 期	秋学期	必修・選択	選択	
担 当 者	湯浅 俊郎			対 象 学 生	現代家政3回生			
授業の概要	<p>これまで、消費者は、製品の情報をテレビや雑誌などのマスメディアや知人から得ていました。それが今日では、全く会ったことのない人のブログを読み、その人のコメントにひかれてネットから簡単にモノを買うようになりました。インターネットの普及により、個人がアクセスできる情報は増え、情報は「企業から消費者」という流れだけでなく、「消費者から消費者」へと展開するようになってきました。そのような時代になっても「欲しい」と感じてもらえる消費をつくるためには、どのようなニーズがあるのかわかる必要があります。リサーチはそのために有効な手段です。本授業では、リサーチの手順・仕方について学びます。</p>							
学 習 成 果 達 成 目 標	<p>1) マーケティングにおける調査設計の流れが分かるようになる。 2) マーケティングに関するデータを読むことができるようになる。 3) マーケティングに関わる妥当な資料を収集することができるようになる。</p>							
評 価 方 法	定期試験 (60 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 (コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力) (課題発見・解決能力) (
テ キ ス ト	玉野和志, 2008, 『実践社会調査入門-今すぐ調査を始めたい人へ』世界思想社 .							
参 考 書	適宜、紹介します。							
留 意 事 項	積極的・主体的な学習参加を期待する（授業の進展度合いにより予定の変更もあります）							
オ フ ィ ス ア ワ ー	毎週1回（休業期間中を除く。）オフィスアワーを設けます。 オフィスアワーに設定している時間帯であっても、会議や出張などで在室できない場合がありますので、予めご承知おきください。							

授 業 名		消費者調査法	
授 業 計 画	学 習 項 目	学 習 内 容 ・ 課 題	
第1回	オリエンテーション	(内 容) 授業の進め方について説明します。 (必要な準備)	
第2回	分析とは何か	(内 容) 分析とは何かについて説明します。 (必要な準備) 自分の関心のあることを整理してきてください(60分)。	
第3回	調査設計の準備について	(内 容) 調査設計の内容について説明します。 (必要な準備) 「食」に関して、自分の関心のあることを整理してきてください(60分)。	
第4回	観察・聞き取りの手順について	(内 容) 観察・聞き取りの手順について (必要な準備) 自分の関心のあることについて、観察やインタビューをする対象について整理してきてください(60分)。	
第5回	アンケート調査の進め方-手法について	(内 容) アンケート調査の手法について (必要な準備) 自分の関心のあることに関する調査票を収集してきてください(60分)。	
第6回	データの捉え方	(内 容) データの捉え方について (必要な準備) 家計調査の内容について調べてきてください(60分)。	
第7回	グラフ化について	(内 容) データのグラフ化について (必要な準備) 自分の関心のあることに関するいくつかのアンケートの報告書を比較してみて、どのようなグラフが示されているのか整理してきてください(60分)。	
第8回	文章化について	(内 容) データの文章化 (必要な準備) 自分の関心のあることに関するいくつかのアンケートの報告書の結果を比較してみて、どのようにまとめられているのか整理してきてください(60分)。	
第9回	政府による統計データを利用する	(内 容) 信頼性の高いデータについての見極め方 (必要な準備) 家計調査の中で、自分の関心のあることについて調べてみてください(60分)。	
第10回	政府による統計データを利用する	(内 容) 統計データの加工の仕方について (必要な準備) 家計調査以外の政府統計の中で、興味・関心のあるデータを、いくつか見つけてください(60分)。	
第11回	政府による統計データを利用する	(内 容) データの結果におけるディスカッション (必要な準備) 収集してきたデータを整理して、そのデータが示す内容について記述してきてください(60分)。	
第12回	仮説をたてる	(内 容) 仮説のたてかたについて (必要な準備) これまで整理してたデータを参照しながら、仮説をたててみてください(60分)。	
第13回	検証する	(内 容) 検証の仕方について (必要な準備) 仮説の検証をしてきてください。もし、仮説にあてはまらなかった場合、その原因も考えてきてください(60分)。	
第14回	報告書の作成	(内 容) 報告書の作成について (必要な準備) 仮説をたて、検証した結果について整理してきてください(60分)。	
第15回	総括	(内 容) 総括 (必要な準備) これまでの学習を振り返ってきてください(60分)。	

授業名	経営学総論			開講学年	1回生	単位数	2単位	
英文名	Outline of Business Administration			開講時期	秋学期	必修・選択	選択	
担当者	大谷 和海			対象学生	現代家政1回生			
授業の概要	<p>本講座では、受講生がはじめて経営学を学ぶことを意識して、経営学入門テキストを利用しわかりやすく講義をするようにつとめます。具体的には、経営学の対象である企業事例を利用し、現代の企業経営の概要を把握する。テキストとスライドを用いて授業を展開します。受講者には、積極的な授業参加をお願いします。</p>							
学習成果到達目標	<p>1) 企業とは何か、株式会社の特徴や企業経営の特徴について理解し、説明することができる。 2) 企業や経営について、具体的にイメージし、意見提言できる力を身につける。</p>							
評価方法	定期試験 (70 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (30 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評価基準	主たる評価の 観点	知識・理解 (授業での質疑応答による理解力と回答力)	コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力		課題発見・解決能力		
テキスト	上林憲雄ほか著『経験から学ぶ経営学入門』有斐閣ブックス。							
参考書	授業内で適宜紹介します。							
留意事項	経営学に関する基本的な知識・理解をもとに、積極的な授業参加のもと、Q & Aの力や、プレゼンテーション能力を身につけてもらいます。							
オフィス アワー	担当授業終了後に実施します。							

授 業 名		経営学総論	
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題	
第1回	ガイダンス：経営学と現代家政学、経営学とはどんな学問か、会社の経営とはどんなことか（企業経営入門）（補章、第1章）	（内 容）	講義を注意深く聴き、スライド内容を参考に理解を進めてください。メモをとりまとめる能力を同時に養ってください。 （必要な準備）事前にテキストの指定部分を精読しておいてください。また、講義後はテキストの演習課題に取り組んでください。
第2回	会社はどのようにして社会に役立っているのか（企業）（第2章）	（内 容）	講義を注意深く聴き、スライド内容を参考に理解を進めてください。メモをとりまとめる能力を同時に養ってください。 （必要な準備）事前にテキストの指定部分を精読しておいてください。また、講義後はテキストの演習課題に取り組んでください。
第3回	会社は誰が動かしているのか（コーポレート・ガバナンス）（第3章）	（内 容）	講義を注意深く聴き、スライド内容を参考に理解を進めてください。メモをとりまとめる能力を同時に養ってください。 （必要な準備）事前にテキストの指定部分を精読しておいてください。また、講義後はテキストの演習課題に取り組んでください。
第4回	会社はどのような方針で動いているのか（経営理念と戦略）（第4章）	（内 容）	講義を注意深く聴き、スライド内容を参考に理解を進めてください。メモをとりまとめる能力を同時に養ってください。 （必要な準備）事前にテキストの指定部分を精読しておいてください。また、講義後はテキストの演習課題に取り組んでください。
第5回	会社はどんな仕組みで動いているのか（組織形態）（第5章）	（内 容）	講義を注意深く聴き、スライド内容を参考に理解を進めてください。メモをとりまとめる能力を同時に養ってください。 （必要な準備）事前にテキストの指定部分を精読しておいてください。また、講義後はテキストの演習課題に取り組んでください。
第6回	会社は他の会社とどのように協力しているのか（組織間関係）（第6章）	（内 容）	講義を注意深く聴き、スライド内容を参考に理解を進めてください。メモをとりまとめる能力を同時に養ってください。 （必要な準備）事前にテキストの指定部分を精読しておいてください。また、講義後はテキストの演習課題に取り組んでください。
第7回	会社はどのようにしてモノを造るのか（生産管理）（第7章）	（内 容）	講義を注意深く聴き、スライド内容を参考に理解を進めてください。メモをとりまとめる能力を同時に養ってください。 （必要な準備）事前にテキストの指定部分を精読しておいてください。また、講義後はテキストの演習課題に取り組んでください。
第8回	社員は仕事をどのように分担しているのか（職務構造と職務設計）（第8章）	（内 容）	講義を注意深く聴き、スライド内容を参考に理解を進めてください。メモをとりまとめる能力を同時に養ってください。 （必要な準備）事前にテキストの指定部分を精読しておいてください。また、講義後はテキストの演習課題に取り組んでください。
第9回	社員はなぜ働くのか（モチベーションとリーダーシップ）（第9章）	（内 容）	講義を注意深く聴き、スライド内容を参考に理解を進めてください。メモをとりまとめる能力を同時に養ってください。 （必要な準備）事前にテキストの指定部分を精読しておいてください。また、講義後はテキストの演習課題に取り組んでください。
第10回	社員はなぜ組織にとどまろうとするのか（雇用システム）（第10章）	（内 容）	講義を注意深く聴き、スライド内容を参考に理解を進めてください。メモをとりまとめる能力を同時に養ってください。 （必要な準備）事前にテキストの指定部分を精読しておいてください。また、講義後はテキストの演習課題に取り組んでください。
第11回	社員はどのような報酬を求めるのか（報酬制度）（第11章）	（内 容）	講義を注意深く聴き、スライド内容を参考に理解を進めてください。メモをとりまとめる能力を同時に養ってください。 （必要な準備）事前にテキストの指定部分を精読しておいてください。また、講義後はテキストの演習課題に取り組んでください。
第12回	社員はどのようにして育てられるのか（人材育成制度）（第12章）	（内 容）	講義を注意深く聴き、スライド内容を参考に理解を進めてください。メモをとりまとめる能力を同時に養ってください。 （必要な準備）事前にテキストの指定部分を精読しておいてください。また、講義後はテキストの演習課題に取り組んでください。
第13回	会社はどのようにしてモノを売るのか（マーケティング）（第13章）	（内 容）	講義を注意深く聴き、スライド内容を参考に理解を進めてください。メモをとりまとめる能力を同時に養ってください。 （必要な準備）事前にテキストの指定部分を精読しておいてください。また、講義後はテキストの演習課題に取り組んでください。
第14回	会社は海外でどのようにして経営しているのか（国際経営）（第14章）	（内 容）	講義を注意深く聴き、スライド内容を参考に理解を進めてください。メモをとりまとめる能力を同時に養ってください。 （必要な準備）事前にテキストの指定部分を精読しておいてください。また、講義後はテキストの演習課題に取り組んでください。
第15回	会社の利益はどのようにして測定するのか（会計制度）（第15章）	（内 容）	講義を注意深く聴き、スライド内容を参考に理解を進めてください。メモをとりまとめる能力を同時に養ってください。 （必要な準備）事前にテキストの指定部分を精読しておいてください。また、講義後はテキストの演習課題に取り組んでください。

授 業 名	循環型社会論			開 講 学 年	1回生	単 位 数	2単位	
英 文 名	Theory of Resource-circulating Society			開 講 時 期	秋学期	必修・選択	選択	
担 当 者	湯浅 俊郎			対 象 学 生	現代家政1回生			
授業の概要	<p>今日、私たちは、多くのモノを生産、消費しながら生活している。そのような私たちの生活が自然の循環システムに乗っている状況では、問題は生じていなかった。ヒトは自然の循環システムに乗らなくなったモノを作り出し、私たちは、廃棄物が大量に発生する状況に置かれている。このように自然に再生されない資源を私たちが多量に消費し続ける状況を脱するために、私たちの社会そのもののありかたを転換しなければならない。その転換の道筋が循環型社会とされているが、その具体的な姿はまだ見えてきていない。授業では循環型社会の形成における課題について、その入門編を目指します。</p>							
学 習 成 果 達 成 目 標	<p>1) 物事を観察する力を身につけ、環境問題に関して自分の日常生活と結びつけながら、循環型社会のありかたについて「自分なり」に客観的に捉えて分析して行くことを試みられる力を身につけることができるようになる。 2) 現代のライフスタイルを客観的に見るようになる。 3) 環境に関するデータを読むことができるようになる。</p>							
評 価 方 法	定期試験 (60 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 (コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力	課題発見・解決能力)		
テ キ ス ト	授業時に資料を配布します。							
参 考 書	『環境の社会学』、関礼子・中澤秀雄・丸山康司・田中求、有斐閣アルマ、『サステナビリティ学 資源利用と循環型社会』、小宮山宏・武内和彦・住 明正・花木啓祐・三村信男、東京大学出版会							
留 意 事 項	日常生活においても、資源のリサイクルの取り組みなどに注目し、授業で習ったことを、実際に日常の出来事に適用・応用し、授業中課題（ミニツツペーパー）にも、その成果を出せるようにする。（授業の進展度合いにより予定の変更もある）							
オ フ ィ ス ア ワ ー	毎週1回（休業期間中を除く。）オフィスアワーを設けます。 オフィスアワーに設定している時間帯であっても、会議や出張などで在室できない場合がありますので、予めご承知おきください。							

授 業 名		循環型社会論
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題
第1回	ガイダンス	(内 容) 授業の内容と進め方について説明します。 (必要な準備)
第2回	環境問題の社会史 -産業公害から高速交通公害	(内 容) まず、環境問題の社会史を見ていき、資源循環型社会が求められる要因を考察していきます。 (必要な準備) 自分の身の回りにおいて生じている環境問題を整理してください(60分)。
第3回	環境問題の社会史 -生活公害から地球環境問題	(内 容) 現代における環境問題を説明します。 (必要な準備) 現代では、どのような環境問題が起こっているのか、自分で整理してみてください(60分)。
第4回	開発と環境問題の歴史	(内 容) 今から半世紀前から始まった高度経済成長以前の開発による環境問題について考察します。 (必要な準備) 現代のライフスタイルの中で、何が環境問題の原因となっているのか整理してみてください(60分)。
第5回	開発と環境問題の歴史	(内 容) 高度経済成長期以降の開発による環境問題を考察していきます。 (必要な準備) 授業で習ったことを適用・応用し、環境問題のとらえ方について考察してみてください(60分)。
第6回	開発と環境問題の現状	(内 容) 開発による環境問題の現状について説明します。 (必要な準備) 授業で習ったことを適用・応用し、現在の環境問題へと至ったプロセスについて整理してみてください(60分)。
第7回	地球環境問題	(内 容) 地球環境問題の概要について説明します。 (必要な準備) 地球温暖化に関する新聞や雑誌の記事を収集してください(60分)。
第8回	地球環境問題	(内 容) 地球環境問題の特徴について説明します。 (必要な準備) 授業で習ったことを適用・応用し、これまでの環境問題と地球環境問題との違いについて考察してみてください(60分)。
第9回	リスク社会	(内 容) 近年議論されている科学技術の発展と自然環境の問題におけるリスクについて説明します。 (必要な準備) 原発の問題に関する新聞や雑誌の記事を収集してください(60分)。
第10回	科学技術の発展と自然環境問題の特徴	(内 容) 科学技術の発展と環境問題との関係の特徴について説明します。 (必要な準備) 自分の日常生活を振り返って、科学技術と環境の問題について整理してください(60分)。
第11回	循環型社会への取組 --生活様式の転換	(内 容) 循環型社会に向けた生活様式の転換について考察します。 (必要な準備) 自分の生活様式(ライフスタイル)を振り返りながら、「ごみ」をどのくらい出しているのか、消費のありかたについて整理してみてください(60分)。
第12回	循環型社会への取組 -自然と社会をデザインする。	(内 容) 生物多様性の問題について考察します。 (必要な準備) 生態系の問題について調べてきてください(60分)。
第13回	循環型社会への取組 -コウノトリの野生復帰	(内 容) 豊岡市の事例について考察します。 (必要な準備) 生態系の再生に関する新聞や雑誌の記事を収集してきてください(60分)。
第14回	効率よいエネルギー利用とは	(内 容) 効率よいエネルギー利用について考察します。 (必要な準備) 省エネなど自分の日常生活において、どのようなことが実践できるのか考えてみてください(60分)。
第15回	循環型社会の形成に向けて	(内 容) 総括として、循環型社会の形成に向けた課題について考察します。 (必要な準備) 授業で習ったことを適用・応用し、自分なりに循環型社会の形成に向けた課題について考察してみてください(60分)。

授業名	多文化共生論			開講学年	2回生	単位数	2単位	
英文名	Theory of Multiculturalism			開講時期	秋学期	必修・選択	選択	
担当者	秋山 裕之			対象学生	現代家政2回生			
授業の概要	世界中の多くの国々と同様に、現代日本社会は多文化社会である。人種・民族・言語・宗教・文化などの異なる多様な人々が一つの国・地域で共に生きるための「相互の承認と受容」はいかにして可能となるか。一方、経済活動や情報のネットワークがグローバル化した現代においては、地球全体を多文化社会とみなすこともできよう。本授業では、多文化共生のためのたしかな視座を得るための基礎概念について解説する。また、多文化状況に関する歴史的・現代的事象について概観し、現代日本社会の現状と将来について考察する。							
学習成果到達目標	1) 「学習項目」と「学習内容」欄に記載のキーワードを正しく理解し、多文化状況がもたらしたさまざまな事象について知識を深める。 2) 多文化共生のための方法について自ら考え、現代日本における多文化状況の将来を展望できるようになる。							
評価方法	定期試験 (60 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評価基準	主たる評価の 観点	知識・理解 (思考力)	コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力 ()	課題発見・解決能力 ()			
テキスト	なし(プリント配布)							
参考書	多文化共生キーワード事典編集委員会(編)2011『多文化共生キーワード事典』明石書店							
留意事項	座席は指定します。予習必須。							
オフィス アワー	週に1時間1回設定。曜日・時間帯は学生演習室にて掲示。							

授 業 名		多文化共生論	
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題	
第1回	オリエンテーション～文化について	(内 容) 本授業の進め方について、文化について (必要な準備) シラバスを読んでくる(5分)	
第2回	文化とグローバリゼーション	(内 容) 文化の定義 (必要な準備) 文化とは何か調べ、考えてくる(30分)	
第3回	文化とマイノリティ アメリカなど	(内 容) 多文化状況の発生過程 (必要な準備) キーワード予習(30分)	
第4回	文化とマイノリティ 難民・先住民など	(内 容) 難民、先住民、セクシャルマイノリティ (必要な準備) キーワード予習(30分)	
第5回	移民と日本人	(内 容) 移民国家、日本人移民、移民政策 (必要な準備) キーワード予習(30分)	
第6回	在日外国人 在日コリアンなど	(内 容) 在日コリアン、日系ブラジル人 (必要な準備) キーワード予習(30分)	
第7回	在日外国人 国際結婚など	(内 容) 国際結婚、難民政策 (必要な準備) キーワード予習(30分)	
第8回	教育 識字・民族学校など	(内 容) 識字、民族学校、母語・継承語 (必要な準備) キーワード予習(30分)	
第9回	教育 ニューカマー教育など	(内 容) ニューカマー、バイリンガル、開発教育 (必要な準備) キーワード予習(30分)	
第10回	政府・自治体 外国人施策など	(内 容) 外国人施策、社会保障、国籍条項 (必要な準備) キーワード予習(30分)	
第11回	政府・自治体 外国人登録など	(内 容) 外国人登録、在留資格、戸籍 (必要な準備) キーワード予習(30分)	
第12回	市民運動・NPO 戦後補償など	(内 容) 戦後補償、民族差別、市民権 (必要な準備) キーワード予習(30分)	
第13回	市民運動・NPO ボランティアなど	(内 容) ボランティア、エンパワーメント、NPO (必要な準備) キーワード予習(30分)	
第14回	外国人から見る日本文化	(内 容) 文化の相対化・客体化 (必要な準備) キーワード予習(30分)	
第15回	多文化共生の現状と課題	(内 容) EUの移民問題と日本の現状 (必要な準備) 配布資料を読んで考えてくる。(30分)	

授 業 名	経済統計学			開 講 学 年	2回生	単 位 数	2単位	
英 文 名	Statistics for Business			開 講 時 期	春学期	必修・選択	選択	
担 当 者	中西 孝平			対 象 学 生	現代家政2回生			
授業の概要	<p>統計学をご存知ですか？みなさんも、新聞などでグラフや図表を見たことがあるでしょうし、アンケート調査だとか調査という言葉もよく耳にされていることと思います。また、調査と名前は付いていなかったとしても、私たちの社会では、商品の売れ行きを調べるなど、さまざまな調査が行われています。統計学は、このような調査を通して得られた数的なデータを分析して、その性質を調べる学問です。つまり、統計学があるからこそ、私たちは私たちの暮らす社会の姿や、そこで起きている現象について客観的に知り、さまざまな方策を考えることができます。この講義では、統計学の基礎的な知識を身につけると同時に、統計情報を分析できるようになることを目指します。難しい話は一切抜きにして、まずは統計に慣れることから始め、少しずつ統計学の考え方を身につけていきましょう。</p> <p>受講者の状況によって、進度・内容を随時調整することがあります。</p>							
学 習 成 果 達 成 目 標	<p>1) 統計学の基礎がわかる。 2) 統計学の基本的な考え方がわかる。 3) 統計情報を分析できるようになる。</p>							
評 価 方 法	定期試験 (60 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 (計算する力)	コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力 ()		課題発見・解決能力 ()		
テ キ ス ト	神林博史『1歩前からはじめる「統計」の読み方・考え方』ミネルヴァ書房、2016年							
参 考 書	授業中に紹介します。							
留 意 事 項	一度欠席すると、次回の内容理解が困難になります。なので、できる限り、休まないでください。							
オ フ ィ ス ア ワ ー	担当授業終了後に実施します。							

授 業 名		経済統計学	
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題	
第1回	なぜ統計のことを勉強しなければいけないの？	(内 容) テキストの内容を基に、理解を進める。 (必要な準備)	
第2回	知ってるつもりの世界と統計でみる世界	(内 容) テキストの内容を基に、理解を進める。 (必要な準備) 前回の内容を復習。	
第3回	「びっくりグラフ」にご用心	(内 容) テキストの内容を基に、理解を進める。 (必要な準備) 前回の内容を復習。	
第4回	わかっているようで意外にわかっていない「平均」と「パーセント」	(内 容) テキストの内容を基に、理解を進める。 (必要な準備) 前回の内容を復習。	
第5回	平均だけで大丈夫？「代表値」と「ばらつき」のこと	(内 容) テキストの内容を基に、理解を進める。 (必要な準備) 前回の内容を復習。	
第6回	「関係がある」ってどういうこと？	(内 容) テキストの内容を基に、理解を進める。 (必要な準備) 前回の内容を復習。	
第7回	本当の原因を探してみよう	(内 容) テキストの内容を基に、理解を進める。 (必要な準備) 前回の内容を復習。	
第8回	その統計は信頼できますか？データの6W4H	(内 容) テキストの内容を基に、理解を進める。 (必要な準備) 前回の内容を復習。	
第9回	定義が変わると数値も変わる	(内 容) テキストの内容を基に、理解を進める。 (必要な準備) 前回の内容を復習。	
第10回	誰に聞かかで結果は変わる	(内 容) テキストの内容を基に、理解を進める。 (必要な準備) 前回の内容を復習。	
第11回	その結果は偶然？それとも・・・？	(内 容) テキストの内容を基に、理解を進める。 (必要な準備) 前回の内容を復習。	
第12回	聴き方しだいで答えは変わる	(内 容) テキストの内容を基に、理解を進める。 (必要な準備) 前回の内容を復習。	
第13回	統計の勘違いに気をつけよう(1)	(内 容) テキストの内容を基に、理解を進める。 (必要な準備) 前回の内容を復習。	
第14回	統計の勘違いに気をつけよう(2)	(内 容) テキストの内容を基に、理解を進める。 (必要な準備) 前回の内容を復習。	
第15回	「証拠に基づいた議論」を練習しよう	(内 容) テキストの内容を基に、理解を進める。 (必要な準備) 前回の内容を復習。	

授業名	都市と農村			開講学年	3回生	単位数	2単位	
英文名	City and Farming Village			開講時期	春学期	必修・選択	選択	
担当者	湯浅 俊郎			対象学生	現代家政3回生			
授業の概要	<p>「都市とは何か」という定義に関する歴史的な変遷と、日本の伝統的な農村社会のあり方についての把握を出発点として、地域社会の変容過程を理解していくために次のことを考察していく。講義形式の授業を通して、まず、日本の都市化の過程における都市 - 農村関係について、日本の農山漁村からの都市移住者の定住過程を視点を考察していく。次に、現在、グローバル化に伴う都市化の結果として生じた東京一極集中による地域間格差の問題が生じている中で、都市と農村は、どのような空間的・社会的な変容を遂げていったのかを考察していく。</p>							
学習成果到達目標	<p>1) 現代の地域社会の問題を、自分の日常生活の問題とつなげて考察することができるようになる。 2) 自分の住んでいる地域の景観や人間関係のありかたについて、自分なりの分析ができるようになる。 3) 地域社会に関するデータや資料などを読むことができるようになる。</p>							
評価方法	定期試験 (60 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評価基準	主たる評価の 観点	知識・理解 (コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力	課題発見・解決能力)		
テキスト	適宜、講義資料を配布します。							
参考書	『都市の社会学 -社会がかたちをあらわすとき』 町村敬志・西澤晃彦、2000、有斐閣アルマ							
留意事項	積極的・主体的な学習参加を期待する（授業の進展度合いにより予定の変更もある）。							
オフィスアワー	毎週1回（休業期間中を除く。）オフィスアワーを設けます。 オフィスアワーに設定している時間帯であっても、会議や出張などで在室できない場合がありますので、予めご承知おきください。							

授 業 名		都市と農村	
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題	
第1回	ガイダンス	(内 容) 授業についての説明 (必要な準備)	
第2回	都市化とは何か？	(内 容) 都市を定義することについて説明します。 (必要な準備) 「都会」の条件について考えてきてください(60分)。	
第3回	都市化とは何か？	(内 容) 「都市」の定義について人間関係からのアプローチについて説明します。 (必要な準備) 自分の住んでいる地域に人間関係について調べてください(60分)。	
第4回	都市化とは何か？	(内 容) 「都市」の定義について、専門機関の立地からのアプローチについて説明します。 (必要な準備) ファッションなど流行を発信する機関は、どのような場所にあるか、整理してきてください(60分)。	
第5回	伝統的な農村社会	(内 容) 自然村について説明します。 (必要な準備) 「田舎」のイメージについて整理してきてください(60分)。	
第6回	伝統的な農村社会	(内 容) 伝統的な農村社会における住民のまとまりのありかたについて説明します。 (必要な準備) 自分の住んでいる地域において「田舎」的なことを整理してきてください(60分)。	
第7回	日本社会における農村から都市への人口移動	(内 容) 日本社会における農村から都市への人口移動について、その実態を説明します。 (必要な準備) 自分の家族のルーツを調べてきてください(60分)。	
第8回	日本社会における農村から都市への人口移動	(内 容) 農村から都市への人口移動の結果、地域社会はどのように変容していったのか説明していきます。 (必要な準備) 自分の住んでいる地域住民組織について調べてきてください(60分)。	
第9回	郊外化	(内 容) 都市化から郊外化への展開について説明します。 (必要な準備) 買い物など目的に応じて出かける場所を整理してきてください(60分)。	
第10回	郊外化	(内 容) ニュータウン開発が与える地域社会の影響について説明します。 (必要な準備) ニュータウンと呼ばれている地域を整理してきてください(60分)。	
第11回	都心への人口回帰	(内 容) 郊外化から都心への人口回帰という過程について説明します。 (必要な準備) 駅前など中心地域の特徴について整理してきてください(60分)。	
第12回	グローバリゼーション	(内 容) グローバリゼーションという現象について説明します。 (必要な準備) 服や電化製品など日常品の製造元について整理してきてください(60分)。	
第13回	都市再生の問題	(内 容) 地域格差の問題として、地方都市の現状について説明します。 (必要な準備) 活性化している場と衰退していると思う場を整理してきてください(60分)。	
第14回	世界都市の形成	(内 容) 世界都市について説明します。 (必要な準備) 関西と関東の違いについて整理してきてください(60分)。	
第15回	創造都市の形成	(内 容) 創造都市について説明します。 (必要な準備) 現代芸術を取り込む試みを行っている地域を調べてきてください(60分)。	

授 業 名	現代企業論			開 講 学 年	3回生	単 位 数	2単位	
英 文 名	Theory of Modern Company			開 講 時 期	秋学期	必修・選択	選択	
担 当 者	竹本 拓治			対 象 学 生	現代家政3回生			
授業の概要	スタートアップからのステージごとの起業の成長戦略、企業組織、資金調達方法など、イノベーション主導型経済における企業のあり方について検討する。また、講義の内容を踏まえたディスカッションを通じて、受講者の様々な関心からのアウトプットによる課題解決型の講義とする。							
学 習 成 果 達 成 目 標	1) ディスカッションを通じて、課題解決能力の養成を図る。 2) プレゼンテーション能力の向上を図る。							
評 価 方 法	定期試験 (40 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (60 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 (コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力	課題発見・解決能力) (
テ キ ス ト	三枝省三・竹本拓治編著『アントレプレナーシップ教科書』中央経済社、2016年							
参 考 書	使用しない。							
留 意 事 項	現代社会は刻一刻と変化し、多数の課題を抱えている。そのため、日頃より、報道番組やインターネット記事に着目して、現代社会の抱える問題性の把握に努めてほしい。							
オ フ ィ ス ア ワ ー	毎回授業終了後に実施する。							

授 業 名		現代企業論
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題
第1回	オリエンテーション	(内 容) スライドを利用しながら、理解を進める。 (必要な準備) テキストの第1章を予習
第2回	アントレプレナーシップとイノベーション	(内 容) スライドを利用しながら、理解を進める。 (必要な準備) テキストの第2章を予習
第3回	起業戦略と社会的インパクト	(内 容) スライドを利用しながら、理解を進める。 (必要な準備) テキストの第3章を予習
第4回	現代社会における起業	(内 容) スライドを利用しながら、理解を進める。 (必要な準備) テキストの第4章を予習
第5回	起業のマーケティングと販路開拓	(内 容) スライドを利用しながら、理解を進める。 (必要な準備) テキストの第5章を予習
第6回	起業、スタートアップの組織づくりと人材育成	(内 容) スライドを利用しながら、理解を進める。 (必要な準備) テキストの第6章を予習
第7回	起業の資金調達	(内 容) スライドを利用しながら、理解を進める。 (必要な準備) テキストの第7章を予習
第8回	起業の財務管理	(内 容) スライドを利用しながら、理解を進める。 (必要な準備) テキストの第8章を予習
第9回	スタートアップから企業成長段階へ	(内 容) スライドを利用しながら、理解を進める。 (必要な準備) テキストの第9章を予習
第10回	サービス系のベンチャービジネス	(内 容) スライドを利用しながら、理解を進める。 (必要な準備) テキストの第10章を予習
第11回	社会起業のその方法	(内 容) スライドを利用しながら、理解を進める。 (必要な準備) テキストの第11章を予習
第12回	知的財産とベンチャー	(内 容) スライドを利用しながら、理解を進める。 (必要な準備) テキストの第12章を予習
第13回	起業の危機管理	(内 容) スライドを利用しながら、理解を進める。 (必要な準備) テキストの第13章を予習
第14回	現代社会における起業の役割・社会的責任	(内 容) スライドを利用しながら、理解を進める。 (必要な準備) テキストの第14章を予習
第15回	ビジネスプランの実際	(内 容) スライドを利用しながら、理解を進める。 (必要な準備) テキストの第15章を予習

授業名	公衆衛生学 a・b			開講学年	1回生	単位数	2単位	
英文名	Public Health			開講時期	秋学期	必修・選択	必修	
担当者	岩永 資隆・里村 一成			対象学生	食物栄養1回生			
授業の概要	社会や環境と健康との関係を理解するとともに、健康情報の利用方法、情報管理や情報処理について理解する。また保健・医療・福祉・介護システムの概要を理解し、地域医療の現状や地域ケアシステム等を学ぶ。							
学習成果到達目標	1) 社会や環境と健康との関係が理解できる。 2) 健康情報の利用方法、情報管理、情報処理を理解できる。 3) 保健・医療・福祉・介護のシステム概要を理解できる。							
評価方法	定期試験 (100%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評価基準	主たる評価の 観点	知識・理解 (分析力)	コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力 ()	課題発見・解決能力 ()			
テキスト	四訂公衆衛生学 後藤政幸、中村信也編 建帛社(2015)							
参考書	プリント配布							
留意事項	日本、世界の健康情報に関心を持つこと。							
オフィス アワー	担当授業終了後に実施します。							

授 業 名		公衆衛生学 a・b	
授 業 計 画	学 習 項 目	学 習 内 容 ・ 課 題	
第1回	公衆衛生の意義・概要	(内 容) 健康、公衆衛生の定義について (必要な準備) 健康の改善、公衆衛生について考えておく	
第2回	環境と健康	(内 容) 生態系と人々の生活について (必要な準備) テキストの関連部分を読んでおく	
第3回	環境汚染と環境衛生	(内 容) 環境汚染が健康に及ぼす影響について (必要な準備) テキストの関連部分を読んでおく	
第4回	健康・疾病に関する統計資料	(内 容) 保健統計の概要と調査について (必要な準備) 保健統計について調べておく	
第5回	健康情報	(内 容) その利用方法、情報管理、情報処理 (必要な準備) テキストの関連部分を読んでおく	
第6回	健康状態・疾病の測定と評価	(内 容) 疫学概念と指標、方法 (必要な準備) 疫学の方法について調べておく	
第7回	生活習慣病以外の現状と対策	(内 容) 感染症等について (必要な準備) テキストの関連部分を読んでおく	
第8回	生活習慣病の現状と対策	(内 容) 生活習慣病の概念と健康日本21や健康づくりのための指針について (必要な準備) テキストの関連部分を読んでおく	
第9回	主要疾患と予防対策	(内 容) がん対策基本法を中心に悪性新生物について (必要な準備) 現状について調べておく	
第10回	主要疾患と予防対策	(内 容) メンタルヘルス等精神疾患等について (必要な準備) 現状について調べておく	
第11回	社会保障制度の概念	(内 容) 社会保障の概念と行政の仕組みについて (必要な準備) テキストの関連部分を読んでおく	
第12回	保健・医療・福祉・介護の制度	(内 容) それぞれの制度の成立から関連性について (必要な準備) 保健法規について調べておく	
第13回	保健・医療・福祉・介護の制度	(内 容) 健康医療戦略法を中心に学ぶ (必要な準備) これらの保険制度について調べておく	
第14回	保健・医療・福祉・介護の制度	(内 容) 地域医療等、地域ケアシステムを中心に学ぶ (必要な準備) これらの保険制度について調べておく	
第15回	健康日本21(第二次)	(内 容) 重症化予防と健康格差について (必要な準備) 健康日本21(第二次)を読んでおく	

授業名	解剖・生理学 a・b			開講学年	1回生	単位数	2単位	
英文名	Anatomy and Physiology			開講時期	秋学期	必修・選択	必修	
担当者	南山 求			対象学生	食物栄養1回生			
授業の概要	<p>正常な人体の各組織・器官の構造とその機能および内部環境の恒常性の維持を保つためのシステムを学び、理解を深める。解剖・生理学では、構造とその機能を理解するために必要となる細胞・組織および循環器系、血液系、消化器系、呼吸器系、泌尿器系について学ぶ。</p>							
学習成果到達目標	<p>1) 人体を構成する各組織・器官の構造およびその機能について理解できる。 2) 細胞レベルから、臓器レベルまでの構造およびその機能について系統的に理解できる。</p>							
評価方法	定期試験 (100%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評価基準	主たる評価の 観点	知識・理解 (判断力)	コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力 (統合力)	課題発見・解決能力			
テキスト	高野廣子著 解剖生理学 南山堂							
参考書	津田・伏木・本田監修 福島編 Visual栄養学テキスト 人体の構造と機能および疾病の成り立ち . 解剖生理学 中山書店							
留意事項	学習項目に沿って予習しておく。授業で用いた資料はよく整理し、学んだ内容を復習する。							
オフィスアワー	担当授業終了後に実施します。							

授 業 名		解剖・生理学 a・b	
授 業 計 画		学 習 項 目	学 習 内 容 ・ 課 題
第1回	細胞 (細胞の基本構造とその機能)	(内 容) 細胞一般、細胞膜について (必要な準備) 細胞について調べておく(60分)	
第2回	組織 (上皮細胞と支持組織の役割とそれらを構成する細胞の特徴)	(内 容) 上皮細胞と支持組織について (必要な準備) 細胞と組織について調べておく(60分)	
第3回	組織 (筋組織、神経組織の役割とそれらを構成する細胞の特徴)	(内 容) 筋組織、神経組織など興奮性細胞について (必要な準備) 興奮性細胞について調べておく(60分)	
第4回	身体の概要 (各臓器・器官の形態、体内での位置および主要臓器の機能の概説)	(内 容) 体内の各臓器・器官の位置および構造について (必要な準備) 臓器・器官の位置および構造について調べておく(60分)	
第5回	身体の概要 (骨格系および筋系の構造と機能の概説)	(内 容) 骨格系および筋系の構造と機能について (必要な準備) 骨格系および筋系の構造と機能について調べておく(60分)	
第6回	循環器系 (心臓・血管の構造とその機能)	(内 容) 心臓および血管の構造と機能について (必要な準備) 心臓および血管の構造と機能について調べておく(60分)	
第7回	循環器系 (血圧・循環調節機構)	(内 容) 血管と血圧の調節機能について (必要な準備) 血管と血圧の調節機能について調べておく(60分)	
第8回	血液・造血器・リンパ系 (血液・造血器・リンパ系の構成と働き)	(内 容) 血液・造血器・リンパ系の構成と働きについて (必要な準備) 血液・造血器・リンパ系の機能について調べておく(60分)	
第9回	血液・造血器・リンパ系 (血液・造血器・リンパ系の構成と働き)	(内 容) 血液型・血液凝固・線溶系について (必要な準備) 血液型・血液凝固・線溶系について調べておく(60分)	
第10回	消化器系 (消化器系の構成と働き、咀嚼・嚥下の機構、消化管運動の仕組み)	(内 容) 咀嚼・嚥下の機構、消化管運動の仕組みについて (必要な準備) 咀嚼・嚥下の機構、消化管運動について調べておく(60分)	
第11回	消化器系 (肝臓・胆嚢・膵臓の構造とその機能)	(内 容) 肝臓・胆嚢・膵臓の構造とその機能について (必要な準備) 肝臓・胆嚢・膵臓の構造とその機能について調べておく(60分)	
第12回	消化器系 (食べ物の消化・吸収の仕組み)	(内 容) 食べ物の消化・消化吸収の仕組みについて (必要な準備) 食べ物の消化・消化吸収の仕組みについて調べておく(60分)	
第13回	呼吸器系 (呼吸器系の構造、気道・肺の構造と機能、呼吸運動ガス交換、呼吸調節機構)	(内 容) 呼吸器系の概観、肺の構造とガス交換の仕組み (必要な準備) 呼吸器系の構造とガス交換の仕組みについて調べておく(60分)	
第14回	泌尿器系 (腎臓の構造と尿の生成機構)	(内 容) 腎臓の構造と尿の生成機構について (必要な準備) 腎臓の構造と尿の生成機構について調べておく(60分)	
第15回	泌尿器系 (腎に作用するホルモン・血管作動物質、排尿機構)	(内 容) 循環血液量および血圧維持にかかわる因子、排尿の仕組みについて (必要な準備) 体液の恒常性維持について調べておく(60分)	

授業名	生化学 a・b			開講学年	1回生	単位数	2単位	
英文名	Biochemistry			開講時期	春学期	必修・選択	必修	
担当者	柴田 克己			対象学生	食物栄養1回生			
授業の概要	生体を構成する成分について、その構造と機能、遺伝子の発現と調節などを学び、正常な人体の仕組みについて分子レベルおよび遺伝子レベルで理解していく。							
学習成果到達目標	生体を構成する物質の性質および機能について理解できる。							
評価方法	定期試験 (100 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評価基準	主たる評価の 観点	知識・理解 (観察力	コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力	課題発見・解決能力	() ()		
テキスト	栄養科学イラストレイテッド「生化学」改定第2版 園田勝 編 羊土社							
参考書	使用しない。							
留意事項	栄養生化学の学習につながり、他の科目の基礎となる科目であるので復習をしっかりと行うこと。							
オフィスアワー	担当授業終了後に実施します。							

授 業 名		生化学 a・b
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題
第1回	生体を構成する成分について	(内 容) 生体を構成する成分の特徴を講義する。 (必要な準備) テキスト該当部分の予習
第2回	タンパク質の種類と構造	(内 容) タンパク質の特性と構造を講義する。 (必要な準備) テキスト該当部分の予習
第3回	アミノ酸について	(内 容) アミノ酸の種類と特性、反応性を講義する。 (必要な準備) テキスト該当部分の予習
第4回	必須アミノ酸	(内 容) 必須アミノ酸の化学構造の特徴と必要量を講義する。 (必要な準備) テキスト該当部分の予習
第5回	糖質の構造と機能	(内 容) 糖質の種類と構造特性と機能を講義する。 (必要な準備) テキスト該当部分の予習
第6回	脂質の構造と必須アミノ酸	(内 容) 脂質の種類と構造特性と機能を講義し、必須脂肪酸の名前と必要量を講義する。 (必要な準備) テキスト該当部分の予習
第7回	リン脂質と糖脂質の構造と機能	(内 容) リン脂質の種類と構造特性と機能を講義する。 (必要な準備) テキスト該当部分の予習
第8回	ホルモンおよびホルモン様物質	(内 容) ホルモンの化学的特徴を講義する。アミノ酸由来、ペプチド、コレステロール由来、脂肪酸由来について講義する。 (必要な準備) テキスト該当部分の予習
第9回	多量必須栄養素	(内 容) 多量必須栄養素の化学的特性についてまとめて講義する。 (必要な準備) テキスト該当部分の予習
第10回	ビタミンの名前と必要量	(内 容) 13種類のビタミンの名前と必要量を講義する。 (必要な準備) テキスト該当部分の予習
第11回	ビタミンの機能 1	(内 容) 脂溶性ビタミン：A, Dのホルモン様機能, Eの抗酸化機能, Kの血液凝固機能と骨の硬質化機能。ビタミンC:抗酸化機能を講義する。 (必要な準備) テキスト該当部分の予習
第12回	ビタミンの機能 2	(内 容) B群ビタミン：補酵素機能を講義する。 (必要な準備) テキスト該当部分の予習
第13回	多量ミネラル(5種類)の名前と生理機能	(内 容) 5種類の多量ミネラル(電解質ミネラル：ナトリウム, カリウム, 硬質ミネラル：カルシウム, マグネシウム, リン)の名前, 必要量, 生理作用を講義する。 (必要な準備) テキスト該当部分の予習
第14回	微量ミネラル(8種類)の名前と生理機能	(内 容) 8種類の微量ミネラル(鉄, 亜鉛, 銅, クロム, マンガン, ヨウ素, モリブデン, セレン)の名前, 必要量, 生理作用を講義する。 (必要な準備) テキスト該当部分の予習
第15回	栄養素および生体成分のまとめ	(内 容) 1~14回の講義の内容を概説する。 (必要な準備) テキスト該当部分の予習

授 業 名	栄養生化学 a・b			開 講 学 年	1回生	単 位 数	2単位	
英 文 名	Nutritional Biochemistry			開 講 時 期	秋学期	必修・選択	必修	
担 当 者	田代 操			対 象 学 生	食物栄養1回生			
授業の概要	本講義では、生化学で学んだ生体を構成する成分について、体内での代謝とそれらの成分の相互関係およびホメオスタシスの仕組みについて分子・遺伝子レベルで学び、解剖生理学で学ぶ個体レベルでの生体の機能とあわせ正常な人体の構造と機能について理解していく。							
学 習 成 果 達 成 目 標	1) 生体成分の代謝について相互の関連性を考慮しつつ理解できる。 2) 生体成分の代謝と生体のホメオスタシスとの関連性を理解できる。							
評 価 方 法	定期試験 (100 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 (汎用力	コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力	課題発見・解決能力)		
テ キ ス ト	栄養科学イラストレイテッド「生化学」改定第2版 園田勝 編 羊土社							
参 考 書	使用しない。							
留 意 事 項	生化学の復習をしっかりとしておくこと							
オ フ ィ ス ア ワ ー	担当授業終了後に実施します。							

授 業 名		栄養生化学 a・b	
授 業 計 画	学 習 項 目	学 習 内 容 ・ 課 題	
第1回	代謝について	(内 容) 物質代謝(異化と同化)とエネルギー代謝 (必要な準備) テキスト該当部分の予習	
第2回	糖質の代謝(1) 解糖系	(内 容) 解糖系とクエン酸回路 (必要な準備) テキスト該当部分の予習	
第3回	糖質の代謝(2) グリコーゲンの代謝	(内 容) グリコーゲンの合成と分解 (必要な準備) テキスト該当部分の予習	
第4回	糖質の代謝(3) 糖新生	(内 容) 糖新生と血糖値の調節 (必要な準備) テキスト該当部分の予習	
第5回	脂質の代謝(1) 脂肪酸の代謝	(内 容) 脂肪酸の合成と分解 (必要な準備) テキスト該当部分の予習	
第6回	糖質の代謝(2) 脂質の代謝	(内 容) 脂質の輸送と蓄積 (必要な準備) テキスト該当部分の予習	
第7回	タンパク質の分解とアミノ酸代謝(1) タンパク質の分解	(内 容) タンパク質の分解とアミノ酸プール (必要な準備) テキスト該当部分の予習	
第8回	タンパク質の分解とアミノ酸代謝(2) アミノ酸代謝	(内 容) アミノ酸の炭素成分と窒素成分の代謝 (必要な準備) テキスト該当部分の予習	
第9回	生体エネルギー	(内 容) 呼吸鎖と酸化リン酸化 (必要な準備) テキスト該当部分の予習	
第10回	中間代謝の概要	(内 容) 糖質代謝と脂質およびアミノ酸代謝の関連 (必要な準備) テキスト該当部分の予習	
第11回	ヌクレオチドの代謝	(内 容) プリンヌクレオチドとピリミジンヌクレオチドの生合成と分解 (必要な準備) テキスト該当部分の予習	
第12回	遺伝子発現とその調節(1) セントラルドグマ	(内 容) 核酸とタンパク質の合成 (必要な準備) テキスト該当部分の予習	
第13回	遺伝子発現とその調節(2) 調節	(内 容) 遺伝子発現の調節と遺伝子工学 (必要な準備) テキスト該当部分の予習	
第14回	ホメオスタシス	(内 容) ホルモンと生体調節 (必要な準備) テキスト該当部分の予習	
第15回	生体防御機構	(内 容) 免疫の仕組みと特徴 (必要な準備) テキスト該当部分の予習	

授 業 名	生化学実験 a・b			開 講 学 年	1回生	単 位 数	1単位	
英 文 名	Experiment of Biochemistry			開 講 時 期	秋学期	必修・選択	必修	
担 当 者	柴田 克己			対 象 学 生	食物栄養1回生			
授業の概要	<p>本科目では、生化学で学んだ個体を構成する成分について実験を通してその特質を確認し、正常な人体の仕組みについて理解を深めていく。また遺伝子多型に関する実験を通して遺伝子の発現に関する理解を深めていく。</p>							
学 習 成 果 達 成 目 標	<p>1) 生体を構成する成分について深く理解できる。 2) 生体における遺伝子の発現について理解できる。</p>							
評 価 方 法	定期試験 (70 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (30 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 (観察力	コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力) (課題発見・解決能力)			
テ キ ス ト	<p>栄養生理学・生化学実験(栄養科学シリーズNEXT) 加藤秀夫・木戸康博・桑波田雅士 編 講談社サイエンティフィック</p>							
参 考 書	<p>使用しない。</p>							
留 意 事 項	<p>実験後レポートを作成し、次週 に提出する。</p>							
オ フ ィ ス ア ワ ー	<p>担当授業終了後に実施します。</p>							

授 業 名		生化学実験 a・b	
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題	
第1回	オリエンテーション（実験についての注意事項、レポート作成についてなど）	（内 容） 実験についての注意事項、レポートの作成法 （必要な準備） テキスト該当部分の予習	
第2回	実験の基礎事項（機器の取り扱いについて、データの処理についてなど）	（内 容） 実験機器の取り扱いとデータ処理 （必要な準備） テキスト該当部分の予習	
第3回	ニコチンアミドの定量 1	（内 容） ニコチンアミドの定量操作を通じて、天秤の操作、マイクロピペットの操作、紫外分光口語系の操作方法を習得する。 （必要な準備） テキスト該当部分の予習	
第4回	ニコチンアミドの定量 2	（内 容） 未知濃度のニコチンアミド水溶液の濃度を決定する。 （必要な準備） テキスト該当部分の予習	
第5回	アスコルビン酸の定量 1	（内 容） アスコルビン酸測定のための検量線を作成する。 （必要な準備） テキスト該当部分の予習	
第6回	アスコルビン酸の定量 2	（内 容） 未知濃度のアスコルビン酸水溶液の濃度を決定する。 （必要な準備） テキスト該当部分の予習	
第7回	グルコースの定量 1	（内 容） グルコース測定のための検量線を作成する。 （必要な準備） テキスト該当部分の予習	
第8回	グルコースの定量 2	（内 容） 未知濃度のグルコース水溶液の濃度を決定する。 （必要な準備） テキスト該当部分の予習	
第9回	遊離脂肪酸の定量 1	（内 容） 遊離脂肪酸測定のための検量線を作成する。 （必要な準備） テキスト該当部分の予習	
第10回	遊離脂肪酸の定量 2	（内 容） 飢餓状態と通常状態のラット血清中の遊離脂肪酸濃度を決定する。 （必要な準備） テキスト該当部分の予習	
第11回	酵素活性の測定 1	（内 容） ラット肝臓の3-ヒドロキシアンスラニル酸3,4-ジオキシゲナーゼ活性を測定方法を習得する。 （必要な準備） テキスト該当部分の予習	
第12回	酵素活性の測定 2	（内 容） ラット肝臓の3-ヒドロキシアンスラニル酸3,4-ジオキシゲナーゼのKM値とVmax値を求める。 （必要な準備） テキスト該当部分の予習	
第13回	遺伝子多型分析 アルコール代謝系酵素遺伝子の増幅	（内 容） アルコール代謝系酵素遺伝子の増幅 （必要な準備） テキスト該当部分の予習	
第14回	遺伝子多型分析 電気泳動による分析とパッチテストによる確認	（内 容） 電気泳動による遺伝子分析とパッチテスト （必要な準備） テキスト該当部分の予習	
第15回	全実験結果の考察	（内 容） 実験結果の考察 （必要な準備） テキスト該当部分の予習	

授業名	食品学 a・b			開講学年	1回生	単位数	2単位	
英文名	Food Science			開講時期	春学期	必修・選択	必修	
担当者	堀越 昌子			対象学生	食物栄養1回生			
授業の概要	食品中の成分や特性、また、食品の生育・生産から、加工・調理を経て、人に摂取されるまでの過程について学び、人体に対する栄養面や安全面等への影響や評価を理解する。食品分類法、日本食品標準成分表の利用法を学ぶ。食品の栄養特性（タンパク質、炭水化物、脂質、ビタミン、ミネラル）と物性を把握し、嗜好成分、機能性成分の構造と特性を理解する。							
学習成果到達目標	1) 食品の分類と食品に含まれる各種成分の特性が理解できる。 2) 食品の加工・貯蔵・調理における食品の取扱法、管理法が理解できる。 3) 食品中の栄養成分、機能性成分から、食品の機能を理解できる。							
評価方法	定期試験 (70 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (30 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評価基準	主たる評価の 観点	知識・理解 (汎用力)	コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力 ()	課題発見・解決能力 ()			
テキスト	食べ物と健康「食品学」 大石祐一・服部一夫編著 光生館							
参考書	日本食品標準成分表（文部科学省）							
留意事項	授業で配布するプリント資料をしっかりと読むこと。							
オフィス アワー	毎週1回（休業期間中を除く）オフィスアワーを設けます。							

授 業 名		食品学 a・b	
授 業 計 画	学 習 項 目	学 習 内 容 ・ 課 題	
第1回	人間と食品、食文化と食生活	(内 容) 人間と食品との関わり、食文化、食嗜好 (必要な準備) テキスト該当部分の予習	
第2回	食生活と健康	(内 容) 食生活と健康維持、食生活管理の重要性 (必要な準備) テキスト該当部分の予習	
第3回	食料の生産・加工	(内 容) 食料生産とその課題、食品加工 (必要な準備) テキスト該当部分の予習	
第4回	日本食品標準成分表 成分の分類と算出法	(内 容) 食品成分表の構成と食品成分の分類 (必要な準備) テキスト該当部分の予習	
第5回	日本食品標準成分表 食品成分表の利用	(内 容) 食品成分表の利用法 (必要な準備) テキスト該当部分の予習	
第6回	食品の成分 食品中の水と水分活性	(内 容) 食品中の水の働きと特性、水分活性 (必要な準備) テキスト該当部分の予習	
第7回	食品の成分 食品タンパク質とアミノ酸、アミノ酸価	(内 容) 食品タンパク質の特性とアミノ酸組成 (必要な準備) テキスト該当部分の予習	
第8回	食品の成分 食品タンパク質の特性と利用	(内 容) 食品ごとのタンパク質の特性と利用 (必要な準備) テキスト該当部分の予習	
第9回	食品の成分 食品中脂質の特性と性状	(内 容) 食品中脂質の特性と性状、油脂の酸化 (必要な準備) テキスト該当部分の予習	
第10回	食品の成分 炭水化物、食品中の澱粉と食物繊維	(内 容) 食品中の炭水化物、澱粉と食物繊維 (必要な準備) テキスト該当部分の予習	
第11回	ビタミン 食品中のビタミン	(内 容) 食品中の脂溶性ビタミンと水溶性ビタミン (必要な準備) テキスト該当部分の予習	
第12回	ミネラル 食品のミネラルと利用率	(内 容) 食品のミネラル組成特性 (必要な準備) テキスト該当部分の予習	
第13回	その他の成分、毒性成分、機能性成分	(内 容) 食品中の毒性成分、機能性成分 (必要な準備) テキスト該当部分の予習	
第14回	食品の分類と食品群	(内 容) 食品の分類方法、食品群の利用 (必要な準備) テキスト該当部分の予習	
第15回	食品表示と規格基準	(内 容) 食品表示の必要性和日本の規格基準 (必要な準備) テキスト該当部分の予習	

授業名	食品学 a・b			開講学年	1回生	単位数	2単位	
英文名	Food Science			開講時期	秋学期	必修・選択	必修	
担当者	堀越 昌子			対象学生	食物栄養1回生			
授業の概要	人間と食べ物のかかわりについて、食品の歴史の変遷と食物連鎖の両面から理解する。主要な植物性食品、動物性食品、油脂、調味料、香辛料、嗜好飲料、微生物利用食品、特定保健用食品について、それぞれの成分、特性、加工、利用法の基礎を習得する。食品の規格・基準、食品の機能性成分にかかわる表示についても学び、食品成分が健康に与える影響、それらの疾病予防に対する役割を理解する。							
学習成果到達目標	1) 主要な植物性食品、動物性食品の特性、加工、利用法が理解できる。 2) 食品の分類法、食品の機能性と加工調理特性、食品表示、食品の規格について理解できる。 3) 食品が健康に与える影響、疾病予防に対する役割を学び、環境に配慮した食品のあり方が理解できる。							
評価方法	定期試験 (70 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (30 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評価基準	主たる評価の 観点	知識・理解 (汎用力)	コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力 ()	課題発見・解決能力 ()			
テキスト	食べ物と健康「食品学」 大石祐一・服部一夫編著 光生館							
参考書	日本食品標準成分表(文部科学省)							
留意事項	授業で配布するプリント資料をしっかりと読むこと。							
オフィスアワー	毎週1回(休業期間中を除く)オフィスアワーを設けます。							

授 業 名		食品学 a・b	
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題	
第1回	人間と食べ物のかかわりと食品の歴史の変遷	(内 容) 人の歴史と食べ物、食品の歴史の変遷 (必要な準備) テキスト該当部分の予習	
第2回	食物連鎖、食べ物と環境、食料生産と流通	(内 容) 食物連鎖と環境、食料生産と流通の現状 (必要な準備) テキスト該当部分の予習	
第3回	植物性食品の特徴 穀類、いも類	(内 容) 穀類、いも類の特性と利用 (必要な準備) テキスト該当部分の予習	
第4回	植物性食品の特徴 豆類、種実類	(内 容) 豆類、種実類の特性と利用 (必要な準備) の特性と利用テキスト該当部分の予習	
第5回	植物性食品の特徴 野菜類	(内 容) 野菜類の特性と利用 (必要な準備) テキスト該当部分の予習	
第6回	植物性食品の特徴 果実、きのこ類、藻類	(内 容) 果実、きのこ類、藻類の特性と利用 (必要な準備) テキスト該当部分の予習	
第7回	動物性食品の特徴 食肉類、魚介類	(内 容) 食肉類、魚介類の特性と利用 (必要な準備) テキスト該当部分の予習	
第8回	動物性食品の特徴 乳類、卵類	(内 容) 乳類、卵類の特性と利用 (必要な準備) テキスト該当部分の予習	
第9回	油脂、調味料、香辛料、嗜好飲料	(内 容) 油脂、調味料、香辛料、嗜好飲料の特性と利用 (必要な準備) テキスト該当部分の予習	
第10回	食品の成分と反応、物性 褐変化、コロイド	(内 容) 食品成分間の反応、物性の変化 (必要な準備) テキスト該当部分の予習	
第11回	機能性成分の健康や栄養に関する表示	(内 容) 機能性成分と健康、栄養に関する表示 (必要な準備) テキスト該当部分の予習	
第12回	食品表示制度と規格基準	(内 容) 食品の表示制度と規格基準、国際比較 (必要な準備) テキスト該当部分の予習	
第13回	食品加工と栄養、加工食品の利用	(内 容) 食品加工と栄養成分、加工食品の開発と利用 (必要な準備) テキスト該当部分の予習	
第14回	食品流通・保存、新規食品の課題	(内 容) 食品流通・保存の課題、新規食品のあり方 (必要な準備) テキスト該当部分の予習	
第15回	食品が健康に与える影響、疾病予防に対する役割	(内 容) 食品と健康、疾病予防における役割 (必要な準備) テキスト該当部分の予習	

授業名	食品学実験 a・b			開講学年	1回生	単位数	1単位	
英文名	Experiment of food science			開講時期	秋学期	必修・選択	必修	
担当者	高村 仁知			対象学生	食物栄養1回生			
授業の概要	食品中に存在する一般成分（水分、灰分、タンパク質、炭水化物、脂質）の分析を通して、食品成分に関する理解を深め、日本食品標準成分表で示されている数値を理解する。食品分析試料を調製し、その成分を定性分析で検出するとともに定量する。							
学習成果到達目標	1) 分析器具、機器の使用法、食品の一般成分の分析法を修得し、成分の理解ができる。 2) 食品成分の分析と定量実験を通して、それぞれの成分の特性を理解できる。							
評価方法	定期試験 (70 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (30 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評価基準	主たる評価の 観点	知識・理解 (観察力	コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力	課題発見・解決能力)		
テキスト	基礎からの食品・栄養学実験 村上俊男編著 建帛社、配布プリント							
参考書	日本食品標準成分表（文部科学省）							
留意事項	食品学で学んだことを実験で確認していくので、食品学の復習もしておくこと。							
オフィス アワー	担当授業終了後に実施します。							

授 業 名		食品学実験 a・b
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題
第1回	オリエンテーション、基本操作法	(内 容) 食品成分分析の基本操作 (必要な準備) テキスト該当部分の予習
第2回	卵の比重測定と鮮度検査	(内 容) 卵の比重測定と原理 食品の鮮度 (必要な準備) テキスト該当部分の予習
第3回	比色分析～検量線の利用	(内 容) 吸光度測定 検量線の作成と利用 (必要な準備) テキスト該当部分の予習
第4回	pH試験紙を用いた固体食品のpH測定	(内 容) pH試験紙 固体食品のpH測定 (必要な準備) テキスト該当部分の予習
第5回	pHメーターを用いた液体食品のpH測定	(内 容) pHメーター 液体食品のpH測定 (必要な準備) テキスト該当部分の予習
第6回	中和滴定による牛乳の酸度の測定	(内 容) 中和滴定による牛乳の酸度の測定 (必要な準備) テキスト該当部分の予習
第7回	ペーパークロマトグラフィーによるアミノ酸の分離と同定	(内 容) ペーパークロマトグラフィー アミノ酸の分離同定 (必要な準備) テキスト該当部分の予習
第8回	薄層クロマトグラフィーによる色素の分離と同定	(内 容) 薄層クロマトグラフィー 色素の分離同定 (必要な準備) テキスト該当部分の予習
第9回	キレート滴定法による水の硬度測定	(内 容) キレート滴定 水の硬度測定 (必要な準備) テキスト該当部分の予習
第10回	糖質の定性反応による構造決定	(内 容) 糖質の構造 糖質の定性反応 (必要な準備) テキスト該当部分の予習
第11回	食品中のビタミンの分析～飲料に含まれるビタミンCの定性	(内 容) 飲料に含まれるビタミンCの定性 (必要な準備) テキスト該当部分の予習
第12回	食品中のビタミンの分析～食品に含まれるビタミンCの定性と酸化酵素の作用	(内 容) 食品に含まれるビタミンCの定性 酸化酵素の作用 (必要な準備) テキスト該当部分の予習
第13回	食品中の機能性成分の分析～緑茶飲料に含まれる緑茶タンニンの定量	(内 容) 没食子酸エチルを用いた検量線の作成 緑茶タンニンの定量 (必要な準備) テキスト該当部分の予習
第14回	食品中の機能性成分の分析～茶葉抽出液に含まれる緑茶タンニンの定量	(内 容) 茶葉抽出液の調製 緑茶タンニンの定量 (必要な準備) テキスト該当部分の予習
第15回	食品中の成分検出と特性のまとめ	(内 容) 食品中の成分検出と特性のまとめ (必要な準備) テキスト該当部分の予習

授 業 名	調理学 a・b			開 講 学 年	1回生	単 位 数	2単位	
英 文 名	Introduction on Cooking			開 講 時 期	春学期	必修・選択	必修	
担 当 者	塩田 二三子			対 象 学 生	食物栄養1回生			
授業の概要	<p>本授業では、調理にかかわる食品の栄養特性、物性を理解し、さらに栄養面、安全面、嗜好面の各特性を高める調理について、その原理と方法を学ぶ。また、これらの調理に関する基礎的な知識とともに、日本の食生活の歴史の変遷について学び、献立作成を含む食事計画を立案する力を修得する。</p>							
学 習 成 果 達 成 目 標	<p>1) 調理過程でおこる食品成分の変化を科学的な視点で理解できる。 2) 献立作成を含む食事計画のための基礎知識を修得している。 3) 食生活の指導において必要な調理や食事計画の基本的な知識を修得している。</p>							
評 価 方 法	定期試験 (100 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 (分析力)	コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力 ()		課題発見・解決能力		()
テ キ ス ト	エスカペーシック 食べ物と健康 - 調理学 - 渋川祥子編著 同文書院							
参 考 書	使用しない。							
留 意 事 項	常に自分の「食べているもの」を意識し、調理の役割について考えていくこと							
オ フ ィ ス ア ワ ー	研究室に日時を貼付しお知らせします。事前にメールにて来室希望の連絡を入れることが望ましい。							

授業名	調理学 a・b	
授業計画	学習項目	学習内容・課題
第1回	調理の意義と目的	(内 容) 調理学で何を学ぶか、なぜ学ぶか (必要な準備) テキストp.1~2をよく読んでおくこと。(10分)
第2回	おいしさに関する要因1(食べ物の因子)	(内 容) 食べ物の化学的特性、物理的特性 (必要な準備) 前回の復習をしておくこと。 テキストp.15~33をよく読んでおくこと。(30分)
第3回	おいしさに関する要因2(食べる人の因子)	(内 容) 人の特性要因とそれを取り巻く環境要因 (必要な準備) 前回の復習をしておくこと。 テキストp.33~34をよく読んでおくこと。(30分)
第4回	調理操作1(予備操作)	(内 容) 計測、洗浄、浸漬などの操作について (必要な準備) 前回の復習をしておくこと。 テキストp.37および47~48をよく読んでおくこと。(30分)
第5回	調理操作2(非加熱操作)	(内 容) 生食などの注意事項 (必要な準備) 前回の復習をしておくこと。 テキストp.48をよく読んでおくこと。(30分)
第6回	調理操作3(加熱操作)	(内 容) 湿式、乾式、誘電・誘導それぞれの加熱の特徴 (必要な準備) 前回の復習をしておくこと。 テキストp.38~47をよく読んでおくこと。(30分)
第7回	調理操作4(調味)	(内 容) 調味料の特徴と調理操作について (必要な準備) 前回の復習をしておくこと。 テキストp.15~24をよく読んで復習しておくこと。(30分)
第8回	植物性食品の調理特性1(穀類)	(内 容) 米、小麦の成分と調理特性 (必要な準備) 前回の復習をしておくこと。 テキストp.63~82をよく読んでおくこと。(30分)
第9回	植物性食品の調理特性2(豆類、イモ類)	(内 容) 豆類、イモ類の成分と調理特性 (必要な準備) 前回の復習をしておくこと。 テキストp.82~91をよく読んでおくこと。(30分)
第10回	植物性食品の調理特性3(野菜類、果実類など)	(内 容) 野菜、果物の成分と調理特性 (必要な準備) 前回の復習をしておくこと。 テキストp.92~114をよく読んでおくこと。(30分)
第11回	動物性食品の調理特性1(食肉・魚介類)	(内 容) 食肉、魚介類の体組織の構造と調理特性 (必要な準備) 前回の復習をしておくこと。 テキストp.117~133をよく読んでおくこと。(30分)
第12回	動物性食品の調理特性2(卵類、乳・乳製品)	(内 容) 卵の構造・成分および乳の成分と調理特性 (必要な準備) 前回の復習をしておくこと。 テキストp.133~147をよく読んでおくこと。(30分)
第13回	成分抽出素材・調味料の調理特性	(内 容) でんぷん、ゲル化剤、砂糖、塩などの調理特性 (必要な準備) 前回の復習をしておくこと。 テキストp.149~164をよく読んでおくこと。(30分)
第14回	日本の食生活の変遷	(内 容) 日本の食事の形態の変遷 (必要な準備) 前回の復習をしておくこと。 テキストp.2~8をよく読んでおくこと。(30分)
第15回	献立作成と食事計画	(内 容) 栄養のバランスと献立の作成 (必要な準備) 前回の復習をしておくこと。 テキストp.8~13をよく読んでおくこと。(30分)

授 業 名	調理学実験 a・b			開 講 学 年	1回生	単 位 数	1単位	
英 文 名	Experiment of Cookery Science			開 講 時 期	秋学期	必修・選択	必修	
担 当 者	塩田 二三子			対 象 学 生	食物栄養1回生			
授業の概要	調理学実験では、調理操作によっておこる化学的、物理的变化を観察し、その諸現象について科学的に解明することで、調理学の理論を理解する。また、これによって、調理にかかわる食品の栄養特性、物性、食品材料の調理特性や調理操作の科学的必要性を理解し、科学的かつ合理的な調理を行える能力を身につける。加えて、嚥下、咀嚼困難者用の食事などの理解を目的に、官能評価の方法や機器による物性測定などについても学ぶ。							
学 習 成 果 達 成 目 標	1) 実験を通して、調理操作による物質の変化を科学的に解明する能力を修得している。 2) 調理操作の科学的必要性を理解し、科学的かつ合理的な調理を行える能力を修得している。 3) 官能評価や機器による物性測定についてその方法を修得している。							
評 価 方 法	定期試験 (70 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (30 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 (分析力	コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力	課題発見・解決能力)		
テ キ ス ト	プリント配布、調理学のテキスト(エスカパーシク 食べ物と健康・調理学 - 渋川祥子編著 同文書院)を復習のため用いる							
参 考 書	使用しない。							
留 意 事 項	プリントに目を通し、実験方法等を予習しておくこと。グループ単位で実験を行い、実験後はレポートを作成、次週に提出すること。							
オ フ ィ ス ア ワ ー	研究室に日時を貼付しお知らせします。事前にメールにて来室希望の連絡を入れることが望ましい。							

授 業 名		調理学実験 a・b	
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題	
第1回	オリエンテーション	(内 容) 実験を行う上での注意、基本操作 (必要な準備)	
第2回	植物性食品の調理特性 1 (米)	(内 容) 米の種類とデンプン (必要な準備) 事前に配布するプリントをよく読んでおく。(15分)	
第3回	植物性食品の調理特性 2 (小麦粉)	(内 容) 小麦粉の種類とグルテン、添加物の影響 (必要な準備) 事前に配布するプリントをよく読んでおく。(15分)	
第4回	植物性食品の調理特性 3 (いも)	(内 容) デンプンの観察と加熱方法による変化 (必要な準備) 事前に配布するプリントをよく読んでおく。(15分)	
第5回	植物性食品の調理特性 4 (野菜)	(内 容) 生野菜の放水と吸水 (必要な準備) 事前に配布するプリントをよく読んでおく。(15分)	
第6回	動物性食品の調理特性 1 (鶏卵 : 起泡性)	(内 容) 卵白の起泡性と安定性 (必要な準備) 事前に配布するプリントをよく読んでおく。(15分)	
第7回	動物性食品の調理特性 2 (鶏卵 : 熱凝固性)	(内 容) ゆで卵、希釈卵液の熱凝固 (必要な準備) 事前に配布するプリントをよく読んでおく。(15分)	
第8回	動物性食品の調理特性 3 (乳)	(内 容) 生クリームの泡立て (必要な準備) 事前に配布するプリントをよく読んでおく。(15分)	
第9回	抽出素材の調理特性 1 (ゲル化剤)	(内 容) 寒天、ゼラチン、カラギーナンの特徴 (必要な準備) 事前に配布するプリントをよく読んでおく。(15分)	
第10回	抽出素材の調理特性 2 (砂糖)	(内 容) 砂糖の加熱による変化 (必要な準備) 事前に配布するプリントをよく読んでおく。(15分)	
第11回	抽出素材の調理特性 3 (油脂)	(内 容) エマルションの中の油脂 (必要な準備) 事前に配布するプリントをよく読んでおく。(15分)	
第12回	食品の官能評価	(内 容) 官能評価の手法 (必要な準備) 事前に配布するプリントをよく読んでおく。(15分)	
第13回	だし汁に関する実験	(内 容) さまざまなだし汁のうま味の特徴 (必要な準備) 事前に配布するプリントをよく読んでおく。(15分)	
第14回	食品の物性測定 1 (テクスチャー測定法)	(内 容) 機器を使用したテクスチャーの測定 (必要な準備) 事前に配布するプリントをよく読んでおく。(15分)	
第15回	食品の物性測定 2 (物性に影響を与える因子)	(内 容) 温度、水分、経過時間等が及ぼす影響 (必要な準備) 事前に配布するプリントをよく読んでおく。(15分)	

授業名	調理学実習 a・b			開講学年	1回生	単位数	1単位	
英文名	Practical Exercise Cooking			開講時期	春学期	必修・選択	必修	
担当者	塩田 二三子			対象学生	食物栄養1回生			
授業の概要	本実習では、基本的な調理操作と調理の基礎知識を修得する。また、食品の安全性や衛生管理についての基本的な手法を学び、その重要性の理解につなげる。また、栄養的効率を高め、嗜好的に美味しい食事を提供できる実力を身につけるとともに、調理学と関連させながら、調理過程における食品材料の化学的・物理的变化を確認および把握する。							
学習成果到達目標	1) 調理の基本的な操作と基礎知識を修得している。 2) 安全・栄養・嗜好性も考慮した食事を提供できる力を修得している。 3) 調理学の理論と調理過程で生じる化学的・物理的变化を関連付けて説明できる。							
評価方法	定期試験 (70 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (30 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評価基準	主たる評価の 観点	知識・理解 (基本的な調理技術の習得	コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力	課題発見・解決能力)		
テキスト	これからの調理学実習(基本手法から各国料理・行事食まで) 新調理研究会・編 オーム社 調理のためのベーシックデータ 女子栄養大学出版部 新カラーチャート 食品成分表 教育図書							
参考書	使用しない。							
留意事項	5～6名を1グループとして実習を行う。実習の前にはしっかり予習をし、調理手順を理解して授業に臨むこと。 また、食材の季節等の関係上、実習の順番は計画と異なるので、オリエンテーション時に配布する予定表を確認すること。							
オフィス アワー	研究室に日時を貼付しお知らせします。事前にメールにて来室希望の連絡を入れることが望ましい。							

授 業 名		調理学実習 a・b	
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題	
第1回	オリエンテーション（食品の安全性、衛生管理等）	（内 容）調理学実習を行う上での基本的な注意事項 （必要な準備）テキストp.2～3をよく読んでおくこと。（15分）	
第2回	調理の基本（計量・包丁法）	（内 容）計量と廃棄率、庖丁の扱い方と切り方 （必要な準備）テキストp.3～6をよく読んでおくこと。（15分）	
第3回	日本料理の基礎1（炊く、ゆでる、だしをとる）	（内 容）白飯、青菜のお浸し、みそ汁 （必要な準備）テキストを読み、手順をよく理解しておくこと。（30分） p.8～9,21,24,27,223	
第4回	日本料理の基礎2（すし飯、蒸す）	（内 容）ちらしずし、茶碗蒸し （必要な準備）テキストを読み、手順をよく理解しておくこと。（30分） p.10,13～14,56,60,186	
第5回	日本料理の基礎3（揚げる、和える）	（内 容）天ぷら、和え物、すまし汁 （必要な準備）テキストを読み、手順をよく理解しておくこと。（30分） p.8,18～21,28,51	
第6回	日本料理の基礎4（焼く、煮る）	（内 容）魚の照り焼き、炊き合わせ （必要な準備）テキストを読み、手順をよく理解しておくこと。（30分） p.10～13,14～16,57	
第7回	西洋料理の基礎1（スープストックをとる、ひき肉の調理）	（内 容）コンソメスープ、ハンバーグ、サラダ （必要な準備）テキストを読み、手順をよく理解しておくこと。（30分） p.126～127,223	
第8回	西洋料理の基礎2（魚の扱い方、ゼラチンの扱い方）	（内 容）ムニエル、サラダ、ゼリー （必要な準備）テキストを読み、手順をよく理解しておくこと。（30分） p.22～23,55,114～115,123,133	
第9回	西洋料理の基礎3（パスタの扱い方）	（内 容）スパゲティ、クッキー （必要な準備）テキストを読み、手順をよく理解しておくこと。（30分） p.128,137	
第10回	中国料理の基礎1（湯をとる、炒める）	（内 容）炒飯、湯菜 （必要な準備）テキストを読み、手順をよく理解しておくこと。（30分） p.68～73,95,100	
第11回	中国料理の基礎2（乾物の扱い方、寒天の扱い方）	（内 容）炸菜、炒菜、点心 （必要な準備）テキストを読み、手順をよく理解しておくこと。（30分） p.76,96,104	
第12回	中国料理の基礎3（特徴的な調理法）	（内 容）溜菜、拌菜 （必要な準備）テキストを読み、手順をよく理解しておくこと。（30分） p.76,88	
第13回	食べる機能に合わせた食形態の展開の基本（離乳食・介護食）	（内 容）離乳食・介護食づくり （必要な準備）配布プリントをよく読んでおくこと。（15分）	
第14回	菓子づくりの基本	（内 容）米粉を使った和菓子 （必要な準備）テキストを読み、手順をよく理解しておくこと。（30分） p.63,66	
第15回	パン生地づくりの基本	（内 容）ピザ、ラタトゥイユ （必要な準備）テキストを読み、手順をよく理解しておくこと。（30分） p.129,166	

授 業 名	調理学実習 a・b			開 講 学 年	1回生	単 位 数	1単位	
英 文 名	Practical Exercise Cooking			開 講 時 期	秋学期	必修・選択	必修	
担 当 者	塩田 二三子			対 象 学 生	食物栄養1回生			
授業の概要	調理学実習 で学んだ基本的な技術や知識を基に、栄養面、安全面、嗜好面を考慮した食事の整え方の理解を深める。日本料理、西洋料理、中国料理の各様式別に実習を行い、それぞれの国の食文化についても学ぶことで、幅広い献立作成の力を身につける。また、日本人の食事摂取基準および日本食品標準成分表に基づく献立作成についてその基本を修得し、実際に調理し、それについてグループで討論して献立構成や嗜好性の評価、また栄養評価を行い、計画の改善につなげることができる力を修得する。							
学 習 成 果 達 成 目 標	1) 日本、西洋、中国、それぞれの食文化について理解を深めている。 2) 季節のもてなし料理や行事食、郷土食についての知識を持ち、提供できる力を修得している。 3) 給食実習に向けて、献立作成、調理、評価まで行うことができる力を修得している。							
評 価 方 法	定期試験 (70 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (30 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 (調理技術の習得)	コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力	課題発見・解決能力			
テ キ ス ト	これからの調理学実習 (基本手法から各国料理・行事食まで) 新調理研究会・編 オーム社							
参 考 書	使用しない。							
留 意 事 項	5～6名を1グループとして実習を行う。実習の前にはしっかり予習をし、調理手順を理解して授業に臨むこと。また、食材の季節等の関係上、実習の順番は計画と異なるので、オリエンテーション時に配布する予定表を確認すること。							
オ フ ィ ス ア ワ ー	研究室に日時を貼付しお知らせします。事前にメールにて来室希望の連絡を入れることが望ましい。							

授 業 名		調理学実習 a・b	
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題	
第1回	オリエンテーション	(内 容) 調理学実習を受講するにあたっての諸注意 (必要な準備)	
第2回	日本料理1(煮物、でんぷんの種類と特徴)	(内 容) 鯖のみそ煮、けんちん汁、わらびもち (必要な準備) テキストを読み、手順をよく理解しておくこと。(30分) p.54,64	
第3回	日本料理2(味付飯、和え物の応用)	(内 容) 栗飯、土瓶蒸し、黄身酢和え (必要な準備) テキストを読み、手順をよく理解しておくこと。(30分) p.48,204	
第4回	日本料理3(刺身)	(内 容) 刺身、あら煮 (必要な準備) 配布プリントを読み、手順をよく理解しておくこと。(30分)	
第5回	西洋料理1(魚介だし、油脂の調理特性)	(内 容) ブイヤベース、パウンドケーキ (必要な準備) 配布プリントおよびテキストp.139を読み、手順をよく理解しておくこと。(30分)	
第6回	西洋料理2(塊肉の調理、シュー生地)	(内 容) ポルシチ、サラダ、シュークリーム (必要な準備) テキストを読み、手順をよく理解しておくこと。(30分) p.125,138,169	
第7回	西洋料理3(パイ生地)	(内 容) アップルパイ (必要な準備) テキストを読み、手順をよく理解しておくこと。(30分) p.141	
第8回	中国料理1(パン生地の応用、砂糖の調理特性)	(内 容) 肉包子・豆沙包子、西湖魚羹、拔絲地瓜 (必要な準備) テキストを読み、手順をよく理解しておくこと。(30分) p.89,101,106	
第9回	中国料理2(魚介の調理、中国の特殊材料の扱い方)	(内 容) 炒墨魚、冷拌 (必要な準備) テキストを読み、手順をよく理解しておくこと。(30分) p.76,90	
第10回	中国料理3(点心)	(内 容) 粽子、水果西米露 (必要な準備) テキストを読み、手順をよく理解しておくこと。(30分) p.83,171	
第11回	行事食	(内 容) 正月吉例料理、雑煮 (必要な準備) テキストを読み、手順をよく理解しておくこと。(30分) p.45,178~180	
第12回	郷土料理	(内 容) 京都のおばんざい (必要な準備) 配布プリントを読み、手順をよく理解しておくこと。(30分)	
第13回	テーブルセッティングとマナー	(内 容) テーブルセッティングとマナーの基本 (必要な準備) テキストをよく読んでおくこと。(20分) p.34~37,72~73,110~113	
第14回	自由献立1(計画)	(内 容) 班ごとにメニューを考案 (必要な準備) 参考にするレシピを集めておくこと。(30分)	
第15回	自由献立2(調理と評価)	(内 容) 班ごとに調理、全体で評価 (必要な準備) 材料の準備、手順の確認をしておくこと。(30分)	

授 業 名	基礎栄養学 a・b			開 講 学 年	1回生	単 位 数	2単位	
英 文 名	Basic Nutrition			開 講 時 期	春学期	必修・選択	必修	
担 当 者	田代 操			対 象 学 生	食物栄養1回生			
授業の概要	基礎栄養学では栄養の概念、食物摂取のメカニズム、栄養素の消化・吸収・排泄の仕組みについて学び、栄養とは何かについて正しく理解する。さらに健康の保持・増進、疾病の予防・治療における栄養の役割および体内における栄養素やエネルギーの代謝とその生理的意義について理解する。							
学 習 成 果 達 成 目 標	1) 栄養の概念について正しく理解できる。 2) 食物摂取のメカニズムと栄養素の消化・吸収の仕組みについて理解できる。 3) 健康の保持・増進、疾病の予防・治療における栄養の役割について正しく理解できる。 4) 体内における栄養素の利用やエネルギー代謝について理解できる。							
評 価 方 法	定期試験 (100 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 (栄養の全体像の把握	コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力	課題発見・解決能力)		
テ キ ス ト	サクセス管理栄養士講座 基礎栄養学(第4版) 鈴木和春・真鍋祐之・上原万里子 著 第一出版							
参 考 書	使用しない。							
留 意 事 項	予習復習を必ず行うこと。							
オ フ ィ ス ア ワ ー	担当授業終了後に実施します。							

授 業 名		基礎栄養学 a・b	
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題	
第1回	栄養の概念	(内 容) 栄養の定義、健康・疾患予防における栄養の役割について (必要な準備) 教科書を読んでおく	
第2回	食物の摂取	(内 容) 摂食行動について (必要な準備) 教科書を読んでおく	
第3回	消化・吸収と栄養素の体内動態(1)消化器系	(内 容) 1.消化器系の構造と機能 2.消化の概要 (必要な準備) 教科書を読んでおく	
第4回	消化・吸収と栄養素の体内動態(2)消化の調節	(内 容) 1.管腔内消化と膜消化 2.栄養素別の消化・吸収 (必要な準備) 教科書を読んでおく	
第5回	消化・吸収と栄養素の体内動態(3)栄養素の体内動態	(内 容) 1.門脈系とリンパ系 2.食物繊維の作用 (必要な準備) 教科書を読んでおく	
第6回	タンパク質の栄養(1)代謝	(内 容) 1.タンパク質・アミノ酸の体内代謝 2.アミノ酸の臓器間輸送 (必要な準備) 教科書を読んでおく	
第7回	タンパク質の栄養(2)栄養	(内 容) 摂取するタンパク質の量と質の評価 (必要な準備) 教科書を読んでおく	
第8回	糖質の栄養(1)代謝	(内 容) 糖質の体内代謝 (必要な準備) 教科書を読んでおく	
第9回	糖質の栄養(2)血糖	(内 容) 血糖とその調節 (必要な準備) 教科書を読んでおく	
第10回	脂質の栄養(1)代謝	(内 容) 脂質の体内代謝 (必要な準備) 教科書を読んでおく	
第11回	脂質の栄養(2)栄養	(内 容) 摂取する脂質の量と質の評価 (必要な準備) 教科書を読んでおく	
第12回	ビタミンの栄養	(内 容) 1.ビタミンの種類と構造 2.ビタミンの栄養学的機能 (必要な準備) 教科書を読んでおく	
第13回	ミネラルの栄養	(内 容) ミネラルの種類と機能 (必要な準備) 教科書を読んでおく	
第14回	水・電解質の意義	(内 容) 水の出納と電解質代謝 (必要な準備) 教科書を読んでおく	
第15回	エネルギー代謝	(内 容) エネルギー代謝の概念と測定法 (必要な準備) 教科書を読んでおく	

授業名	基礎栄養学実験 a・b			開講学年	1回生	単位数	1単位	
英文名	Experiment of Basic Nutrition			開講時期	秋学期	必修・選択	必修	
担当者	田代 操			対象学生	食物栄養1回生			
授業の概要	基礎栄養学で学んだ栄養の意義について実験を通して深く理解していく。まず栄養素の消化・吸収に関する実験や生体内の栄養素の測定を通して、栄養素の体内動態とその生理的な意義について理解する。さらにエネルギー代謝測定を行い身体の活動とエネルギー代謝の関連性について深く理解する。							
学習成果到達目標	1) 栄養素の代謝と生理的な意義について理解できる。 2) エネルギー代謝と身体活動の関連性について理解できる。							
評価方法	定期試験 (30 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (70 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評価基準	主たる評価の 観点	知識・理解 (計画力)	コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力 ()	課題発見・解決能力 ()			
テキスト	生化学実験 田代 操 編著 化学同人、およびプリント							
参考書	使用しない。							
留意事項	基礎栄養学と共に生化学の内容についても復習しておくこと。							
オフィス アワー	担当授業終了後に実施します。							

授 業 名		基礎栄養学実験 a・b	
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題	
第1回	オリエンテーション(1)実験の基礎	(内 容) 1.実験の心構え 2.実験器具と機器操作の説明 (必要な準備) 教科書を読んでおく	
第2回	オリエンテーション(2)基本操作	(内 容) %濃度やモル濃度の溶液調製 (必要な準備) 教科書を読んで濃度の単位を理解しておく	
第3回	in vitro 酵素消化(1)糖質	(内 容) パンクレアチンによるデンプンのin vitro消化 (必要な準備) 教科書を読んでおく	
第4回	in vitro 酵素消化(2)脂質とタンパク質	(内 容) パンクレアチンによる乳脂肪とゼラチンのin vitro消化 (必要な準備) 教科書を読んでおく	
第5回	肝臓グリコーゲンの分離と定量(1)分離	(内 容) ラット肝臓からのグリコーゲンの抽出分離 (必要な準備) 教科書を読んでおく	
第6回	肝臓グリコーゲンの分離と定量(2)定量	(内 容) グリコーゲンの定量 (必要な準備) 教科書を読んでおく	
第7回	肝臓脂質の分離と定量(1)分離	(内 容) ラット肝臓からの脂質の抽出分離 (必要な準備) 教科書を読んでおく	
第8回	肝臓脂質の分離と定量(2)定量	(内 容) ラット肝臓からの中性脂肪とコレステロールの定量 (必要な準備) 教科書を読んでおく	
第9回	尿中ビタミンの定量(1)前処理	(内 容) 尿中総ビタミンCの調製 (必要な準備) 教科書を読んでおく	
第10回	尿中ビタミンの定量(2)定量	(内 容) 尿中総ビタミンCの定量 (必要な準備) 教科書を読んでおく	
第11回	ミネラルの定性と定量(1)定性	(内 容) 尿中ミネラルの定性 (必要な準備) 教科書を読んでおく	
第12回	ミネラルの定性と定量(2)定量	(内 容) 尿中Clイオンの定量 (必要な準備) 教科書を読んでおく	
第13回	エネルギー代謝(1)行動調査	(内 容) 行動調査による消費エネルギーの算出 (必要な準備) エネルギー代謝について復習しておく	
第14回	エネルギー代謝(2)食事調査	(内 容) 食事調査による摂取エネルギーの算出 (必要な準備) 食事摂取基準について復習しておく	
第15回	まとめ	(内 容) 行った実験について目的、方法、結果、考察を確認する (必要な準備) 行った実験の内容を確認しておく	

授 業 名	健康管理論 a・b			開 講 学 年	2回生	単 位 数	2単位	
英 文 名	Health Management			開 講 時 期	春学期	必修・選択	選択	
担 当 者	里村 一成・岩永 資隆			対 象 学 生	食物栄養2回生			
授業の概要	健康の概念、健康増進や生活習慣病等疾病予防の考え方やその取り組みについて理解する。WHOでの健康の定義、国民健康づくり運動、健康管理の実際を学ぶ。個人および集団での健康管理、データヘルス計画等を学ぶ。							
学 習 成 果 達 成 目 標	健康の概念とその変遷について理解する。 世界と日本の保健・医療・福祉制度の歴史、仕組み、法律、問題点と今後の方向を理解する。 EBM(Evidence-based medicine)の考え方や方法を理解する。							
評 価 方 法	定期試験 (100 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 (分析力)	コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力 ()	課題発見・解決能力 ()			
テ キ ス ト	社会・環境と健康 健康管理概論 第3版 東あかね / 関戸啓子 / 久保加織・編 講談社サイエンティフィック (2017)							
参 考 書	プリント配布							
留 意 事 項	自分の健康、家族の健康、地域社会の健康を捉えながら、理解すること。 復習に充分時間をとること							
オ フ ィ ス ア ワ ー	授業終了後に実施							

授 業 名		健康管理論 a・b	
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題	
第1回	世界の健康	(内 容)	健康の概念の変遷 (必要な準備) テキストの関連部分を読んでおく
第2回	日本の健康 1．日本における健康の概念の変遷	(内 容)	第一次国民健康づくり対策 第二次国民健康づくり運動 健康日本21 (必要な準備) 健康日本21について調べておく
第3回	日本の健康 2．日本における健康の現状	(内 容)	寿命と死亡 日本の健康管理システムの変遷と現状 日本の医療と福祉施設 (必要な準備) 日本の健康管理システムについて調べておく
第4回	健康管理を担う施設と従事するスタッフ	(内 容)	健康管理にかかわる施設 メディカルスタッフとコメディカルスタッフ 介護・福祉関連スタッフ (必要な準備) 保健医療、介護・福祉施設について調べておく
第5回	胎児と妊婦の健康 1．胎児と妊婦の健康管理システム	(内 容)	母子保健法 妊婦健康診査 健やか親子21 (必要な準備) 健やか親子21について調べておく
第6回	胎児と妊婦の健康 2．胎児と妊婦の健康の現状と課題	(内 容)	胎児と妊婦の健康にかかわる指標 (必要な準備) 胎児と妊婦における食育について調べておく
第7回	乳児の健康 1．乳児の健康管理システム	(内 容)	乳児健康診査と予防接種 (必要な準備) 乳児健康診査について調べておく
第8回	乳児の健康 2．乳児の健康の現状と課題	(内 容)	乳児の健康にかかわる指標 乳幼児突然死症候群 (必要な準備) 乳児における食育について調べておく
第9回	幼児の健康	(内 容)	幼児の健康管理システム 幼児の健康の現状と課題 (必要な準備) 幼児における食育について調べておく
第10回	児童の健康	(内 容)	児童の健康管理システム 児童の健康の現状と課題 (必要な準備) 児童における食育について調べておく
第11回	生徒の健康	(内 容)	生徒の健康管理システム 生徒の健康現状と課題 (必要な準備) 中学生、高校生における食育について調べておく
第12回	学生の健康	(内 容)	学生の健康管理システム 学生の健康の現状と課題 (必要な準備) 学生における食育について調べておく
第13回	成人の健康 1．成人の健康管理システム	(内 容)	成人、就業者における健康管理システム (必要な準備) テキストの関連部分を読んでおく
第14回	成人の健康 2．成人期における健康の現状と課題	(内 容)	ストレス、薬物、運動、喫煙 (必要な準備) 成人における食育について調べておく
第15回	高齢者の健康	(内 容)	高齢者の健康管理システム 高齢者の健康の現状と課題 (必要な準備) 高齢者における食育について調べておく

授 業 名	健康栄養概論 a・b			開 講 学 年	2回生	単 位 数	2単位	
英 文 名	Health and Nutrition			開 講 時 期	秋学期	必修・選択	選択	
担 当 者	饗庭 照美			対 象 学 生	食物栄養2回生			
授業の概要	人間やその生活を生態系に位置づけて、理解を深めるとともに、人間の行動特性とその基本的メカニズムを理解する。社会・環境が人間の健康に及ぼす影響や、健康を保持増進するためのライフステージ別の栄養のあり方を学び、地域の食生活を通して、健康寿命の延伸に寄与する管理栄養士の役割を理解する。							
学 習 成 果 達 成 目 標	1) 人間やその生態系の理解と行動特性が理解できる。 2) 健康増進や疾病予防の取組みについて理解できる。 3) 社会や環境、栄養と健康のかかわりについて理解できる。							
評 価 方 法	定期試験 (70 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (30 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 (コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力)	(課題発見・解決能力)	
テ キ ス ト	資料を配布する。							
参 考 書	厚生労働白書(平成26~28年版)							
留 意 事 項	個人や集団の身体、健康、疾病予防と栄養を考えながら、管理栄養士の役割を学ぶこと。							
オ フ ィ ス ア ワ ー	研究室に日時を添付するので、確認してください。							

授 業 名		健康栄養概論 a・b	
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題	
第1回	私たちの求める健康の概念（個人と社会における健康等）	（内 容）授業の概要と栄養教育の概念について学ぶ （必要な準備）シラバスを読んでおく（30分）	
第2回	社会環境と人々の生活	（内 容）社会環境と人々の生活の関連を学ぶ （必要な準備）社会環境とは何か、調べておく（30分）	
第3回	生態系の理解	（内 容）生態系を理解する （必要な準備）生態系について調べておく（30分）	
第4回	人間の行動特性と基本的メカニズム	（内 容）人間の行動特性と基本的メカニズムを学ぶ （必要な準備）人間の行動特性について調べておく（30分）	
第5回	社会環境等の変化と生活行動の変化	（内 容）社会環境等に伴う生活行動の変化を学ぶ （必要な準備）社会環境等と生活行動の関係を調べておく（30分）	
第6回	社会、環境と健康問題	（内 容）環境と健康問題を考える （必要な準備）環境と健康問題について調べておく（30分）	
第7回	日本における健康づくり運動と健康日本21	（内 容）健康づくり運動と健康日本21について学ぶ （必要な準備）健康づくり運動について調べておく（30分）	
第8回	疾病予防の取り組み	（内 容）疾病予防に対する公共の施策について （必要な準備）疾病予防の公共の施策について調べておく（30分）	
第9回	「国民健康・栄養調査」の結果と食生活の課題	（内 容）「国民健康・栄養調査」の結果を考察する （必要な準備）「国民健康・栄養調査」について調べておく（30分）	
第10回	食育における課題 - 胎児期から乳幼児期の健康・栄養・食生活の現状と課題	（内 容）ライフステージ別の現状と課題 - 胎児期から乳幼児期 （必要な準備）胎児期から乳幼児期について調べておく（30分）	
第11回	食育における課題 - 学童期から青年期の健康・栄養・食生活の現状と課題	（内 容）ライフステージ別の現状と課題 - 学童期から青年期 （必要な準備）学童期から青年期について調べておく（30分）	
第12回	食育における課題 - 成人期・高齢期の健康・栄養・食生活の現状と課題	（内 容）ライフステージ別の現状と課題 - 成人期・高齢期 （必要な準備）成人期・高齢期について調べておく（30分）	
第13回	地域社会における食生活の課題（食環境の在り方と食事、調理、栄養）	（内 容）地域社会における食生活の課題について学ぶ （必要な準備）地域社会における食生活の課題を調べておく（30分）	
第14回	地域社会における健康づくりと管理栄養士の役割	（内 容）地域社会における管理栄養士の仕事 （必要な準備）地域社会の管理栄養士の仕事を調べておく（30分）	
第15回	健康と栄養のまとめ - 地域社会の健康増進と栄養・食生活の課題解決	（内 容）授業を振り返り意見交換を行う （必要な準備）発表準備（1時間）	

授業名	解剖・生理学 a・b			開講学年	2回生	単位数	2単位	
英文名	Anatomy and Physiology			開講時期	春学期	必修・選択	選択	
担当者	南山 求			対象学生	食物栄養2回生			
授業の概要	解剖・生理学 に続き、正常な人体の各組織・器官の構造と機能および恒常性の維持に必要な調節機構について系統的に理解していく。解剖・生理学 では、生殖系、内分泌系、運動器系、神経系、感覚器系および免疫系について学ぶとともに、人が行う食事、運動、休養などの基本的な生命維持活動の仕組み、並びに生活環境の変化に対する調節機構を理解していく。							
学習成果到達目標	1) 生殖系、内分泌系、運動器系、神経系、感覚器系および免疫系の構造とその機能が理解できる。 2) エネルギー代謝に関係の深い栄養や運動とそのバランスについて理解できる。							
評価方法	定期試験 (100%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評価基準	主たる評価の 観点	知識・理解 (判断力)	コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力 (統合力)	課題発見・解決能力			
テキスト	高野廣子著 解剖生理学 南山堂							
参考書	津田・伏木・本田監修 福島編 Visual栄養学テキスト 人体の構造と機能および疾病の成り立ち . 解剖生理学 中山書店							
留意事項	解剖・生理学 で学んだことは復習しておく。 学習項目に沿って予習しておく。授業で用いた資料はよく整理し、学んだ内容を復習する。							
オフィスアワー	担当授業終了後に実施します。							

授 業 名		解剖・生理学 a・b	
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題	
第1回	体液の恒常化 (体温の調節機能、生活環境への適応)	(内 容)	体液の恒常性維持、体温の調節機能、生活環境への適応について (必要な準備) 体液の恒常性維持について調べておく(60分)
第2回	生殖器系 (男性生殖器、女性生殖器の発育過程・構造・機能、生殖器の発生)	(内 容)	生殖器の構造と機能および生殖器の発生について (必要な準備) 生殖器の構造と機能について調べておく(60分)
第3回	生殖器系 (性周期、排卵の機序、受精・分娩)	(内 容)	性周期、排卵の機序および精・分娩について (必要な準備) 性周期、排卵の機序調べておく(60分)
第4回	内分泌系 (ホルモン分泌の調節機能)	(内 容)	視床下部および脳下垂体でのホルモン分泌の調節機能 (必要な準備) ホルモン分泌の調節機能について調べておく(60分)
第5回	内分泌系 (ホルモンの種類とその働き)	(内 容)	ホルモンの分泌器の種類とその働き (必要な準備) ホルモンの分泌器とホルモンの作用について調べておく(60分)
第6回	免疫系 (免疫系の構造とその機能)	(内 容)	免疫系の構造とその機能 (必要な準備) 免疫系の構造とその機能について調べておく(60分)
第7回	免疫系 (生体防御機構とその異常)	(内 容)	生体防御機構とその異常について (必要な準備) 生体防御機構について調べておく(60分)
第8回	運動器系 (全身の骨格と筋肉の構造とその運動機能)	(内 容)	運動器系(全身の骨格と筋肉)の構造とその機能 (必要な準備) 全身の骨格と筋肉の構造とその機能について調べておく(60分)
第9回	神経系 (神経系の一般的特性と、中枢神経系の構造と機能)	(内 容)	神経系の電気生理学的特性、中枢神経系の構造と機能 (必要な準備) 中枢神経系の構造と機能について調べておく(60分)
第10回	神経系 (反射系および末梢神経系の構造と機能)	(内 容)	反射系および末梢神経系の構造と機能 (必要な準備) 反射系および末梢神経系の構造と機能について調べておく(60分)
第11回	皮膚 (皮膚の構造とその機能)	(内 容)	皮膚の構造とその機能について (必要な準備) 皮膚の構造とその機能について調べておく(60分)
第12回	感覚器系 (感覚器の構造とその機能)	(内 容)	体性感覚：感覚器の構造とその機能について (必要な準備) 体性感覚器の構造とその機能について調べておく(60分)
第13回	感覚器系 (味覚、臭覚、視覚、聴覚、平衡覚)	(内 容)	特殊感覚；味覚、臭覚、視覚、聴覚、平衡覚 (必要な準備) 味覚、臭覚、視覚、聴覚、平衡覚について調べておく(60分)
第14回	運動と自律神経機能	(内 容)	運動と自律神経機能 (必要な準備) 運動に関わる自律神経機能について調べておく(60分)
第15回	摂食と栄養のバランスとその異常	(内 容)	摂食と栄養のバランスとその異常 (必要な準備) 摂食と栄養のバランスについて調べておく(60分)

授業名	解剖・生理学実験 a・b			開講学年	2回生	単位数	1単位	
英文名	Experiment of Anatomy and Physiology			開講時期	秋学期	必修・選択	選択	
担当者	堀江 登			対象学生	食物栄養2回生			
授業の概要	この実験では、臓器の模型や実際の組織標本の観察および微細構造のスケッチ、ラットの解剖を通して、各臓器の構造と機能について理解する。さらに各自の身体で機器類を用いた各種測定を行い、正常な人体の仕組みについて、細胞レベルから組織・器官レベルの構造や機能についての理解を深めていく。							
学習成果到達目標	1) 哺乳動物の基本構造や機能を理解できる。 2) 特に消化器系について肉眼レベル、顕微鏡レベルで説明できる。							
評価方法	定期試験 (70 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (30 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評価基準	主たる評価の 観点	知識・理解 (コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力	課題発見・解決能力)		
テキスト	プリントを配布、解剖生理学 高野廣子著 南山堂							
参考書	解剖生理学テキスト 岩堀修明著 文光堂							
留意事項	解剖生理学で学んだことを復習しながら進めていく。配布する資料をよく理解し、積極的、主体的に参加する。レポートの提出は、期限を厳守すること。							
オフィスアワー	担当授業終了後に実施する。							

授 業 名		解剖・生理学実験 a・b	
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題	
第1回	オリエンテーション 「実験の目的、心構えと一般的注意、実験方法・顕微鏡の使い方」	(内 容) オリエンテーション 「実験の目的、心構えと一般的注意、実験方法・顕微鏡の使い方」 (必要な準備) 実験ノートの作成	
第2回	人体構造の観察 「体表、消化器系、循環器系、呼吸器系、泌尿器系」	(内 容) 人体構造の観察 「体表、消化器系、循環器系、呼吸器系、泌尿器系」 (必要な準備) 実験ノートの作成	
第3回	人体構造の観察 「骨格系、筋系、神経系」	(内 容) 人体構造の観察 「骨格系、筋系、神経系」 (必要な準備) 実験ノートの作成	
第4回	人体構造の観察 「生殖器系、内分泌系、感覚器系」	(内 容) 人体構造の観察 「生殖器系、内分泌系、感覚器系」 (必要な準備) 実験ノートの作成	
第5回	組織の観察 「上皮、舌、食道、胃、小腸、大腸、肝臓、膵臓」	(内 容) 組織の観察 「上皮、舌、食道、胃、小腸、大腸、肝臓、膵臓」 (必要な準備) 実験ノートの作成	
第6回	組織の観察 「骨、骨格筋、平滑筋、心筋」	(内 容) 組織の観察 「骨、骨格筋、平滑筋、心筋」 (必要な準備) 実験ノートの作成	
第7回	組織の観察 「精巣、卵巣、膵島、副腎、甲状腺」	(内 容) 組織の観察 「精巣、卵巣、膵島、副腎、甲状腺」 (必要な準備) 実験ノートの作成	
第8回	形態学的評価 (人体模型)	(内 容) 形態学的評価 (人体模型) (必要な準備) 実験ノートの作成	
第9回	ラットの飼育方法	(内 容) ラットの飼育方法 (必要な準備) 実験ノートの作成	
第10回	ラットの解剖と組織観察	(内 容) ラットの解剖と組織観察 (必要な準備) 実験ノートの作成	
第11回	呼吸に関する実験「呼吸数、肺活量」	(内 容) 呼吸に関する実験「呼吸数、肺活量」 (必要な準備) 実験ノートの作成	
第12回	発汗、味覚に関する実験「閾値に関する生理学的応答」	(内 容) 発汗、味覚に関する実験「閾値に関する生理学的応答」 (必要な準備) 実験ノートの作成	
第13回	唾液による消化に関する実験	(内 容) 唾液による消化に関する実験 (必要な準備) 実験ノートの作成	
第14回	身体計測「身体測定、体格指数の算出、皮下脂肪圧の測定」	(内 容) 身体計測「身体測定、体格指数の算出、皮下脂肪圧の測定」 (必要な準備) 実験ノートの作成	
第15回	循環に関する実験「体温、脈拍数、血圧の測定、心音の聴取」およびフィジカルアセスメント	(内 容) 循環に関する実験「体温、脈拍数、血圧の測定、心音の聴取」およびフィジカルアセスメント (必要な準備) 実験ノートの作成	

授 業 名	栄養生化学実験 a・b			開 講 学 年	2回生	単 位 数	1単位	
英 文 名	Experiment of Nutrition Biochemistry			開 講 時 期	春学期	必修・選択	選択	
担 当 者	田代 操			対 象 学 生	食物栄養2回生			
授業の概要	本科目では、生化学、栄養生化学において学んできた生体内成分と栄養素の代謝について、実験を通して理解を深めていく。特に栄養状態による生体の成分の変化や代謝にかかわる酵素の活性に影響を与える因子などについて検討し生体成分と代謝について理解していく。							
学 習 成 果 達 成 目 標	1) 栄養素の代謝と生体成分の関連性について理解できる。 2) 代謝にかかわる酵素の特性について理解できる。							
評 価 方 法	定期試験 (30 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (70 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 (コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力)	(課題発見・解決能力)	
テ キ ス ト	栄養生理学・生化学実験(栄養科学シリーズNEXT) 加藤秀夫・木戸康博・桑波田雅士 編 講談社サイエンティフィック、およびプリント							
参 考 書	実験テーマごとに紹介する							
留 意 事 項	「生化学」、「基礎栄養学」、「栄養生化学」の関連部分を読んで復習しておくこと。							
オ フ ィ ス ア ワ ー	担当授業終了後に実施します。							

授 業 名		栄養生化学実験 a・b	
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題	
第1回	オリエンテ - ション (1) 概観	(内 容) 実験項目の概略説明と実験手技の解説 (必要な準備) テキストを読んでおく	
第2回	オリエンテ - ション (2) 試薬調製	(内 容) 各実験項目における基本的な試薬の調製 (必要な準備) テキストを読んでおく	
第3回	血液成分の変化 (1) グルコース	(内 容) 血糖の定量 (必要な準備) テキストを読んでおく	
第4回	血液成分の変化 (2) 脂質	(内 容) 血清中性脂肪、遊離脂肪酸の定量 (必要な準備) テキストを読んでおく	
第5回	血液成分の変化 (3) 鉄	(内 容) 血清鉄の定量 (必要な準備) テキストを読んでおく	
第6回	血液成分の変化 (4) カルシウム	(内 容) 血清カルシウムの定量 (必要な準備) テキストを読んでおく	
第7回	血中タンパク質の定量 (1) 総タンパク質	(内 容) ビウレット法による血清総タンパク質の定量 (必要な準備) テキストを読んでおく	
第8回	血中タンパク質の定量 (2) アルブミン	(内 容) BCG法による血清アルブミンの定量、A/G比の測定 (必要な準備) テキストを読んでおく	
第9回	血清酵素の測定 (1) AST	(内 容) アスパラギン酸アミノトランスフェラーゼの測定 (必要な準備) テキストを読んでおく	
第10回	血清酵素の測定 (2) ALT	(内 容) アラニンアミノトランスフェラーゼの測定 (必要な準備) テキストを読んでおく	
第11回	尿中窒素成分の変化 (1) 尿素	(内 容) 尿中尿素、クレアチニンの定量 (必要な準備) テキストを読んでおく	
第12回	尿中窒素成分の変化 (2) 尿酸	(内 容) 尿中尿酸の定量 (必要な準備) テキストを読んでおく	
第13回	糖質代謝 (1) 解糖系	(内 容) 肝臓グルコキナーゼ活性の測定 (必要な準備) テキストを読んでおく	
第14回	糖質代謝 (2) 糖新生	(内 容) 肝臓グルコース 6 ホスファターゼ活性の測定 (必要な準備) テキストを読んでおく	
第15回	まとめ	(内 容) 行った実験について目的、方法、結果、考察を確認する (必要な準備) 行った実験の内容を確認しておく	

授業名	病理病態学 a・b			開講学年	2回生	単位数	2単位	
英文名	Physiological Pathology			開講時期	春学期	必修・選択	選択	
担当者	小西 憲子			対象学生	食物栄養2回生			
授業の概要	<p>病理病態学Ⅰでは、主要疾患特に栄養障害と代謝疾患、消化器系疾患、循環器系疾患、腎・尿路系疾患、内分泌系疾患等の病態について、疾病の成り立ちと進行、病態とその診断および治療法について学んでいく。さらに臨床検査結果などによる病態の評価や診断について学び治療の基本的な考え方について理解する。</p>							
学習成果到達目標	<p>1) 疾病の成り立ちについて細胞、組織の変化が理解できる。 2) 栄養学を理解し、疾病の予防やその病因と回復の促進などの基礎的な知識が理解できる。</p>							
評価方法	定期試験 (100%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評価基準	主たる評価の 観点	知識・理解 (コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力	課題発見・解決能力)		
テキスト	<p>人体の構造と機能及び疾病の成り立ち 著者 加藤昌彦その他 第一出版</p>							
参考書								
留意事項	<p>病理病態学を理解するためには、基礎知識といえる「解剖生理学」や「生化学」を理解しておく。</p>							
オフィス アワー	<p>初回講義時に知らせます。</p>							

授 業 名	病理病態学 a・b	
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題
第1回	疾患診断の概要（問診・診察、主な症候、臨床検査）	（内 容）疾患診断の概要（問診・診察、主な症候、臨床検査） （必要な準備）事前にテキスト(7-A,B,C)を読んでおくこと。
第2回	疾患治療の概要（種類と特徴、治療計画・実施・評価、治療の方法）	（内 容）疾患治療の概要（種類と特徴、治療計画・実施・評価、治療の方法） （必要な準備）事前にテキスト(8-A,B,C,D)を読んでおくこと。
第3回	栄養障害と代謝疾患（栄養・代謝にかかわるホルモン・サイトカイン）	（内 容）栄養障害と代謝疾患（栄養・代謝にかかわるホルモン・サイトカイン） （必要な準備）事前にテキスト(9-A)を読んでおくこと。
第4回	栄養障害と代謝疾患（栄養障害）	（内 容）栄養障害と代謝疾患（栄養障害） （必要な準備）事前にテキスト(9-B)を読んでおくこと。
第5回	栄養障害と代謝疾患（肥満）	（内 容）栄養障害と代謝疾患（肥満） （必要な準備）事前にテキスト(9-C)を読んでおくこと。
第6回	栄養障害と代謝疾患（代謝疾患）	（内 容）栄養障害と代謝疾患（代謝疾患） （必要な準備）事前にテキスト(9-C)を読んでおくこと。
第7回	栄養障害と代謝疾患（先天性代謝異常）	（内 容）栄養障害と代謝疾患（先天性代謝異常） （必要な準備）事前にテキスト(9-D)を読んでおくこと。
第8回	消化器系疾患（消化器系の構造と機能異常）	（内 容）消化器系疾患（消化器系の構造と機能異常） （必要な準備）事前にテキスト(10-A)を読んでおくこと。
第9回	消化器系疾患（消化器疾患の成因・病態・診断・治療の概要）	（内 容）消化器系疾患（消化器疾患の成因・病態・診断・治療の概要） （必要な準備）事前にテキスト(10-B)を読んでおくこと。
第10回	循環器系疾患（循環器系の構造と機能異常）	（内 容）循環器系疾患（循環器系の構造と機能異常） （必要な準備）事前にテキスト(11-A)を読んでおくこと。
第11回	循環器系疾患（循環器疾患の成因・病態・診断・治療の概要）	（内 容）循環器系疾患（循環器疾患の成因・病態・診断・治療の概要） （必要な準備）事前にテキスト(11-B)を読んでおくこと。
第12回	腎・尿路系疾患（腎・尿路系の構造と機能異常）	（内 容）腎・尿路系疾患（腎・尿路系の構造と機能異常） （必要な準備）事前にテキスト(12-A)を読んでおくこと。
第13回	腎・尿路系疾患（腎・尿路疾患の成因・病態・診断・治療の概要）	（内 容）腎・尿路系疾患（腎・尿路疾患の成因・病態・診断・治療の概要） （必要な準備）事前にテキスト(12-B)を読んでおくこと。
第14回	内分泌系疾患（内分泌器官と分泌ホルモン）	（内 容）内分泌系疾患（内分泌器官と分泌ホルモン） （必要な準備）事前にテキスト(13-A)を読んでおくこと。
第15回	内分泌系疾患（内分泌疾患の成因・病態・診断・治療の概要）	（内 容）内分泌系疾患（内分泌疾患の成因・病態・診断・治療の概要） （必要な準備）事前にテキスト(13-B)を読んでおくこと。

授業名	病理病態学 a・b			開講学年	2回生	単位数	2単位	
英文名	Physiological Pathology			開講時期	秋学期	必修・選択	選択	
担当者	小西 憲子			対象学生	食物栄養2回生			
授業の概要	病理病態学 に引き続き、神経系、呼吸器系、運動器系、生殖器系などの主要疾患の成因、病態、診断、治療等を理解する。また、がんの発症のメカニズムや人体と微生物や毒性物質との相互関係について理解し、病原微生物の感染から発症、その防御の機構についても理解する。							
学習成果到達目標	1) 疾患の発症や進行を理解できる。 2) 疾患の症状や治療法を理解できる。 3) 疾病の回復促進や予防などの知識が理解できる。							
評価方法	定期試験 (100%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評価基準	主たる評価の 観点	知識・理解 ()	コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力 ()	課題発見・解決能力 ()			
テキスト	人体の構造と機能及び疾病の成り立ち 著者 加藤昌彦その他 第一出版							
参考書								
留意事項	病理病態学を理解するためには、基礎知識といえる「解剖生理学」や「生化学」、「病理病態学」を理解しておく。							
オフィス アワー	初回講義時に知らせます。							

授 業 名		病理病態学 a・b	
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題	
第1回	神経系 (神経系の構造と機能異常)	(内 容) 神経系 (神経系の構造と機能異常)	(必要な準備) 事前にテキスト(14-A)を読んでおくこと。
第2回	神経系 (神経疾患の成因・病態・診断・治療の概要)	(内 容) 神経系 (神経疾患の成因・病態・診断・治療の概要)	(必要な準備) 事前にテキスト(14-B)を読んでおくこと。
第3回	呼吸器系 (呼吸器系の構造と機能異常)	(内 容) 呼吸器系 (呼吸器系の構造と機能異常)	(必要な準備) 事前にテキスト(15-A)を読んでおくこと。
第4回	呼吸器系 (呼吸器系の成因・病態・診断・治療の概要)	(内 容) 呼吸器系 (呼吸器系の成因・病態・診断・治療の概要)	(必要な準備) 事前にテキスト(15-B)を読んでおくこと。
第5回	運動器(筋・骨格)系 (運動器系の構造と機能異常)	(内 容) 運動器(筋・骨格)系 (運動器系の構造と機能異常)	(必要な準備) 事前にテキスト(16-A)を読んでおくこと。
第6回	運動器(筋・骨格)系 (運動器疾患の成因・病態・診断・治療の概要)	(内 容) 運動器(筋・骨格)系 (運動器疾患の成因・病態・診断・治療の概要)	(必要な準備) 事前にテキスト(16-B)を読んでおくこと。
第7回	生殖系 (生殖系系の構造と機能異常)	(内 容) 生殖系 (生殖系系の構造と機能異常)	(必要な準備) 事前にテキスト(17-A)を読んでおくこと。
第8回	生殖系 (妊娠と分娩・妊娠合併症)	(内 容) 生殖系 (妊娠と分娩・妊娠合併症)	(必要な準備) 事前にテキスト(17-B)を読んでおくこと。
第9回	生殖系 (生殖系系の悪性腫瘍)	(内 容) 生殖系 (生殖系系の悪性腫瘍)	(必要な準備) 事前にテキスト(17-C)を読んでおくこと。
第10回	血液・造血器・リンパ系疾 (血液・造血器・リンパ系疾の構造と機能異常)	(内 容) 血液・造血器・リンパ系疾 (血液・造血器・リンパ系疾の構造と機能異常)	(必要な準備) 事前にテキスト(18-A)を読んでおくこと。
第11回	血液・造血器・リンパ系疾 (血液系疾患の成因・病態・診断・治療の概要)	(内 容) 血液・造血器・リンパ系疾 (血液系疾患の成因・病態・診断・治療の概要)	(必要な準備) 事前にテキスト(18-B)を読んでおくこと。
第12回	免疫・アレルギー (免疫と生体防御異常)	(内 容) 免疫・アレルギー (免疫と生体防御異常)	(必要な準備) 事前にテキスト(19-A)を読んでおくこと。
第13回	免疫・アレルギー (免疫・アレルギー疾患の成因・病態・診断・治療の概要)	(内 容) 免疫・アレルギー (免疫・アレルギー疾患の成因・病態・診断・治療の概要)	(必要な準備) 事前にテキスト(19-B)を読んでおくこと。
第14回	感染症 (感染症の成因・病態)	(内 容) 感染症 (感染症の成因・病態)	(必要な準備) 事前にテキスト(20-A)を読んでおくこと。
第15回	感染症 (感染症の診断・治療の概要)	(内 容) 感染症 (感染症の診断・治療の概要)	(必要な準備) 事前にテキスト(20-A)を読んでおくこと。

授業名	微生物学 a・b			開講学年	2回生	単位数	2単位	
英文名	Microbiology			開講時期	春学期	必修・選択	選択	
担当者	小川 順			対象学生	食物栄養2回生			
授業の概要	人と微生物との相互関係を理解し、微生物の特徴と一般的性状について学ぶ。微生物の分類法を把握し、食中毒微生物、病原微生物の感染から発症、免疫、防御の機構を理解する。食品加工有用微生物についても、細菌、酵母、カビそれぞれの特性を理解し、その利用法を修得する。							
学習成果到達目標	1) 微生物と人間とのかわりについて理解できる。 2) 食中毒菌や病原微生物による危害を防ぐ方法を理解できる。 3) 有用微生物の特性と利用法が理解できる。							
評価方法	定期試験 (100 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評価基準	主たる評価の 観点	知識・理解 ()	コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力 ()	課題発見・解決能力 ()			
テキスト	エキスパート管理栄養士養成シリーズ 微生物学 小林秀光、白石淳 編集 化学同人							
参考書								
留意事項								
オフィス アワー	開講日の午後、微生物学実験終了後に対応しますが、あらかじめ、メールまたは直接予約をお願いいたします。							

授 業 名		微生物学 a・b	
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題	
第1回	微生物学とは 微生物学の歴史	(内 容) 微生物学とは 微生物学の歴史 (必要な準備) テキストの該当箇所を事前学習しておくこと	
第2回	微生物の基礎 (種類、一般性状、分類)	(内 容) 微生物の基礎 (種類、一般性状、分類) (必要な準備) テキストの該当箇所を事前学習しておくこと	
第3回	微生物の基礎 (代謝)	(内 容) 微生物の基礎 (代謝) (必要な準備) テキストの該当箇所を事前学習しておくこと	
第4回	食品中の微生物相と食中毒微生物	(内 容) 食品中の微生物相と食中毒微生物 (必要な準備) テキストの該当箇所を事前学習しておくこと	
第5回	食品の腐敗と保存	(内 容) 食品の腐敗と保存 (必要な準備) テキストの該当箇所を事前学習しておくこと	
第6回	微生物を利用した食品 (細菌)	(内 容) 微生物を利用した食品 (細菌) (必要な準備) テキストの該当箇所を事前学習しておくこと	
第7回	微生物を利用した食品 (酵母、カビ)	(内 容) 微生物を利用した食品 (酵母、カビ) (必要な準備) テキストの該当箇所を事前学習しておくこと	
第8回	病原微生物の感染機構	(内 容) 病原微生物の感染機構 (必要な準備) テキストの該当箇所を事前学習しておくこと	
第9回	病原微生物 細菌 (腸内細菌)	(内 容) 病原微生物 細菌 (腸内細菌) (必要な準備) テキストの該当箇所を事前学習しておくこと	
第10回	病原微生物 細菌 (消化器系感染)	(内 容) 病原微生物 細菌 (消化器系感染) (必要な準備) テキストの該当箇所を事前学習しておくこと	
第11回	病原微生物 細菌 (呼吸器系感染)	(内 容) 病原微生物 細菌 (呼吸器系感染) (必要な準備) テキストの該当箇所を事前学習しておくこと	
第12回	病原微生物 真菌 (真菌症)	(内 容) 病原微生物 真菌 (真菌症) (必要な準備) テキストの該当箇所を事前学習しておくこと	
第13回	病原微生物 ウイルス、原虫	(内 容) 病原微生物 ウイルス、原虫 (必要な準備) テキストの該当箇所を事前学習しておくこと	
第14回	免疫の仕組みと微生物	(内 容) 免疫の仕組みと微生物 (必要な準備) テキストの該当箇所を事前学習しておくこと	
第15回	微生物のバイオテクノロジー	(内 容) 微生物のバイオテクノロジー (必要な準備) テキストの該当箇所を事前学習しておくこと	

授業名	微生物学実験 a・b			開講学年	2回生	単位数	1単位	
英文名	Experiment of microbiology			開講時期	春学期	必修・選択	選択	
担当者	小川 順			対象学生	食物栄養2回生			
授業の概要	食中毒微生物、病原微生物の感染を防御するために、微生物を扱うための基本的操作、滅菌操作技術、培地調製、培養法と単離法、検出法を学び、菌数測定、植菌の方法、微生物の正しい扱い方を修得する。また食品有用微生物を中心に形態を顕微鏡観察し、スクリーニング法を学ぶ。							
学習成果到達目標	1) 微生物の培養法、単離法、検出法などの基本操作が理解できる。 2) 食中毒微生物、病原微生物の取扱法の基本を理解できる。 3) 有用微生物の形態、利用法が理解できる。							
評価方法	定期試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評価基準	主たる評価の 観点	知識・理解 (コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力) (課題発見・解決能力)			
テキスト	適時資料を配付する。							
参考書								
留意事項	微生物学を復習しておくこと。							
オフィス アワー	開講日の微生物学実験終了後に対応しますが、あらかじめ、メールまたは直接予約をお願いいたします。							

授 業 名		微生物学実験 a・b	
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題	
第1回	オリエンテーション、微生物を扱うための基本、無菌操作と滅菌	(内 容) オリエンテーション、微生物を扱うための基本、無菌操作と滅菌 (必要な準備) テキストの予習とレポート	
第2回	細菌用培地調製、空中落下菌、表面付着菌の測定	(内 容) 細菌用培地調製、空中落下菌、表面付着菌の測定 (必要な準備) テキストの予習とレポート	
第3回	微生物の培養と単離、微生物の形態観察	(内 容) 微生物の培養と単離、微生物の形態観察 (必要な準備) テキストの予習とレポート	
第4回	液体培養の濁度と生菌数の測定	(内 容) 液体培養の濁度と生菌数の測定 (必要な準備) テキストの予習とレポート	
第5回	増殖と細胞活性の測定	(内 容) 増殖と細胞活性の測定 (必要な準備) テキストの予習とレポート	
第6回	細菌の染色法(グラム染色)	(内 容) 細菌の染色法(グラム染色) (必要な準備) テキストの予習とレポート	
第7回	乳酸菌の単離と培養	(内 容) 乳酸菌の単離と培養 (必要な準備) テキストの予習とレポート	
第8回	納豆菌の単離と培養、形態観察	(内 容) 納豆菌の単離と培養、形態観察 (必要な準備) テキストの予習とレポート	
第9回	大腸菌の同定	(内 容) 大腸菌の同定 (必要な準備) テキストの予習とレポート	
第10回	水中および食品中の一般細菌、大腸菌(群)の測定	(内 容) 水中および食品中の一般細菌、大腸菌(群)の測定 (必要な準備) テキストの予習とレポート	
第11回	細菌の細胞構造体の調整	(内 容) 細菌の細胞構造体の調整 (必要な準備) テキストの予習とレポート	
第12回	枯草菌の培養と形態観察	(内 容) 枯草菌の培養と形態観察 (必要な準備) テキストの予習とレポート	
第13回	酵母の培養と形態観察	(内 容) 酵母の培養と形態観察 (必要な準備) テキストの予習とレポート	
第14回	真菌(かび)の培養と形態観察 コウジカビ	(内 容) 真菌(かび)の培養と形態観察 コウジカビ (必要な準備) テキストの予習とレポート	
第15回	真菌(かび)の培養と形態観察 赤パンカビ	(内 容) 真菌(かび)の培養と形態観察 赤パンカビ (必要な準備) テキストの予習とレポート	

授業名	食品学実験 a・b			開講学年	2回生	単位数	1単位	
英文名	Experiment of food science			開講時期	春学期	必修・選択	選択	
担当者	高村 仁知			対象学生	食物栄養2回生			
授業の概要	食品学実験 を踏まえて、主要な食品の特性を成分分析から捉えていく。また食品成分間の化学変化や脂質の酸化について学ぶ。食品加工や調理が栄養面、安全面、嗜好面の各特性を高めることを理解して、加工方法を修得する。							
学習成果到達目標	1) 食品ごとに含有成分の特性をつかみ、定性分析の方法を修得している。 2) 食品成分の単離、精製、定量法を修得している。 3) 食品の特性について理解し、加工方法を修得している。							
評価方法	定期試験 (70 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (30 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評価基準	主たる評価の 観点	知識・理解 (観察力	コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力	課題発見・解決能力	() ()		
テキスト	基礎からの食品・栄養学実験 村上俊男編著 建帛社、配布プリント							
参考書	日本食品標準成分表(文部科学省)							
留意事項	食品学で学んだことを実験で確認していくので、食品学の復習もしておくこと。							
オフィス アワー	担当授業終了後に実施します。							

授 業 名		食品学実験 a・b
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題
第1回	オリエンテーション	(内 容) オリエンテーション (必要な準備) テキスト該当部分の予習
第2回	牛乳の鮮度試験	(内 容) 牛乳の鮮度試験 (必要な準備) テキスト該当部分の予習
第3回	牛乳成分の分離 タンパク質、カルシウム、乳糖	(内 容) 牛乳成分の分離 タンパク質、カルシウム、乳糖 (必要な準備) テキスト該当部分の予習
第4回	小麦タンパク質の分離とグルテン加工	(内 容) 小麦タンパク質の分離とグルテン加工 (必要な準備) テキスト該当部分の予習
第5回	穀類・いも類のデンプン分離	(内 容) 穀類・いも類のデンプン分離 (必要な準備) テキスト該当部分の予習
第6回	デンプンの検出と糊化反応	(内 容) デンプンの検出と糊化反応 (必要な準備) テキスト該当部分の予習
第7回	鶏卵の鮮度試験	(内 容) 鶏卵の鮮度試験 (必要な準備) テキスト該当部分の予習
第8回	食品中の天然色素の分離	(内 容) 食品中の天然色素の分離 (必要な準備) テキスト該当部分の予習
第9回	酵素的褐変、非酵素的褐変	(内 容) 酵素的褐変、非酵素的褐変 (必要な準備) テキスト該当部分の予習
第10回	食用油の酸化とヨウ素価の測定	(内 容) 食用油の酸化とヨウ素価の測定 (必要な準備) テキスト該当部分の予習
第11回	食品加工実験 豆乳と豆腐	(内 容) 食品加工実験 豆乳と豆腐 (必要な準備) テキスト該当部分の予習
第12回	食品加工実験 うどん、ソバの加工	(内 容) 食品加工実験 うどん、ソバの加工 (必要な準備) テキスト該当部分の予習
第13回	食品加工実験 梅干し、梅酒、梅ジュースの加工	(内 容) 食品加工実験 梅干し、梅酒、梅ジュースの加工 (必要な準備) テキスト該当部分の予習
第14回	食品加工実験 微生物を用いた食品加工(味噌作り)	(内 容) 食品加工実験 微生物を用いた食品加工(味噌作り) (必要な準備) テキスト該当部分の予習
第15回	食品成分の分析と加工実験のまとめ	(内 容) 食品成分の分析と加工実験のまとめ (必要な準備) テキスト該当部分の予習

授業名	食品衛生学 a・b			開講学年	2回生	単位数	2単位	
英文名	Food Hygiene			開講時期	秋学期	必修・選択	選択	
担当者	堀越 昌子			対象学生	食物栄養2回生			
授業の概要	<p>食物を介してもたらされる健康被害を予防するための知識と技術の体系、食品関連の衛生法規を学び、食品の変質、食中毒、感染症、環境汚染物質、微生物汚染の予防法、食品の安全性や衛生管理の基本を把握し安全な管理法を修得することにより食品の衛生的な管理や調理を理解することにつなげていく。</p>							
学習成果到達目標	<p>1) 食品衛生の課題をつかみ、食物による健康被害を起こす原因物質と対策が理解できる。 2) 食を介した健康被害を予防するために、食品の衛生的取扱い、安全管理が理解できる。</p>							
評価方法	定期試験 (70 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (30 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評価基準	主たる評価の 観点	知識・理解 (コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力	課題発見・解決能力)		
テキスト	管理栄養士講座「新版 食品衛生学」 西島基弘、山本茂貴編著 建帛社							
参考書								
留意事項	授業で配布するプリント資料をしっかりと読むこと。							
オフィスアワー	毎週1回(休耕期間を除く)オフィスアワーを設けます。							

授 業 名		食品衛生学 a・b	
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題	
第1回	食品衛生行政と関連法規	(内 容) 食品衛生行政と「食品安全基本法」と「食品衛生法」、関連法規について学ぶ。 (必要な準備) 「食の安全のあり方」について考えておく。	
第2回	食品衛生と国際化	(内 容) 世界保健機構、食糧農業機関、コーデックス委員会などの国際機関の役割を捉えていく。 (必要な準備) 前回の復習とテキストの予習	
第3回	食品衛生と微生物	(内 容) 微生物の形態、構造、特性を捉えて、食品衛生のあり方を探る。 (必要な準備) 前回の復習とテキストの予習	
第4回	食品の変質とその防止	(内 容) 微生物、油脂の酸化、処理加工による食品の変質を把握し、その防止策を学ぶ。 (必要な準備) 前回の復習とテキストの予習	
第5回	食中毒と発生状況	(内 容) 食中毒と発生状況を季節、病因物質別、施設別、年代別に分析していき、予防策を考えていく。 (必要な準備) 前回の復習とテキストの予習	
第6回	病因物質別食中毒	(内 容) 細菌、ウイルスなど病因物質別に食中毒発生状況を把握していく。 (必要な準備) 前回の復習とテキストの予習	
第7回	自然毒、化学性食中毒	(内 容) 動物性自然毒、植物性自然毒、化学性食中毒について、それぞれの特徴と危険度を把握する。 (必要な準備) 前回の復習とテキストの予習	
第8回	食品による感染症と寄生虫症	(内 容) 食品による経口感染症と人畜共通感染症、寄生虫症について学ぶ。 (必要な準備) 前回の復習とテキストの予習	
第9回	食品中の有害物質	(内 容) 食品中の有害物質であるカビ毒、化学物質、放射性物質、発がん物質などについて学ぶ。 (必要な準備) 前回の復習とテキストの予習	
第10回	食品添加物、分類と表示、用途	(内 容) 食品添加物の歴史、働きとデメリット、分類と表示、用途について学び、安全性の評価法を知る。 (必要な準備) 前回の復習とテキストの予習	
第11回	食品中の残留物質	(内 容) 食品中の残留物質、混入異物の種類と環境への影響について学ぶ。 (必要な準備) 前回の復習とテキストの予習	
第12回	食品用の器具、容器包装材の安全性	(内 容) 食品用の器具、容器包装材の安全性を素材ごとに把握していく。 (必要な準備) 前回の復習とテキストの予習	
第13回	食品衛生管理と対策	(内 容) 食品衛生管理と対策について、HACCP概念、衛生管理方法を学ぶ。 (必要な準備) 前回の復習とテキストの予習	
第14回	食品の安全性のあり方と国際化、国際標準化機構(I SO)	(内 容) 食品の安全性のあり方と国際化、国際標準化機構(I SO)、ポジティブリスト制度、有害物質の残留基準などについて学ぶ。 (必要な準備) 前回の復習とテキストの予習	
第15回	食品衛生をめぐる諸課題	(内 容) 食品衛生をめぐる諸課題をまとめ、対策についても考えていく。 (必要な準備) 前回の復習とテキストの予習	

授 業 名	応用栄養学 a・b			開 講 学 年	2回生	単 位 数	2単位	
英 文 名	Applied Nutrition			開 講 時 期	春学期	必修・選択	選択	
担 当 者	坂本 裕子			対 象 学 生	食物栄養2回生			
授業の概要	<p>応用栄養学 では、健康の維持増進や疾病の予防、治療・重症化予防を目指して、様々な対象者の栄養状態に応じた栄養管理のための基礎的な事項について学んでいく。また「日本人の食事摂取基準」についてその策定の理論について理解し、栄養管理において正しく活用するための基本的な事項について学ぶ。さらに応用栄養学 、 を通して各ライフステージ別の栄養管理や特殊環境下の考え方について詳しく学んでいくが、応用栄養学 では、その基本となる成長、発達、加齢に伴う人体の構造や機能の変化と栄養状態の変化およびその特徴について学んでいく。</p>							
学 習 成 果 達 成 目 標	<p>1) 栄養管理の考え方を正しく理解できる。 2) 食事摂取基準について正しく理解できる。 3) 成長・発達・加齢に伴う身体的変化と栄養状態の変化について理解できる。</p>							
評 価 方 法	定期試験 (80 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (20 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 (思考・判断力	コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力	課題発見・解決能力)		
テ キ ス ト	<p>カレント応用栄養学 辻 悦子 編 建帛社 日本人の食事摂取基準(2015年版) 菱田 明 佐々木 敏 監修 第一出版</p>							
参 考 書								
留 意 事 項								
オ フ ィ ス ア ワ ー	<p>オフィスアワーの設定曜日・時間は研究室ドアに掲示します。それ以外でも研究室に在室していれば対応します。 急ぎの場合は事前にメールで連絡してください。</p>							

授 業 名		応用栄養学 a・b	
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題	
第1回	応用栄養学の位置づけ	(内 容) 応用栄養学の位置づけ (必要な準備) 予習・復習を欠かさないこと。	
第2回	栄養管理の概念と意義	(内 容) 栄養管理の概念と意義 (必要な準備) 予習・復習を欠かさないこと。	
第3回	栄養管理の進め方	(内 容) 栄養管理の進め方 (必要な準備) 予習・復習を欠かさないこと。	
第4回	栄養学的リスクと栄養スクリーニングについて	(内 容) 栄養学的リスクと栄養スクリーニングについて (必要な準備) 予習・復習を欠かさないこと。	
第5回	栄養評価・栄養診断について	(内 容) 栄養評価・栄養診断について (必要な準備) 予習・復習を欠かさないこと。	
第6回	目標設定と栄養管理計画の作成および実施について	(内 容) 目標設定と栄養管理計画の作成および実施について (必要な準備) 予習・復習を欠かさないこと。	
第7回	栄養モニタリングと評価・修正、アウトカム評価とその管理について	(内 容) 栄養モニタリングと評価・修正、アウトカム評価とその管理について (必要な準備) 予習・復習を欠かさないこと。	
第8回	食事摂取基準における必要量の科学的根拠	(内 容) 食事摂取基準における必要量の科学的根拠 (必要な準備) 予習・復習を欠かさないこと。	
第9回	食事摂取基準の指標の概念と特徴	(内 容) 食事摂取基準の指標の概念と特徴 (必要な準備) 予習・復習を欠かさないこと。	
第10回	食事摂取基準の活用の留意点	(内 容) 食事摂取基準の活用の留意点 (必要な準備) 予習・復習を欠かさないこと。	
第11回	食事改善を目的とした食事摂取基準の利用	(内 容) 食事改善を目的とした食事摂取基準の利用 (必要な準備) 予習・復習を欠かさないこと。	
第12回	成長・発達に伴う身体的変化	(内 容) 成長・発達に伴う身体的変化 (必要な準備) 予習・復習を欠かさないこと。	
第13回	成長・発達に伴う栄養状態の変化	(内 容) 成長・発達に伴う栄養状態の変化 (必要な準備) 予習・復習を欠かさないこと。	
第14回	加齢に伴う身体的変化	(内 容) 加齢に伴う身体的変化 (必要な準備) 予習・復習を欠かさないこと。	
第15回	加齢に伴う栄養状態の変化	(内 容) 加齢に伴う栄養状態の変化 (必要な準備) 予習・復習を欠かさないこと。	

授業名	応用栄養学 a・b			開講学年	2年生	単位数	2単位	
英文名	Applied Nutrition			開講時期	秋学期	必修・選択	選択	
担当者	坂本 裕子			対象学生	食物栄養2年生			
授業の概要	<p>応用栄養学 で学んだ栄養管理のあり方および成長・発達、加齢による人体の構造や機能の変化と栄養状態の変化について理解したうえで、応用栄養学 では、妊娠期・授乳期および新生児期から成人期のライフステージごとの身体的・生理的特徴とその栄養状態の評価・判定（栄養アセスメント）の考え方およびその栄養管理について理解を深めていく。同時に健康に影響するリスク管理の基本的な考え方や方法について理解していく。</p>							
学習成果到達目標	<p>1) ライフステージ各期の身体的・生理的特徴と栄養状態の評価・判定について理解できる。 2) ライフステージ各期の栄養管理について理解できる。 3) リスク管理の基本的な考え方について理解できる。</p>							
評価方法	定期試験 (80 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (20 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評価基準	主たる評価の 観点	知識・理解 (思考・判断力	コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力	課題発見・解決能力)		
テキスト	カレント応用栄養学 辻 悦子編 建帛社							
参考書								
留意事項	応用栄養学 を復習しておくこと							
オフィス アワー	オフィスアワーの設定曜日・時間は研究室ドアに掲示します。それ以外でも研究室に在室していれば対応します。急ぎの場合は事前にメールで連絡してください。							

授 業 名		応用栄養学 a・b	
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題	
第1回	妊娠期の胎児の成長と母体の変化	(内 容) 妊娠期の胎児の成長と母体の変化 (必要な準備) テキストを読んでおく。	
第2回	妊娠期・授乳期の栄養状態の評価と判定、栄養必要量、栄養管理について	(内 容) 妊娠期・授乳期の栄養状態の評価と判定、栄養必要量、栄養管理について (必要な準備) テキストを読んでおく。	
第3回	乳児期 身体の成長・発達の特徴、健康障害について	(内 容) 乳児期 身体の成長・発達の特徴、健康障害について (必要な準備) テキストを読んでおく。	
第4回	乳児期 栄養状態の評価と判定、栄養必要量、栄養管理について	(内 容) 乳児期 栄養状態の評価と判定、栄養必要量、栄養管理について (必要な準備) テキストを読んでおく。	
第5回	幼児期 身体の成長・発達の特徴	(内 容) 幼児期 身体の成長・発達の特徴 (必要な準備) テキストを読んでおく。	
第6回	幼児期 栄養状態の評価と判定、栄養必要量、栄養管理について	(内 容) 幼児期 栄養状態の評価と判定、栄養必要量、栄養管理について (必要な準備) テキストを読んでおく。	
第7回	学童期 身体の成長・発達の特徴	(内 容) 学童期 身体の成長・発達の特徴 (必要な準備) テキストを読んでおく。	
第8回	学童期 栄養状態の評価と判定および栄養必要量について	(内 容) 学童期 栄養状態の評価と判定および栄養必要量について (必要な準備) テキストを読んでおく。	
第9回	学童期 学校給食の役割と栄養管理	(内 容) 学童期 学校給食の役割と栄養管理 (必要な準備) テキストを読んでおく。	
第10回	思春期 身体の成長・発達の特徴	(内 容) 思春期 身体の成長・発達の特徴 (必要な準備) テキストを読んでおく。	
第11回	思春期 栄養状態の評価と判定、栄養必要量、栄養管理について	(内 容) 思春期 栄養状態の評価と判定、栄養必要量、栄養管理について (必要な準備) テキストを読んでおく。	
第12回	成人期 身体状況の変化および栄養状態の変化	(内 容) 成人期 身体状況の変化および栄養状態の変化 (必要な準備) テキストを読んでおく。	
第13回	成人期 更年期の身体状況の変化と栄養状態の変化	(内 容) 成人期 更年期の身体状況の変化と栄養状態の変化 (必要な準備) テキストを読んでおく。	
第14回	成人期 生活習慣病のリスクと管理について	(内 容) 成人期 生活習慣病のリスクと管理について (必要な準備) テキストを読んでおく。	
第15回	成人期 栄養状態の評価と判定、栄養必要量、栄養管理について	(内 容) 成人期 栄養状態の評価と判定、栄養必要量、栄養管理について (必要な準備) テキストを読んでおく。	

授業名	栄養教育論 a・b			開講学年	2回生	単位数	2単位	
英文名	Nutrition Education			開講時期	春学期	必修・選択	選択	
担当者	饗庭 照美			対象学生	食物栄養2回生			
授業の概要	<p>栄養教育論 では、栄養教育・指導の概念・定義、目的や沿革、歴史について学ぶ。また、健康・栄養状態、食行動、食環境などに関する情報の収集・分析、それらを総合的に評価・判定する能力を養うとともに、食行動の変容の指導に必要なとなる行動科学やカウンセリングについての理論と技法を学ぶ。</p>							
学習成果到達目標	<p>1) 栄養教育の必要性を理解できる。 2) 栄養教育に必要な情報の収集と分析、それらを総合的に評価・判定する力がある。 3) 食行動の変容の指導に必要なとなる行動科学やカウンセリングについての理論と技法を理解できる。</p>							
評価方法	定期試験 (100 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評価基準	主たる評価の 観点	知識・理解 ()	コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力 ()	課題発見・解決能力 ()			
テキスト	カレント 栄養教育論 杉山みち子・赤松利恵・桑野稔子編著 建帛社							
参考書	適宜参考書を紹介する。							
留意事項	日頃から、食に関するニュースや話題に関心を持ち、情報を得よう心掛けておくこと。							
オフィス アワー	研究室に日時を添付するので、確認してください。							

授 業 名		栄養教育論 a・b	
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題	
第1回	オリエンテーション	(内 容) 授業の概要と栄養教育の概念について学ぶ (必要な準備) シラバスを読んでおく(30分)	
第2回	栄養教育の概念、目的、歴史	(内 容) 栄養教育の目的、意義を学ぶ (必要な準備) テキストp.1~3を読んでおく(30分)	
第3回	栄養教育の対象と機会	(内 容) 栄養教育の対象と機会について学ぶ (必要な準備) テキストp.3~8を読んでおく(30分)	
第4回	健康・栄養に関する情報の収集・分析	(内 容) 健康・栄養に関する情報の収集・分析 (必要な準備) テキストp.36~43を読んでおく(30分)	
第5回	行動科学理論と栄養教育	(内 容) 行動科学理論の概要について学ぶ (必要な準備) テキストp.9~11を読んでおく(30分)	
第6回	行動科学の理論とモデル - 刺激反応理論、ヘルスブリーフモデルなど	(内 容) 刺激反応理論、ヘルスブリーフモデル、合理的行動理論、計画的行動理論 (必要な準備) テキストp.11~16を読んでおく(1時間)	
第7回	行動科学の理論とモデル - (社会的認知理論、プリシード・プロシードモデルなど	(内 容) トランスセオレティカルモデル、社会的認知理論、ソーシャルサポートとソーシャルネットワーク、コミュニティオーガニゼーション、プリシード・プロシードモデル (必要な準備) テキストp.17~36を読んでおく(1時間)	
第8回	行動変容技法と概念 - 刺激統制、オペラント強化など	(内 容) 刺激統制、反応妨害・習慣拮抗、行動置換、オペラント強化 (必要な準備) テキストp.17~36の復習(30分)	
第9回	行動変容技法と概念 - 認知再構成など	(内 容) 認知再構成、意思決定バランス、目標宣言・行動契約 (必要な準備) テキストp.17~36の復習(30分)	
第10回	行動変容技法と概念 - セルフモニタリング、自己効力感など	(内 容) セルフモニタリング、自己効力感、ストレスマネジメント、ソーシャルスキル・トレーニング (必要な準備) テキストp.17~36の復習(30分)	
第11回	栄養カウンセリングの意義	(内 容) 栄養教育におけるカウンセリング (必要な準備) テキストp.43~44を読んでおく	
第12回	栄養カウンセリングの基本技法	(内 容) 栄養カウンセリングの基本技法 (必要な準備) テキストp.44~47を読んでおく(30分)	
第13回	栄養カウンセリングのための食行動変容にかかわる援助技法と理論	(内 容) 食行動変容にかかわる援助技法と理論を学ぶ (必要な準備) テキストp.47~51を読んでおく(30分)	
第14回	栄養カウンセリングの技法と手順	(内 容) 栄養カウンセリングの技法と手順を学ぶ (必要な準備) テキストp.51~55を読んでおく(30分)	
第15回	グループカウンセリングの意義と技法	(内 容) グループカウンセリングについて学ぶ (必要な準備) カウンセリングについての復習(30分)	

授業名	栄養教育論 a・b			開講学年	2回生	単位数	2単位	
英文名	Nutrition Education			開講時期	秋学期	必修・選択	選択	
担当者	饗庭 照美			対象学生	食物栄養2回生			
授業の概要	<p>栄養教育論 で学んだ行動変容技法やカウンセリングの方法等の事項を踏まえて、栄養教育マネジメントのP D C Aサイクルやアセスメントといった、健康やQOLの向上につながる主体的な実践力形成の支援に必要な、健康・栄養教育の理論と方法を修得し、対象に応じた栄養教育プログラムの作成・実施・評価を総合的にマネジメントできる力を身につける。</p>							
学習成果到達目標	<p>1) 栄養教育のマネジメントサイクルが理解できる。 2) 栄養教育のアセスメントの種類と方法が理解できる。 3) 栄養教育プログラムの作成・実施・評価を総合的にマネジメントできる知識を修得している。</p>							
評価方法	定期試験 (100 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評価基準	主たる評価の 観点	知識・理解 ()	コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力 ()	課題発見・解決能力 ()			
テキスト	カレント 栄養教育論 杉山みち子・赤松利恵・桑野稔子編著 建帛社							
参考書	適宜参考書を紹介する。							
留意事項	栄養教育論 を充分理解しておくこと。							
オフィス アワー	研究室に日時を添付するので、確認してください。							

授 業 名		栄養教育論 a・b
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題
第1回	オリエンテーション	(内 容) 授業の概要と栄養教育の概念について学ぶ (必要な準備) シラバスを読んでおく(30分)
第2回	栄養教育マネジメント - 栄養教育マネジメントの概要、PDCAサイクル	(内 容) 栄養教育マネジメントの概要を学ぶ(栄養教育マネジメントの概要、PDCAサイクル) (必要な準備) テキストp.57~62を読んでおく(30分)
第3回	栄養教育マネジメント - 栄養教育のためのアセスメントの種類	(内 容) 栄養教育のためのアセスメントの種類について学ぶ (必要な準備) テキストp.62~67を読んでおく(30分)
第4回	栄養教育マネジメント - 栄養教育のためのアセスメントの方法	(内 容) 栄養診断について学ぶ (必要な準備) テキストp.67~69を読んでおく(30分)
第5回	栄養教育マネジメント - 目標設定	(内 容) 栄養教育の目標設定について学ぶ (必要な準備) テキストp.70~72を読んでおく(30分)
第6回	栄養教育マネジメント - 評価の意義と目的	(内 容) 栄養教育の評価の意義と目的について学ぶ (必要な準備) テキストp.72~78を読んでおく(30分)
第7回	栄養教育マネジメント - プログラム作成: 学習者の決定、学習指導案の作成	(内 容) プログラムの作成(学習者の決定と学習指導案の作成) (必要な準備) テキストp.78~79を読んでおく(30分)
第8回	栄養教育マネジメント - プログラムの作成: 時間・場所の設定、実施者の決定	(内 容) プログラムの作成(時間・場所の設定、実施者の決定) (必要な準備) テキストp.79~80を読んでおく(30分)
第9回	栄養教育マネジメント - プログラムの作成: 教材の選択と作成	(内 容) プログラムの作成(教材の選択と作成) (必要な準備) テキストp.80~85を読んでおく(30分)
第10回	栄養教育マネジメント - プログラムの作成: 学習形態の選択	(内 容) 栄養教育における学習形態について学ぶ (必要な準備) テキストp.85~90を読んでおく(30分)
第11回	栄養教育マネジメント - プログラムの実施: コミュニケーション技術	(内 容) 栄養教育におけるコミュニケーション技術について学ぶ (必要な準備) テキストp.43~51の復習(30分)
第12回	栄養教育マネジメント - プログラムの実施: プレゼンテーション技術	(内 容) 栄養教育におけるプレゼンテーション技術について学ぶ (必要な準備) テキストp.43~51の復習(30分)
第13回	栄養教育マネジメント - 参加者個人の評価、集団の評価	(内 容) 栄養教育における参加者個人の評価および集団の評価について学ぶ (必要な準備) テキストp.72~78の復習(30分)
第14回	社会生活と栄養教育	(内 容) 社会生活と栄養教育の関連を学ぶ (必要な準備) 社会生活と栄養教育の関連について調べておく(30分)
第15回	組織づくり・地域づくり・食環境づくり	(内 容) 社会生活と栄養教育の関連を学ぶ (必要な準備) テキストp.36~43の復習(30分)

授 業 名	栄養教育論実習 a・b			開 講 学 年	2回生	単 位 数	1単位	
英 文 名	Practice in Nutrition Education			開 講 時 期	秋学期	必修・選択	選択	
担 当 者	饗庭 照美			対 象 学 生	食物栄養2回生			
授業の概要	<p>本授業では、健常者や傷病者の集団を対象とし、教材・媒体を用いた模擬教育を体験することで、様々な場において、栄養問題のアセスメントからプログラムの作成・栄養教育の実施・評価のPDCAサイクルを実践できる力を養う。自らが対象者および教育者となってロールプレイングを行い、グループカウンセリングなど集団を対象とした栄養教育に必要な技術を修得する。</p>							
学 習 成 果 達 成 目 標	<p>1) 健常者の集団を対象にした栄養教育のプログラムを作成・実施・評価できる。 2) 病態者の集団を対象にした栄養教育のプログラムを作成・実施・評価できる。</p>							
評 価 方 法	定期試験 (70 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (30 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 (コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力	課題発見・解決能力)		
テ キ ス ト	カレント 栄養教育論 杉山みち子・赤松利恵・桑野稔子編著 建帛社							
参 考 書	適宜参考書を紹介する。							
留 意 事 項	グループごとの実習にそれぞれが積極的にかかわって進めていくこと。							
オ フ ィ ス ア ワ ー	研究室に日時を添付するので、確認してください。							

授 業 名		栄養教育論実習 a・b	
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題	
第1回	オリエンテーション	(内 容) 実習の概要と進め方の確認 (必要な準備) シラバスを読んでおく(30分)	
第2回	栄養アセスメント	(内 容) 学習者の栄養状態・健康状態の把握 (必要な準備) テキストp.91～95を読んでおく(30分)	
第3回	栄養教育のための食事計画	(内 容) 栄養・食事調査について学ぶ (必要な準備) 前回の授業の復習(30分)	
第4回	栄養教育の基本技術	(内 容) 栄養教育の媒体作成について学ぶ (必要な準備) テキストp.80～90を読んでおく(30分)	
第5回	健常者を対象とした集団教育(対象の選択、プログラムの立案、指導案の作成)	(内 容) グループごとに対象集団とプログラムを決める (必要な準備) 集団教育の対象者集団を考えておく(1時間)	
第6回	健常者を対象とした集団教育(栄養教育の媒体の作成)	(内 容) グループごとに対象者別の指導案・媒体作成 (必要な準備) 媒体作成の資料準備(1時間)	
第7回	健常者を対象とした集団教育(模擬集団教育の実施:前半グループ)	(内 容) 模擬集団教育の実施 (必要な準備) 模擬集団授業の準備(1時間)	
第8回	健常者を対象とした集団教育(模擬集団教育の実施:後半グループ)	(内 容) 模擬集団教育の実施 (必要な準備) 模擬集団授業の準備(1時間)	
第9回	健常者を対象とした集団教育(実施内容についての評価)	(内 容) 各グループの発表の評価 (必要な準備) 模擬集団授業を振り返っておく(1時間)	
第10回	傷病者を対象とした集団教育(対象の選択、プログラムの立案、指導案の作成)	(内 容) グループごとに対象集団とプログラムを決める (必要な準備) 集団教育の対象集団を考えておく(1時間)	
第11回	傷病者を対象とした集団教育(栄養教育の媒体の作成)	(内 容) グループごとに対象者別の指導案・媒体作成 (必要な準備) 媒体作成の資料準備(1時間)	
第12回	傷病者を対象とした集団教育(模擬集団教育の実施:前半グループ)	(内 容) 模擬集団授業の実施 (必要な準備) 模擬集団授業の準備(1時間)	
第13回	傷病者を対象とした集団教育(模擬集団教育の実施:後半グループ)	(内 容) 模擬集団授業の実施 (必要な準備) 模擬集団授業の準備(1時間)	
第14回	傷病者を対象とした集団教育(実施内容についての評価)	(内 容) 各グループの発表の評価 (必要な準備) 模擬集団授業を振り返っておく(30分)	
第15回	自分のグループの評価のまとめと改善点の検討	(内 容) 評価をまとめて改善点を検討 (必要な準備) 模擬集団授業の全体を振り返っておく(30分)	

授業名	臨床栄養学 a・b			開講学年	2回生	単位数	2単位	
英文名	Clinical Nutrition			開講時期	春学期	必修・選択	選択	
担当者	平 正人			対象学生	食物栄養2回生			
授業の概要	<p>傷病者を総合的に評価・判定するために必要な栄養スクリーニング・アセスメントについて学ぶ。 傷病者の病態や栄養状態の特徴に基づいて、適切な栄養管理を行うために、疾病・病態の栄養ケアプランについて学ぶ。</p>							
学習成果到達目標	<p>1) 様々な疾患・病態に対し、その疾患の定義、原因、疾病構造、社会的背景などの概要を正しく理解できる。 2) 傷病者の病態や栄養状態の特徴を理解できる。 3) 栄養アセスメント・栄養ケアプランの実施・評価について理解できる。 4) ライフステージ別の疾患について理解できる。</p>							
評価方法	定期試験 (60 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評価基準	主たる評価の 観点	知識・理解 (コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力	課題発見・解決能力)		
テキスト	サクセス管理栄養士講座 臨床栄養学、 第一出版							
参考書	適宜、資料を配布し、参考文献を紹介する。 糖尿病食事療法のための食品交換表(第7版)							
留意事項	与えられた宿題はもとより、毎回の予習と復習をして講義に臨むこと。							
オフィス アワー	研究室に日時を添付するので確認してください。							

授 業 名		臨床栄養学 a・b	
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題	
第1回	オリエンテーション、臨床栄養の概念について	(内 容)	授業の進め方。 臨床栄養の意義と目的、及び傷病者や要介護者への栄養ケア・マネジメントの理解。医療・福祉の制度、福祉・介護における栄養管理について学ぶ (必要な準備) 教科書を予習しておくこと。(30分)
第2回	傷病者・要介護者の栄養アセスメントの意義と目的 栄養ケア計画と実施について	(内 容)	栄養アセスメントの意義と目的(栄養スクリーニング・アセスメントから、臨床診査・検査、栄養・食事調査法と栄養必要量の算定)栄養ケアの計画と実施について学ぶ (必要な準備) 教科書を予習しておくこと。(30分)
第3回	傷病者・要介護者への栄養・食事療法と栄養補給方法について	(内 容)	栄養・食事療法・栄養補給法(経口栄養補給法、経腸栄養補給法、静脈栄養補給法)について学ぶ (必要な準備) 教科書を予習しておくこと。(30分)
第4回	傷病者・要介護者への栄養教育とモニタリング・再評価について	(内 容)	傷病者・要介護者への栄養教育。臨床経過のモニタリングと再評価について学ぶ (必要な準備) 教科書を予習しておくこと。(30分)
第5回	薬と栄養・食事の相互作用及び栄養ケアでの記録について	(内 容)	栄養・食事が医薬品に及ぼす影響と栄養ケアの記録について学ぶ (必要な準備) 教科書を予習しておくこと。(30分)
第6回	栄養障害(P E M)、ビタミン、ミネラル障害の 栄養アセスメント・ケアプランの方法について	(内 容)	栄養障害(P E M)及びビタミン・ミネラル欠乏症・過剰症を理解し治療方針に沿い、栄養ケアの目的達成に向けた栄養アセスメントと栄養ケアについて学ぶ (必要な準備) 教科書を予習しておくこと。(30分)
第7回	代謝性疾患(脂質異常症、肥満、メタボリック シンドローム)の栄養アセスメント・ケアプラン の方法について	(内 容)	脂質異常症、肥満、メタボリックシンドロームを理解し、治療方針に沿い、栄養ケアの目的達成に向けた栄養アセスメントと栄養ケアについて学ぶ (必要な準備) 教科書を予習しておくこと。(30分)
第8回	代謝性疾患(糖尿病とその合併症)の栄養アセ スメント・ケアプランの方法について	(内 容)	糖尿病とその合併症を理解し、治療方針に沿い、栄養ケアの目的達成に向けた栄養アセスメントと栄養ケアについて学ぶ (必要な準備) 教科書を予習しておくこと。(30分)
第9回	代謝性疾患(糖尿病とその合併症)の栄養アセ スメント・ケアプランの方法について	(内 容)	食事療法の実践における糖尿病食品交換表の使い方と献立作成について学ぶ (必要な準備) 教科書を予習しておくこと。(30分)
第10回	代謝性疾患(高尿酸血症・痛風など)の栄養ア セスメント・ケアプランの方法について	(内 容)	高尿酸血症・痛風などを理解し、治療方針に沿い、栄養ケアの目的達成に向けた栄養アセスメントと栄養ケアについて学ぶ (必要な準備) 教科書を予習しておくこと。(30分)
第11回	消化器系疾患(口内炎、胃食道逆流症、胃十二 指腸潰瘍、たんぱく漏出性胃腸症)などの栄養ア セスメント・ケアプランの方法について	(内 容)	口内炎、胃食道逆流症、胃十二指腸潰瘍、たんぱく漏出性胃腸症を理解し、治療方針に沿い、栄養ケアの目的達成に向けた栄養アセスメントと栄養ケアについて学ぶ (必要な準備) 教科書を予習しておくこと。(30分)
第12回	消化器系疾患(潰瘍性大腸炎、クローン病)の 栄養アセスメント・ケアプランの方法について	(内 容)	潰瘍性大腸炎、クローン病を理解し、治療方針に沿い、栄養ケアの目的達成に向けた栄養アセスメントと栄養ケアについて学ぶ (必要な準備) 教科書を予習しておくこと。(30分)
第13回	消化器系疾患(肝炎・脂肪肝・アルコール性肝 障害・肝硬変)の栄養アセスメント・ケアプラン の方法について	(内 容)	肝炎・脂肪肝・アルコール性肝障害・肝硬変を理解し、治療方針に沿い、栄養ケアの目的達成に向けた栄養アセスメントと栄養ケアについて学ぶ (必要な準備) 教科書を予習しておくこと。(30分)
第14回	消化器系疾患(胆石症・胆嚢炎、膵炎など)の 栄養アセスメント・ケアプランの方法について	(内 容)	胆石症・胆嚢炎、膵炎などを理解し、治療方針に沿い、栄養ケアの目的達成に向けた栄養アセスメントと栄養ケアについて学ぶ (必要な準備) 教科書を予習しておくこと。(30分)
第15回	循環器系疾患(高血圧症、動脈硬化、虚血性心疾 患・うっ血性心不全など)の栄養アセスメント・ ケアプランの方法について	(内 容)	高血圧症、動脈硬化、虚血性心疾患・うっ血性心不全などを理解し、治療方針に沿い、栄養ケアの目的達成に向けた栄養アセスメントと栄養ケアについて学ぶ (必要な準備) 教科書を予習しておくこと。(30分)

授 業 名	臨床栄養学 a・b			開 講 学 年	2回生	単 位 数	2単位	
英 文 名	Clinical Nutrition			開 講 時 期	秋学期	必修・選択	選択	
担 当 者	平 正人			対 象 学 生	食物栄養2回生			
授業の概要	臨床栄養学 に引き続き、傷病者の病態や栄養状態の特徴に基づいて、適切な栄養管理を行うために、疾病・病態の栄養ケアプランについて学ぶ。さらにライフステージ別の疾病・病態と栄養との関係についても学ぶ。							
学 習 成 果 達 成 目 標	1) 様々な疾患・病態に対し、その疾患の定義、原因、疾病構造、社会的背景などの概要を正しく理解できる。 2) 傷病者の病態や栄養状態の特徴を理解できる。 3) 栄養アセスメント・栄養ケアプランの実施・評価について理解できる。 4) ライフステージ別の疾患について理解できる。							
評 価 方 法	定期試験 (60 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 (コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力)	(課題発見・解決能力)	
テ キ ス ト	サクセス管理栄養士講座 臨床栄養学 第一出版							
参 考 書	適宜、資料を配布し、参考文献を紹介する。							
留 意 事 項	与えられた宿題はもとより、毎回の予習と復習をして講義に臨むこと。							
オ フ ィ ス ア ワ ー	研究室に日時を添付するので確認してください。							

授 業 名		臨床栄養学 a・b	
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題	
第1回	腎・尿路・泌尿器疾患（急性・慢性糸球体腎炎、ネフローゼ症候群、腎盂腎炎）の栄養アセスメント・ケアプランについて	（内 容）	急性・慢性糸球体腎炎、ネフローゼ症候群、腎盂腎炎などを理解し、治療方針に沿い、栄養ケアの目的達成に向けた栄養アセスメントと栄養ケアについて学ぶ （必要な準備）教科書を予習しておくこと。（30分）
第2回	腎・尿路・泌尿器疾患（急性・慢性腎不全、糖尿病性腎症、血液浄化療法など）の栄養アセスメント・ケアプランについて	（内 容）	急性・慢性腎不全、糖尿病性腎症、血液浄化療法などを理解し、治療方針に沿い、栄養ケアの目的達成に向けた栄養アセスメントと栄養ケアについて学ぶ （必要な準備）教科書を予習しておくこと。（30分）
第3回	内分泌疾患の栄養アセスメント・ケアプランの方法について	（内 容）	甲状腺疾患、クッシング症候群などを理解し、治療方針に沿い、栄養ケアの目的達成に向けた栄養アセスメントと栄養ケアについて学ぶ （必要な準備）教科書を予習しておくこと。（30分）
第4回	神経疾患の栄養アセスメント・ケアプランの方法について	（内 容）	脳出血・脳梗塞、認知症及びパーキンソン病などを理解し、治療方針に沿い、栄養ケアの目的達成に向けた栄養アセスメントと栄養ケアについて学ぶ （必要な準備）教科書を予習しておくこと。（30分）
第5回	摂食障害の栄養アセスメント・ケアプランの方法について	（内 容）	神経性食欲不振症・大食症などを理解し、治療方針に沿い、栄養ケアの目的達成に向けた栄養アセスメントと栄養ケアについて学ぶ （必要な準備）教科書を予習しておくこと。（30分）
第6回	呼吸器疾患の栄養アセスメント・ケアプランの方法について	（内 容）	慢性閉塞性肺疾患（COPD）、気管支喘息や肺炎などを理解し、治療方針に沿い、栄養ケアの目的達成に向けた栄養アセスメントと栄養ケアについて学ぶ （必要な準備）教科書を予習しておくこと。（30分）
第7回	血液系疾患の栄養アセスメント・ケアプランの方法について	（内 容）	鉄欠乏性貧血、巨赤芽球性貧血、白血病などを理解し、治療方針に沿い、栄養ケアの目的達成に向けた栄養アセスメントと栄養ケアについて学ぶ （必要な準備）教科書を予習しておくこと。（30分）
第8回	筋・骨格疾患の栄養アセスメント・ケアプランの方法について	（内 容）	骨粗鬆症、骨軟化症、くる病、サルコペニア、変形性関節症、フレイルなどを理解し治療方針に沿い、栄養ケアの目的達成に向けた栄養アセスメントと栄養ケアについて学ぶ （必要な準備）教科書を予習しておくこと。（30分）
第9回	免疫・アレルギー疾患の栄養アセスメント・ケアプランの方法について	（内 容）	食物アレルギー、膠原病、自己免疫疾患、免疫不全などを理解し、治療方針に沿い、栄養ケアの目的達成に向けた栄養アセスメントと栄養ケアについて学ぶ （必要な準備）教科書を予習しておくこと。（30分）
第10回	感染症、悪性腫瘍における栄養アセスメントの方法について	（内 容）	病原微生物、院内感染症、悪性腫瘍（消化管及び消化管以外）などを理解し、治療方針に沿い、栄養ケアの目的達成に向けた栄養アセスメントと栄養ケアについて学ぶ （必要な準備）教科書を予習しておくこと。（30分）
第11回	手術、周術期及び、外傷、熱傷などにおける栄養アセスメントの方法について	（内 容）	消化管の手術前・手術後や消化管以外の手術前・後及び外傷、熱傷時の集中治療時などを理解し、治療方針に沿い、栄養ケアの目的達成に向けた栄養アセスメントと栄養ケアについて学ぶ （必要な準備）教科書を予習しておくこと。（30分）
第12回	摂食機能障害の栄養アセスメント・ケアプランの方法について	（内 容）	咀嚼・嚥下機能障害、消化管通過障害、口腔・食道障害などを理解し、治療方針に沿い、栄養ケアの目的達成に向けた栄養アセスメントと栄養ケアについて学ぶ （必要な準備）教科書を予習しておくこと。（30分）
第13回	乳幼児・小児の疾患の栄養アセスメント・ケアプランの方法について	（内 容）	消化不良、小児肥満、先天性代謝異常、小児糖尿病、小児腎臓病などを理解し、治療方針に沿い、栄養ケアの目的達成に向けた栄養アセスメントと栄養ケアについて学ぶ （必要な準備）教科書を予習しておくこと。（30分）
第14回	妊産婦・授乳婦の疾患の栄養アセスメント・ケアプランの方法について	（内 容）	妊産婦・授乳婦の疾患を理解し、治療方針に沿い、栄養ケアの目的達成に向けた栄養アセスメントと栄養ケアについて学ぶ （必要な準備）教科書を予習しておくこと。（30分）
第15回	身体・知的障害及び老年症候群の栄養アセスメント・ケアプランの方法について	（内 容）	身体障害、知的障害、精神障害や老年期における症候群についてを理解し治療方針に沿い、栄養ケアの目的達成に向けた栄養アセスメントと栄養ケアについて学ぶ （必要な準備）教科書を予習しておくこと。（30分）

授 業 名	臨床栄養学実習 a・b			開 講 学 年	2回生	単 位 数	1単位	
英 文 名	Practical training for Clinical Nutrition			開 講 時 期	秋学期	必修・選択	選択	
担 当 者	富安 広幸			対 象 学 生	食物栄養2回生			
授業の概要	栄養ケア・マネジメントのうち、治療食の提供による栄養補給法についての実習を行う。傷病者の病態や栄養状態の特徴に基づいて、適切な栄養管理を行うために必要な献立作成を含めた栄養ケアプランを作成し、治療食の調理を行う。							
学 習 成 果 達 成 目 標	1) 対象者にあわせた栄養ケアプランが立てられる。 2) 病態や栄養状態に応じた献立の作成と調理ができる。							
評 価 方 法	定期試験 (70 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (30 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 (コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力	課題発見・解決能力)		
テ キ ス ト	実践臨床栄養学実習 -栄養食事療法と献立の展開- 長浜幸子、西村一弘、宮本佳世子編 第一出版							
参 考 書	日本食品標準成分表(文部科学省) 糖尿病食事療法のための食品交換表 第7版 日本糖尿病学会 編 文光堂 腎臓病食品交換表第9版 治療食の基準 黒川清監修 医歯薬出版							
留 意 事 項	臨床栄養学の学習内容を理解しておくこと。							
オ フ ィ ス ア ワ ー	研究室に日時を貼付しますので、確認してください。							

授 業 名		臨床栄養学実習 a・b	
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題	
第1回	病院食と管理栄養士	(内 容) 病院食と管理栄養士 (必要な準備) 事前にテキストを読んでおくこと。	
第2回	病院での栄養部門の組織と業務	(内 容) 病院での栄養部門の組織と業務 (必要な準備) 事前にテキストを読んでおくこと。	
第3回	病院食の種類と献立作成	(内 容) 病院食の種類と献立作成 (必要な準備) 事前にテキストを読んでおくこと。	
第4回	高血圧症患者の食事計画(高血圧の栄養ケアプラン、献立を含む。)	(内 容) 高血圧症患者の食事計画(高血圧の栄養ケアプラン、献立を含む。) (必要な準備) 事前にテキストを読んでおくこと。	
第5回	高血圧症食の実習	(内 容) 高血圧症食の実習 (必要な準備) 事前にテキストを読んでおくこと。	
第6回	糖尿病患者の食事計画(糖尿病の栄養ケアプラン、献立を含む。)	(内 容) 糖尿病患者の食事計画(糖尿病の栄養ケアプラン、献立を含む。) (必要な準備) 事前にテキストを読んでおくこと。	
第7回	糖尿病食の実習	(内 容) 糖尿病食の実習 (必要な準備) 事前にテキストを読んでおくこと。	
第8回	脂質異常症患者の食事計画(脂質異常症の栄養ケアプラン、献立を含む。)	(内 容) 脂質異常症患者の食事計画(脂質異常症の栄養ケアプラン、献立を含む。) (必要な準備) 事前にテキストを読んでおくこと。	
第9回	脂質異常症食の実習	(内 容) 脂質異常症食の実習 (必要な準備) 事前にテキストを読んでおくこと。	
第10回	腎臓疾患患者の食事計画(腎臓疾患の栄養ケアプラン、献立を含む。)	(内 容) 腎臓疾患患者の食事計画(腎臓疾患の栄養ケアプラン、献立を含む。) (必要な準備) 事前にテキストを読んでおくこと。	
第11回	腎臓疾患食の実習	(内 容) 腎臓疾患食の実習 (必要な準備) 事前にテキストを読んでおくこと。	
第12回	要介護者の食事計画(要介護者の栄養ケアプラン、献立を含む。)	(内 容) 要介護者の食事計画(要介護者の栄養ケアプラン、献立を含む。) (必要な準備) 事前にテキストを読んでおくこと。	
第13回	介護食の実習	(内 容) 介護食の実習 (必要な準備) 事前にテキストを読んでおくこと。	
第14回	小児(食物アレルギー)の食事計画(アレルギー疾患の栄養ケアプラン、献立を含む。)	(内 容) 小児(食物アレルギー)の食事計画(アレルギー疾患の栄養ケアプラン、献立を含む。) (必要な準備) 事前にテキストを読んでおくこと。	
第15回	小児(食物アレルギー)食の実習	(内 容) 小児(食物アレルギー)食の実習 (必要な準備) 事前にテキストを読んでおくこと。	

授 業 名	給食経営管理論 a・b			開 講 学 年	2回生	単 位 数	2単位	
英 文 名	Food Service Management			開 講 時 期	春学期	必修・選択	選択	
担 当 者	富安 広幸			対 象 学 生	食物栄養2回生			
授業の概要	給食の運営に必要な給食実務（栄養・食事管理、組織・人事管理、会計・原価管理、施設設備管理、食材の流通・生産管理など）の基礎知識を修得し、効率的、かつ効果的な継続実施のためのシステム構築について理解する。さらに、給食経営の資源（食品流通や食品開発の状況、給食にかかわる組織や経費等）とあわせて総合的に判断し、栄養面、安全面、経済面全般のマネジメントを行う能力を養う。また、マーケティングの原理を理解し、給食におけるマーケティングの意義や目的、その機能について学ぶ。							
学習成果到達目標	1) 給食の意義を理解できる。 2) 給食経営管理を総合的にマネジメントできる力を修得している。 3) マーケティングの原理を理解し、組織経営などのマネジメントの基本的な方法を修得している。							
評価方法	定期試験 (100 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評価基準	主たる評価の 観点	知識・理解 (思考・判断力	コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力	課題発見・解決能力)		
テキスト	カレント給食経営管理論(第2版) 宮澤節子・松井元子 編著 建帛社							
参考書								
留意事項	専門用語について充分理解しておくこと。							
オフィス アワー	研究室に日時を貼付しますので、確認してください。							

授 業 名		給食経営管理論 a・b
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題
第1回	オリエンテーション	(内 容) オリエンテーション (必要な準備) テキストの関連箇所を読んでおくこと。
第2回	給食の概念 (給食の概要)	(内 容) 給食の概念 (給食の概要) (必要な準備) テキストの関連箇所を読んでおくこと。
第3回	給食の概念 (給食システム)	(内 容) 給食の概念 (給食システム) (必要な準備) テキストの関連箇所を読んでおくこと。
第4回	給食の概念 (給食を提供する施設と関係法規)	(内 容) 給食の概念 (給食を提供する施設と関係法規) (必要な準備) テキストの関連箇所を読んでおくこと。
第5回	給食経営管理の概念 (給食経営管理の概要)	(内 容) 給食経営管理の概念 (給食経営管理の概要) (必要な準備) テキストの関連箇所を読んでおくこと。
第6回	給食経営管理の概念 (マーケティングの原理)	(内 容) 給食経営管理の概念 (マーケティングの原理) (必要な準備) テキストの関連箇所を読んでおくこと。
第7回	給食経営管理の概念 (給食とマーケティング)	(内 容) 給食経営管理の概念 (給食とマーケティング) (必要な準備) テキストの関連箇所を読んでおくこと。
第8回	給食経営管理の概念 (給食経営と組織)	(内 容) 給食経営管理の概念 (給食経営と組織) (必要な準備) テキストの関連箇所を読んでおくこと。
第9回	給食の生産(調理) (原価管理、食材管理)	(内 容) 給食の生産(調理) (原価管理、食材管理) (必要な準備) テキストの関連箇所を読んでおくこと。
第10回	給食の生産(調理) (生産と提供)	(内 容) 給食の生産(調理) (生産と提供) (必要な準備) テキストの関連箇所を読んでおくこと。
第11回	給食の安全・衛生 (安全・衛生管理の概要と実際)	(内 容) 給食の安全・衛生 (安全・衛生管理の概要と実際) (必要な準備) テキストの関連箇所を読んでおくこと。
第12回	給食の安全・衛生 (事故・災害時対策)	(内 容) 給食の安全・衛生 (事故・災害時対策) (必要な準備) テキストの関連箇所を読んでおくこと。
第13回	給食の施設・設備 (生産施設・設備計画)	(内 容) 給食の施設・設備 (生産施設・設備計画) (必要な準備) テキストの関連箇所を読んでおくこと。
第14回	給食の施設・設備 (食事環境の設計と設備)	(内 容) 給食の施設・設備 (食事環境の設計と設備) (必要な準備) テキストの関連箇所を読んでおくこと。
第15回	給食の人事・事務	(内 容) 給食の人事・事務 (必要な準備) テキストの関連箇所を読んでおくこと。

授業名	給食経営管理論 a・b			開講学年	2回生	単位数	2単位	
英文名	Food Service Management			開講時期	秋学期	必修・選択	選択	
担当者	富安 広幸			対象学生	食物栄養2回生			
授業の概要	給食経営管理論では、P D C Aサイクルに基づいたマネジメントを理解し、品質を管理された給食の経営管理の基本的な考え方や方法について学ぶ。さらに、大量調理の特性、生産工程管理、会計・財務管理、危機管理、情報管理、顧客管理についても給食経営管理論で得た知識を基に、各種特定給食施設ごとの給食経営管理の実際を理解することで、対象者や社会環境に応じた給食のマネジメントが実習で実施できる能力を養う。							
学習成果到達目標	1) 各種給食施設における特徴を理解しマネジメントできる力を修得している。 2) 対象とする人や集団に応じた健康・栄養政策や制度を理解し活用できる力を修得している。							
評価方法	定期試験 (100 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評価基準	主たる評価の 観点	知識・理解 (思考・判断力	コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力	課題発見・解決能力			
テキスト	カレント給食経営管理論(第2版) 宮澤節子・松井元子 編著 建帛社							
参考書								
留意事項	専門用語について充分理解しておくこと。							
オフィス アワー	研究室に日時を貼付しますので、確認してください。							

授 業 名		給食経営管理論 a・b	
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題	
第1回	オリエンテーション（給食経営管理論 の復習）	（内 容）オリエンテーション（給食経営管理論 の復習） （必要な準備）テキストの関連箇所を読んでおくこと。	
第2回	栄養・食事管理（栄養・食事管理の概要・意義・目的）	（内 容）栄養・食事管理（栄養・食事管理の概要・意義・目的） （必要な準備）テキストの関連箇所を読んでおくこと。	
第3回	栄養・食事管理（栄養・食事のアセスメント）	（内 容）栄養・食事管理（栄養・食事のアセスメント） （必要な準備）テキストの関連箇所を読んでおくこと。	
第4回	栄養・食事管理（栄養・食事の計画）	（内 容）栄養・食事管理（栄養・食事の計画） （必要な準備）テキストの関連箇所を読んでおくこと。	
第5回	栄養・食事管理（栄養・食事計画の実施、評価、改善）	（内 容）栄養・食事管理（栄養・食事計画の実施、評価、改善） （必要な準備）テキストの関連箇所を読んでおくこと。	
第6回	給食の品質	（内 容）給食の品質 （必要な準備）テキストの関連箇所を読んでおくこと。	
第7回	給食施設別経営管理（病院給食）	（内 容）給食施設別経営管理（病院給食） （必要な準備）テキストの関連箇所を読んでおくこと。	
第8回	給食施設別経営管理（高齢者・介護福祉施設給食）	（内 容）給食施設別経営管理（高齢者・介護福祉施設給食） （必要な準備）テキストの関連箇所を読んでおくこと。	
第9回	給食施設別経営管理（児童福祉施設給食）	（内 容）給食施設別経営管理（児童福祉施設給食） （必要な準備）テキストの関連箇所を読んでおくこと。	
第10回	給食施設別経営管理（障害者福祉施設給食）	（内 容）給食施設別経営管理（障害者福祉施設給食） （必要な準備）テキストの関連箇所を読んでおくこと。	
第11回	給食施設別経営管理（学校・幼稚園給食）	（内 容）給食施設別経営管理（学校・幼稚園給食） （必要な準備）テキストの関連箇所を読んでおくこと。	
第12回	給食施設別経営管理（事業所給食）	（内 容）給食施設別経営管理（事業所給食） （必要な準備）テキストの関連箇所を読んでおくこと。	
第13回	給食施設別経営管理（自衛隊給食・矯正施設給食）	（内 容）給食施設別経営管理（自衛隊給食・矯正施設給食） （必要な準備）テキストの関連箇所を読んでおくこと。	
第14回	給食施設別経営管理（院外給食・配食サービス・その他）	（内 容）給食施設別経営管理（院外給食・配食サービス・その他） （必要な準備）テキストの関連箇所を読んでおくこと。	
第15回	健康増進法における特定給食施設の経営	（内 容）健康増進法における特定給食施設の経営 （必要な準備）テキストの関連箇所を読んでおくこと。	

授業名	音楽 ua・ub・uc・ud・ue			開講学年	1回生	単位数	2単位	
英文名	Music			開講時期	春学期	必修・選択	選択	
担当者	山中 信子・阿久津 啓・服部 さやか			対象学生	現代家政1回生			
授業の概要	保育士および幼稚園・小学校教諭に求められる音楽の基礎力をつけるため、以下の内容で授業を進める。 1. 子どもの歌の歌唱 2. ピアノ教則本レッスンおよび子どもの歌の弾き歌い 3. 基礎的な音楽理論の説明							
学習成果到達目標	1) 子どもの歌の基本的な歌唱法やピアノ奏法の技術を習得することができる。 2) 弾き歌いに慣れることができる 3) 音楽の基礎的知識を習得することができる。							
評価方法	定期試験 (70 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (30 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評価基準	主たる評価の 観点	知識・理解 (実技)	コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力 ()		課題発見・解決能力 ()		
テキスト	『バイエルピアノ教則本』（音楽之友社）他、『子どものうた』（京都華頂大学・華頂短期大学音楽研究室編）、							
参考書	使用しない。							
留意事項	授業に出席するだけでなく、毎日のピアノ練習が必須。保育士・幼稚園・小学校免許取得希望者は必ず受講すること。レベルに合わせてクラス分けを行う。							
オフィスアワー	研究室に日時を貼付するので、確認してください。							

授 業 名	音楽 ua・ub・uc・ud・ue	
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題
第1回	オリエンテーション	(内 容) ピアノのレベルチェック、進度確認。 (必要な準備) ピアノ練習(1日30分以上)
第2回	歌唱・ピアノレッスン・音楽理論「音階・音名」	(内 容) 子どもの歌の歌唱 ピアノレッスン 音楽理論(音階・音名の説明) (必要な準備) ピアノ練習(1日30分以上)、歌唱復習
第3回	歌唱・ピアノレッスン・音楽理論「ト音記号」	(内 容) (子どもの歌の歌唱) (ピアノレッスン) (ト音記号の説明) (必要な準備) ピアノ練習(1日30分以上)、歌唱復習、音楽理論の復習(15分)
第4回	歌唱・ピアノレッスン・音楽理論「リズム」	(内 容) および 4・8・16分音符の説明 (必要な準備) ピアノ練習(1日30分以上)、歌唱復習、音楽理論の復習(15分)
第5回	歌唱・ピアノレッスン・音楽理論「調性」	(内 容) および 主要な調性の説明、実践 (必要な準備) ピアノ練習(1日30分以上)、歌唱復習、音楽理論の復習(15分)
第6回	歌唱・ピアノレッスン・音楽理論「八長調とそのカデンツ」	(内 容) および 八長調の音階とそのカデンツの説明、実践 (必要な準備) ピアノ練習(1日30分以上)、歌唱復習、音楽理論の復習(15分)
第7回	歌唱・ピアノレッスン・音楽理論「へ長調とそのカデンツ」	(内 容) および へ長調の音階とそのカデンツの説明、実践 (必要な準備) ピアノ練習(1日30分以上)、歌唱復習、音楽理論の復習(15分)
第8回	歌唱・ピアノレッスン・音楽理論「ト長調とそのカデンツ」	(内 容) および ト長調の音階とそのカデンツの説明、実践 (必要な準備) ピアノ練習(1日30分以上)、歌唱復習、音楽理論の復習(15分)
第9回	歌唱・ピアノレッスン・音楽理論「二長調とそのカデンツ」	(内 容) および 二長調の音階とそのカデンツの説明、実践 (必要な準備) ピアノ練習(1日30分以上)、歌唱復習、音楽理論の復習(15分)
第10回	歌唱・ピアノレッスン・平行調・リズム打ち練習	(内 容) 、平行調の説明および単純な音符でのリズム打ち練習 (必要な準備) ピアノ練習(1日30分以上)、歌唱復習、音楽理論の復習(15分)
第11回	歌唱・ピアノレッスン・リズム打ち練習小試験	(内 容) およびリズム打ち小試験 (必要な準備) ピアノ練習(1日30分以上)、リズム打ちの復習・練習(15分)
第12回	歌唱・ピアノレッスン・音楽理論「コードネーム(基本形)」	(内 容) およびコードネーム(基本形)の説明 (必要な準備) ピアノ練習(1日30分以上)
第13回	歌唱・ピアノレッスン・音楽理論「コードネーム(転回形)」	(内 容) およびコードネーム(転回形)の説明 (必要な準備) ピアノ練習(1日30分以上)、音楽理論の復習(15分)
第14回	歌唱総復習、歌唱小試験	(内 容) 歌唱の総復習、小試験の実施 (必要な準備) ピアノ練習(1日30分以上)、2回目～13回目までの歌唱復習(30分)
第15回	ピアノ総復習、ピアノ小試験	(内 容) ピアノ実技の総復習、小試験の実施 (必要な準備) ピアノ練習(1日30分以上)

授業名	音楽 ua・ub・uc・ud・ue			開講学年	1回生	単位数	2単位	
英文名	Music			開講時期	秋学期	必修・選択	選択	
担当者	山中 信子・千田 浩美・服部 さやか			対象学生	現代家政1回生			
授業の概要	保育士および幼稚園・小学校教諭に求められる音楽の基礎力をつけるため、音楽 に引き続き以下の内容で授業を進める。 1. 子どもの歌の歌唱 2. ピアノ教則本レッスンおよび子どもの歌の弾き歌い 3. 基礎的な音楽理論の説明							
学習成果到達目標	1) 基本的な発声法を身につける 2) ピアノ教則本は最低でもバイエルを終了をすることができる。 3) 音楽理論を通して音楽の基礎的な知識を習得することができる。							
評価方法	定期試験 (70 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (30 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評価基準	主たる評価の 観点	知識・理解 (実技)	コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力 ()		課題発見・解決能力 ()		
テキスト	『バイエルピアノ教則本』（音楽之友社）他、『子どものうた』（京都華頂大学・華頂短期大学音楽研究室編）							
参考書	使用しない。							
留意事項	授業に出席するだけでなく、毎日のピアノ練習が必須。保育士・幼稚園・小学校免許取得希望者は必ず受講すること。 レベルに合わせてクラス分けを行う。							
オフィス アワー	研究室に日時を貼付するので、確認してください。							

授 業 名	音楽 ua・ub・uc・ud・ue	
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題
第1回	歌唱・ピアノレッスン・コードネーム復習	(内 容) 子どもの歌の歌唱 ピアノレッスン 音楽理論(コードネームの復習) (必要な準備) ピアノ練習(1日30分以上)、コードネーム復習(15分)
第2回	歌唱・ピアノレッスン・ハ・ヘ長調の伴奏付け(基礎)	(内 容) および 伴奏付け(ハ・ヘ長調) (必要な準備) 歌唱復習、ピアノ練習(1日30分以上)
第3回	歌唱・ピアノレッスン・ト長調の伴奏付け(基礎)	(内 容) および 伴奏付け(ト長調) (必要な準備) ピアノ練習、ハ・ヘ長調の伴奏付けの復習(1日30分以上)
第4回	歌唱・ピアノレッスン・ニ長調の伴奏付け(基礎)	(内 容) および 伴奏付け(ニ長調) (必要な準備) ピアノ練習、ト長調の伴奏付けの復習(1日30分以上)
第5回	伴奏付け総復習(基本)歌唱・ピアノレッスン	(内 容) および 伴奏付けの総復習(基本) (必要な準備) ピアノ練習、ニ長調の伴奏付けの復習(1日30分以上)
第6回	歌唱・ピアノレッスン・ハ長調の視唱	(内 容) および ハ長調の視唱練習 (必要な準備) ピアノ練習、伴奏付けの総復習(1日30分以上)
第7回	歌唱・ピアノレッスン・ヘ長調の視唱	(内 容) および ヘ長調の視唱練習 (必要な準備) ピアノ練習、ハ長調の視唱復習(1日30分以上)
第8回	歌唱・ピアノレッスン・ト長調の視唱	(内 容) および ト長調の視唱練習 (必要な準備) 歌唱復習、ピアノ練習、ヘ長調の視唱復習(1日30分以上)
第9回	歌唱・ピアノレッスン・ニ長調の視唱	(内 容) および ニ長調の視唱練習 (必要な準備) ピアノ練習、ト長調の視唱復習(1日30分以上)
第10回	歌唱・ピアノレッスン・視唱小試験	(内 容) および視唱の小試験(ハ・ヘ・ト・ニ長調) (必要な準備) ピアノ練習、ニ長調の視唱復習(1日30分以上)
第11回	歌唱・ピアノレッスン・リズム打ち(付点リズム)	(内 容) および付点リズム打ちの練習 (必要な準備) ピアノ練習、視唱の総復習(1日30分以上)
第12回	歌唱・ピアノレッスン・リズム打ち(シンコペーション)	(内 容) およびシンコペーションリズム打ちの練習 (必要な準備) ピアノ練習、付点リズム打ちの復習(1日30分以上)
第13回	歌唱・ピアノ総復習	(内 容) 秋学期で学んだ曲(歌唱・ピアノ両方)の総復習 (必要な準備) 歌唱・ピアノ練習(1日30分以上)
第14回	歌唱総復習・歌唱小試験	(内 容) 歌唱の総復習および小試験の実施 (必要な準備) ピアノ練習、1回目～13回目までの歌唱復習(1日30分以上)
第15回	ピアノ総復習・ピアノ小試験	(内 容) ピアノ実技の復習および小試験の実施 (必要な準備) ピアノ小試験に向けた練習(1日30分以上)

授業名	図画工作 u a ・ u b			開講学年	1回生	単位数	2単位	
英文名	Arts and Crafts			開講時期	春学期	必修・選択	選択	
担当者	平尾 隆史			対象学生	現代家政1回生			
授業の概要	絵を描いたり、ものをつくったりすることは子どもの発達にとって大切な活動である。この授業では子どもの造形表現を指導・支援するための基礎的な技能や知識について学ぶ。制作を楽しみながら、自分の中にある柔軟な発想や感性、造形力に気付くことのできる授業にしたい。							
学習成果到達目標	1) 様々な表現方法を自らの体験を通して学び、その表現方法から柔軟な発想で作品をつくることできる。 2) 作品や試みた表現方法について考察し、その記録を美しく分かりやすくまとめることできる。 3) 制作した作品のプレゼンテーションを3分間行うことできる。							
評価方法	定期試験 (60 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評価基準	主たる評価の 観点	知識・理解 (技術・技法	コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力	課題発見・解決能力)		
テキスト	新造形表現・実技編 花篤 實・岡田 敬吾 (三晃書房) 平成25年3月1日発行							
参考書	使用しない。							
留意事項	制作活動に適した服装・持ち物等に留意すること。授業には筆記用具を持参すること。							
オフィス アワー	担当授業終了後に実施する							

授 業 名		図画工作 u a ・ u b	
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題	
第1回	ガイダンス	(内 容) 授業の概要説明、受講のための諸注意 (必要な準備) テキストの全体に目を通しておく	
第2回	水彩絵の具による表現 にじみ・ドリップング	(内 容) 水彩絵の具の使い方や技法(にじみ絵など) (必要な準備) テキストP.18～.19を読んでおく	
第3回	水彩絵の具による表現 デカルコマニー	(内 容) 水彩絵の具の技法(デカルコマニーなど) (必要な準備) テキストP.22などを読んでおく	
第4回	水彩絵の具による表現・作品のまとめ	(内 容) 制作した作品をスケッチブックにまとめる (必要な準備) 学習した技法について調べておく	
第5回	パスによる表現 スクラッチ	(内 容) パスによる技法(スクラッチなど) (必要な準備) テキストP.25などを読んでおく	
第6回	パスによる表現・作品のまとめ	(内 容) 制作した作品をスケッチブックにまとめる (必要な準備) 学習した技法について調べておく	
第7回	版による表現 紙版画	(内 容) 紙版画の制作 (必要な準備) 自分の作品のアイデアを考えておく	
第8回	版による表現・作品のまとめ	(内 容) 版画の学習についてまとめる (必要な準備) テキストP.61などを読んでおく	
第9回	動くおもちゃ制作の導入	(内 容) 子どものための造形活動と課題の説明 (必要な準備) 配布プリントを読む	
第10回	動くおもちゃ制作 シャクとりむし・紙プロペラ	(内 容) 感性と創造性を育てる活動を計画する (必要な準備) 動く仕組みを理解しておく	
第11回	動くおもちゃ制作 クルクルロケット・折紙だこ	(内 容) 折紙による創作について (必要な準備) 凧が飛ぶための条件を考えておく	
第12回	動くおもちゃ制作 風車鳥	(内 容) 鳥の動きから発想する (必要な準備) 鳥が飛ぶ様子を観察する 動く仕組みを理解しておく	
第13回	動くおもちゃ制作 平行ジョイント	(内 容) リンクの動きから発想する (必要な準備) 動く仕組みを理解しておく	
第14回	動くおもちゃ制作と鑑賞 平行ジョイント	(内 容) 作品を完成する 鑑賞をする (必要な準備) プレゼン内容を考えておく	
第15回	まとめ・プレゼンテーション	(内 容) 授業全体の振り返り 作品返却 (必要な準備) テキストのP.163～P.168などを読んでおく	

授業名	図画工作 ua・ub			開講学年	1回生	単位数	2単位	
英文名	Arts and Crafts			開講時期	秋学期	必修・選択	選択	
担当者	平尾 隆史			対象学生	現代家政1回生			
授業の概要	この授業では、図画工作の意義について理解し、感性と創造性を育てる造形表現を学ぶ。又、子どもの生活環境や経験、発達に応じた素材や課題の選択、意欲をひき出す動機付けや声かけ、用具の扱い方や環境の整備などについての理解を深め、自ら指導計画を立てるための土台となる力を養う。							
学習成果到達目標	1) 子どもの表現に関心を持ち理解しようとする態度とさまざまな方法で自ら表現する力を学習する。 2) 子どもの造形表現から、子どもの伝えたいことを理解できる感性を養う。 3) 制作した作品のプレゼンテーションを5分間行うことができる。							
評価方法	定期試験 (60 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評価基準	主たる評価の 観点	知識・理解 (技術・技法)	コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力 ()	課題発見・解決能力 ()			
テキスト	花篤實・岡田敬吾編『新造形表現 実技編』(三晃書房)(1回生春学期購入のもの)平成25年3月1日発行							
参考書	使用しない。							
留意事項	制作活動に適した服装・持ち物等に留意すること。授業には筆記用具を持参すること。							
オフィス アワー	担当授業終了後に実施する							

授 業 名		図画工作 u a ・ u b	
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題	
第1回	秋学期ガイダンス	(内 容) 子どものための造形活動と課題の説明 (必要な準備) さまざまな技法を復習しておく	
第2回	ドリームカー制作 車体制作	(内 容) ゴム動力で走る車の車体と車輪制作 (必要な準備) アイデアを考えておく	
第3回	ドリームカー制作 動力部制作	(内 容) ゴム動力で走る車の制作(仕組み) (必要な準備) 遠くまで走る工夫を考えておく	
第4回	ドリームカー制作 外装部制作	(内 容) ゴム動力で走る車の制作(外装デザイン) (必要な準備)	
第5回	ドリームカー制作 外装部制作	(内 容) ゴム動力で走る車の制作(外装デザイン) (必要な準備) 前回の内容を完成させておく	
第6回	ドリームカー競技会・鑑賞会	(内 容) ドリームカー競技会・鑑賞会の企画運営をする (必要な準備) プレゼンテーションの内容を考えておく	
第7回	身近な作品の鑑賞 ～そぞろ歩きながら鑑賞～	(内 容) 漫ろ歩きながら身のまわりを観察し、暮らしの中で出会ういろいろな場면을造形的にとらえ直す (必要な準備) デジタルカメラなど	
第8回	身近な作品の鑑賞 ～そぞろ歩きながら鑑賞～	(内 容) そぞろみポイントをまとめ、プレゼンテーションをする (必要な準備) プレゼンテーション内容を準備しておく	
第9回	木の葉で絵を描く	(内 容) さまざまな木の葉を工夫して組み合わせて絵を描く (必要な準備) さまざまな紅葉した木の葉を準備しておく	
第10回	自然材を使って制作 ～森からの贈りもの～	(内 容) 自然材(木の葉・枝・木の実など)から森の生き物たちを制作 (必要な準備) 木の葉・枝・木の実などを準備しておく	
第11回	自然材を使って制作・鑑賞会 ～森からの贈りもの～	(内 容) 作品を野外の気に入った場所に置き鑑賞会をする (必要な準備) 自らの取り組みについて考えておく	
第12回	木工作 ガリガリプロペラ制作	(内 容) 木の材料を使って制作 (必要な準備) 自分の作品のアイデアを考えておく	
第13回	ガリガリプロペラ制作	(内 容) 木の材料を使って制作・デザイン (必要な準備) 前回の内容を完成させておく	
第14回	作品のまとめ	(内 容) 制作した作品の鑑賞会をする (必要な準備) アピール文を考えておく	
第15回	まとめ・プレゼンテーション	(内 容) 授業全体の振り返りをする (必要な準備) 自らの活動について考えておく	

授 業 名	算数教育			開 講 学 年	2回生	単 位 数	2単位	
英 文 名	Elementary School Mathematics			開 講 時 期	春学期	必修・選択	選択	
担 当 者	重松 敬一			対 象 学 生	現代家政2回生			
授業の概要	算数指導において、関心・意欲・態度の目標をどう設定するか。数学的な考え方の目標をどう設定するかを中心として授業を進める。学習指導案を作る前段階となる目標分析について身につける。学習指導要領について数学的及び社会的な視点で考察し、算数科教育の意義を理解することを教授する。子どもを指導するときに、知識・理解にかかわる目標を教科書からとらえることができるような技術と表現について教授する。講義形式を中心に授業する。							
学 習 成 果 達 成 目 標	1) 算数教育において、関心・意欲・態度や数学的な考え方の目標設定を理解し、学習指導案作成での算数の内容を理解する。 2) 数学的及び社会的な視点で算数の内容を考察し、算数科教育の意義を理解する。							
評 価 方 法	定期試験 (60 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 (コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力	課題発見・解決能力)		
テ キ ス ト	文部科学省「小学校学指導要領解説算数編」(平成20年8月、東洋館出版、250円)、講義中にプリントなどを配布する							
参 考 書	数学教育研究会：『新訂 算数教育の理論と実際』、聖文新社、2014							
留 意 事 項								
オ フ ィ ス ア ワ ー	メールで対応します。							

授 業 名		算数教育	
授 業 計 画	学 習 項 目	学 習 内 容 ・ 課 題	
第1回	はじめに - 算数の教科内容の学習の現状	(内 容) 本講義の目標を理解し、学習計画を立てる (必要な準備)	
第2回	数学と算数の内容：数学の特徴	(内 容) 自分の学習経験と算数の内容や考え方を比較する (必要な準備) 自分の学習経験を振り返る	
第3回	数学のいくつかの側面と算数の内容	(内 容) 算数の内容での数学的考え方など特徴を知る (必要な準備) 数学の持つ特徴をあらかじめメモする	
第4回	歴史的な視点からの算数教育：戦前・戦後の算数の内容の特徴	(内 容) 今日の算数の内容を戦前・戦後の歴史的な視点から振り返る (必要な準備) あらかじめ配布するプリントを理解する	
第5回	現代的な課題からの算数教育(1)：自然数や整数に関する内容	(内 容) ものを数えることなどの算数の内容と考え方を理解する (必要な準備) あらかじめ配布するプリントを理解する	
第6回	現代的な課題からの算数教育(2)：自然数や整数に関する内容	(内 容) ものを数えることなどの算数の内容と考え方を理解する (必要な準備) あらかじめ配布するプリントを理解する	
第7回	現代的な課題からの算数教育(3)：整数の計算に関する内容	(内 容) 整数の計算に関する算数の内容と考え方を理解する (必要な準備) あらかじめ配布するプリントを理解する	
第8回	現代的な課題からの算数教育(4)：分数や小数とその計算に関する内容	(内 容) 分数や小数とその計算に関する算数の内容と考え方を理解する (必要な準備) あらかじめ配布するプリントを理解する	
第9回	現代的な課題からの算数教育(5)：自然数・整数・有理数に関するまとめ	(内 容) 数の持つ体系的な性質や考え方を理解する (必要な準備) あらかじめ配布するプリントを理解する	
第10回	現代的な課題からの算数教育(6)：量と測定に関する内容	(内 容) 長さや広さなどの算数の内容と考え方を理解する (必要な準備) あらかじめ配布するプリントを理解する	
第11回	現代的な課題からの算数教育(7)：図形に関する内容	(内 容) 図形に関する算数の内容と考え方を理解する (必要な準備) あらかじめ配布するプリントを理解する	
第12回	現代的な課題からの算数教育(8)：数量関係に関する内容	(内 容) グラフなどに関する算数の内容と考え方を理解する (必要な準備) あらかじめ配布するプリントを理解する	
第13回	算数の内容と日常や社会との関係：身近な生活	(内 容) 身近な生活への活用の視点から算数の内容と考え方を理解する (必要な準備) あらかじめ配布するプリントを理解する	
第14回	算数の内容と日常や社会との関係：社会的な視点から	(内 容) 社会での活用の視点から算数の内容と考え方を理解する (必要な準備) あらかじめ配布するプリントを理解する	
第15回	補足とまとめ	(内 容) 本講義の内容を振り返り算数の内容と考え方をまとめる (必要な準備) あらかじめ配布するプリントを理解する	

授業名	社会科教育			開講学年	2回生	単位数	2単位	
英文名	Elementary School Social Studies			開講時期	春学期	必修・選択	選択	
担当者	湯浅 俊郎			対象学生	現代家政2回生			
授業の概要	戦後誕生した社会科の歴史と意義について理解を深め、戦後の社会科学習指導要領の変遷や、社会科教材づくりの視点と方法、社会科授業案づくりなどを学ぶ。具体的には、教材づくりとして、基礎的なデータを用いた地域社会の捉え方など実践しながら、イメージ豊かに社会の現場をとらえ、社会科の授業のありかたについて考察していく。							
学習成果到達目標	1) 戦後社会科の歴史を理解したうえで、社会科教材づくりの視点と方法を踏まえて社会科授業案作りができる。 2) 民間社会科の理論と実践の成果を理解した上で、21世紀の社会科の展望と課題をとらえることができる。							
評価方法	定期試験 (60 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評価基準	主たる評価の 観点	知識・理解 (コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力	課題発見・解決能力)		
テキスト	前田賢次・荒井眞一編『学力と教育課程の創造 社会認識を育てる教育実践とその歩み』同時代社 2013年							
参考書	適宜、紹介する。							
留意事項	授業前にテキストの該当箇所を読んでおくこと							
オフィスアワー	毎週1回(休業期間中を除く。)オフィスアワーを設けます。 オフィスアワーに設定している時間帯であっても、会議や出張などで在室できない場合がありますので、予めご承知おきください。							

授 業 名		社会科教育	
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題	
第1回	ガイダンス 授業の概要と目標	(内 容) 授業の目的や、授業の進め方について説明する。 (必要な準備)	
第2回	社会科の歴史(1) 初期社会科と問題解決学習論	(内 容) 社会科とは、戦後教育改革と1947年版学習指導要領、社会科の本質と性格 (必要な準備) 第1章 戦後教育と社会科の歩み 1 社会科略史の講読(60分)	
第3回	社会科の歴史(2) 民間社会科の実践と系統学習論	(内 容) 1955年版から1977年版までの社会科学習指導要領、文部省社会科と民間社会科の違い、民間社会科の歴史・地理教育の実践 (必要な準備) 第1章戦後教育と社会科の歩み 2 社会科学力論の変遷の講読(60分)	
第4回	社会科の歴史(3) 社会科と生活科・総合学習の共存	(内 容) 1989年版学習指導要領以後の社会科、生活科・総合学習と社会科の総合性、現代的課題と社会科 (必要な準備) 第3章現代の社会科の学力を問う 3 生活科・総合学習と社会科の講読(60分)	
第5回	社会科の歴史(4) 現代の社会科の学力とシティズンシップ教育	(内 容) 2008年版学習指導要領と「生きる力」、シティズンシップ教育 (必要な準備) 第3章現代の社会科の学力を問う 1 今、問われる社会科の学力の講読(60分)	
第6回	教材づくりについて	(内 容) 教科書研究から教材づくりと教材化 (必要な準備) 第2章 2 中学校社会科の授業づくりと学力の講読(60分)	
第7回	地域学習について	(内 容) 地域に根ざす教材づくり (必要な準備) 自分の住んでいる地域の魅力を紹介するレジュメの作成(60分)	
第8回	産業学習について	(内 容) 産業学習と日本社会の産業構造 (必要な準備) 第2章 1 小学校社会科の授業づくりと学力の講読(60分)	
第9回	グローバル化と情報化社会の学習について	(内 容) グローバリゼーションが進展し、情報化社会となった時代における日本社会の位置 (必要な準備) 第2章 1 小学校社会科の授業づくりと学力の講読(60分)	
第10回	指導案づくりの実習(1)	(内 容) 各自で授業プランを作成して、相互に批評し合う (必要な準備) 授業プランの作成(60分)	
第11回	指導案づくりの実習(2)	(内 容) 各自で授業プランを作成して、相互に批評し合う (必要な準備) 授業プランの作成(60分)	
第12回	模擬授業(1)	(内 容) 担当者による指導案に基づく模擬授業を行い、相互に批評する (必要な準備) 学習指導案の作成(60分)	
第13回	模擬授業(2)	(内 容) 担当者による指導案に基づく模擬授業を行い、相互に批評する (必要な準備) 学習指導案の作成(60分)	
第14回	模擬授業(3)	(内 容) 担当者による指導案に基づく模擬授業を行い、相互に批評する (必要な準備) 学習指導案の作成(60分)	
第15回	まとめ	(内 容) グローバリゼーションが進展している現在における将来の社会科のありかたについて考えてみる。 (必要な準備) 第3章21世紀社会科の展望と課題の講読(60分)	

授業名	国語教育（書写を含む）			開講学年	2回生	単位数	2単位	
英文名	Elementary School Japanese and Calligraphy			開講時期	秋学期	必修・選択	選択	
担当者	遠藤 純			対象学生	現代家政2回生			
授業の概要	<p>小学校国語科の教科専門の力を育てることを目的に、国語科教育について学ぶ。言語と表現に関する問題について、教材研究を視野においた幅広い考察を行い、理解を深める。物語、詩歌、民話等、教材の構造と特徴、教材として扱う目的と留意点、読解の方法を学習する。教科書教材となることも多い絵本をも取り上げ、その特質についても補足する。基本的に講義形式で行うが、とりあげる題材により、具体的な授業の進め方は個人または共同でのワークや発表形式などを含む。</p>							
学習成果到達目標	<p>1) 国語科の授業内容および方法について理解する。 2) 現在の子どもの言語環境について理解を深める。 3) 物語や詩歌、民話、説明文など、それぞれの領域について教材研究の方法を理解し、実際の教科書教材を使って教材研究を行い、それぞれの教材の特徴について理解を深める。</p>							
評価方法	定期試験 (40 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (60 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評価基準	主たる評価の 観点	知識・理解 (コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力) (課題発見・解決能力)			
テキスト	適宜プリントを配布							
参考書	講義中に指示する							
留意事項								
オフィス アワー	授業の初回に連絡する。							

授 業 名	国語教育（書写を含む）	
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題
第1回	ガイダンス 授業の概要と目標	（内 容）当該科目の目的やねらい、授業の進め方についての説明 （必要な準備）
第2回	子どもの言語生活と国語力（１）	（内 容）現代の子どもが置かれている物語環境について知り、教材としての児童文学について学ぶ。 （必要な準備）教科書で習った児童文学作品を思い出しておく。
第3回	子どもの言語生活と国語力（２）	（内 容）児童文学が持つ教材性について考え、読解教材としての要件について学ぶ。 （必要な準備）教材としての児童文学に必要な要件は何か、考えておく。
第4回	読むことの内容（１） 絵本をよむ	（内 容）絵本とは何かについて学び、その特性を理解する。 （必要な準備）絵本の特徴について考えておく。
第5回	読むことの内容（２） 絵本をよむ	（内 容）視覚メディアとしての絵本の特性をふまえ、その教材性について考える。 （必要な準備）絵本を教材として活用する方法を考えておく。
第6回	読むことの内容（３） 絵本をよむ	（内 容）絵本の創作を行うことで、絵本の特徴をより把握する。 （必要な準備）絵本の特徴について復習しておく。
第7回	読むことの内容（４） 文学教材をよむ	（内 容）物語教材（リアリズム）について学び、その特性と教材性について学ぶ。 （必要な準備）リアリズムについて調べておく。
第8回	読むことの内容（５） 文学教材をよむ	（内 容）物語教材（ファンタジー）について学び、その特性と教材性について学ぶ。 （必要な準備）ファンタジーについて調べておく。
第9回	読むことの内容（６） 文学教材をよむ	（内 容）物語教材（ファンタジー）について学び、その特性と教材性について学ぶ。 （必要な準備）ファンタジー教材について調べておく。
第10回	読むことの内容（７） 古典教材をよむ	（内 容）古典教材を取り上げ、その特質について理解を深め、授業で取り上げる際の留意点について考える。 （必要な準備）教材として古典作品について調べておく。
第11回	読むことの内容（８） 説明文教材をよむ	（内 容）説明文教材を取り上げ、その特質について理解を深め、授業で取り上げる際の留意点について考える。 （必要な準備）現在活用されている説明文教材について調べておく。
第12回	書くことの内容 創作作文について	（内 容）書くことの内容の教材研究の内容と方法について考え、学ぶ。 （必要な準備）「書くこと」の内容について調べておく。
第13回	話す・聞くことの内容 話し方・聞き方のスキル	（内 容）話すこと・聞くことの教材研究の内容と方法について学ぶ。 （必要な準備）「話すこと・聞くこと」の内容について調べておく。
第14回	書写：書写の目的と内容	（内 容）「書写に関する指導」の教材研究の内容と方法について学ぶ。 （必要な準備）「書写」の概要について調べておく。
第15回	授業のまとめ	（内 容）授業のまとめを行い、国語科授業のありようについて自分なりの考えをまとめる。 （必要な準備）

授業名	家庭科教育			開講学年	3回生	単位数	2単位	
英文名	Elementary School Home Economics			開講時期	春学期	必修・選択	選択	
担当者	馬場 まみ			対象学生	現代家政3回生			
授業の概要	教科「家庭」の教育理念、教育目標、教育内容を理解する。学習指導要領で示された「家庭生活と家族」「日常の食事と調理の基礎」「快適な衣服と住まい」「身近な消費生活と環境」の4つの内容を基底に、家庭科を学ぶ意義を学ぶ。							
学習成果到達目標	1) 小学校で「家庭」を学ぶ意義を説明できる。 2) 児童に「家庭」を教授するための基礎的知識が身につく。							
評価方法	定期試験 (90 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (10 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評価基準	主たる評価の 観点	知識・理解 (思考力	コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力	課題発見・解決能力	()		
テキスト	『小学校学習指導要領解説 家庭編』文部科学省 東洋館出版							
参考書	随時紹介する。							
留意事項								
オフィスアワー	毎週1回(休業期間中を除く)設定します。ただし、会議や出張などで対応できない場合があります。							

授 業 名		家庭科教育
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題
第1回	科目ガイダンス	(内 容) 科目の概要と目的を理解する。 (必要な準備) シラバスを読み、テキストに目を通す。(20分)
第2回	家庭科教育の歴史1：戦後の家庭科	(内 容) 戦後の家庭科のについて知る。 (必要な準備) 配付資料を読む。(30分)
第3回	家庭科教育の歴史2：家庭科の変化	(内 容) 家庭科教育の変遷について理解する。 (必要な準備) 配付資料を読む。(30分)
第4回	家庭科教育の目的	(内 容) 家庭科教育の目的を理解する。 (必要な準備) テキストのP.8-9を読む。(30分)
第5回	教科の内容	(内 容) 家庭科で学ぶ内容を理解する。 (必要な準備) テキストのP.14-16を読む。(30分)
第6回	家庭生活と家族	(内 容) 現代の家庭生活について理解する。 (必要な準備) テキストのP.17-24を読む。(30分)
第7回	日常の食事と調理の基礎	(内 容) 食事の役割と栄養素の働きについて理解する。(30分) (必要な準備) テキストのP.25-36を読む。(30分)
第8回	快適な衣服1 衣服の機能	(内 容) 衣服の機能について (必要な準備) 配付資料を読む。(30分)
第9回	快適な衣服2 衣服の材料	(内 容) 衣服の材料と特徴を知る (必要な準備) 配付資料を読む。(30分)
第10回	快適な衣服3 衣服のサイズ表示	(内 容) サイズ表示の規定を理解する。 (必要な準備) 配付資料を読む。(30分)
第11回	快適な衣服4 衣服の洗濯と管理	(内 容) 取り扱い絵表示と洗濯方法を理解する。 (必要な準備) 配付資料を読む。(30分)
第12回	住生活の基礎	(内 容) 住生活の基本知識を得る。 (必要な準備) テキストのP.41-43を読む。(30分)
第13回	消費生活の基礎	(内 容) 消費生活に関する基礎知識を得る。 (必要な準備) テキストのP.49-53を読む。(30分)
第14回	現代社会の身近な課題を探究する	(内 容) 身の回りの現象から課題をみつけ、問題点を考察する。 (必要な準備) テキストのP.54-62を読む。(30分)
第15回	総括	(内 容) 家庭科を教育するために必要な知識をまとめる。 (必要な準備) これまでの内容を整理する。(30分)

授業名	理科教育			開講学年	3年生	単位数	2単位	
英文名	Elementary School Science			開講時期	秋学期	必修・選択	選択	
担当者	山本 明美			対象学生	現代家政3年生			
授業の概要	講義形式の授業を通して、小学校理科の内容の背景になっている4領域（物理・化学・生物・地学）について、指導に必要な基礎的概念・知識を教授し、自然科学現象に対する理解の深化を図ると共に、指導者としての資質の向上を図る。実験・観察に必要な基本的知識を教授し、効果的な実験技術・方法について具体例を挙げながら教授する。また、自然の中の科学的な事象について観察・分析し、アクティブラーニング形式でも行う。							
学習成果到達目標	1) 自然の事物・現象についての実感を伴った理解ができる。 2) 見通しをもって観察・考察し、科学的な言葉や概念で表現できる。 3) 小学校理科の基本が理解でき、実際の指導が可能となる。							
評価方法	定期試験 (70 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (30 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評価基準	主たる評価の 観点	知識・理解 (コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力) (課題発見・解決能力)			
テキスト	わくわく理科6、石浦 他 著、啓林館							
参考書	使用しない。							
留意事項	毎回の復習、予習は必要である。							
オフィス アワー	初回の授業で連絡します。							

授 業 名		理科教育
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題
第1回	わたしたちの地球	(内 容) 水、大気、生命、緑について考える。 (必要な準備) 教科書 p 1～7を一読しておくこと。
第2回	ものが燃えるとき	(内 容) 燃焼時の空気の変化 (必要な準備) 教科書 p 8～21を一読しておくこと。
第3回	動物の構造	(内 容) 消化と吸収のしくみ (必要な準備) 教科書 p 22～31を一読しておくこと。
第4回	動物の機能	(内 容) 呼吸と循環のしくみ (必要な準備) 教科書 p 32～41を一読しておくこと。
第5回	植物の構造	(内 容) 維管束のしくみ (必要な準備) 教科書 p 42～50を一読しておくこと。
第6回	植物の機能	(内 容) 光合成のしくみ (必要な準備) 教科書 p 51～59を一読しておくこと。
第7回	生物のつながり	(内 容) 食物と空気によるつながり (必要な準備) 教科書 p 60～71を一読しておくこと。
第8回	自由研究	(内 容) 課題を決め計画をたて、まとめる (必要な準備) 教科書 p 72～77を一読しておくこと。
第9回	水溶液の性質	(内 容) 理科室の使い方や水溶液の性質 (必要な準備) 教科書 p 78～99を一読しておくこと。
第10回	月と太陽	(内 容) 月の運動と太陽の動き (必要な準備) 教科書 p 100～113を一読しておくこと。
第11回	大地のつくり	(内 容) 地層のでき方 (必要な準備) 教科書 p 114～129を一読しておくこと。
第12回	大地の変化	(内 容) 火山と地震 (必要な準備) 教科書 p 130～143を一読しておくこと。
第13回	てこのはたらき	(内 容) てこの原理 (必要な準備) 教科書 p 144～157を一読しておくこと。
第14回	発電と電気の利用	(内 容) 発電と蓄電、電気の変換 (必要な準備) 教科書 p 158～175を一読しておくこと。
第15回	自然とともに生きる	(内 容) 自然の事象について科学的分析を行い、発表する。 (必要な準備) 教科書 p 176～207を一読しておくこと。

授 業 名	子どもの英語活動			開 講 学 年	2年生	単 位 数	2単位	
英 文 名	Children and English Activities			開 講 時 期	春学期	必修・選択	選択	
担 当 者	松尾 章子			対 象 学 生	現代家政2年生			
授業の概要	<p>小学校における「英語活動」（小学校学習指導要領では「外国語活動」として高学年で必修）について学ぶことは、小学校教諭を目指す者にとっては必須の事項である。次に示す指導計画に沿って、必修化に至る経緯と教育課程上の位置付け、児童に英語を指導するために必要な理論を講義するとともに、小学校での優れた実践を紹介し、グループで意見交換し協同で活動を構想、発表すること等を通して、小学校英語活動への正しい理解を促す。担任主導授業のための教室英語練習も行う。</p>							
学 習 成 果 達 成 目 標	<p>1) 小学校の外国語活動授業に関する基本知識を獲得し、指導時の注意点を指摘することができる。 2) 様々な教授法や言語習得に関する知識を駆使し「Hi, friends!」の内容に沿った指導案を書くことができる。 3) 簡単な教室英語を使用して、生徒に指示を出すことができる。</p>							
評 価 方 法	定期試験 (60 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 (コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力	課題発見・解決能力)		
テ キ ス ト	カレイラ松崎順子著 『子どもに英語を教えるための教室英語』 南雲堂 2009年							
参 考 書	<p>文部科学省著 『Hi, friends!』 東京書籍 2012年 アレン玉井光江著 『小学校英語の教育法：理論と実践』 大修館書店 2010年</p>							
留 意 事 項	小学校外国語活動の授業見学に参加してください。							
オ フ ィ ス ア ワ ー	研究室前に日時を掲示しますので、確認してください。							

授 業 名	子どもの英語活動	
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題
第1回	オリエンテーション 小学校外国語活動導入の経緯・現状	(内 容) 授業概要説明 外国語活動導入までの歴史とそのねらいについて (必要な準備) テキストLesson 1の問題を解いて練習
第2回	子どもの言語習得：第一言語習得と第二言語習得	(内 容) 子どもの第一言語と第二言語習得について (必要な準備) テキストLesson 2の問題を解いて練習
第3回	子どもの言語習得：脳の働きを考える	(内 容) 言語習得と脳の働きについて (必要な準備) テキストLesson 3の問題を解いて練習
第4回	児童・発達心理学の観点からみる子ども	(内 容) 子どもの動機、態度、自尊心について (必要な準備) テキストLesson 4の問題を解いて練習
第5回	英語教授法の基礎	(内 容) 様々な英語教授法について (必要な準備) テキストLesson 5の問題を解いて練習
第6回	シラバスデザインの基礎	(内 容) 年間・単元のシラバスの組み立て方について (必要な準備) テキストLesson 6の問題を解いて練習
第7回	レッスンプランの基礎	(内 容) 指導案の書き方について (必要な準備) テキストLesson 7の問題を解いて練習
第8回	小学校授業見学（見学受け入れ先の都合により、実施回が前後することがある）	(内 容) 実際の「外国語活動」授業の見学 (必要な準備) テキストLesson 8の問題を解いて練習
第9回	今後の小学校英語教育	(内 容) 2020年までの小学校外国語活動/英語（教科）について (必要な準備) テキストLesson 9の問題を解いて練習
第10回	グループワーク	(内 容) 模擬授業に向けてレッスンプランを作成 (必要な準備) テキストLesson 10の問題を解いて練習
第11回	読み書きの指導	(内 容) 外国語活動/英語（教科）における読み書きの指導について (必要な準備) テキストLesson 11の問題を解いて練習
第12回	言語能力の測定と評価	(内 容) 言語能力の測定と評価法について (必要な準備) 模擬授業の準備、テキストLesson 12の問題を解いて練習
第13回	模擬授業発表	(内 容) 模擬授業発表 (必要な準備) 模擬授業の準備、テキストLesson 13の問題を解いて練習
第14回	模擬授業発表	(内 容) 模擬授業発表 (必要な準備) 模擬授業の準備、テキストLesson 14の問題を解いて練習
第15回	まとめと振り返り	(内 容) 模擬授業についての意見交換 (必要な準備) テキストLesson 15の問題を解いて練習

授 業 名	保育内容（造形表現）			開 講 学 年	2回生	単 位 数	2単位	
英 文 名	Child Care : the Formative Arts for Expressions			開 講 時 期	秋学期	必修・選択	選択	
担 当 者	山中 隆			対 象 学 生	現代家政2回生			
授業の概要	<p>1) 造形表現の様々な演習の仲間との学び合いを通して造形的感性、表現力、創造力を養い、用具や材料に関する知識や技能の向上を図る。</p> <p>2) 演習を通して幼児教育、保育における子どもの表現活動の発達をふまえた援助や指導方法について考察し理解を深める。</p>							
学 習 成 果 達 成 目 標	<p>1) 授業での取り組みを通して造形表現の多様性や豊かさ、自由さを理解する。</p> <p>2) 描いたり作ったり発表したりする楽しさ、友達の表現や取り組みから学び合うことの大切さを知る。</p> <p>3) 子どもの意欲を促し、表現力を育てる指導・支援のあり方についての知識・考え方を深める。</p>							
評 価 方 法	定期試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 (造形表現力	コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力	課題発見・解決能力)		
テ キ ス ト	花篤實・岡田敬吾編『新造形表現 実技編』（三晃書房）（1回生春学期「図画工作」で購入のものを使用します）							
参 考 書	使用しない。							
留 意 事 項	<p>1) 普段から造形表現とつながりのある「遊び」や「美術」に関心を持つようにすること。</p> <p>2) 汚れを気にしなくても良い、活動しやすい服装で受講すること。</p>							
オ フ ィ ス ア ワ ー	担当授業終了後に実施する。							

授 業 名		保育内容（造形表現）	
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題	
第1回	科目ガイダンス	（内 容）領域「表現」、本科目の概要を知る （必要な準備）テキスト関連箇所（181ページほか）	
第2回	材料体験：ねんど遊び	（内 容）小麦粉ねんどをつくり、造形について考える （必要な準備）テキスト関連箇所（33,133ページほか）	
第3回	触覚体験を伴う描画活動	（内 容）フィンガーペインティング （必要な準備）テキスト関連箇所（24ページほか）	
第4回	友達と作るソフトスカルプチュア	（内 容）新聞紙を用いた立体表現（共同制作） （必要な準備）テキスト関連箇所（49ページほか）	
第5回	簡単な劇表現（人形の構想）	（内 容）ペープサートのアイデアを考える （必要な準備）テキスト関連箇所（86,87ページほか）	
第6回	簡単な劇表現（人形の制作）	（内 容）ペープサートを制作する （必要な準備）人形のデザインを考えておく	
第7回	簡単な劇表現（人形を用いた発表）	（内 容）ペープサートで発表する （必要な準備）自己紹介のアイデアを考えておく	
第8回	空間にかかわる造形遊び	（内 容）ナイロンテープによる空間の変容 （必要な準備）テキスト関連箇所（48ページほか）	
第9回	身辺材を用いた造形遊び	（内 容）不要になったA4版のチラシで作る （必要な準備）テキスト関連箇所（45,74,76,77ページほか）	
第10回	凸凹を写し取る	（内 容）いろいろなもの・場所をフロッターージュする （必要な準備）テキスト関連箇所（28ページほか）	
第11回	（前回の制作物をコラージュする）	（内 容）フロッターージュを構成して作品をつくる （必要な準備）テキスト関連箇所（29ページほか）	
第12回	身体を用いた表現	（内 容）手の形を生かして演じる劇 （必要な準備）テキスト関連箇所（42ページほか）	
第13回	上質紙を用いた材料体験	（内 容）紙の加工法の探求 （必要な準備）テキスト関連箇所（151,152ページほか）	
第14回	ケント紙を用いた造形遊び	（内 容）塔をつくる（共同制作） （必要な準備）テキスト関連箇所（80ページほか）	
第15回	まとめ	（内 容）授業の振り返りと指導者の講評 （必要な準備）自身の授業の取り組みを振り返っておく	

授 業 名	保育内容（音楽表現）			開 講 学 年	3回生	単 位 数	2単位	
英 文 名	Child Care : Musical Expression			開 講 時 期	春学期	必修・選択	選択	
担 当 者	山中 信子			対 象 学 生	現代家政3回生			
授業の概要	子どもの生活の様々な表現活動を音楽の側面から支援する意義と方法について学ぶ。音（楽）あそびや歌唱指導の実践等を通し、乳幼児の豊かな感性や表現能力を伸ばすことのできる保育者となるための指導法を学ぶ。							
学 習 成 果 達 成 目 標	1) 子どもの発達段階・季節・機会に応じた歌唱・手遊びを習得し、必要に応じて臨機応変にアウトプットすることができる。 2) 音楽を使った諸表現（リズムあそび・楽器あそび・音あそび等）のバリエーションを学ぶとともに、子どもに対する指導法を習得する。							
評 価 方 法	定期試験 (60 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 (コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力)	(課題発見・解決能力)	
テ キ ス ト	『子どものうた』京都華頂大学・華頂短期大学編							
参 考 書	使用しない。							
留 意 事 項								
オ フ ィ ス ア ワ ー	研究室に日時を貼付するので、確認してください。							

授 業 名		保育内容（音楽表現）
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題
第1回	導入	（内 容）授業運営上の注意事項等の説明 （必要な準備）
第2回	手あそび（春～夏）・鍵盤和声復習	（内 容）季節の手あそびの実践とコードネーム・カデンツ復習 （必要な準備）主要三和音復習(15分)
第3回	手あそび（秋～冬）・鍵盤和声実践	（内 容）季節の手あそびの実践と伴奏付け演習（和音進行の把握）・和声・非和声音の把握 （必要な準備）短3度・長3度の復習(15分)
第4回	手あそび小テスト	（内 容）2組に分けて、手あそびの小テスト （必要な準備）手あそびの練習(15分)
第5回	簡易楽器を使った合奏	（内 容）鈴・カスタネット等を用いた合奏の実践 （必要な準備）楽器奏法の基礎練習(15分)
第6回	音あそび	（内 容）様々な音素材を扱った音あそび （必要な準備）楽器以外の音素材を探しておく(30分)
第7回	歌唱指導（基礎）	（内 容）幼児に歌唱指導をする際の流れ・留意点等を説明する （必要な準備）歌唱指導の流れを把握する(30分)
第8回	歌唱指導（応用）	（内 容）歌唱指導教材を年齢別に検討する （必要な準備）教科書の内容に目を通しておく(20分)
第9回	歌唱指導（発展）	（内 容）実際に歌唱指導を実施する際の留意点を踏まえ模擬指導の流れを検討する 指導案の作成 （必要な準備）教科書の内容に目を通しておく(15分)
第10回	歌唱指導発表（基礎）	（内 容）基本的な指導の流れを踏まえた歌唱指導発表 （必要な準備）発表準備（2時間程度）
第11回	歌唱指導発表（応用）	（内 容）第1回目の発表を踏まえた応用 （必要な準備）発表準備（2時間程度）
第12回	歌唱指導（発展）	（内 容）第2回目の発表を踏まえたグループ発表 （必要な準備）発表準備（2時間程度）
第13回	歌唱指導（発展）	（内 容）第3回目の発表を踏まえたグループ発表 （必要な準備）発表準備（2時間程度）
第14回	歌唱指導（討議）	（内 容）全ての発表を終えての討議 （必要な準備）反省点等を予め書き出しておく(30分程度)
第15回	まとめ	（内 容）歌唱指導をはじめとした表現（音楽）の指導に関する総括 （必要な準備）指導案の手直し(30分)

授業名	保育内容（健康）		開講学年	2回生	単位数	2単位		
英文名	Child Care : Health		開講時期	春学期	必修・選択	選択		
担当者	岸 優子		対象学生	現代家政2回生				
授業の概要	<p>1) 健康とは、どのような状態のことかを考えることができる。</p> <p>2) 子どもにとって安心・安全・快適な生活とは何か。「健康」な環境を構成することができる保育者としての在り方について、基本的知識を習得する。</p> <p>3) 子どものいのちを守る保育者としての職業規範・意識についての自覚を深めることができる。</p>							
学習成果到達目標	<p>(1) 子どもの心身の健康に関する現状を理解し、健康で安心・安全・快適な生活にむけての課題を考えることができる。</p> <p>(2) 「健康」についての基礎的知識を習得し、保育実践の中で活用できる。</p> <p>(3) 子どもが安心・安全・快適に過ごすために、保育者が配慮すべき事項について3分間でプレゼンテーションできる。</p>							
評価方法	定期試験 (60 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評価基準	主たる評価の 観点	知識・理解 (コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力)	(課題発見・解決能力)	
テキスト	講義内配布プリント							
参考書	『保育所保育指針』『幼稚園教育要領』『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』							
留意事項								
オフィス アワー	担当授業終了後に実施する。							

授 業 名		保育内容（健康）
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題
第1回	オリエンテーション	（内 容）全体の流れについて理解する。保育者のあり方を「健康」の領域から学ぶ。 （必要な準備）シラバスの確認をする。（10分）
第2回	保育者の役割（その1） 『幼稚園教育要領』『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』から	（内 容）「健康」領域についての保育課題を考える。 （必要な準備）「健康」領域を中心に『幼稚園教育要領』『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』を読んでくる。（20分）
第3回	保育者の役割（その2） 『幼稚園教育要領』『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』から	（内 容）保育者の「健康」領域についての基本的知識を習得し、配慮や援助の仕方を考えることが出来る。 （必要な準備）『幼稚園教育要領』『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』を読んで、「健康」領域のポイントを3分間で説明出来るようにしておく。（40分）
第4回	『保育所保育指針』『健康』のねらいと内容（その1）	（内 容）保育所保育指針の改訂のポイントを理解する。「健康」の領域の基本的知識を習得する。 （必要な準備）『保育所保育指針』『健康』の領域を読んで要点をまとめてくる。（30分）
第5回	『保育所保育指針』『健康』のねらいと内容（その2）	（内 容）「健康」について、保育場面の実践的事例を通して理解を深める。 （必要な準備）『保育所保育指針』を読んで、基本的知識を確認しておく。（30分）
第6回	心の健康と発達の課題	（内 容）事例研究をもとに、健康に関する援助の仕方・配慮事項を理解する。 （必要な準備）「発達課題」について調べてくる（40分）
第7回	体の健康と発達の課題	（内 容）発達の一般的な特徴を理解し、発達の多様性を説明出来る。 （必要な準備）プリントをもとに、体・心・脳の間関係を理解する。（30分）
第8回	基本的生活習慣	（内 容）保育者として、基本的生活習慣についての配慮・援助方法を身につける。 （必要な準備）基本的生活習慣について、具体的にイメージし、簡潔な言葉で説明出来る。（30分）
第9回	運動の意義	（内 容）「運動あそび」の指導案を作成する。 （必要な準備）「運動遊び」について種類・内容等を調べてくる。対象年齢・人数について各自で想定し、主活動を考えてくる。（30分）
第10回	安全指導（その1）	（内 容）保育所保育指針における「安全」についての理解を深める。（事故防止、安全管理など）保育者として子どものいのちを守るという責任と自覚を高める。 （必要な準備）具体的な保育場面を想定し、子どもが安心・安全・快適に生活できるための配慮・援助について箇条書きで3つ書いてくる。（30分）
第11回	安全指導（その2）	（内 容）保育現場でどのように危機管理が行なわれているのか、事例を通して理解を深める。 （必要な準備）これからの社会で求められる危機管理で必要な観点を3つ考えてくる。（30分）
第12回	家庭生活における「健康」	（内 容）現代の家庭環境における変化を理解し、保育場面での子どもの発達を阻害する要因・促進する要因について探求する。 （必要な準備）各自の生活環境を振り返り、発達を阻害する要因について3つ考えてくる。（30分）
第13回	集団生活における「健康」	（内 容）領域「健康」をふまえた集団的活動の指導案（20分間）を立案する。 （必要な準備）ねらいにあった主活動を考え、指導計画の流れ（導入、展開、まとめ）を考えてくる。（60分）
第14回	「あそび」の重要性ー健康の側面からー	（内 容）プレゼンテーション（20分間の模擬保育） （必要な準備）模擬保育が出来るようプリントを参考に保育のシミュレーションしてみる。（60分）
第15回	指導計画における「健康」	（内 容）プレゼンテーション（20分間の模擬保育） （必要な準備）これまでの振り返り、「健康」に配慮した指導計画を完成する。（60分）

授 業 名	保育内容（人間関係）			開 講 学 年	2回生	単 位 数	2単位	
英 文 名	Child Care : Human Relations			開 講 時 期	秋学期	必修・選択	選択	
担 当 者	流石 智子			対 象 学 生	現代家政2回生			
授業の概要	現在、子どものコミュニケーション能力の不足や自制心の不足などが指摘されている。人との関わる力の問題には、社会や家庭のあり方が関わっている。このような状況の中、乳幼児期の子どもの保育を担う幼稚園や保育所の役割は大きいものとなっている。ここでは、様々な体験を通して、人と関わる力をつけていくことができる保育や親等との愛着関係、その他、親子関係を構築するための保護者支援について学ぶ。							
学 習 成 果 達 成 目 標	1) 保育領域としての「人間関係」の基本原則を理解することができる。 2) 体験を通して成長、発達する子どもたちの人間関係について理解することができる。 3) 家庭の変容から子どもたちの成長、発達において、人間関係をどのように獲得していくかを理解することができる。							
評 価 方 法	定期試験 (80 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (20 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 (コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力) (課題発見・解決能力)			
テ キ ス ト	小櫃智子・谷口明子編著『実践 保育内容シリーズ2 人間関係』一藝社、2014年							
参 考 書	授業中に、随時、紹介する。							
留 意 事 項	場合によっては、見学学習も考えている。							
オ フ ィ ス ア ワ ー	基本は、木曜日の12時10分～13時とします。在室の時は可能です。（時間が取れない時は、調整して連絡します。）研究室に掲示するので、確認してください。							

授 業 名		保育内容（人間関係）	
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題	
第1回	保育の基本	（内 容）保育とは何かについて学ぶ。 （必要な準備）テキスト9頁から18頁を読み、理解しておく。（30分）	
第2回	領域「人間関係」	（内 容）領域「人間関係」とは何かについて、ねらいと内容を理解する。 （必要な準備）テキスト19頁から28頁を読み、理解しておく。（30分）	
第3回	新生児の「人への関心」	（内 容）赤ちゃんが持つ優れて能力について学ぶ。 （必要な準備）テキスト29頁から37頁までを読み、理解しておく。（30分）	
第4回	人との関係の始まり	（内 容）人から情報を得ることについて学ぶ。 （必要な準備）テキスト38頁から47頁を読み、理解しておく。（30分）	
第5回	人との関わりの基盤	（内 容）アタッチメント関係の形成について学ぶ。 （必要な準備）テキスト48頁から56頁を読み、理解しておく。（30分）	
第6回	自我の発達	（内 容）自我の発達によって獲得されるものと保育者との関わりについて学ぶ。 （必要な準備）テキスト57頁から66頁を読み、理解しておく。（30分）	
第7回	道徳性の芽生え	（内 容）道徳性の定義と発達を学ぶ。 （必要な準備）テキスト67頁から76頁までを読み、理解しておく。（30分）	
第8回	思いやりと社会性の発達	（内 容）思いやりの心理と行動、共感性の発達について理解する。 （必要な準備）テキスト77頁から85頁までを読み、理解しておく。（30分）	
第9回	家族との関わり	（内 容）依存と自立、家庭の中で身につける様々なルールについて学ぶ。 （必要な準備）テキスト86頁から95頁までを読み、理解しておく。（30分）	
第10回	保育者との関わり	（内 容）子どもを迎える時、日々の保育について学ぶ。 （必要な準備）テキスト96頁から105頁までを読み、理解しておく。（30分）	
第11回	遊びの中での関わりの育ち	（内 容）遊びの発達と人との関わりについて学ぶ。 （必要な準備）テキスト106頁から116頁までを読み、理解しておく。（30分）	
第12回	友達との関わり	（内 容）友達との関わりの発達過程について理解する。 （必要な準備）テキスト117頁から126頁までを読み、理解しておく。（30分）	
第13回	関わりが「気になる子」	（内 容）特別な支援を必要とする子どもについて理解する。 （必要な準備）テキスト127頁から135頁までを読み、理解しておく。（30分）	
第14回	関わりの育ちを支える	（内 容）親子の関係づくりを支援することについて学ぶ。 （必要な準備）テキスト136頁から145頁までを読み、理解しておく。（30分）	
第15回	領域「人間関係」の新しい課題	（内 容）「人間関係」の授業を受け、課題について考える。 （必要な準備）テキスト146頁から154頁までを読む。また、全体の授業を通して、一番印象に残った子どもたちの「人間関係」のあり方についてまとめておく。（1時間以上）	

授業名	保育内容（環境）			開講学年	3回生	単位数	2単位	
英文名	Child Care : Environment			開講時期	春学期	必修・選択	選択	
担当者	岸 優子			対象学生	現代家政3回生			
授業の概要	<p>1) 子どもが周囲の環境に好奇心や探求心をもって関わるために、保育者として必要な配慮は何かを考える。</p> <p>2) 保育者自身が好奇心や探求心をもって、自然や社会に関わることが出来る。</p> <p>3) 動植物の飼育栽培の実践を紹介することで、子どもの自発性を育てる保育者のかかわりを体得する。</p>							
学習成果到達目標	<p>1) 『幼稚園教育要領』および『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』や『保育所保育指針』における領域「環境」のねらいと内容を理解する。</p> <p>2) 子どもを取り巻く身近な環境とのかかわりについて実際に体験することによって、保育者として「環境」領域を配慮した保育計画を立案できる。</p> <p>3) 保育者として、身近な環境にかかわって指導する方法・配慮の仕方を身につけ実践することが出来る。</p>							
評価方法	定期試験 (60 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評価基準	主たる評価の 観点	知識・理解 (コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力) (課題発見・解決能力) (
テキスト	使用しない。							
参考書	文部科学省『幼稚園教育要領』、厚生労働省『保育所保育指針』、内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』							
留意事項	授業への積極的な参加を期待する。日頃から各自日常生活への研究心をもち興味・関心を深めるように自らの五感を磨いておくこと。 受講者の興味・関心により、説明のうえ、シラバスの順番を変える場合がある。							
オフィスアワー	授業後実施する。							

授 業 名	保育内容（環境）	
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題
第1回	オリエンテーション・「環境」とは	（内 容）授業の目標、進め方・評価の方法を理解する。 （必要な準備）シラバスを読み、全体の流れを確認しておく。（10分）
第2回	幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領、保育所保育指針の改訂及び領域「環境」について、保育内容の考え方	（内 容）幼稚園教育要領、保育所保育指針における改訂の主旨と領域「環境」・保育内容「環境」について学ぶ （必要な準備）保育の基本と環境について、要点を箇条書きでまとめる。（20分）
第3回	子どもの環境と保育者の役割	（内 容）環境への積極的なかかわりと遊びについて理解する （必要な準備）環境領域の発表の準備、話し合いのためのメモを作成する。（40分）
第4回	子どもの活動や生活と「環境」	（内 容）乳幼児の発達と環境との関わりについて学ぶ （必要な準備）幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領の「環境」の該当箇所を読んでおく（60分）
第5回	乳幼児の主体的な生活と領域「環境」 ー安全・安心・快適な環境ー	（内 容）乳幼児の主体的な生活と領域「環境」との関わりについて学ぶ （必要な準備）前回の要点をまとめる。（20分）
第6回	園と地域社会とのかかわり ー行事的活動によって育つものー	（内 容）季節と子ども、園外保育（散歩、遠足、社会見学など）のねらい、保育者の留意点 （必要な準備）前回の要点をまとめる。（20分）
第7回	季節の植物と保育活動 ーフィールドワークー	（内 容）身近な植物と保育活動でのかかわり、基礎的知識を理解し体験する。 （必要な準備）植物と保育者のかかわりについて、1枚のポートフォリオでまとめる。（60分）
第8回	身近な動物と保育活動 ーフィールドワークー	（内 容）身近な動物の飼育と保育活動でのかかわり、基礎的知識を理解し体験する。 （必要な準備）動物と保育者のかかわりについて、1枚ポートフォリオでまとめる。（60分）
第9回	あそびと子ども ー10の学びにむけて保育をデザインするー	（内 容）遊びについて調べて発表する。 （必要な準備）前回の要点をまとめる。（20分）
第10回	あそびと子ども ー10の学びにむけて保育をデザインするー	（内 容）遊びについて調べて発表する。 （必要な準備）前回の要点をまとめる。（20分）
第11回	あそびと子ども ー10の学びにむけて保育をデザインするー	（内 容）感覚を伸ばすための遊びについて発表する。 （必要な準備）前回の要点をまとめる。（20分）
第12回	領域「環境」指導上の問題点	（内 容）領域「環境」指導上の問題点を理解する （必要な準備）幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領の「環境」の該当箇所を読んでおく（60分）
第13回	領域「環境」の留意事項	（内 容）領域「環境」の留意事項を学ぶ。 （必要な準備）幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領の「環境」の該当箇所を読んでおく（60分）
第14回	領域「環境」における保育者の役割	（内 容）領域「環境」における保育者の役割について学ぶ （必要な準備）前回の要点をまとめる。（20分）
第15回	環境を通して子どもたちの保育を考える	（内 容）「環境」と保育の関係性について振り返る。 （必要な準備）これまでの内容を振り返り、その要点をまとめる。（60分）

授業名	保育内容（言葉）			開講学年	3回生	単位数	2単位	
英文名	Child Care : Language			開講時期	春学期	必修・選択	選択	
担当者	遠藤 純			対象学生	現代家政3回生			
授業の概要	ことばと思考の関係について考えながら、乳幼児期のことばの発達をおさえて、ことばを育むことばがけ、あそび、児童文化財等について考察する。							
学習成果到達目標	1) ことばを育むことの意味を知り、そのための手だてを習得する。 2) ことばと思考との関わりを理解し、子どもと言葉の関係について深く知る。 3) ことばをはぐくむ児童文化について理解を深め、その歴史や現状、特徴を理解する。							
評価方法	定期試験 (40 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (60 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評価基準	主たる評価の 観点	知識・理解 (コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力) (課題発見・解決能力)			
テキスト	使用しない。							
参考書	使用しない。							
留意事項								
オフィス アワー	授業の初回に連絡する。							

授 業 名		保育内容（言葉）
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題
第1回	ガイダンス	（内 容） 授業の目的と内容について解説する。 （必要な準備） シラバスを読んでおく。
第2回	ことばとは何か	（内 容） ことばとは何か。 （必要な準備） ことばと思考の関係について調べておく。
第3回	乳幼児期のことばの発達 1	（内 容） 0, 1, 2 歳児のことばの発達を考える。 （必要な準備） 配布資料を読んでおく。
第4回	乳幼児期のことばの発達 2	（内 容） 3, 4, 5 歳児のことばの発達を考える。 （必要な準備） 実習での子どものことばを振り返っておく。
第5回	ことばを育む保育教材 1	（内 容） 絵本とは何か 1 （必要な準備） 絵本の基本的な読み方について考えておく。
第6回	ことばを育む保育教材 2	（内 容） 絵本とは何か 2 （必要な準備） 絵本の特徴について考えておく。
第7回	ことばを育む保育教材 3	（内 容） 童話、お話の歴史 （必要な準備） 童話とお話の違いについて調べておく。
第8回	ことばを育む保育教材 4	（内 容） 児童文学の歴史 （必要な準備） 子どもの文学の歴史について調べておく。
第9回	ことばを育む保育教材 5	（内 容） 紙芝居 （必要な準備） 紙芝居の特徴について考えておく。
第10回	ことばを育む保育教材 6	（内 容） パネルシアター （必要な準備） パネルシアターの特徴について考えておく。
第11回	ことばが育つ環境と保育者の役割 聞くこと・話すことの指導	（内 容） 保育者のことばがけについて （必要な準備） 保育者としてのことばがけについて自分なりに考えておく。
第12回	ことばが育つ環境と保育者の役割 ことばの発達と障がい	（内 容） 子どものことばの発達と障がいのある子どもへの指導について （必要な準備） ことばに発達のある子どもへの関わりについて、参考書を読むなどして考えをまとめておく。
第13回	ことばが育つ環境と保育者の役割 保育者と園の役割	（内 容） 保育者と保護者、園の役割について （必要な準備） 子どもへの関わり方について、三者それぞれの役割について考えをまとめておく。
第14回	文字指導	（内 容） 文字指導の内容と方法について （必要な準備） 文字指導の方法について考えておく。
第15回	まとめ	（内 容） 授業を通してのまとめをする。 （必要な準備） 子どもと言葉の関係について考えてくる。

授業名	教育方法論（中・高）			開講学年	3回生	単位数	2単位	
英文名	Theory of Teaching Method			開講時期	春学期	必修・選択	選択	
担当者	松浦 真理			対象学生	現代家政3回生			
授業の概要	<p>教育方法はよりよい授業を展開するために、常に試行され、刷新されなければならないものである。教授内容を、どのような手順で、どのような技術・方法で教えるべきかを考えるだけでなく、教員がどのような姿勢で授業に臨むか、子どものどのような点を捉えて、授業を進めるべきか知ること重要になってくる。講義形式の授業を通して、教育方法が研究されてきた歴史を知ると同時に、教室内で生起するコミュニケーション過程を探り、カリキュラム研究や学習理論などについても学ぶことを目的とする。</p>							
学習成果到達目標	<p>1) 教育方法についての知識や見解を実践と結び付けて説明できる。 2) 教育方法の複合的性格や曖昧さを踏まえた上で、よりよい教育方法を試行錯誤する姿勢を身につける。</p>							
評価方法	定期試験 (70 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (30 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評価基準	主たる評価の 観点	知識・理解 (コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力	課題発見・解決能力)		
テキスト	テキストは使用しない							
参考書	佐藤学『放送大学叢書011 教育の方法』（左右社）、田中耕治ほか著『新しい時代の教育方法』（有斐閣）							
留意事項	テキストや資料の予習を前提に、質疑応答を含めた授業形式を取ります。							
オフィスアワー	随時、メールなどで予約することが望ましい。							

授 業 名		教育方法論（中・高）
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題
第1回	教育方法を学ぶことの意義	（内 容）授業進め方説明の後、教育方法とは何か、なぜ重要かを考える。 （必要な準備）シラバスに目を通し、授業経験を振り返る。
第2回	学校機能の変化と教育方法	（内 容）教育方法と学校機能の連動を踏まえ、近年の動向を知る。 （必要な準備）前回授業の最後に出した課題を考えておく。（30分程度）
第3回	欧米に見る教育方法の変遷	（内 容）欧米における教育方法の歴史的展開を把握する。 （必要な準備）配布資料の該当箇所を読み、課題をする。（30～40分程度）
第4回	日本における教育方法の変遷	（内 容）日本における教育方法の歴史的展開を把握する。 （必要な準備）配布資料の該当箇所を読み、課題をする。（30～40分程度）
第5回	心理学に基づく教育方法の展開	（内 容）行動主義・認知主義・活動主義にもとづく学習論の理解。 （必要な準備）前回授業の最後に出した課題を考えておく。（30分程度）
第6回	勉強から学びへの転換	（内 容）勉強と学びの違いを知り、授業の基本的考え方を知る。 （必要な準備）前回授業の最後に出した課題を考えておく。（30分程度）
第7回	授業の複合的性格	（内 容）授業内で生起する諸過程の複雑さと曖昧さを知る。 （必要な準備）前回授業の最後に出した課題を考えておく。（30分程度）
第8回	授業をどう「デザイン」するか	（内 容）授業づくりの過程について理解する。 （必要な準備）前回授業の最後に出した課題を考えておく。（30分程度）
第9回	授業をどう評価するか	（内 容）授業の評価方法の基本的な考え方を理解する。 （必要な準備）前回授業の最後に出した課題を考えておく。（30分程度）
第10回	授業分析の方法	（内 容）コミュニケーション分析について理解する。 （必要な準備）前回授業の最後に出した課題を考えておく。（30分程度）
第11回	授業の言語とディスコース	（内 容）授業言語とその文脈について理解する。 （必要な準備）前回授業の最後に出した課題を考えておく。（30分程度）
第12回	カリキュラムと単元の構成	（内 容）カリキュラムと単元の構成について理解する。 （必要な準備）前回授業の最後に出した課題を考えておく。（30分程度）
第13回	反省的実践家としての教師	（内 容）教育実践の主体である教師のあり方について考察する。 （必要な準備）前回授業の最後に出した課題を考えておく。（30分程度）
第14回	教育方法の今後の展望	（内 容）今後求められる教育像と教育方法を予測する。 （必要な準備）前回授業の最後に出した課題を考えておく。（30分程度）
第15回	まとめ	（内 容）これまでの内容を振り返り、重要な点の理解を深める。 （必要な準備）これまでの学習を振り返り、質問点を整理しておく。（1時間程度）

授業名	教育方法論（幼・小）			開講学年	3回生	単位数	2単位	
英文名	Theory of Teaching Method			開講時期	春学期	必修・選択	選択	
担当者	松浦 真理			対象学生	現代家政3回生			
授業の概要	<p>教育方法はよりよい授業を展開するために、常に試行され、刷新されなければならないものである。教授内容を、どのような手順で、どのような技術・方法で教えるべきかを考えるだけでなく、教員がどのような姿勢で授業に臨むか、子どものどのような点を捉えて、授業を進めるべきか知ることも重要になってくる。講義形式の授業を通して、教育方法が研究されてきた歴史を知ると同時に、教室内で生起するコミュニケーション過程を探り、カリキュラム研究や学習理論などについても学ぶことを目的とする。</p>							
学習成果到達目標	<p>1) 教育方法についての知識や見解を実践と結び付けて説明できる。 2) 教育方法の複合的性格や曖昧さを踏まえた上で、よりよい教育方法を試行錯誤する姿勢を身につける。</p>							
評価方法	定期試験 (70 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (30 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評価基準	主たる評価の 観点	知識・理解 (コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力	課題発見・解決能力)		
テキスト	テキストは使用しない。							
参考書	佐藤学『放送大学叢書011 教育の方法』（左右社）、無藤隆『幼児教育のデザイン』（東京大学出版会）							
留意事項	テキストや資料の予習を前提に、質疑応答を含めた授業形式を取ります。							
オフィスアワー	随時。メールなどで予約することが望ましい。							

授 業 名		教育方法論（幼・小）
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題
第1回	教育方法を学ぶことの意義	（内 容）授業進め方説明の後、教育方法とは何か、なぜ重要かを考える。 （必要な準備）シラバスに目を通し、授業経験を振り返る。
第2回	学校機能の変化と教育方法	（内 容）教育方法と学校機能の連動を踏まえ、近年の動向を知る。 （必要な準備）前回授業の最後に出した課題を考えておく。（30分程度）
第3回	欧米に見る教育方法の変遷	（内 容）欧米における教育方法の歴史的展開を把握する。 （必要な準備）配布資料の該当箇所を読み、課題をする。（30～40分程度）
第4回	日本における教育方法の変遷	（内 容）日本における教育方法の歴史的展開を把握する。 （必要な準備）配布資料の該当箇所を読み、課題をする。（30～40分程度）
第5回	心理学に基づく教育方法の展開	（内 容）行動主義・認知主義・活動主義にもとづく学習論の理解。 （必要な準備）前回授業の最後に出した課題を考えておく。（30分程度）
第6回	勉強から学びへの転換	（内 容）勉強と学びの違いを知り、授業の基本的考え方を知る。 （必要な準備）前回授業の最後に出した課題を考えておく。（30分程度）
第7回	授業の複合的性格	（内 容）授業内で生起する諸過程の複雑さと曖昧さを知る。 （必要な準備）前回授業の最後に出した課題を考えておく。（30分程度）
第8回	授業をどう「デザイン」するか	（内 容）授業づくりの過程について理解する。 （必要な準備）前回授業の最後に出した課題を考えておく。（30分程度）
第9回	授業をどう評価するか	（内 容）授業の評価方法の基本的な考え方を理解する。 （必要な準備）前回授業の最後に出した課題を考えておく。（30分程度）
第10回	幼児教育のデザイン 空間配置	（内 容）幼児教育における空間配置の方法について知る。 （必要な準備）前回授業の最後に出した課題を考えておく。（30分程度）
第11回	幼児教育のデザイン 表現を楽しむ	（内 容）幼児教育における音楽や造形の指導方法を考える （必要な準備）前回授業の最後に出した課題を考えておく。（30分程度）
第12回	幼児教育のデザイン 教材の準備	（内 容）幼児教育における種々の教材の意味や取扱方法などを考える （必要な準備）前回授業の最後に出した課題を考えておく。（30分程度）
第13回	反省的实践家としての教師	（内 容）教育実践の主体である教師のあり方について考察する。 （必要な準備）前回授業の最後に出した課題を考えておく。（30分程度）
第14回	教育方法の今後の展望	（内 容）今後求められる教育像と教育方法を予測する。 （必要な準備）前回授業の最後に出した課題を考えておく。（30分程度）
第15回	まとめ	（内 容）これまでの内容を振り返り、重要な点の理解を深める。 （必要な準備）これまでの学習を振り返り、質問点を整理しておく。（1時間程度）

授業名	保育原理 u			開講学年	1回生	単位数	2単位	
英文名	Principles of Child Care			開講時期	秋学期	必修・選択	選択	
担当者	西川 由紀子			対象学生	現代家政1回生			
授業の概要	子ども子育て新制度について解説した後、保育の内容の歴史的な変遷を学んだ後、保育の計画を立てる際に考慮すべきことを実際の指導計画を通して学んでいく。また、長時間保育、異年齢保育など、現代の保育ニーズに応える保育内容をどうつくっていくかを検討する。							
学習成果到達目標	1) 保育所保育の特性を、保育内容の面で理解する。 2) 保育内容の変遷を理解する。 3) 保育の計画を立てるうえでたいせつにすべき点を理解する。							
評価方法	定期試験 (55 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (45 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評価基準	主たる評価の 観点	知識・理解 (コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力	課題発見・解決能力)		
テキスト	厚生労働省「保育所保育指針解説書」 保育計画研究会編「実践に学ぶ保育計画のつくり方・いかし方」(ひとなる書房)							
参考書	使用しない。							
留意事項								
オフィスアワー	毎週1回(休業期間中を除く。)オフィスアワーを設けます。							

授 業 名		保育原理 u
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題
第1回	保育所保育における保育の特性 1	(内 容) 幼稚園、認定こども園との比較から特性を解説する (必要な準備) 保育所、幼稚園、認定こども園について予習してくる(30分)
第2回	保育所保育における保育の特性 2	(内 容) 低年齢からの長時間保育における配慮事項 (必要な準備) 保育所保育指針第1章を読んでくる(30分)
第3回	保育内容の変遷 1 明治期	(内 容) 明治期の保育 (必要な準備) 明治期の生活を調べてくる(60分)
第4回	保育内容の変遷 2 大正から昭和初期	(内 容) 大正から昭和初期の保育 (必要な準備) 大正から昭和初期の生活を調べてくる(60分)
第5回	保育内容の変遷 3 系統的保育案の実際	(内 容) 系統的保育案の実際と現代の保育への継承 (必要な準備) 配付資料を読んでくる(30分)
第6回	保育内容の変遷 4 戦時下	(内 容) 戦時下の保育 (必要な準備) 戦時下の生活について調べてくる(60分)
第7回	保育内容の変遷 5 終戦後	(内 容) 戦後の保育を教育要領・保育指針から学ぶ (必要な準備) 終戦後の生活について調べてくる(60分)
第8回	保育内容の変遷 6 1950年代	(内 容) 戦後の保育の映像をみて、当時の保育を学ぶ (必要な準備) 配付資料を読んでくる(30分)
第9回	保育内容の変遷 7 1960年代以降	(内 容) 今日の教育要領・保育指針ができるまでの経過 (必要な準備) 保育所保育指針第1章を読んでくる(30分)
第10回	保育の計画の実際 1 保育の計画とは	(内 容) 保育の計画の実際 (必要な準備) 保育所保育指針第1章を読んでくる(30分)
第11回	保育の計画の実際 2 指導計画	(内 容) 年間計画・月案の実際 (必要な準備) テキストp54～、p147～を読んでくる(30分)
第12回	保育の計画の実際 3 保育の展開	(内 容) 生きた保育の展開と指導計画の関連 (必要な準備) テキストp184～を読んでくる(30分)
第13回	保育の計画の実際 4 保育の評価	(内 容) 自己評価・保育所の評価の実際 (必要な準備) テキストp40～を読んでくる(30分)
第14回	長時間保育における保育内容の構造	(内 容) 長時間保育における保育者連携と計画 (必要な準備) テキストp249～を読んでくる(30分)
第15回	異年齢保育における保育内容の構造	(内 容) 異年齢保育における生活作りと計画 (必要な準備) テキストp216～を読んでくる(30分)

授 業 名	養護原理 u			開 講 学 年	1回生	単 位 数	2単位	
英 文 名	Principles of Corporate Parenting			開 講 時 期	秋学期	必修・選択	選択	
担 当 者	山川 宏和			対 象 学 生	現代家政1回生			
授業の概要	<p>保育士として必要な社会的養護の知識を深めるために、以下の内容で授業を進める。 1. 補充・代替的養護について 2. 児童養護施設や乳児院、母子生活支援施設等について 3. 児童虐待の定義やその対応について 4. 里親ケアの概要について</p>							
学 習 成 果 達 成 目 標	<p>1) 児童養護施設等の入所施設や里親家庭に関する制度について説明できる。 2) 社会的養護を必要とする児童の保護者支援について考え、職員の働きが分かる。 3) 児童養護施設等の入所施設や里親家庭で生活する児童の現状が理解できる。</p>							
評 価 方 法	定期試験 (70 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (30 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 (コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力) (課題発見・解決能力)			
テ キ ス ト	吉田明弘編著 「保育士のための社会的養護」[八千代出版]							
参 考 書	随時指示する。							
留 意 事 項	視聴するDVDや映像素材の内容も試験の範囲となる。							
オ フ ィ ス ア ワ ー	オフィスアワーは設定しますが、研究室に在室していれば対応します。どうしても場合は、事前にメール又は直接申出を。							

授 業 名		養護原理 u
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題
第1回	社会的養護について	(内 容) 日本と世界の比較、指針について (必要な準備)
第2回	児童虐待の理解	(内 容) 被虐待児童の行動特性について学ぶ (必要な準備)
第3回	家庭的養護について 里親	(内 容) 里親ケアの登録、委託、手当について (必要な準備) テキスト2章を参照しておく
第4回	家庭的養護について 里子	(内 容) 里親ケアの研修、里子について (必要な準備) テキスト2章を参照しておく
第5回	特別養子縁組について	(内 容) 特別養子縁組について (必要な準備) テキストを参照しておく
第6回	乳児院について	(内 容) 乳児院のケアについて (必要な準備) テキスト5章を参照しておく
第7回	施設養護の実際 虐待対応	(内 容) 被虐待児の支援について (必要な準備) 児童虐待の種類を調べておく
第8回	児童養護施設について 家庭分離	(内 容) 児童養護施設に入所した家族について (必要な準備) テキスト5章を参照しておく
第9回	児童養護施設について 入所の実際	(内 容) 児童養護施設でのケアについて (必要な準備) テキスト5章を参照しておく
第10回	少年院・保護処分について	(内 容) 少年院・家庭裁判所調査官について (必要な準備) テキストを参照しておく
第11回	保護観察・保護司について	(内 容) 児童自立支援施設、保護観察について (必要な準備) 保護観察の種類を調べておく
第12回	家庭的養護について 自立援助ホーム	(内 容) 自立援助ホームの役割と機能について (必要な準備) テキスト5章を参照しておく
第13回	障害児通所支援について	(内 容) 発達障害や障害児通所支援の理解 (必要な準備) テキストを参照しておく
第14回	アタッチメント障がいについて	(内 容) アタッチメント(愛着)障がいについて (必要な準備) 発達障害の定義を調べておく
第15回	児童心理治療施設について	(内 容) 児童心理治療施設について (必要な準備) 児童心理治療施設の設置数を調べる

授業名	人間福祉論			開講学年	3回生	単位数	2単位	
英文名	Theory of Human Welfare			開講時期	秋学期	必修・選択	選択	
担当者	藤井 伸生			対象学生	現代家政3回生			
授業の概要	現代社会における人間のくらしの実態を明らかにしながら、総合的体系的な生活保障を検討しつつ、社会福祉の役割について考える。生活問題の構造把握をもとに、社会福祉の果たす役割について検討する。生活問題対策として社会政策及び公共一般施策の役割も視野に入れながら社会福祉の位置と役割を考察する。							
学習成果到達目標	1) 私たち人間のくらしにおいて総合的体系的な生活保障を理解できるようになる。 2) 社会福祉が果たしている役割について理解できるようになる。 3) これからの人生において社会福祉がいかに関わるかを理解できるようになる。							
評価方法	定期試験 (70 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (30 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評価基準	主たる評価の 観点	知識・理解 (論理的な展開力	コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力	課題発見・解決能力)		
テキスト	『生活問題と社会保障・社会福祉の基本資料集』高菅出版、2014年。							
参考書	授業時に紹介							
留意事項	ノートをしっかり取ること。							
オフィス アワー	設定しますが、研究室に在室していれば対応します。どうしても場合は、事前にEメールしてください。							

授業名	人間福祉論	
授業計画	学習項目	学習内容・課題
第1回	社会福祉の対象理解	(内 容) 生活問題の構造把握について (必要な準備) 暮らしの実態について考える(30分)
第2回	生活問題の構造	(内 容) 生活問題の構造と社会福祉の関係 (必要な準備) 生活問題について考える(30分)
第3回	総合的体系的な生活保障とは？	(内 容) 総合的体系的な生活保障について (必要な準備) 教科書第2章を読んでおく(30分)
第4回	総合的体系的な生活保障 - 労使関係制度と社会福祉 -	(内 容) 労使関係制度の内容と課題について (必要な準備) 労使関係制度と社会福祉との関連考察(30分)
第5回	総合的体系的な生活保障 - 雇用保障制度と社会福祉 -	(内 容) 雇用保障制度について (必要な準備) 家族の雇用実態を知る(30分)
第6回	総合的体系的な生活保障 - 労働者保護制度と社会福祉 -	(内 容) 労働者保護制度について (必要な準備) 家族の労働条件について知る(30分)
第7回	総合的体系的な生活保障 - 育児・介護休暇と社会福祉 -	(内 容) 育児・介護休暇制度について (必要な準備) 家族の育児・介護休暇制度を知る(30分)
第8回	総合的体系的な生活保障 - 最低賃金制度と社会福祉 -	(内 容) 最低賃金制度について (必要な準備) 家族の賃金について知る(30分)
第9回	総合的体系的な生活保障 - 年金保険制度 -	(内 容) 年金保険制度について (必要な準備) 高齢者に年金のことについて聴く(30分)
第10回	総合的体系的な生活保障 - 医療保険制度 -	(内 容) 医療保険制度について (必要な準備) 医療機関での実情を考える(30分)
第11回	総合的体系的な生活保障 - 介護保険制度 -	(内 容) 介護保険制度について (必要な準備) 高齢者に介護保険のことについて聴く(30分)
第12回	総合的体系的な生活保障 - 雇用保険と社会福祉 -	(内 容) 雇用保険について (必要な準備) 失業している(した)人を探し、実情を聞く(30分)
第13回	総合的体系的な生活保障 - 教育・医療・保健と社会福祉 -	(内 容) 教育・医療・保健について (必要な準備) 教育・医療・保健に関して実情を考える(30分)
第14回	総合的体系的な生活保障 - 住宅・生活環境施設と社会福祉 -	(内 容) 住宅・生活環境施設について (必要な準備) 住宅・生活環境施設について近隣の実情を考える(30分)
第15回	社会福祉の課題 - 財政問題を中心に -	(内 容) 社会福祉の財政問題について (必要な準備) 政府予算に目を向け考察する(30分)

授業名	小児保健 u			開講学年	2回生	単位数	2単位
英文名	Infant Health			開講時期	春学期	必修・選択	選択
担当者	中村 洋子			対象学生	現代家政2回生		
授業の概要	現在子どもの出生や発育を取り巻く環境は急速に変化してきている。子どもが本来持っている能力を十分発揮でき、その可能性を伸ばすことができるように、より良い環境や病気の予防等を学ぶ。また安全の確保、感染予防、事故予防等の基礎知識を学ぶ。						
学習成果到達目標	1) 医学的基礎知識の理解 2) 子どもの病気の看護、予防対策の獲得 3) 子どもの健康増進のための対策						
評価方法	定期試験 (60 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40 %)	筆記試験 口述	レポート 実習 制作物 実技
評価基準	主たる評価の 観点	知識・理解 ()	コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力 ()		課題発見・解決能力 ()	
テキスト	子供の保健（診断と治療社）						
参考書	精神医学・内科学・心理学の視点からメンタルヘルスを学ぶ（ミネルヴァ書房）						
留意事項	小児の病気等保育における環境として衛生管理並びに安全の実施体制について、学びを深めることが大切である。また自分自身や子どもの健康について関心を持つこと。						
オフィスアワー	毎週1回オフィスアワーを設けます。研究室にいるときは対応します。						

授 業 名		小児保健 u
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題
第1回	科目ガイダンス・小児保健 の意義	(内 容) 小児保健 の目的と意義・授業の進め方 (必要な準備)
第2回	子供をめぐる環境と脳の発達	(内 容) 保育における小児保健上の留意点・子供の脳の発達 (必要な準備) 該当する教科書・資料を読んでおくこと(30分)
第3回	新生児・低出生体重児の養護	(内 容) 新生児・低出生体重児の特徴と育て方 (必要な準備) 該当する教科書の部分を読んでおくこと(30分)
第4回	子供の育つ生活環境	(内 容) 子供の育つ環境の現状と今後の課題 (必要な準備) 該当する教科書の部分を読んでおくこと(30分)
第5回	子供の精神保健と保育の多様化	(内 容) 子供の精神保健について・保育の多様化の種類について (必要な準備) 該当する教科書の部分・資料を読んでおくこと(30分)
第6回	健康と病気とその症状	(内 容) 健康状態の確認と病気の症状は (必要な準備) 該当する教科書の部分を読んでおくこと(30分)
第7回	子供の病気と看護	(内 容) 子どもの病気について、対応方法 (必要な準備) 該当する教科書の部分を読んでおくこと(30分)
第8回	事故と応急処置	(内 容) 子どもの起こしやすい事故とその対応・応急処置 (必要な準備) 該当する教科書の部分を読んでおくこと(30分)
第9回	感染症に対する対応と予防対策	(内 容) 子どもの特に多い感染症の症状と予防 (必要な準備) 該当する教科書の部分・資料を読んでおくこと(30分)
第10回	感染症と予防接種	(内 容) 感染症の対応・予防接種の仕方 (必要な準備) 該当する教科書・資料を読んでおくこと(30分)
第11回	免疫とアレルギー性疾患	(内 容) アレルギーの出る仕組みと対処法 (必要な準備) 該当する教科書の部分を読んでおくこと(30分)
第12回	小児の生活習慣病	(内 容) 最近の子供の生活習慣病について考える (必要な準備) 該当する教科書の部分を読んでおくこと(30分)
第13回	消化器系・呼吸器系の病気と看護	(内 容) 子どもにみられる特徴的な病気 (必要な準備) 該当する教科書の部分を読んでおくこと(30分)
第14回	皮膚・運動器系の病気と看護	(内 容) 特に乳幼児期に多い病気と対応 (必要な準備) 該当する教科書の部分を読んでおくこと(30分)
第15回	母子保健・全体のまとめ	(内 容) 地域での母子保健・これまでの総復習をする (必要な準備) 教科書・配布資料を見直す(40分)

授業名	地域福祉論			開講学年	3回生	単位数	2単位	
英文名	Theory of Community Welfare			開講時期	秋学期	必修・選択	選択	
担当者	藤井 伸生			対象学生	現代家政3回生			
授業の概要	地域福祉におけるネットワーキング（多職種・多機関との連携を含む）の意義と方法及びその実際とその推進方法について理解することを目的とする。地域における生活問題についての認識方法としての調査の方法、地域懇談会の手法、関係機関の連携の方法等、地域福祉として関係者が協力して取り組むべき課題を明らかにし、それぞれの機関・団体が果たしていくべき役割と課題について考えていくことになる。その際、地域福祉（活動）計画の実際を通して理解する。							
学習成果到達目標	1) 地域福祉の課題をいかに把握するか、地域福祉調査の実際を知ることができるようになる。 2) 地域福祉活動計画の実際を通して地域福祉推進の方向性を理解できるようになる。 3) 地域福祉計画の実際を通して行政の果たすべき役割を理解できるようになる。							
評価方法	定期試験 (70 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (30 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評価基準	主たる評価の 観点	知識・理解 (論理的な展開力	コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力	課題発見・解決能力)		
テキスト	『生活問題と社会保障・社会福祉の基本資料集』高菅出版、2014年。							
参考書	授業時に紹介							
留意事項	我がまちの地域福祉（活動）の実際及び計画を知ろう							
オフィス アワー	設定しますが、研究室に在室していれば対応します。どうしても場合は、事前にEメールしてください。							

授 業 名		地域福祉論	
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題	
第1回	地域福祉をいかに推進するか	(内 容)	地域福祉の推進方策 (必要な準備) 地域福祉の推進について考える(30分)
第2回	地域福祉の実際 - 私のまちについて -	(内 容)	地域福祉の実際を考える (必要な準備) 自分自身の地域福祉を知る(30分)
第3回	地域福祉の実際 - 広報誌から -	(内 容)	地域福祉の実際を広報誌から考える (必要な準備) 自分自身の地域福祉の広報誌を見る(30分)
第4回	地域福祉の実際 - 参加者の声 -	(内 容)	地域福祉の実際を参加者より考える (必要な準備) 自分自身の地域福祉の参加者に話しを聴く(30分)
第5回	地域福祉調査の方法・枠組み	(内 容)	地域福祉調査の方法・枠組み (必要な準備) 地域福祉調査について考える(30分)
第6回	地域福祉調査の実施・分析	(内 容)	地域福祉調査の実施を知る (必要な準備) 地域福祉調査のデータから考える(30分)
第7回	地域福祉の推進と計画	(内 容)	地域福祉と計画の関係 (必要な準備) 我がまちの地域福祉(活動)計画を知る(30分)
第8回	地域福祉活動計画 - 事業 -	(内 容)	地域福祉活動計画の事業内容 (必要な準備) 我がまちの地域福祉活動計画を調べる(30分)
第9回	地域福祉活動計画 - 運動 -	(内 容)	地域福祉活動計画の運動内容 (必要な準備) 我がまちの地域福祉活動計画を知る(30分)
第10回	地域福祉計画 - 公民協同 -	(内 容)	地域福祉計画における公民協同 (必要な準備) 我がまちの地域福祉計画を調べる(30分)
第11回	地域福祉計画 - ヒト -	(内 容)	地域福祉計画におけるヒトの重要性 (必要な準備) 我がまちの地域福祉計画を知る(30分)
第12回	地域福祉計画 - モノ -	(内 容)	地域福祉計画におけるモノの重要性 (必要な準備) 我がまちの地域福祉計画の課題を考える(30分)
第13回	地域福祉計画 - カネ -	(内 容)	地域福祉計画におけるカネの重要性 (必要な準備) 我がまちの地域福祉計画を財源面で知る(30分)
第14回	地域福祉計画 - 情報 -	(内 容)	地域福祉計画における情報の重要性 (必要な準備) 我がまちの地域福祉計画を情報面で知る(30分)
第15回	地域福祉と自治体行政	(内 容)	地域福祉推進における自治体行政の役割 (必要な準備) 我がまちの地域福祉と行政責務を考える(30分)

授 業 名	高齢者福祉論			開 講 学 年	3回生	単 位 数	2単位	
英 文 名	Theory of Welfare for Elderly People			開 講 時 期	秋学期	必修・選択	選択	
担 当 者	高岡 理恵			対 象 学 生	現代家政3回生			
授業の概要	介護保険制度が2000年より実施されたことで、日本の介護保障システムは大きく転換した。この講義では、介護保険制度が創設された経緯、介護保険制度の仕組みや介護保険サービスの体系について学ぶ。 テキスト第5章から第8章までを範囲とする。							
学 習 成 果 到 達 目 標	1) 介護保険制度の実施より日本の介護保障システムの中で大きく変わった点、介護保険制度の基本的な内容について説明できるようになること。 2) 諸外国の制度を学び、日本の介護保障制度の特色を理解すること。 3) これからの日本の介護保障システムのあり方について自分なりの考察を展開できるようになること。							
評 価 方 法	定期試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 (論理的思考力)	コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力	課題発見・解決能力	()		
テ キ ス ト	『新・社会福祉士養成講座13 高齢者に対する支援と介護保険制度 高齢者福祉論』、中央法規							
参 考 書	随時指示する							
留 意 事 項								
オ フ ィ ス ア ワ ー	1回目の授業後に紹介する							

授 業 名		高 齢 者 福 祉 論	
授 業 計 画	学 習 項 目	学 習 内 容 ・ 課 題	
第1回	介護保険制度の創設と改正 1 制度の全体像と創設	(内 容)	介護保険制度創設の経緯 (必要な準備) テキスト第5章第1節を読む
第2回	介護保険制度の創設と改正 2 制度の目的と理念	(内 容)	介護保険制度の目的と理念 (必要な準備) テキスト第5章第2節を読む
第3回	介護保険制度の創設と改正 3 介護保険法改正	(内 容)	2005年、2008年と2011年介護保険法改正の背景と内容 (必要な準備) テキスト第5章第2節を読む
第4回	介護保険制度の仕組み 1 介護財政、保険者、被保険者	(内 容)	介護財政、保険者、被保険者について (必要な準備) テキスト第5章第3, 4節を読む
第5回	介護保険制度の仕組み 2 要介護認定、保険給付	(内 容)	要介護認定、保険給付について (必要な準備) テキスト第6章第1, 2節を読む
第6回	介護保険制度の仕組み 3 介護報酬	(内 容)	介護報酬、地域支援事業、事業計画について (必要な準備) テキスト第6章第3, 4, 5節を読む
第7回	介護保険制度の仕組み 4 介護保険制度の動向	(内 容)	介護保険制度の現状に関する諸議論 (必要な準備) 関連する新聞記事を読む
第8回	介護保険サービスの体系 1 介護保険サービスにおける専門職	(内 容)	ケアマネージャー、ホームヘルパーなど (必要な準備) テキスト第7章第1節を読む
第9回	介護保険サービスの体系 2 居宅サービス	(内 容)	居宅サービスの内容について (必要な準備) テキスト第7章第2節を読む
第10回	介護保険サービスの体系 3 施設サービス	(内 容)	施設サービスの内容について (必要な準備) テキスト第7章第3節を読む
第11回	介護保険サービスの体系 4 介護予防サービス、地域密着型サービス	(内 容)	介護予防サービスと地域密着型サービスの内容と導入された経緯 (必要な準備) テキスト第7章第4, 5節を読む
第12回	介護保険法における連携と実際 課題分析	(内 容)	事例を通して課題分析を行う (必要な準備) テキスト第9章第2節を読む
第13回	介護保険法における連携と実際 計画立案	(内 容)	事例を通して課題分析したものを計画する (必要な準備) 配布資料に目をとっておく
第14回	介護保険法における連携と実際 発表	(内 容)	課題分析から計画までをまとめて発表する (必要な準備) 発表できるようにまとめておく
第15回	まとめ	(内 容)	これまでの学習内容の復習 (必要な準備) 介護保険法の課題をまとめておく

授業名	教育の方法と技術（中・高）			開講学年	3回生	単位数	2単位	
英文名	Teaching Methods and Techniques			開講時期	春学期	必修・選択	選択	
担当者	渡邊 雄一			対象学生	現代家政3回生			
授業の概要	<p>学校教育制度に位置づけられる中学校と高等学校の特質を理解し、その教育の方法と技術について学ぶ。今日の学校教育現場では、従来の知識伝達を重視した伝統的な一斉授業に加えて、創造性・主体的な学習を重視する情報発信型の教育が必要とされている。こうした教育方法・技術を習得するために、基礎となる学習理論、カリキュラム開発、授業設計、教材開発、技術指導、プレゼンテーションの方法を学習することによって、情報発信型の教育に対応した授業設計・実践に関わる知識・技能を習得し、効果的な学習・教育を行うための方法について学ぶ。</p>							
学習成果到達目標	<p>1) 教育の方法と技術に関わる基礎的な内容（史的変遷・理論など）を理解している。 2) よい授業の構成の仕方を理解し、指導技術を身に付けている。 3) チームでの学習を通して、今日の教育課題を解決するための教育方法を提示できる。</p>							
評価方法	定期試験 (60 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評価基準	主たる評価の 観点	知識・理解 (コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力) (課題発見・解決能力)			
テキスト	随時指示する。							
参考書	西之園晴夫『学習ガイドブック 教育の技術と方法』ミネルヴァ書房，2007年							
留意事項	授業中に与えられた課題については、主体的に取り組み、必ず提出すること。							
オフィスアワー	毎週1回（休業期間中を除く。）オフィスアワーを設けます。							

授業名	教育の方法と技術（中・高）	
授業計画	学習項目	学習内容・課題
第1回	ガイダンス	（内 容）本講義の目標を理解し、学習計画を立てる。 （必要な準備）
第2回	教育の方法・技術に関する諸概念	（内 容）中学校及び高等学校における教育方法について考察する。教育方法、教授法、学習指導などの諸概念について解説する。 （必要な準備）事前配付プリントをよく読んでおくこと。
第3回	教育方法の史的変遷	（内 容）教授学の始まりから近代の教授法の理論と実践について解説する。 （必要な準備）事前配付プリントをよく読んでおくこと。
第4回	教育方法の史的変遷	（内 容）教育の現代化と教授理論について解説する。 （必要な準備）事前配付プリントをよく読んでおくこと。
第5回	カリキュラム開発	（内 容）カリキュラム開発の概念について概説する。 （必要な準備）事前配付プリントをよく読んでおくこと。
第6回	教育課程と学習指導要領	（内 容）教育課程に関わる法規と学習指導要領の内容について概説する。 （必要な準備）事前配付プリントをよく読んでおくこと。
第7回	教育方法・技術を考える基本的視点	（内 容）完全習得学習について解説する。 （必要な準備）事前配付プリントをよく読んでおくこと。
第8回	教育評価とは	（内 容）教育における評価の意味や意義について考察する。 （必要な準備）事前配付プリントをよく読んでおくこと。
第9回	教育評価の方法	（内 容）相対評価、絶対評価などの評価方法について解説する。 （必要な準備）事前配付プリントをよく読んでおくこと。
第10回	学習指導方法を考える	（内 容）教育における今日的な課題を解決するための学習指導方法を考える。 （必要な準備）事前に提示する課題に対して、適切な学習指導方法を考えておくこと。
第11回	プレゼンテーション準備（学習指導方法）	（内 容）プレゼンテーションの準備をする。 （必要な準備）チームの各人がそれぞれの役割を果たす。
第12回	プレゼンテーション（学習指導方法）	（内 容）各チームが提案する学習指導方法について発表する。 （必要な準備）チームの各人がそれぞれの役割を果たす。
第13回	学習評価方法を考える	（内 容）各チームが提案した学習指導方法において、適切な学習評価方法を考える。 （必要な準備）各人がそれぞれのチームに合った学習評価方法を考えておくこと。
第14回	プレゼンテーション準備（学習評価方法）	（内 容）プレゼンテーションの準備をする。 （必要な準備）チームの各人がそれぞれの役割を果たす。
第15回	プレゼンテーション（学習評価方法）	（内 容）各チームが提案する学習評価方法について発表する。 （必要な準備）チームの各人がそれぞれの役割を果たす。

授業名	教育の方法と技術（幼・小）			開講学年	3回生	単位数	2単位	
英文名	Teaching Methods and Techniques			開講時期	春学期	必修・選択	選択	
担当者	渡邊 雄一			対象学生	現代家政3回生			
授業の概要	<p>学校教育制度に位置づけられる幼稚園と小学校の特質を理解し、その教育の方法と技術について学ぶ。今日の学校教育現場では、従来の知識伝達を重視した伝統的な一斉授業に加えて、創造性・主体的な学習を重視する情報発信型の教育が必要とされている。こうした教育方法・技術を習得するために、基礎となる学習理論、カリキュラム開発、授業設計、教材開発、技術指導、プレゼンテーションの方法を学習することによって、情報発信型の教育に対応した授業設計・実践に関わる知識・技能を習得し、効果的な学習・教育を行うための方法について学ぶ。</p>							
学習成果到達目標	<p>1) 教育の方法と技術に関わる基礎的な内容（史的変遷・理論など）を理解している。 2) よい授業の構成の仕方を理解し、指導技術を身に付けている。 3) チームでの学習を通して、今日の教育課題を解決するための教育方法を提示できる。</p>							
評価方法	定期試験 (60 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評価基準	主たる評価の 観点	知識・理解 (コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力) (課題発見・解決能力) (
テキスト	随時指示する。							
参考書	西之園晴夫『学習ガイドブック 教育の技術と方法』ミネルヴァ書房，2007年							
留意事項	授業中に出された課題については、主体的に取り組み、必ず提出すること。							
オフィスアワー	毎週1回（休業期間中を除く。）オフィスアワーを設けます。							

授 業 名		教育の方法と技術（幼・小）	
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題	
第1回	ガイダンス	（内 容）本講義の目標を理解し、学習計画を立てる。 （必要な準備）	
第2回	教育の方法・技術に関する諸概念	（内 容）幼稚園及び小学校における教育方法にはどのようなものがあるか。教育方法、教授法、学習指導などの諸概念について解説する。 （必要な準備）事前配付プリントをよく読んでおくこと。	
第3回	教育方法の史的変遷	（内 容）教授学の始まりから近代の教授法の理論と実践について解説する。 （必要な準備）事前配付プリントをよく読んでおくこと。	
第4回	教育方法の史的変遷	（内 容）教育の現代化と教授理論について解説する。 （必要な準備）事前配付プリントをよく読んでおくこと。	
第5回	カリキュラム開発	（内 容）カリキュラム開発の概念について概説する。 （必要な準備）事前配付プリントをよく読んでおくこと。	
第6回	教育課程と学習指導要領	（内 容）教育課程に関わる法規と学習指導要領の内容について概説する。 （必要な準備）事前配付プリントをよく読んでおくこと。	
第7回	教育方法・技術を考える基本的視点	（内 容）完全習得学習について解説する。 （必要な準備）事前配付プリントをよく読んでおくこと。	
第8回	教育評価とは	（内 容）教育における評価の意味や意義について考察する。 （必要な準備）事前配付プリントをよく読んでおくこと。	
第9回	教育評価の方法	（内 容）相対評価、絶対評価などの評価方法について解説する。 （必要な準備）事前配付プリントをよく読んでおくこと。	
第10回	学習指導方法を考える	（内 容）教育における今日的な課題を解決するための学習指導方法を考える。 （必要な準備）事前に提示する課題に対して、適切な学習指導方法を考えておくこと。	
第11回	プレゼンテーション準備（学習指導方法）	（内 容）プレゼンテーションの準備をする。 （必要な準備）チームの各人がそれぞれの役割を果たす。	
第12回	プレゼンテーション（学習指導方法）	（内 容）各チームが提案する学習指導方法について発表する。 （必要な準備）チームの各人がそれぞれの役割を果たす。	
第13回	学習評価方法を考える	（内 容）各チームが提案した学習指導方法において、適切な学習評価方法を考える。 （必要な準備）各人がそれぞれのチームに合った学習評価方法を考えておくこと。	
第14回	プレゼンテーション準備（学習評価方法）	（内 容）プレゼンテーションの準備をする。 （必要な準備）チームの各人がそれぞれの役割を果たす。	
第15回	プレゼンテーション（学習評価方法）	（内 容）各チームが提案する学習評価方法について発表する。 （必要な準備）チームの各人がそれぞれの役割を果たす。	

授業名	生活とアート			開講学年	4回生	単位数	2単位	
英文名	Life and Art			開講時期	秋学期	必修・選択	選択	
担当者	山部 泰司			対象学生	現代家政4回生			
授業の概要	<p>アートは人生のさまざまな局面において、生活を豊かにし、人の心を豊かにする。本講義では、現代の生活空間の中で私たちが会おうアートについて紹介しながら、アートを生活の中に主体的に取り入れ、楽しみ、活用するための方法を学習する。また、食物サンプルを制作する活動を通して、食における美的な価値について知る。</p>							
学習成果到達目標	<p>1) アートについての理解力を深め、感性と想像力を高める。 2) 生活とアートの関わりを豊かに展開できる力を身につける。 3) さまざまな芸術表現を鑑賞し体験する能力を育てる。</p>							
評価方法	定期試験 (60 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評価基準	主たる評価の 観点	知識・理解 (造形力	コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力) (課題発見・解決能力) (
テキスト	プリントを配布。							
参考書	授業時に必要なものを指示する							
留意事項	講義、ディスカッション、表現の追体験、制作、鑑賞など多角的な授業を行う							
オフィス アワー	登録学生の希望により決定し研究室前に掲示する。							

授 業 名		生活とアート
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題
第1回	導入	(内 容) 生活とアートについての導入・実施 (必要な準備) 自らの生活とアートの関係について考えておく(30分程度)
第2回	アートに出会う1	(内 容) 美術館、ギャラリーについて調べる (必要な準備) 美術館、ギャラリーの情報を集めておく(30分程度)
第3回	アートに出会う2	(内 容) 美術館、ギャラリーを体験する (必要な準備) 事前に指定する展覧会について調べておく(30分程度)
第4回	アートをつくる(食とアート)1	(内 容) 食物サンプルとポップアート (必要な準備) 食べ物を観察し、つくってみたいものを思い浮かべてみる(30分程度)
第5回	アートをつくる(食とアート)2	(内 容) 食物サンプルをつくる1 導入と計画 (必要な準備) サンプル作りについて自ら調べておく(30分程度)
第6回	アートをつくる(食とアート)3	(内 容) 食物サンプルをつくる2 制作、彩色など (必要な準備) サンプル作りについて自ら調べておく(30分程度)
第7回	アートをつくる(食とアート)4	(内 容) 食物サンプルのプレゼンテーションと撮影 (必要な準備) カメラ等の撮影について調べておく(30分程度)
第8回	アートをつくる(食とアート)5	(内 容) 表現の発表と鑑賞と考察 プレゼンテーション資料の作成 (必要な準備) テーマとした食物について調べておく(30分程度)
第9回	社会と関わるアート	(内 容) 地域や社会を活性化するアートについて学ぶ (必要な準備) 配布する資料を読んでおく(30分程度)
第10回	人と関わるアート	(内 容) アートセラピーやワークショップについて (必要な準備) 配布する資料を読んでおく(30分程度)
第11回	アートを育てること	(内 容) 同時代のアートを支える仕事について (必要な準備) 配布する資料を読んでおく(30分程度)
第12回	アート作品の研究1、調査	(内 容) 作品を選んで調べる (必要な準備) 気になるアートを探しておく(30分程度)
第13回	アート作品の研究2、検討、考察	(内 容) 作品について考察する (必要な準備) 必要な資料を集めておく(30分程度)
第14回	アート作品の研究3、プレゼンテーション	(内 容) 研究の発表 (必要な準備) 発表の準備を整えておく(30分程度)
第15回	生活とアートについてのまとめ	(内 容) 生活とアートについてのまとめファイルを作成する (必要な準備) 授業の内容を復習しておく(30分程度)

授業名	室内デザイン実習			開講学年	3回生	単位数	2単位	
英文名	Interior Design Training			開講時期	秋学期	必修・選択	選択	
担当者	川島 智生			対象学生	現代家政3回生			
授業の概要	<p>快適な室内空間を作り上げるために必要な知識を学び、それらを具体的な形にする力を身につける。床、壁、カーテンなどの住空間のデザイン、家具や照明など室内で使用されるモノのデザインについて実習を通して学ぶ。生活するうえで大切な場である住いを総合的にデザインし、さまざまな状況にある生活者にとって豊かな室内空間を創出する力を養う。製図と模型の制作などの実習をおこなう。</p>							
学習成果到達目標	<p>1) 基本的な室内空間の仕組みを把握する。 2) 簡易な部屋を設計できる力を身につける。</p>							
評価方法	定期試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評価基準	主たる評価の 観点	知識・理解 (コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力) (課題発見・解決能力)			
テキスト	未定							
参考書	使用しない。							
留意事項	簡単な製図道具ならびに模型制作道具が必要。現地見学がある							
オフィス アワー	オフィスアワーは設定しますが、研究室に在室していれば対応します。どうしても場合は、事前にメール又は直接申出を							

授 業 名		室内デザイン実習	
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題	
第1回	オリエンテーション	(内 容) 室内デザイン実習を学ぶ意義 (必要な準備)	
第2回	寸法体系	(内 容) 寸法体系の話・畳の大きさ (必要な準備) 教科書を読んでおく	
第3回	部屋の構成	(内 容) 部屋の仕組み (必要な準備) 教科書を読んでおく	
第4回	床・壁・天井の仕上げと素材	(内 容) 室内の仕上げ・教室内で実地見学 (必要な準備) 教科書を読んでおく	
第5回	家具	(内 容) 家具の種類と特質 (必要な準備) 教科書を読んでおく	
第6回	室内環境工学	(内 容) 室内と採光・換気・空調・騒音の関係 (必要な準備) 教科書を読んでおく	
第7回	現地見学1	(内 容) 優れた室内空間の見学 (必要な準備) カメラ・メジャーなどの用意	
第8回	インテリア製図・平面図	(内 容) 室内のプランニングの理解と図面作成 (必要な準備) 製図道具	
第9回	インテリア製図・展開図	(内 容) 室内の立体方向の図面の理解と図面作成 (必要な準備) 製図道具	
第10回	インテリア・パース作図	(内 容) 室内の完成予想図の作成 (必要な準備) 製図道具	
第11回	模型制作1	(内 容) スチレンボードで室内の模型の制作 (必要な準備) 模型道具	
第12回	模型制作2	(内 容) スチレンボードで室内の模型の制作 (必要な準備) 模型道具	
第13回	現地見学2	(内 容) 優れた商業空間の見学 (必要な準備) カメラ・メジャーなどの用意	
第14回	部屋の設計	(内 容) 与えられた条件で部屋の内部空間の設計 (必要な準備) 製図道具	
第15回	設計作品の発表ならびに講評	(内 容) プレゼンテーションと講評会 (必要な準備) 各自がプレゼンテーションできる用意	

授業名	家庭工学演習			開講学年	3回生	単位数	2単位	
英文名	Home Engineering Practice			開講時期	春学期	必修・選択	選択	
担当者	川島 智生			対象学生	現代家政3回生			
授業の概要	住まいの安全ならびに設備・機器について基礎科学を学ぶ。近代生活は電気・ガス・水道なくしてはなりたらず、近年はあらかじめ設備計画に基づいて設備はビルトイン化している。そのためにそのしくみを知ることは重要である。また電気・ガス・水道に繋がれたそれらの機器類や家庭内の電化製品は生活上、大きな役割を果たしている。この授業では設備の工学ならびに、家庭生活に必要な電気・機械工学の基礎知識を習得し、機器類の安全な取り扱い方法から機器の適切な活用法など、能率的な生活の維持ができる技術を学習する。							
学習成果到達目標	1) 住宅内の電気・ガス・給排水の仕組みを理解し、用いられる電化機器の科学的内容を習得する。 2) 理想的な設備計画の提案をおこなえる。 3) 住まいの安全を総合的に考えることができる。							
評価方法	定期試験 (40 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (60 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評価基準	主たる評価の 観点	知識・理解 (図面解読能力)	コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力	課題発見・解決能力			
テキスト	授業中に配布							
参考書	飯野秋成『図とキーワードで学ぶ 建築設備』学芸出版社 柏木博『日用品の文化誌』(岩波新書)							
留意事項	住宅見学を実施する。							
オフィス アワー	オフィスアワーは設定しますが、研究室に在室していれば対応します。どうしても場合は、事前にメール又は直接申出を							

授 業 名		家庭工学演習	
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題	
第1回	家庭工学演習を学ぶ意義	(内 容) 家庭工学演習ガイダンス (必要な準備)	
第2回	住まいの性能1安全	(内 容) 安全耐震・火災・防犯 (必要な準備) 配布資料を事前学習	
第3回	住まいの性能2設備	(内 容) 給排水・電気・ガス・照明計画 (必要な準備) 配布資料を事前学習	
第4回	設備図面	(内 容) 設備図面の読解ならびに簡単な作図 (必要な準備) 定規類	
第5回	家庭の電気と安全性	(内 容) 屋内電気配線・感電防止・安全マークなどを学ぶ (必要な準備) 配布資料を事前学習	
第6回	家庭の機器	(内 容) 冷蔵庫・洗濯機などのしくみを学ぶ (必要な準備) 自宅の機器の観察	
第7回	空調機器	(内 容) エアコンなどを学ぶ (必要な準備) 自宅の様態を観察	
第8回	照明のシステムと器具	(内 容) 照明器具の種類と選択のポイント (必要な準備) 配布資料を事前学習	
第9回	給排水システムと器具	(内 容) 湯沸かし機器・給湯システム・排水システム (必要な準備) 配布資料を事前学習	
第10回	現地見学	(内 容) 京都市内の住宅の内部見学 (必要な準備) 方眼紙とメジャー、カメラなど	
第11回	インテリア材料	(内 容) インテリア材料に要求される性能を学ぶ (必要な準備) 配布資料を事前学習	
第12回	ヘルシーハウジングに向けて	(内 容) シックハウス症候群 (必要な準備) 配布資料を事前学習	
第13回	望ましい住まいの設備計画(1)	(内 容) 与えられた条件で設備計画をおこなう (必要な準備) 製図道具	
第14回	望ましい住まいの設備計画(2)	(内 容) 与えられた条件で設備計画をおこなう (必要な準備) 製図道具	
第15回	計画作品の発表ならびに講評	(内 容) プレゼンテーションと講評会 (必要な準備) 各自がプレゼンテーションできる用意	

授業名	社会保障論 u			開講学年	3回生	単位数	2単位	
英文名	Theory of Social Security			開講時期	秋学期	必修・選択	選択	
担当者	高岡 理恵			対象学生	現代家政3回生			
授業の概要	この講義では、日本の介護保険制度、医療保険制度などの社会保険制度などを取り上げる。少子高齢化や財政赤字が問題となっている現在、社会保障の在り方についても再考が求められている。その議論を理解するための基本となる各制度の内容や仕組み、そして現状と課題について解説する。							
学習成果到達目標	1) 日本における各種の社会保障制度について基本的な内容を理解し説明できるようになる 2) 少子高齢化が進む中、社会保障制度について自分なりの問題意識を持つようになる 3) これからの社会保障制度の在り方について自分なりの考察を展開できるようになる							
評価方法	定期試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評価基準	主たる評価の 観点	知識・理解 (論理的思考力	コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力	課題発見・解決能力)		
テキスト	埋橋孝文・大塩まゆみ編著「5 社会保障」、ミネルヴァ書房							
参考書	随時、紹介する							
留意事項	社会保障論 を履修済みであることが望ましい							
オフィス アワー	1回目の授業で紹介します							

授業名	社会保障論 U	
授業計画	学習項目	学習内容・課題
第1回	オリエンテーション 社会保障の復習	(内容) 社会保障で行った内容を復習する (必要な準備) 社会保障での学びを復習しておいてください
第2回	介護保険制度の導入	(内容) 介護保険制度創設の経緯を理解する 措置から契約への移行を学ぶ (必要な準備) テキスト第5章第1節を読む
第3回	介護保険制度の概要	(内容) 介護保険制度の法的根拠から介護保険の全体像を理解する (必要な準備) 小六法「介護保険法」第1条を読んでおく
第4回	介護保険のしくみ	(内容) サービス利用の流れについて理解する 介護保険財政について学ぶ (必要な準備) テキスト第6章第3節を読む
第5回	介護保険のしくみ 利用できるサービス	(内容) 介護保険制度で利用できるサービスと対象・内容について理解する (必要な準備) 地域の介護保険のしおりをもらっておいてください
第6回	介護保険制度の改正	(内容) 3年に1度改正する介護保険改正のポイントと国のねらいについて理解する (必要な準備) 平成18年からの介護保険改正について調べまとめておいてください
第7回	介護保険制度の現状と課題	(内容) 介護保険制度の現状と問題点および展望を考える (必要な準備) テキスト第6章第4節を読む
第8回	福祉サービス利用援助事業	(内容) 契約しづらい利用者に対しての支援事業の一つである福祉サービス利用援助事業を理解する (必要な準備) 配布したプリントを読んでおく
第9回	成年後見制度の成立と内容	(内容) 成年後見制度ができた背景と法的根拠を理解する (必要な準備) 配布したプリントを読んでおく
第10回	成年後見制度の課題	(内容) 成年後見制度と任意後見制度を学ぶ (必要な準備) 配布したプリントを読んでおく
第11回	医療保険制度の歩みと社会保障における役割	(内容) 健康保険制度、国民健康保険制度のあゆみを理解する (必要な準備) テキスト第4章第1節を読む
第12回	医療保険のしくみ	(内容) 被用者保険と地域保険の仕組みを理解する 医療保険証を持参し、自分の医療保険を理解する (必要な準備) テキスト第4章第2・3節を読む
第13回	後期高齢者医療制度のしくみ	(内容) 後期高齢者医療制度ができた背景について学ぶ 後期高齢者医療制度の仕組みを学ぶ (必要な準備) テキスト第2章第2節をよく読む
第14回	他国の医療制度の仕組み	(内容) アメリカにおける医療制度の仕組みを理解する (必要な準備) アメリカの医療制度及びオバマケアの概要を予習
第15回	社会手当の目的	(内容) 日本における社会手当の現状について学ぶ (必要な準備) テキスト第7章を読んでおく

授 業 名	簿記演習		開 講 学 年	3回生	単 位 数	2単位		
英 文 名	Bookkeeping Practice		開 講 時 期	春学期	必修・選択	選択		
担 当 者	中村 映美		対 象 学 生	現代家政3回生				
授業の概要	授業で取り扱う商業簿記を要約すると「商業を営む企業を対象として、当該企業において日々行われる経済活動を二面的（複式）に把握し、継続的に記録・計算・整理する一連のシステム」、簡単に言えば「会社が日々の活動を行った結果、どれだけ儲かったかを計算し、またどれだけ財産や借金があるのかを把握するために一定の規則に従って記録する方法」となる。記録から経済活動を把握する方法を学ぶ、実践的な授業を演習形式で行う。							
学 習 成 果 達 成 目 標	1) 複式簿記の基本原則を理解し、個人商店における諸取引の処理に適用できる。 2) 帳簿の記入から財務諸表作成までの一連の流れを理解できる。							
評 価 方 法	定期試験 (60 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 (コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力	課題発見・解決能力)		
テ キ ス ト	スッキリわかる日商簿記3級第8版【テキスト+問題集】							
参 考 書								
留 意 事 項	毎回の授業を受けるにあたって、予習・復習をしっかりと行うこと。							
オ フ ィ ス ア ワ ー	担当授業終了後に実施する。							

授 業 名		簿記演習
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題
第1回	科目ガイダンス 簿記の意義	(内 容) 本講義の目標を理解し、学習計画を立てる 簿記とはなにか、なぜ必要なのかについて学ぶ (必要な準備) 簿記がなぜ必要なのかについて予習しておく(30分)
第2回	簿記の基礎	(内 容) 貸借対照表、損益計算書の構造と簿記の基礎概念を説明する (必要な準備) 資産、負債、純資産、収益、費用に属する勘定科目に関する問題を解く(30分)
第3回	仕訳と転記	(内 容) 仕訳のルールと総勘定元帳への転記を説明する (必要な準備) 取引の分解の問題を解く(30分)
第4回	決算	(内 容) 仕訳から決算までの簿記の流れを説明する (必要な準備) 試算表、精算表の問題を解く(30分)
第5回	現金と預金	(内 容) 簿記上の現金とは何か、小切手に関わる処理を説明する (必要な準備) 通貨代用証券、小切手について調べておく(30分)
第6回	繰越商品・仕入・売上	(内 容) 商品売買の処理を説明する (必要な準備) 分記法、3分法、商品有高帳の問題を解く(30分)
第7回	売掛金と買掛金	(内 容) 売掛金元帳、買掛金元帳について説明する (必要な準備) 前払金、前受金の問題を解く(30分)
第8回	その他の債権・債務	(内 容) 貸付金、借入金、未収金、未払金、仮払金、仮受金、立替金、預り金について説明する (必要な準備) 前受金、前払金の問題を解く(30分)
第9回	手形	(内 容) 約束手形、為替手形について説明する (必要な準備) 小切手の問題を復習し、手形との違いを調べる(30分)
第10回	有価証券	(内 容) 有価証券について説明する (必要な準備) 株式、社債とは何かについて調べる(30分)
第11回	固定資産	(内 容) 固定資産の購入、売却について説明する (必要な準備) 固定資産とは何かについて調べる(30分)
第12回	資本金と引出金	(内 容) 引出金について説明する (必要な準備) 所得税の問題を解く(30分)
第13回	収益と費用	(内 容) 収益と費用の見越し・繰延べについて説明する (必要な準備) 収益と費用の種類を調べる(30分)
第14回	伝票	(内 容) 3伝票制、5伝票制について説明する (必要な準備) 伝票制度について調べる(30分)
第15回	財務諸表の作成	(内 容) 財務諸表の作成プロセスを説明する (必要な準備) 貸借対照表、損益計算書の作成問題を解く(30分)

授業名	会計演習			開講学年	3回生	単位数	2単位	
英文名	Accounting Practice			開講時期	秋学期	必修・選択	選択	
担当者	中村 映美			対象学生	現代家政3回生			
授業の概要	財務会計に関する基本的知識を身につけることを目標とした演習方式の授業である。具体的には貸借対照表と損益計算書を理解できるようになるレベルを目指す。会計はビジネスの言語ともいわれ、企業は言うまでもなく、NPOであっても、公務員でも、今後ますますビジネス・センスが求められるようになる。この演習でビジネス・センス基礎力を養う。							
学習成果到達目標	1) 貸借対照表、損益計算書、キャッシュフロー計算書の構造を理解できる。 2) 収益の認識基準、資産評価基準を理解できる。							
評価方法	定期試験 (60 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評価基準	主たる評価の 観点	知識・理解 (コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力	課題発見・解決能力)		
テキスト	適宜プリントを配布いたします。							
参考書	『新版 会計学入門』千代田邦夫著 中央経済社							
留意事項	簿記演習も履修することが望ましい。							
オフィス アワー	担当授業終了後に実施する。							

授 業 名		会計演習	
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題	
第1回	科目ガイダンス 財務ディスクロージャー制度とは	(内 容) 本授業の目標を理解し、学習計画を立てる 財務ディスクロージャー制度とは何かについて学ぶ (必要な準備) 興味のある企業のホームページを見ておく(30分)	
第2回	財務諸表の体系	(内 容) 財務諸表の体系を説明する (必要な準備) 興味ある企業のホームページで、公開されている財務諸表の体系を調べておく(30分)	
第3回	貸借対照表の構成	(内 容) 貸借対照表の構成を学ぶ (必要な準備) 貸借対照表に記載されている勘定科目を予習しておく(30分)	
第4回	資産	(内 容) 資産とは何かについて学ぶ (必要な準備) 貸借対照表の構成を復習しておく(30分)	
第5回	資産の評価基準	(内 容) 資産の評価基準について説明する (必要な準備) 資産に含まれるものを復習しておく(30分)	
第6回	負債	(内 容) 負債とは何かについて説明する (必要な準備) 取得原価主義、時価主義について復習しておく(30分)	
第7回	純資産	(内 容) 純資産とは何かについて説明する (必要な準備) 負債に含まれるものを復習しておく(30分)	
第8回	損益計算書の構成	(内 容) 損益計算書の構成について説明する (必要な準備) 損益計算書に記載されている勘定科目を予習しておく(30分)	
第9回	収益・費用の認識と測定	(内 容) 収益、費用とは何か、いつ認識し、どのように評価するのかについて説明する (必要な準備) 損益計算書の構成を復習しておく(30分)	
第10回	キャッシュフロー計算書	(内 容) キャッシュフロー計算書の意義を説明する (必要な準備) 興味のある企業のホームページでキャッシュフロー計算書を調べておく(30分)	
第11回	株主資本等変動計算書	(内 容) 株主資本等変動計算書の意義を説明する (必要な準備) 興味のある企業のホームページで株主資本について調べる(30分)	
第12回	経営分析 - 収益性	(内 容) 企業の収益性の分析指標を説明する (必要な準備) 興味のある企業の財務諸表を調べる(30分)	
第13回	経営分析 - 安全性	(内 容) 企業の安全性の分析指標を説明する (必要な準備) 興味のある企業の財務諸表を調べる(30分)	
第14回	経営分析 - 成長性	(内 容) 企業の成長性の分析指標を説明する (必要な準備) 興味のある企業の財務諸表を調べる(30分)	
第15回	経営分析 - 付加価値	(内 容) 企業の付加価値分析の指標を説明する (必要な準備) 興味のある企業の財務諸表を調べる(30分)	

授業名	販売論			開講学年	3回生	単位数	2単位	
英文名	Sales Theory			開講時期	秋学期	必修・選択	選択	
担当者	浅井 潤司			対象学生	現代家政3回生			
授業の概要	入門レベルのマーケティングのテキストを利用して講義を進める。流通業や小売業の基本的な仕組みを理解するだけでなく、生活者としても必要な知識が身に着くように、できるだけ多くの事例を取り上げ、理解しやすいように努めたい。「交流の場」への登場をお願いする。							
学習成果到達目標	1) マーケティングの基礎的な知識を身につける。 2) 商品の販売の仕組みについて自分で考えられるようになる。							
評価方法	定期試験 (70 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (30 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評価基準	主たる評価の 観点	知識・理解 (授業での質疑応答による理解力と回答力)	コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力		課題発見・解決能力		
テキスト	沼上幹『わかりやすいマーケティング戦略』有斐閣							
参考書	授業中に紹介							
留意事項	「交流の場」に登場してもらい、Q & Aの力や、プレゼン力を身に着けてもらう。							
オフィス アワー	毎回授業終了後に実施する。							

授 業 名		販売論
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題
第1回	イントロダクション	(内 容) 事例等を紹介しながら、理解を進める。 (必要な準備)
第2回	マーケティング・ミックス	(内 容) 事例等を紹介しながら、理解を進める。 (必要な準備)
第3回	マーケティング・ミックス	(内 容) 事例等を紹介しながら、理解を進める。 (必要な準備)
第4回	ターゲット市場の選定	(内 容) 事例等を紹介しながら、理解を進める。 (必要な準備)
第5回	ターゲット市場の選定	(内 容) 事例等を紹介しながら、理解を進める。 (必要な準備)
第6回	製品ライフサイクル	(内 容) 事例等を紹介しながら、理解を進める。 (必要な準備)
第7回	製品ライフサイクル	(内 容) 事例等を紹介しながら、理解を進める。 (必要な準備)
第8回	市場地位別のマーケティング戦略	(内 容) 事例等を紹介しながら、理解を進める。 (必要な準備)
第9回	市場地位別のマーケティング戦略	(内 容) 事例等を紹介しながら、理解を進める。 (必要な準備)
第10回	業界の構造分析	(内 容) 事例等を紹介しながら、理解を進める。 (必要な準備)
第11回	業界の構造分析	(内 容) 事例等を紹介しながら、理解を進める。 (必要な準備)
第12回	全社戦略	(内 容) 事例等を紹介しながら、理解を進める。 (必要な準備)
第13回	全社戦略	(内 容) 事例等を紹介しながら、理解を進める。 (必要な準備)
第14回	事業とドメインの定義	(内 容) 事例等を紹介しながら、理解を進める。 (必要な準備)
第15回	事業とドメインの定義	(内 容) 事例等を紹介しながら、理解を進める。 (必要な準備)